

1880迄 (3454件)

- 1876年-12:00|ウオリス・フツナ| |||<即位>シカゴ王「Anise Tamole」(~1887年)
- 1876年-09:00|日本| ||明治9年|<刊行>儒者橋本香坡の遺稿集「西遊詩稿」
- 1876年-09:00|日本| ||明治9年|小瀬温泉、国有林の一部を借りて開業(長野県軽井沢町)
- 1876年-07:00|タイ| |||<即位>色陀蘇丹王朝「Tunku Ismail ibni al-Marhum Tunku Muhammad Akib」(~1888年)
- 1876年-07:00|ラオス| |||<即位>シェンクアン王「カンティ」ウの息子、シヤムの家臣(主権回復~1880年)
- 1876年-05:30|インド| |||<就任>サントウル国「シム・アサム・ラオ」(~18780503)
- 1876年-05:30|インド| |||<就任>シヤム-カミール州首席大臣(テワン)「ワシール・フンヌ」(~18850906)
- 1876年-05:30|インド| |||<就任>スケト国「タル・セン」(~1879年)
- 1876年-05:30|インド| |||<就任>チャタル-ル国摂政「ラニ」(~1878年)
- 1876年-05:30|インド| |||<就任>ミラジ・シユニア国統治者(ラオ)「ハリル・ラオ」(~1877年没)
- 1876年-05:00|パキスタン/イギリス| |||<制定>イギリス保護領ラズベラ
- 1876年-04:30|アフガニスタン| |||マイナがアフガニスタンに編入される(~1879年)
- 1876年-04:00|オマーン| |||<就任>スファール・エミール「サイド・ファドウル・ヒンアラウィ・モブラ」(1回目~1879年)
- 1876年-03:00|スーダン| |||<即位>ダフル-スルタン国「サイフ・アト・イン・ハムマド・ハルン・アル・ラシド」(反乱~1880年没)
- 1876年-03:00|ウガンダ| |||<即位>トロ王国国王「Katere」(~1877年)
- 1876年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「メフメト・ウエイズ・ハシヤ」(2回目~1877年)
- 1876年-02:00|シリア-アラブ/トルコ| |||<就任>デリゾール地区総督「Hussein Pasha al-Halabi」(~1877年)
- 1876年-02:00|ブルガリア| |||タムラシュ地方でハッサン・アガ率いるボマ族の反乱(~1886年)
- 1876年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・キニア湾入植地司令官「ポール・ミシェル・フレデリック・コテイエール」(~1879年)
- 1876年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Fernando del Pino y Fernandez Villami」(~1877年死去)
- 1876年-01:00|ナイジェリア| |||<即位>オヨ王国「アデ・イェミ1世アウォロツ、アラフィン」(~1888年)
- 1876年-01:00|カメルーン| |||<即位>ホンベラ王国国王「テイト2世エアラ・エム」(~1878年)
- 1876年 00:00|セネガル| |||<就任>サルム統治者(ブール・サルム)「サジュカ・ムボジ」(~1879年)
- 1876年 04:00|ワシントン| |||<死去>クレブ島知事「John Stevens」
- 1876年 04:00|バルバドス/グレナダ/セントビンセント/セントルシア/トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス・ウインドワード諸島総督「George Cumine Strahan」(~1880年)
- 1876年 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領フォークランド諸島総督「Jeremiah Thomas Fitzgerald Callaghan」(~1880年)
- 1876年 04:00|フォークランド| |||フォークランド材木の最後の個体が射殺され絶滅
- 1876年 10:00|ボリネシア/フランス| |||<就任>リマタラ統治者「Tamaeva4世」(~18921112死去)
- 1876年-09:00|日本| 駒沢大学|明治9年|「曹洞宗専門学本校」を駒込吉祥寺に移して「旃檀林」と合併
- 1876年1月-09:00|日本| ||明治9年|<大相撲>明治9年1月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東前3)若島,8勝1敗1休
- 1876年1月-05:30|インド| |||<即位>カラウリ国マハラジャ「アルジュン・パール2世」(~18860814没)
- 1876年1月-01:00|モンネグロ| |||モンネグロ赤十字社が設立
- 1876年1月1日-13:00|トonga| |||<就任>トonga王国首相「レタウonga皇太子」(~18791218)無所属
- 1876年1月1日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島主任判事「Francis Mason Nobbs」(1期目~18801231)
- 1876年1月1日-09:00|日本| ||明治9年|<施行>明治8年太政官布告第150号「煙草税則」国税として煙草税を創設(18751004公布)
- 1876年1月1日-09:00|日本| ||明治9年|神戸工場で1号御料車完成
- 1876年1月1日-09:00|日本| ||明治8年|「長崎新聞」が地方紙からブロック紙への飛躍を目指し「西海新聞」と改題、隔日発行
- 1876年1月1日-05:30|インド| |||<就任>カッチ国統治者(ミルサ・マハラ)「ケンガルジ3世」(~19420115没)
- 1876年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「フリートリヒ・エミール・ウエルティ」Lib(3期目~12.31)
- 1876年1月1日-01:00|ドイツ| |||ドイツで、帝国銀行が開設される(プロイセン銀行とハンブルク銀行合併)
- 1876年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「Thursday October Christian 2世」(6期目~18771231)
- 1876年1月2日-09:00|日本| ||明治9年|日本初のボナスが三菱系の企業で支給
- 1876年1月3日-09:00|日本| ||明治9年|新島襄、山本覚馬の妹八重と結婚
- 1876年1月3日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリヤ諸島総司令官「Crispin Ximenez de Sandoval」(~1877年)
- 1876年1月3日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「ジェームズ・スプリック・スペン」(2回目~18780107)
- 1876年1月5日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督代理「Carl Anton Frederik Christian Hattensen」(1期目~9.16)
- 1876年1月6日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「イブラヒム・ハシヤ」(~1877年)
- 1876年1月8日-02:00|フィンランド| |||<就任>フィンランド大公国国務大臣(サントペルブルク)「カール・クヌート・エミール・フライヘル・シュティエルンガール・ヴァレン」(13日まで代行~18810903)
- 1876年1月9日-09:00|日本| 王子ホールディングス|明治9年|<設置>京都府営「梅津製紙工場」[京都市右京区梅津大縄場町]日本最古の洋紙製紙場

1880迄 (3454件)

- 1876年1月9日-09:00|日本|千葉県君津市|明治9年|<死去>黒田直和 (58歳) 元上総久留里藩主
1876年1月10日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍スワタ級スルーフ「ウァンダリア」(2033t, チャールズ・タウン海軍工廠)
1876年1月11日-01:00|ドイツ| |||独, 意匠法 (意匠およびひな型の創作に関する法律) 制定
1876年1月12日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第1号「改定律例二百六十七条ヲ廢シ売淫取締懲罰ヲ警視庁並ニ各地方官へ任セラル」; 政府、医術開業試験法を制定
1876年1月13日-09:00|日本| ||明治9年|この日に記録されたマイナス9.2度が東京の最低気温になる
1876年1月13日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ゴードン公・初代ケンラウ伯「チャールズ・ヘンリー・ゴードン」6代リッチモンド公・6代リック公・6代オビニー公・6代マチ伯・6代ダートリー伯 (~19030927死去)
1876年1月14日-04:00|ロシア/日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第2号「開拓使管下クル諸島ヲ千島国ニ併セ三郡ヲ置ク(千島に得撫郡・新知郡・占守郡を設く)」
1876年1月14日 00:00|イギリス| |||<昇格>5代アバガウエー伯「ウィリアム・セシル」⇒初代アバガウエー侯兼6代リス伯 (~19151212死去)
1876年1月16日-09:00|日本| ||明治9年|<オプン>青木安兵衛「氷すべり場」[横浜根岸村] (初のアイススケート場)
1876年1月18日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ホセ・マリア・カサス・イ・ソレル」(2回目 ~6.17)
1876年1月20日-09:00|日本| ||明治9年|皇居近辺での商店開業が禁止
1876年1月20日-01:00|スペイン| |||スペインで、憲法制定議会の選挙が行われる
1876年1月21日-09:00|日本|福井県小浜市|明治9年|<死去>酒井忠氏 (42歳) 元若狭小浜藩主
1876年1月24日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍カニカス級モニター「ワイアントット」(2100t, Miles Greenwood)
1876年1月25日-05:30|インド| |||<就任>クワントラト 国統治者 (5才) 「チンタマラー・オセラ・サヒブ・パトワール」(~19080216没)
1876年1月26日-09:00|日本|長崎大学|明治9年|長崎興善小学校内の小学校教則養成所が小学校教師養成所と改められる
1876年1月27日-09:00|日本| ||明治9年|東京警視庁、売淫罰則を制定、私娼の営業を取り締まる
1876年1月27日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第5号「華族ヨリ平民ニ至ルマテ苗字名並ニ屋号改称不相成布告但書改正」
1876年1月29日-02:00|エストニア/ラトビア/リトアニア/ロシア| |||ロシアがバルト海地方を併合し領有
1876年2月-09:00|日本| ||明治9年|<開園>彼我公園 (→横浜公園)
1876年2月-08:00|中国/日本| ||明治9年|<開設>P&O汽船[香港-上海-横浜] 航路 (8月撤退)
1876年2月 00:00|セネガル| |||<就任>フク・ト・ロ統治者統治者 (アルマミ) 「ソレイ・エリ・バロ」(1回目~1877年7月)
1876年2月1日 06:00|エルサルバドル| |||<就任>エルサルバドル共和国大統領「アントニオ・デ・ラ・サエ・ロドリゲス」(~5.1)
1876年2月2日-09:00|日本| ||明治9年|大阪の大火 (道頓堀芝居小屋より発火、16街道に延焼、俗に「大西芝居の火事」という)
1876年2月2日 06:00|アメリカ| |||大リーグのナショナルリーグが再編成されて8都市の球団が誕生
1876年2月3日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年内務省甲布達第3号「官有地土石類掘出規則」
1876年2月3日-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>コーカンド (フェルガナ) ハン「Muhammad Pulad Khan」
1876年2月3日-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>コーカンド (フェルガナ) ハン「Nasir ad-Din Khan」(2期目~18760219)
1876年2月4日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第9号「徴兵令第三章第四条改正」
1876年2月4日-09:00|日本| ||明治9年|<設置>海軍武官・高等文官の社交機関「山内倶楽部」
1876年2月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ウバ「ジョージ・オーガスタス・フレデリック・ルイ・カーゾン」=ハウ
1876年2月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ウバ「リチャード・ウィリアム・ペン・カーゾン」=ハウ (~19000925死去)
1876年2月8日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第10号「府県官中七等警部ヲ置ク」
1876年2月8日-09:00|日本|北海道教育大学|明治9年|<設立>函館に小学教科伝習所
1876年2月9日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第11号「海上衝突予防副則」; 明治9年太政官布告第12号「出版条例中追加改正」
1876年2月10日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第13号「東京府下芝浜崎町ニ離宮ヲ置キ芝離宮ト称ス」
1876年2月12日-09:00|日本|福井県敦賀市|明治9年|<死去>酒井忠ます (62歳) 元越前敦賀藩主、若年寄
1876年2月12日-09:00|日本|山形県鶴岡市|明治9年|<死去>酒井忠発 (65歳) 元出羽庄内藩主
1876年2月12日-08:00|中国| |||<即位>ダライ・ラマ (チベット) 「トクテン・ギャツォ (ダライ・ラマ13世)」(~19331217)
1876年2月14日 06:00|アメリカ| |||ベルが、人類初めての電話の声「ワツ君、すぐ来てくれ/用事がある」を伝える
1876年2月15日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「ジュリアス・フォゲル卿」(2回目~9.1)
1876年2月19日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第17号「度量衡改定規則」
1876年2月19日-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<廃位>コーカンド・ハン国ハン「ナースィルッディーン」ロシアにより倒され、タシュケントに追放
1876年2月19日-05:00|キルギス/ロシア| |||残りのコーカンド 領土 (キルギスタン南部) がロシアに併合される (1876年8月までアイ・キルギスが対立)
1876年2月19日-05:00|ウズベキスタン/ロシア| |||コーカンド (フェルガナ) がロシアに組み込まれる
1876年2月20日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第18号「訴答文例中代言人ノ条廢止」
1876年2月20日-09:00|日本| ||明治9年|<分類>日本海軍帆船「肇敏丸」⇒運送艦 (⇒1877年、練習艦)
1876年2月20日-09:00|日本|王子ホールディングス|明治9年|東京府王子村 (現、北区) に、最初の洋紙専門工場が建てられる (現在の王子製紙)

1880迄 (3454件)

- 1876年2月20日-09:00|日本|毎日新聞|明治9年|<創刊>大阪日報
1876年2月20日-01:00|フランス| ||フランス「第三共和政憲法」による最初の「下院選挙」が行われ、「共和派」が勝利
1876年2月20日-08:00|中国| ||清・光緒2年1月26日|貴州古州の苗族の反乱が平定される
1876年2月21日-09:30|オーストラリア| ||シドニーからウェリントンへの海底電信線が開通
1876年2月21日-08:00|フィリピン/スペイン| ||スペイン人が和を占領
1876年2月22日-09:00|日本|熊本県|明治9年|<公布>明治9年太政官布告第19号「白川県庁ヲ飽田郡熊本へ移シ熊本県ト改称」
1876年2月22日 06:00|アメリカ| ||<創立>世界初の研究大学院大学「ジョンズ・ホプキンス大学」
1876年2月23日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第20号「訴訟用罫紙規則施行期日ヲ罫紙受取方行届カサル地方ノ訴訟ハ罫紙ヲ用ヒサルモ有効トス」
1876年2月23日-01:00|フランス| ||<再任>フランス第三共和政第28代首相「ジュール・フェール」無所属(王党派)(第3次~18761212)
1876年2月23日 03:00|ブラジル| ||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)代行「コテグヘ 男爵ジョアン・マウリシオ・ワグネル」(~5.22)
1876年2月23日 04:00|ドミニカ共和国| ||<就任>ドミニカ共和国大統領「国務大臣評議会:ペドロ・トマス・ガリト・マヌエル・セテ・ヘスス・エドワート・デ・カストロ・アルバレス/ペドロ・パブロ・デ・ホーニャ・イ・コレア・クルソ/ファン・パウティスタ・ザ・フレイ・ミランダ/ペドロ・パブロ・ロペス・ビリャヌエバ(3.7まで)/シヤント・ペ・イナート・イ・テジョン(3.7から)」(~4.29)
1876年2月24日-01:00|ノルウェー| ||<初演>エドヴァルト・ハゲルツ・グリーク《劇音楽「ヘルギント」》
1876年2月25日-09:00|日本|高知県幡多郡|明治9年|<公布>明治9年太政官布告第21号「高知県下伊予国宇和郡沖ノ島姫島鶴来島ヲ土佐国幡多郡へ編入」
1876年2月26日-09:00|韓国| ||朝鮮・光緒2年2月2日|<開港>釜山港
1876年2月26日-09:00|韓国/日本/朝鮮| ||明治9年|朝鮮・光緒2年2月2日|朝鮮江華府で、日朝修好条約(江華条約)に調印/朝鮮は不平等条約をのむ
1876年2月28日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第22号「改定律例中懲役人又犯罪条例懲役人逃条例増補第三百二条削除」
1876年2月28日-01:00|スペイン| ||スペインのカルロス7世がフランスに亡命/第一次カルロス戦争終結
1876年2月29日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第23号「控訴上告手続第十五条改正」
1876年2月29日-09:00|日本|東京都|明治9年|東京府、朱引内70小区中46の扱所を併合、40ヶ所とし区務所と改称
1876年2月29日-05:30|インド| ||<就任>バンスダ 国統治者(ラジャ・マハラ)「プラタプ・シムラ・ケラプ・シムラ」(~19110921没)
1876年2月29日-04:00|ロシア/ウズベキスタン| ||ロシア暦2月17日|ホカト・ハン国がロシアに併合され、ハン国が滅びる
1876年3月-09:00|日本| ||明治9年|<開館>秋田博物館(秋田土手谷地町の佐竹義純邸を県が購入)
1876年3月-09:00|日本| ||明治9年|<除籍>政府軍練習艦「観光丸」
1876年3月-09:00|日本| ||明治9年|日本初の通信販売「玉蜀黍の種」、学農社、津田仙(津田梅子の父)
1876年3月-09:00|日本|東京学芸大学|明治9年|<改称>東京府小学教則講習所⇒東京府小学師範学校
1876年3月-09:00|日本|佛教大学|明治9年|<改称>勧学本場⇒宗学校西部本校
1876年3月-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領スール総督「Pascual Cervera y Topete」(~10.1)
1876年3月-05:30|インド| ||<即位>ジャワール国統治者(マラジ・ラナ)「アンリ・バーム・ボット」(~1884年)
1876年3月1日-09:00|日本| ||明治9年|<点灯>角島灯台(山口県豊北町、無塗装の石造灯台)
1876年3月2日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第25号「樺太島従来ノ漁業者ハ引続營業不苦出張ノ節ハ航海公証ヲ所持セム」
1876年3月2日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第26号「宮城県へ裁判所ヲ置ク」
1876年3月2日-09:00|日本| ||明治9年|新聞号外の始まり(東京日日新聞社より朝鮮問題談判の平和落着を急報のため号外を発行)
1876年3月2日 11:00|ニウエ| ||<就任>ニウエ最高主席「Mataio Tuitoga」(~18870713死去)
1876年3月4日-09:00|日本| ||明治9年|明治9年太政官布告第27号「貨幣条例中貿易銀ト本位金貨ノ比較改定」/貿易銀と本位金貨の比価を改正(貿易銀100枚=本位金貨101円→100円)
1876年3月5日-09:00|日本| ||明治9年|貸自転車屋、広小路水茶屋にて開店/広小路を一度乗り回し、料金は一銭五厘
1876年3月6日-09:00|日本|岡山県高梁市|明治9年|<死去>山崎治正(56歳)元備中成羽藩主
1876年3月7日 06:00|アメリカ| ||ベルが、電話の特許を得る
1876年3月8日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>弘瀬金蔵(絵金)(65歳)浮世絵師
1876年3月9日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第28号「鶴ヶ岡県へ裁判所ヲ置ク」
1876年3月9日-02:00|ブルガリア/トルコ| ||トルコ軍が、ブルガリアの反乱者に対する大量殺戮を行う
1876年3月10日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第29号「西洋形日本船各開港場出入規則第五条改正」
1876年3月10日 03:00|ウルグアイ| ||<就任>ウルグアイ東方共和国臨時大統領「ロドリゴ・ラトリ」コロラド 党(1回目~18790301)
1876年3月10日 06:00|アメリカ| ||グラハム・ベル、最初の電話機の通信実験に成功
1876年3月12日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年司法省甲布達第2号「訴訟用罫紙ヲ用フル民事ニ限ルモトス」
1876年3月15日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「大阪博物場大会(大阪博覧会)」(~6.22)[開催地]大阪府[会場]大阪博物場[主催]大阪博物場
1876年3月15日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「第2回奈良博覧会」(~6.25)[開催地]奈良県[会場]東大寺大仏殿[主催]奈良博覧会社

1880迄 (3454件)

- 1876年3月15日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「第5回京都博覧会」(~6.22)[開催地]京都府[会場]京都御所・仙洞御所・大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]241,764人
- 1876年3月17日-05:00|ウズベキスタン/ロシア| ||<就任>フェルガナ州ロシア総督「Mikhail Dmitriyevich Skobelev」(~18770329)
- 1876年3月17日 06:00|アメリカ| ||<ブラクヒルズ戦争>米合衆国軍が金鉱占領のためス族領土を強奪
- 1876年3月18日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第30号「外国船乗込規則」;明治9年太政官布告第31号「内国郵船乗組旅行乗客ノ姓名其他ヲ船長ニテ詳記セム」
- 1876年3月18日-09:00|日本|岡山大学|明治9年|<統合>福山師範学校⇒温知学校<改組・改称>⇒岡山県師範学校
- 1876年3月18日-05:30|インド| ||<就任>ウダipur国ラジャ「ダラムジット・シン・デオ」(~1900年没)
- 1876年3月18日 06:00|ペリズ/イギリス| ||<就任>イギリス領ホンジュラス副総督(ジャマカ総督に従属)代行「チャールズ・ブレヒュー・ミッチェル」(3回目~18770312)
- 1876年3月19日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第33号「明治九年郵便規則第十八条ハ但書増加」
- 1876年3月20日-09:00|日本| ||明治9年|<改題>白川新聞⇒熊本新聞
- 1876年3月20日-01:00|スウェーデン| ||<就任>初代スウェーデン首相「ルイス・ゲルハルト・デ・キール」(~18800419)
- 1876年3月21日-09:00|日本| ||明治9年|海軍省の外郭団体として日本海軍将校の親睦・研究団体「水交社」芝山内に創立
- 1876年3月21日-09:00|日本| ||明治9年|海軍武官・高等文官の社交機関「山内倶楽部」が設置される
- 1876年3月21日 07:00|メキシコ| ||<ティアス>が反乱をおこしてメキシコ政権を奪取し、長期独裁始まる
- 1876年3月21日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・光緒2年2月26日|韓国初の国際港として釜山港を開港
- 1876年3月22日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第35号「海軍機関士補服制制定」
- 1876年3月22日 04:00|アルバ/オランダ| ||<就任>アルバ島副知事「Jan Hendrik Rudeloff Beaujon」(~18830515)
- 1876年3月22日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||朝鮮・光緒2年2月27日|日朝修好条規の批准書の交換が行われる
- 1876年3月24日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第36号「生糸製造取締規則第十三条追加」;明治9年内務省警視庁布達第77号「娼妓徴毒検査規則」
- 1876年3月25日-09:00|日本| ||明治9年|大阪に、書籍館が設置される
- 1876年3月25日-01:00|イタリヤ| ||<就任>イタリヤ王国首相(閣僚評議会議長)「アコステイノ・デ・ブレティス」(1回目~18780324)
- 1876年3月26日 03:00|ブラジル| ||<就任>ブラジル帝国摂政「イザベル王女」(2回目~18770926)
- 1876年3月27日-09:00|日本| ||明治9年|<除籍>日本海軍輸送船「立象丸」解体
- 1876年3月28日-09:30|オーストラリア| ||<開学>アデレード大学/女性の出席が当初から認められる
- 1876年3月28日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第38号「(廃刀令)大礼服並ニ軍人警察官吏等制服着用/外帯刀禁止」(大礼服着用者、軍人、警察官以外の者の帯刀を禁止、士族の帯刀が全面的に禁止)
- 1876年3月29日 05:00|キューバ| ||<就任>キューバ共和国大統領「トマス・エストラダ・パルマ」(1回目~18771019)
- 1876年3月31日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年司法省甲布達第3号「代言人規則第四条但書改正」
- 1876年3月31日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治9年|政府、私盟会社三井銀行設立を許可(7月1日開業、三井組が替方が独立、銀行の名称を使用した私立銀行のはじまり)
- 1876年4月-09:00|日本| ||明治9年|<開館>金沢博物館
- 1876年4月-09:00|日本| ||明治9年|<完成>開智学校新校舎(長野県松本市)
- 1876年4月-09:00|日本| ||明治9年|<大相撲>明治9年4月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東前1)浦風,7勝0敗2預1休
- 1876年4月-09:00|日本|静岡県周智郡森町|明治9年|野火のため橘谷山大洞院(森町橋)炎上焼失
- 1876年4月-09:00|日本|名古屋大学|明治9年|<改称>「医学講習場」⇒「公立医学講習場」
- 1876年4月-09:00|日本|新潟大学|明治9年|新潟病院が県立に移管
- 1876年4月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワシ「Ahmed Pasha」(~7月)
- 1876年4月 04:00|ケレタガ/イギリス| ||<就任>ケレタガ副総督代行「オガスタス・フレリック・コア」(~5月)
- 1876年4月1日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「堺県博覧会」(~6月1日)[開催地]大阪府[会場]堺・南宗寺
- 1876年4月1日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第41号「自今満二十年ヲ以テ丁年(成年)ト定ム」;明治9年太政官布告第42号「改定律例第三十八条改正」;明治9年太政官布告第43号「徴兵令第六章第十二条中改正」;明治9年海軍省甲布達第2号「主船寮定雇職工規則」
- 1876年4月1日-09:00|日本| ||明治9年|<施行>明治9年司法省甲布達第1号「代言人規則」(2.22公布)、免許制度になる;明治9年太政官布告第44号「代人規則第三条改正」
- 1876年4月1日-09:00|日本| ||明治9年|政府、官庁の1・6休暇を廃し、日曜全休・土曜半休体制開始(3.12制定)
- 1876年4月1日-09:00|日本| ||明治9年|満20歳を丁年(成年)と定める
- 1876年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ガエターノ・ベルツィ」 「サン・ロンフェルニニ」
- 1876年4月1日 05:00|コロンビア/パナマ/ブラジル/ペルー| ||<就任>コロンビア合衆国大統領「セ・ホセ・フィオ・アケイロ・エリアス・ハラコマス」(~18780401)
- 1876年4月4日-09:30|オーストラリア| ||「ブルー・マウンテンズ」を横断し、シドニーとバーストを結ぶ鉄道が開通
- 1876年4月4日-09:00|日本| ||政府がイギリス人技師を招き、品川硝子製造所を開設し、近代ガラス鋳業の糸口になる
- 1876年4月4日-09:00|日本|香川県高松市|明治9年|香川県庁を高松内町138・139番地(松平操旧邸)に移す
- 1876年4月7日-09:00|日本| ||明治9年|<創立>西村茂樹「東京修身学舎」(後の日本弘道会)
- 1876年4月7日-09:00|日本|福島県郡山市|明治9年|<公布>明治9年内務省甲布達第7号「福島県岩代国安積郡大槻

1880迄 (3454件)

原開墾地桑野村称ス

- 1876年4月7日 00:00|ガナ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ゴールドコースト総督・最高司令官代行「チャールズ・キヤモン・リース」(2回目~11.30)
- 1876年4月8日-01:00|イタリヤ| |||<初演>アミカレ・ボンキエリ《歌劇「ジヨコンダ」》ミラノ
- 1876年4月8日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カボベルデ総督「キリエルメ クインティノ・ロペス・デ・マセド」(~12.22)
- 1876年4月8日-08:00|中国| ||清・光緒2年3月14日|四川の江北で、フランスのキリスト教会が破壊され、信徒が殺害される
- 1876年4月9日-09:00|日本|日本医科大学|明治9年|<開校>医師養成学校「済生学舎」
- 1876年4月10日-09:00|日本| ||明治9年|日蓮宗不受不施派の再興と布教が許可される
- 1876年4月11日-08:00|マレーシア| |||<即位>トレンガヌ・スルタン「トゥアンク・マフムド・シャー・イブニ・アル=マフム・スルタン・アフドゥル=ラマン」(~同年) => 「トゥアンク・アフマド・ムアザム・シャー=2世・イブニ・アル=マフム・ヤン・デ・イェルトゥアン・ムダ・マフムド」(~18811218没)
- 1876年4月12日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第47号「明治九年郵便規則第九十条外国郵便税改正」;明治9年内務省甲布達第8号「種痘規則改正」
- 1876年4月12日-09:00|日本| ||明治9年|<焼失>中座、南座、浪花座
- 1876年4月12日-05:30|インド/イギリス| |||<辞任>イギリス領インド帝国副王・総督「ストラットンのノースブルック男爵トマス・ジョージ・ヘアリック」インド担当相ソールズベリ侯と対立
- 1876年4月12日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督「ケネヂ・ワースのリットン男爵ロバート・ブルワー=リットン」(~18800608)
- 1876年4月12日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラト・エイスモ民政知事「Antonio da Fonseca Carvao Paim da Camara」PR(1期目~18771011)
- 1876年4月14日-09:00|日本| ||明治9年|<開業>上野精養軒(台東区上野公園4番58号)西洋料理店
- 1876年4月14日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第48号「新律綱領改定律例中職制律並ニ官吏ノ公罪ニ係ル律例ヲ廢シ官吏職務上ノ過失ハ懲戒セム」
- 1876年4月14日-05:30|インド| |||<死去>パティアラ国統治者(マハラジャ・エラジガン)「モヘンドラ=シン」
- 1876年4月14日-05:30|インド| |||<即位>パティアラ国統治者(マハラジャ・エラジガン)「ラジエントラ=シン」(~19001109没)、摂政「デヴァ=シン卿」(~1890年10月没)
- 1876年4月15日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「宮城県博覧会」(~7.3) [開催地]宮城県[会場]仙台・桜ヶ丘公園[主催]宮城県
- 1876年4月15日-09:00|日本| ||明治9年|<開催>「長野博覧会」(~6.20) [開催地]長野県[会場]善光寺大勧進[主催]小宮山三左衛門ほか6名
- 1876年4月15日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第49号「諸坑業稼ノ者身代限ノ節処分済マテ稼業禁止」
- 1876年4月15日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「B. リウイエル(ポルトフランス地区革命委員会委員長)」(~23日)
- 1876年4月17日-09:00|日本| ||明治9年|<改称>博物館(内務省所轄) => 博物局;事務所 => 博物局;陳列場 => 博物館
- 1876年4月17日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第50号「新旧公債証書発行条例中改正増補」
- 1876年4月17日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第51号「内務省中戸籍警保図書ノ三寮廃止」;警保局を設置
- 1876年4月17日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ルーマニア閣僚会議議長(首相)「イオン・エノイル=フロスク」(1回目~5.10)
- 1876年4月17日 10:00|ポルネシア/フランス| |||<就任>フランス領地アニア司令官兼ソエ諸島共和国弁務官「Antoine Leonce Michaux」(~1877年)
- 1876年4月18日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第54号「社寺学校病院等ノ寄附ノ土地建物等ハ契約并分ハ一般譲渡ヲ以テ処分ス」
- 1876年4月18日-09:00|日本|岩手県|明治9年|<分割編入>磐井県[胆沢郡・江刺郡・磐井郡]を分割編入→岩手県;磐井県[気仙郡・他4郡]を分割編入→宮城県
- 1876年4月18日-09:00|日本|岡山県|明治9年|<編入>北条県を編入→岡山県
- 1876年4月18日-09:00|日本|神奈川県|明治9年|<分割編入>足柄県のうち相模国を分割編入→神奈川県
- 1876年4月18日-09:00|日本|佐賀県|明治9年|<合併>(第2次)佐賀県を編入→三潞県
- 1876年4月18日-09:00|日本|静岡県|明治9年|<分割編入>足柄県のうち伊豆国を分割編入→静岡県
- 1876年4月18日-09:00|日本|島根県|明治9年|<編入>浜田県を編入→島根県
- 1876年4月18日-09:00|日本|富山県|明治9年|<編入>新川県を編入→石川県
- 1876年4月18日-09:00|日本|奈良県|明治9年|<合併>(第2次)奈良県を編入合併→堺県
- 1876年4月18日-09:00|日本|新潟県|明治9年|<編入>相川県を編入→(第2次)新潟県
- 1876年4月18日-09:00|日本|広島県|明治9年|<編入>岡山県より備後国6郡(沼隈郡・深津郡・安那郡・品治郡・蘆田郡・神石郡)を編入→広島県
- 1876年4月18日-09:00|日本|福岡県|明治9年|<編入>小倉県を編入→福岡県
- 1876年4月18日-09:00|日本|三重県|明治9年|<編入>度会県を編入→三重県
- 1876年4月18日-09:00|日本|宮城県|明治9年|<分割編入>磐井県[本吉郡・登米郡・栗原郡・玉造郡・他1郡]を分割編入→宮城県
- 1876年4月19日-09:00|日本/アメリカ| ||明治9年|<開催>アメリカ合衆国100年記念万国博覧会「フィレテラル」/日本も多くの出品
- 1876年4月19日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第55号「新律綱領得遺失物律改正改定律例第

- 二百八十二条の二百八十六条を削除；明治9年太政官布告第56号「遺失物取扱規則」；明治9年太政官布告第57号「鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則」
- 1876年4月19日-09:00|日本|香川県高松市|明治9年|共立病院(香川県高松市)を更に高松公立病院と改称
- 1876年4月21日-09:00|日本||明治9年|<創刊>「普通新聞」(現・徳島新聞)
- 1876年4月22日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年司法省甲布達第5号「訴訟入費償却規則改正」
- 1876年4月22日-09:00|日本|宮城県|明治9年|<分割編入>宮城県のうち刈田郡・伊具郡・亘理郡および宇多郡の一部(旧・仙台藩領)、行方郡[北郷、中郷、小高郷、山中郷]を編入→磐前県
- 1876年4月23日-05:30|インド|||<就任>アンハリア国統治者(タクル・サーヒブ)「ジャムシンジ・アマルシンジ」(~19080307没)
- 1876年4月23日 05:00|ハイチ|||<就任>ハイチ共和国臨時政府「ピエール・テオマ・ボアロン=キャナル/ジャン=ルイ・ヒボ ライト/ルイ・タニス・アイン/アントワーヌ=ルイ・オーティン」(~7. 19)
- 1876年4月25日-09:00|日本|日本郵船|明治9年|<開設>三菱汽船[船川~土崎]定期航路
- 1876年4月26日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第59号「煙草税則第一則第三則へ追加」
- 1876年4月28日-09:00|日本|三重県|明治9年|名古屋城の金のシヤチホコが盗まれる当時シヤチホコはハズされ朝廷に献納され博物館にあった
- 1876年4月29日 04:00|ドミニカ共和国|||<就任>ドミニカ共和国大統領「ユリウス・フランシスコ・エスパイヤ・イ・キノーネ」(~10. 5)
- 1876年4月30日 04:00|フォークランド/イギリス|||<就任>イギリス領フォークランド 諸島総督「Jeremiah トマス・Fitzgerald Callaghan」(1期目~18780515)
- 1876年5月-09:00|日本||明治9年|<創建>小浜神社(福井県小浜市, 藩祖酒井忠勝公を祀る)
- 1876年5月-09:00|日本|愛知学院|明治9年|<開設>曹洞宗専門学支校[名古屋市門前町大光院内]
- 1876年5月-09:00|日本|京都教育大学|明治9年|<開学>京都府師範学校
- 1876年5月-09:00|日本|一橋大学|明治9年|<移管>私設「商法講習所」→東京府立
- 1876年5月-09:00|日本|三重大学|明治9年|<設立>「三重県医学校」[安濃郡塔世村の三重県公立病院内]
- 1876年5月-01:00|アルバニア/トルコ|||<就任>イシュコラのワリス「ヤリ・アリ・ハシヤ」(~8月死去)
- 1876年5月-01:00|北マダニヤ/トルコ|||<就任>マステイル・ワリス(総督)「ロフチャリ・イブラヒム・デム・イシュ・ハシヤ」(~12月)
- 1876年5月 04:00|ゲレタ/イギリス|||<就任>ゲレタ 副総督代行「シール・クラーク・ケラム」(2回目~1877年5月)
- 1876年5月 04:00|セントクリストファー=ネイビス|||<就任>ネイビス大統領「ロジャ・タックフィールド・ゴールズワージー」(~1877年)
- 1876年5月1日 00:00|ポルトガル|||<就任>フンチャル地区民政知事「Francisco de Albuquerque Pinto Mesquita e Castro」(~18771124)
- 1876年5月1日 06:00|エルサルバドル|||<就任>エルサルバドル共和国大統領「ラファエル・サルテ・イバル・イ・ラソ」7. 19までおよび18800202~18800225暫定~18850621)
- 1876年5月2日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年内務省甲布達第14号「出版届ハ出版前必ス差出サム」
- 1876年5月2日-09:00|日本||明治9年|<死去>3代富本豊前太夫(72歳) 浄瑠璃太夫
- 1876年5月2日-09:00|日本||明治9年|<設置>内務省「図書局」
- 1876年5月2日-02:00|ブルガリア/トルコ|||ブルガリア人が率いるオスマン帝国に対する「四月蜂起」/あつという間に敗北
- 1876年5月3日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第62号「足柄佐賀両裁判所ヲ廢シ愛知三瀨両県ハ裁判所ヲ置ク」
- 1876年5月4日 04:00|ボリビア|||<就任>ボリビア共和国暫定大統領「ヒリアン・タザ」クーデターによりリアス政権奪取(~18791228)
- 1876年5月6日-09:00|日本|和歌山県|明治9年|和歌山県で地租改正一揆が発生
- 1876年5月6日-01:00|セルビア|||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ステファン・ステヴチャ・ミハイロヴィッチ」(2回目~18781013)
- 1876年5月7日-02:00|エジプト/オーストリア/フランス/イタリア/イギリス|||イギリス、フランス、イタリア、オーストリアによるエジプト債務管理委員会が設置される/イギリスがエジプトの財政と経済を管理することになる
- 1876年5月8日-09:30|オーストリア|||タスマニア先住民のトルガニが死亡し純血の原住民が絶滅
- 1876年5月8日 06:00|コスタリカ|||<就任>コスタリカ共和国大統領「アネット・テル・カルメン・エスキベル・サエンス」(~7. 30)
- 1876年5月9日-09:00|日本||明治9年|上野公園の開園式/掛け茶屋が取り払われて精養軒・八百善ができ、不忍池畔が整備され桜が植えられた
- 1876年5月10日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第65号「控訴上告手続第十八条へ但書追加」
- 1876年5月10日-09:00|日本|熊本県宇土市|明治9年|<死去>細川行芬(67歳) 元肥後宇土藩主
- 1876年5月10日-02:00|ルーマニア|||<就任>ルーマニア閣僚会議議長(首相)「エマノイル・コスタツシュ・イブラヌ」(2回目~8. 6)
- 1876年5月10日 06:00|アメリカ|||<開催>「フィラデルフィア万国博覧会」(~11. 10) [会場]フェアモント公園(アメリカ) [入場者]11, 650, 000人 ●「タイプライター、ケラム・ベルの電話・オルガン、アスクリーム、ソーダ」、アメリカで成功した初の万国博
- 1876年5月11日-09:30|オーストリア|||1872年のイギリスの法令に倣ったニューサウスウェルズ 炭鉱規制法が成立/より厳格な換気装置、安全規制、8時間シフトを課したのに加え、炭鉱夫がおいおいの、切り出した石炭の量をチェック
- 1876年5月12日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第66号「社寺朱黒印地等ノ内売買又ハ質地トナル者処分方」；明治9年太政官布告第67号「隠田切開地添地等処分方更定」；明治9年太政官布告第68号「地租改正調査ニ臨ミ承服セラル者処分方」；明治9年太政官布告第69号「各地方違式加違条例中改正追加」
- 1876年5月12日-02:00|トルコ|||<就任>オスマン帝国大宰相「ミュテルシム・リュシュテ・イ・ハシヤ」(4期目~12. 19)
- 1876年5月15日-09:00|日本|静岡県|明治9年|<公布>明治9年太政官布告第70号「静岡県下伊豆国田方郡玉沢ヲ君沢郡へ編入改称」
- 1876年5月15日-01:00|フランス|||フランスで、出版法違反に対する刑罰が廃止
- 1876年5月16日-09:00|日本||明治9年|<公布>明治9年地租改正事務局甲布達第1号「代替並水火盗難及荒地其他無代価地券書換証印税ヲ定ム」；明治9年地租改正事務局甲布達第2号「地租改正施行規則中廢除改正」

1880迄 (3454件)

- 1876年5月17日-09:00|日本|日本郵政|明治9年|<発行>(小判)小判切手(1876年)額面:1銭、2銭、5厘
- 1876年5月18日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第72号「開港場県令ノ勅任ヲ廢シ奏任トス」;明治9年内務省甲布達第16号「天然痘予防規則」(種痘の接種年齢を生後70日より1歳までの幼児として、強制接種をすることを決め、これに違反する者に対しては罰金を科す);明治9年大蔵省甲布達第12号「鑄造金銀銅貨紙幣取扱規則第一条心得方」
- 1876年5月19日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第74号「改定律例中私借官物律例ヲ廢シ雇人盗家長財物律例改正」
- 1876年5月20日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年文部省布達第3号「明治六年第二十一号(小学教則中休業日改正)布達廢止」
- 1876年5月22日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第76号「華族ノ輩金穀貸借証文其他契約書自今本人ノ名印ヲ用シム」
- 1876年5月22日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「政府評議会:トマス・ゴ・メス・デ・アルメイダ/ルイス・カルロス・ガルス・ア・デ・ミランダ/ミゲル・ゴ・メス・デ・アルメイダ(1回目)/アントニオ・ド・ナシメント・ペレイラ・デ・サン・イオ」(~6.5)
- 1876年5月24日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>華頂宮博經親王(26歳)皇族、議定、海軍少将
- 1876年5月24日-09:00|日本|佐賀県|明治9年|<公布>明治9年太政官布告第77号「三瀨県下肥前国杵島郡並ニ松浦郡ノ内村々長崎県へ管轄」
- 1876年5月25日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年海軍省甲布達第3号「主船寮定雇職工規則中改定追加」
- 1876年5月25日-09:00|日本|岩手県|明治9年|<分離編入>青森県二戸郡、宮城県気仙郡を移管→岩手県
- 1876年5月30日-02:00|トルコ| ||<即位>オスマン帝国第33代スルタン「ムラト5世」先代の甥、31代アフデュルムット1世の長男(~8.31廢位~19040829死去)
- 1876年5月30日-02:00|トルコ| ||<廢位>オスマン帝国第32代スルタン「アフデュルアズィズ」ミト・ハト・ハシヤなど「新オスマン人」を中心とした勢力により(~同年死去)
- 1876年5月31日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第81号「出版条例第三十一条追加」
- 1876年5月31日-09:00|日本|長崎大学|明治9年|<改称>「小学校教師養成所」⇒「長崎公立師範学校」
- 1876年6月-09:00|日本|名古屋大学|明治9年|<改称>「公立医学講習場」⇒「公立医学所」
- 1876年6月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>アレクサンダー・クリス(総督)「Kartalli Mehmed Emin Pasha」(~1878.2)
- 1876年6月 06:00|アメリカ| ||ロズ・バット[®]の戦い、ス族とシャイン族がクルック軍を撃退
- 1876年6月1日-09:00|日本|みざほファイナンスグループ|明治9年|<開業>「彰真社」[長野]
- 1876年6月2日-09:00|日本|広島県広島市|明治9年|広島船入西懲役場より出火し、西本川筋の民家をほとんど全焼
- 1876年6月3日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年司法省甲布達第9号「代言人規則第九条削除」
- 1876年6月3日-09:00|日本|大阪府和泉市|明治9年|<死去>渡辺潔綱(63歳)元和泉伯太藩主
- 1876年6月5日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ケイ・ランスラント[®]植民地政府首相「ジョージ・ソーン」
- 1876年6月5日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「カエターノ・アレクサンダー・デ・アルメイダ・イ・アルバカーキ」(~18780701)
- 1876年6月5日 06:00|カタ[®]| ||カタ[®]で最高裁が初めて開廷
- 1876年6月6日-09:30|オーストラリア| ||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ジョン・コルトン」(~18771026)
- 1876年6月6日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第82号「西洋形商船船長運転手機関手試験規則」;明治9年太政官布告第83号「第六十六号社寺朱黒印地処分布告中更正」
- 1876年6月7日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>年寄阿武松(雷電)
- 1876年6月7日-01:00|ドイツ| ||<結成>ドイツ保守党
- 1876年6月8日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>梅宮薫子内親王(2歳)明治天皇の皇女
- 1876年6月8日-09:00|日本| ||明治9年|全国の道路を国道、県道、里道の3道に分け、1から3の等級をつける
- 1876年6月8日-01:00|フランス| ||<死去>フランスの女流作家ジョルジュ・サンド[®](1804-、71歳)
- 1876年6月8日 06:00|ホンジュラス| ||<就任>ホンジュラス共和国暫定大統領「マルセリーノ・メリア・セラノ」(~13日)
- 1876年6月9日-02:00|ブルガリア/トルコ| ||オスマン帝国に対するブルガリアの反乱が鎮圧される
- 1876年6月10日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第86号「改定律例第三百十八条改正」
- 1876年6月12日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治9年|<開業>官設鉄道[品川-川崎]間に大森駅
- 1876年6月13日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第88号「地所名称区別中改正」
- 1876年6月13日-04:00|アゼルバイジャン| ||<就任>バクー県知事「ヴァレリー・ミハイロヴィッチ・ポーション」(~1881年)
- 1876年6月13日 06:00|ホンジュラス| ||<就任>ホンジュラス共和国暫定大統領「クレメンシオ・ゴメス・サントス・パリアダレス」(~8.12)
- 1876年6月15日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第89号「第七十二号布告開港場アル県令ノ上ニ追加」
- 1876年6月15日-09:00|日本| ||明治9年|<創刊>「問答新聞」
- 1876年6月17日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第90号「写真条例」(写真の著作権保護)
- 1876年6月17日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ[®]総督・総司令官「アルセニオ・マルティネス・デ・フィールズ・イ・アソニ」(1回目~18790205)
- 1876年6月18日 00:00|セネガル/フランス| ||<就任>フランス領セネガル[®]総督「ルイ・アレクサンダー・エスプリ・ガストン・フリエール・ド・アイル」(~1880年4月)
- 1876年6月21日-09:00|日本| ||明治9年|<竣工>日本海軍一等砲艦「清輝」(897t)横須賀海軍工廠
- 1876年6月21日-09:00|日本|佐賀県|明治9年|<公布>明治9年太政官布告第91号「三瀨県下肥前国藤津郡ヲ長崎県へ管轄」

1880迄 (3454件)

- 1876年6月21日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督代行「ヘルムルト・バロン・インドレウス」(8回目~8.17)
- 1876年6月23日-09:00|日本| ||明治9年<開設>内務省「農事修学場」[勸業寮内藤新宿出張所内]
- 1876年6月23日-09:00|日本|日本郵政|明治9年<発行>(小判)小判切手(1876年)額面:4銭、5銭
- 1876年6月23日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「マグダラのネビア卿ハート・ネビア」(~1883 0103)
- 1876年6月25日 06:00|アメリカ| |||カスター中佐の騎兵第7連隊の264人がリトル・ビッグ・ホーンで、シッティング・ブルの率いる約2 500名の少数民族インディアンに襲われて全滅
- 1876年6月26日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第93号「明治九年郵便規則中改正」
- 1876年6月27日-09:00|日本| ||明治9年<竣工>鉄道棧橋初めて神戸港に竣工し、港湾と汽車運輸の連結成る
- 1876年6月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>クリスチャン・ゴットフリート・エーレンベルグ、博物学者・科学者(生年1795年)
- 1876年6月28日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第04号「西洋形商船船長運転手試験規則追加」
- 1876年6月28日-09:00|日本|岐阜県大垣市|明治9年<死去>戸田氏正(64歳)元美濃大垣藩主
- 1876年6月29日-09:00|日本|広島大学|明治9年|福山の元小田県師範学校を広島県公立師範学校分校とする
- 1876年6月30日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第97号「徴兵令中徴兵編成並ニ概則中増加改正」
- 1876年6月30日-09:00|日本|長野県|明治9年<火災焼失>「筑摩県庁」[松本市]
- 1876年6月30日-01:00|セルビア/トルコ| |||セルビアがオスマン帝国に宣戦布告
- 1876年6月30日-08:00|中国| ||清・光緒2年閏5月9日|上海と呉淞の間を結ぶ鉄道がイギリス人によって一部開通
- 1876年7月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス「Rashid Nashid Pasha」(1回目~12月)
- 1876年7月 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「コーリアス・ヘンドリックソン・コートライト」(2回目~18 77年3月)
- 1876年7月 07:00|マシコ| |||マシコ大統領選挙。レルトが再選される。デ・イアスはオマハで蜂起開始
- 1876年7月1日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治9年|三井バンクをもとに三井銀行開業/私立銀行の始まり
- 1876年7月1日-09:00|日本|三井物産|明治9年<創立>三井物産株式会社(東京,井上馨の政界復帰に伴い解散した先取会社の人員・事業を引き継ぐ)
- 1876年7月1日-01:00|ドイツ| |||ザクセン＝ラウエンブルクは同君連合となったプロシヤ王国に併合される
- 1876年7月1日-04:00|ロシア| |||<死去>ミハイル・バクーニン、哲学者・無政府主義者(生年1814年)
- 1876年7月2日-01:00|スペイン| |||第三次カリスト戦争終結
- 1876年7月2日-01:00|スペイン| |||スペインで、1876年憲法が制定される
- 1876年7月2日-01:00|モンテネグロ/トルコ| |||モンテネグロがオスマン帝国に宣戦布告
- 1876年7月3日 06:00|カナダ| |||インターコネクト鉄道「ケベック-ハリファクス間」が完成
- 1876年7月5日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第98号「新聞紙雑誌雑報ノ国安ヲ妨害スルモノハ発行禁止停止」(出版統制の最初)
- 1876年7月6日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第99号「金穀等借用証書譲渡ノ節ハ書換ヘシム」;明治9年司法省甲布達第10号「代言人規則第十六条追加」
- 1876年7月8日-09:00|日本| ||明治9年<発行>同人社、総合的啓蒙雑誌「同人社文学雑誌」
- 1876年7月8日-01:00|オーストリア/ロシア| |||ロシア暦6月26日|オーストリアとロシアが、ライヒェンタット協定を結ぶ
- 1876年7月9日-09:00|日本| ||明治9年<開園>川本友吉「四時皆宜園」(野毛老松町)日本で最初の巨大迷路
- 1876年7月11日-09:00|日本|大分県佐伯市|明治9年<死去>毛利高謙(37歳)元豊後佐伯藩主・知藩事
- 1876年7月11日 00:00|イギリス| |||<死去>7代アナンデイル＝ハートフェル伯「ジョン・ホープ＝ジョンストン」
- 1876年7月11日 00:00|イギリス| |||<就任>8代アナンデイル＝ハートフェル伯「ジョン・ジェームズ・ホープ＝ジョンストン」(~19121226死去)
- 1876年7月12日-08:00|中国| ||清・光緒2年閏5月22日|建平で、住民とキリスト教徒が衝突する
- 1876年7月13日-09:00|日本| ||明治9年<警視庁に初めて電信を設け、これより報道の急に備える
- 1876年7月15日-09:00|日本| ||明治9年|東京・両国の川開きが催され、鍵屋、玉屋がとくに趣向をこらした花火を揚げて人気を呼ぶ
- 1876年7月15日 06:00|アメリカ| |||フィリピンで、第1インターのアメリカ支部を母体に労働者党結成
- 1876年7月17日-09:00|日本|岐阜県山県市|明治9年<死去>本庄道美(57歳)元美濃高富藩主・知藩事
- 1876年7月18日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第101号「改定律例中加除並ニ監守盗常人盗条例改正」
- 1876年7月18日-09:00|日本| ||明治9年|政府、海面の官有を廃止し、漁業に対して府県税を課すことを決定
- 1876年7月19日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「ピエール＝ナオム＝アロン＝キャナル」(1回目~18790717)
- 1876年7月20日-09:30|オーストラリア| |||<就任>タスマニア植民地政府首相「トマス・ライバー」(~18770809)
- 1876年7月21日-09:00|日本| ||明治9年<創刊>岩手日報社「岩手日報」
- 1876年7月21日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍エンタープライズ級砲艦「アダムス」(1375t)チャールズ・タン海軍工廠
- 1876年7月22日-09:00|日本| ||明治9年<公布>明治9年太政官布告第104号「再犯加等罪例条例」
- 1876年7月22日-09:00|日本| ||明治9年<竣工>日本海軍木造帆式練習船「石川」(253排水t)石川島造船所
- 1876年7月22日 06:00|アメリカ| |||<結成>「労働者党」(アメリカ初の社会主義政党)
- 1876年7月26日-09:00|日本|群馬県館林市|明治9年<死去>秋元志朝(57歳)元上野館林藩主
- 1876年7月26日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治9年<延伸>官設鉄道[向日町-高槻-大阪]36.54km仮開業→[向日町-神戸]開通
- 1876年7月26日-09:00|日本|福岡教育大学|明治9年<改称>「教員伝習所」⇒「福岡師範学校」

1880迄 (3454件)

- 1876年7月26日-05:30|インド| |||ハネジ-がカルカッタでインド人協会を設立
1876年7月29日-05:30|インド| |||インド科学会議がカルカッタで創設・開催される
1876年7月30日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「マグダラの礼拝」男爵Robert Cornelis Napier (~18821226)
1876年7月30日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島暫定司令官「Auguste Victor Arno ux Tranchevent」(~18770528)
1876年7月30日 06:00|コスタリカ| |||<就任>コスタリカ共和国大統領代行「ビセンテ・テラス・メルセ・スエーラ・ゼレト」(~18770923)
1876年8月-09:00|日本| ||明治9年|<創刊>弘令社「官令全報」
1876年8月-09:00|日本| ||明治9年|蓬萊社, 127万円余の負債をかかえて解散
1876年8月-02:00|サンピア| |||<就任>フローズン王国摂政「モリ・マリ」(~10月)
1876年8月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュトウのクリス「アリアナ・ムスタファ・ハシヤ」(~1878年7月)
1876年8月1日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第105号「米商会所条例」; 明治9年太政官布告第106号「国立銀行条例改正」(不換紙幣の発行を認可)
1876年8月1日-09:00|日本| ||明治9年|<廃業>堂島米会所
1876年8月1日 06:00|アメリカ| |||<加盟>コロラド準州⇒アメリカ合衆国コロラド州 (38番目)
1876年8月2日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「マヌエル・アントニオ・アレナス・メリ」(1回目~26日)
1876年8月2日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国大統領「マリアノ・イグナシオ・プラト・チヨ」(2回目~18791223)
1876年8月3日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第107号「証人等旅費支給方規則第二項但書増補」
1876年8月4日-01:00|スペイン/キューバ| |||シソコで独立派の反乱/ビセンテ・ガリアの軍, 念願のラストナス攻略に成功. その後スペイン軍の反撃にあい, 退却
1876年8月5日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第108号「金禄公債証書発行条例」(俸禄支給を廃止する代わりに金禄公債を士族に与える); 明治9年太政官布告第109号「金禄公債証書ハ書入質入並ニ売買約定禁止」
1876年8月5日-02:00|エジプト| |||<創刊>カイロで「アフラム」紙
1876年8月6日-09:00|日本| 香川大学| 明治8年|<開校>「香川県師範学校」
1876年8月6日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ルーマニア閣僚会議議長(首相)「イオン・コンスタンティン・ブラア・ティアヌ」(1回目~18810422)
1876年8月8日 06:00|アメリカ| |||エッジ、謄写版の特許を取得
1876年8月9日-09:00|日本| JR西日本東海道本線| 明治9年|<駅開業>官設鉄道[向日町-高槻]間に山崎、[高槻-大阪]間に茨木、吹田
1876年8月10日-09:00|日本| ||明治9年|<設置>内務省「授産局」
1876年8月10日-09:00|日本| 愛知教育大学| 明治9年|<改称>「愛知県養成学校」⇒「愛知県師範学校」
1876年8月11日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第110号「内国製造/西洋紙及土産無税輸出差許」
1876年8月11日-08:00|中国| ||清・光緒2年6月22日|劉錦棠が、新疆古牧で陝西イスラム教徒の白彦虎を破る
1876年8月12日-09:00|日本| ||明治9年|<設置>外薬監視のため横浜・長崎に司薬場; <廃止>京都司薬場
1876年8月12日 06:00|ホジユス| |||<就任>ホジユス共和国大統領代行「閣僚評議会: マルセリーノ・メア・セラノ/マヌエル・コロン・リス・グアテリス」⇒暫定大統領「セルマリア・メイヤ」(4回目~27日)
1876年8月13日-01:00|ドイツ| |||<初演>グイヘルム・リヒャルト・ワーグナー《歌劇「ニュルンベルクの指輪」序夜「ラインの黄金」》(~0817, ハレト祝祭劇場)
1876年8月14日-09:00|日本| 北海道大学| 明治9年|開拓使, 札幌中に開設の農業専門<札幌学校>を札幌農学校と改称して開校
1876年8月14日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯・バークシャー伯「チャールズ・ジョン・ハワード」
1876年8月14日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯・バークシャー伯「ハンリー・チャールズ・ハワード」(~18980331死去)
1876年8月15日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ロズデル伯「ハンリー・ラウザー」
1876年8月15日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ロズデル伯「セント・ジョージ・ラウザー」(~18820208死去)
1876年8月16日-01:00|ドイツ| |||<初演>グイヘルム・リヒャルト・ワーグナー《歌劇「ニュルンベルクの指輪」第2日「ジークフリート」》
1876年8月17日-01:00|ドイツ| |||<初演>グイヘルム・リヒャルト・ワーグナー《歌劇「ニュルンベルクの指輪」第3日「神々の黄昏」》
1876年8月17日-08:00|中国| ||清・光緒2年6月28日|劉錦棠らが、古牧を攻めて再び白彦虎を破る
1876年8月18日-08:00|中国| ||清・光緒2年6月29日|劉錦棠らが、ウルチを攻略して新疆北路をほぼ平定
1876年8月19日-09:00|日本| ||明治9年|水夫の名称を改め水兵とする
1876年8月20日-08:00|中国| |||<設立>真宗東派本山本願寺別院(上海)
1876年8月21日-09:00|日本| 石川県| 明治9年|<分割編入>敦賀県越前国[坂井・吉田・足羽・大野・丹生・今立・南条]郡を分割編入→石川県
1876年8月21日-09:00|日本| 愛媛県| 明治9年|<合併>愛媛県、(第2次)香川県が合併→愛媛県
1876年8月21日-09:00|日本| 大分県| 明治9年|<分離編入>福岡県[下毛・宇佐]2郡を編入→大分県
1876年8月21日-09:00|日本| 香川県| 明治9年|<合併>愛媛県、(第2次)香川県が合併→愛媛県
1876年8月21日-09:00|日本| 岐阜県| 明治9年|<分割編入>筑摩県の旧飛騨国域を分割編入→岐阜県
1876年8月21日-09:00|日本| 京都府| 明治9年|<分割編入>豊岡県丹波国天田郡、丹後国[加佐・中・与謝・竹野・熊野]5郡を分割編入→京都府

1880迄 (3454件)

- 1876年8月21日-09:00|日本|群馬県|明治9年|<分離>熊谷県旧上野国分立、栃木県旧上野国[新田・邑楽・山田]3郡を分離編入→(第2次)群馬県(県庁を群馬郡高崎町に移転)
- 1876年8月21日-09:00|日本|埼玉県|明治9年|<分割>熊谷県旧武蔵国が分立、千葉県のうち下総国葛飾郡の一部を編入→埼玉県
- 1876年8月21日-09:00|日本|佐賀県|明治9年|<分離編入>三潁県旧肥前国[基肄郡、養父郡、三根郡、神埼郡、佐賀郡、小城郡]6郡を編入→長崎県
- 1876年8月21日-09:00|日本|静岡県|明治9年|<合併>静岡県、浜松県が合併→静岡県
- 1876年8月21日-09:00|日本|島根県|明治9年|<合併>島根県、(第1次)鳥取県が合併→島根県
- 1876年8月21日-09:00|日本|徳島県|明治9年|<分割編入>名東県旧阿波国を分割編入→高知県
- 1876年8月21日-09:00|日本|鳥取県|明治9年|<合併>島根県、(第1次)鳥取県が合併→島根県
- 1876年8月21日-09:00|日本|長野県|明治9年|<分割編入>筑摩県信濃国部分(中信・南信・大北地域)を分割編入→長野県
- 1876年8月21日-09:00|日本|新潟県|明治9年|<分離編入>若松県蒲原郡が福島県に移管
- 1876年8月21日-09:00|日本|兵庫県|明治9年|<合併>兵庫県・飾磨県が統合、豊岡県[但馬国、丹波国氷上・多紀2郡]、名東県旧淡路国を分割編入→兵庫県
- 1876年8月21日-09:00|日本|福井県|明治9年|<分割編入>敦賀県[越前国敦賀郡、若狭県三方・遠敷・大飯3郡]を編入→滋賀県・敦賀県越前国[坂井郡・足羽郡・吉田郡・大野郡・丹生郡・今立郡・南条郡]7郡を移管→金沢県
- 1876年8月21日-09:00|日本|福岡県|明治9年|<分離編入>三潁県旧筑後国を編入→福岡県
- 1876年8月21日-09:00|日本|福島県|明治9年|<合併>(第1次)福島県、若松県、磐前県[宇多郡・行方郡・標葉郡・磐城郡・磐前郡・菊多郡・田村郡・石川郡・白川郡]⇒(第2次)福島県
- 1876年8月21日-09:00|日本|宮城県|明治9年|<分離編入>磐前県[刈田郡・伊具郡・亘理郡]を移管→宮城県
- 1876年8月21日-09:00|日本|宮崎県|明治9年|<合併>(第1次)宮崎県を合併→鹿児島県
- 1876年8月21日-09:00|日本|山形県|明治9年|<合併>(第2次)山形県・置賜県、(第2次)酒田県・鶴岡県が合併→山形県
- 1876年8月21日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ビーンズ・フィールド・伯「ベンジャミン・ディズレーリ」(~18810419死去)
- 1876年8月22日-09:00|日本|滋賀県|明治9年|<分離編入>敦賀県[敦賀郡・三方郡・遠敷郡・大飯郡]を滋賀県に移管
- 1876年8月24日-09:00|日本|韓国/朝鮮| |||朝鮮・光緒2年7月6日|日朝修好条規付録及び通商章程に調印
- 1876年8月25日-09:00|日本|岩手大学|明治9年|<開校>盛岡師範学校
- 1876年8月26日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「テト・ロウ・ロ」(~18770601)
- 1876年8月27日-01:00|フランス| |||<死去>ウジェーヌ・フロマンタン、小説家・画家(生年1820年)
- 1876年8月27日 06:00|ロシア| |||<解任>ロシア共和国暫定大統領「セルゲイ・マリヤ・メーイヤ」パリスが権力から最終的に放逐
- 1876年8月27日 06:00|ロシア| |||<就任>ロシア共和国大統領「マルコ・アウレリオ・ソト・マルティネス」(18770530まで暫定~18831019)
- 1876年8月29日-09:00|日本| |||明治9年|<死去>南桃作(58歳)発明家/米搗粉挽車、水車機織器、板挽割および煙草草器、樟脳大釜焚製造器、人力水汲車、河掘器械車船、糸引器、紙漉器、紐打器などを発明改良
- 1876年8月29日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|明治9年|<死去>伊達宗敬(26歳)元伊予吉田藩主・知藩事
- 1876年8月31日-09:00|日本| |||明治9年|<改組・改称>「海軍兵学寮」⇒「海軍兵学校」
- 1876年8月31日-09:00|日本| |||明治9年|<廃止>海軍総督府⇒<設置>東海、西海の2鎮守府;<復置>軍務局
- 1876年8月31日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第34代スルタン「アブデュルハミト2世」先代の弟、31代アブデュルミット1世の子(~19090427廃位~19180210死去)
- 1876年8月31日-02:00|トルコ| |||<廃位>オスマン帝国第33代スルタン「ムラト5世」(~19040829死去)
- 1876年9月-09:00|日本| |||明治9年|<完成>臥雲辰致「かう紡機」
- 1876年9月-09:00|日本| |||明治9年|<設立>清水誠、わが国最初のマッチ工場[本所区柳原町(東京都)]
- 1876年9月-09:00|日本|鹿児島大学|明治9年|<改称>「小学校授業講習所」⇒「鹿児島師範学校」
- 1876年9月-09:00|日本|北海道|明治9年|<分割>全道を30の大区に分ち大区の下に166の小区を設けた
- 1876年9月1日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「ハリ・アキンソン」(1回目~18771013)
- 1876年9月1日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治9年|<延伸>官設鉄道[大宮通仮停車場-向日町]間5.77km→[大宮通仮停車場-神戸]開業
- 1876年9月1日-09:00|日本|北海道|明治9年|開拓使雇のウリアム・ホイラーが石狩国札幌区東創成通り教師館内で気象観測を開始
- 1876年9月1日-01:00|セルビア/トルコ| |||セルビアとオスマン帝国の戦いで、セルビアが完敗
- 1876年9月6日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「政府評議会」(~11.1)
- 1876年9月7日-09:00|日本|愛媛大学|明治9年|<開校>愛媛県師範学校
- 1876年9月7日 00:00|ポルトガル| |||<結成>ポルトガル 進歩党
- 1876年9月8日-09:00|日本| |||明治9年|<公布>明治9年内務省警視庁乙布達第16号「娼妓毒検査規則中削除追加」
- 1876年9月8日 05:00|エクトル| |||<就任>エクトル 国最高長官(⇒18780421大統領⇒18820326最高長官)「イグナチオ・デ・ウエインテラ」自由党の反乱が勝利(~18830110)
- 1876年9月9日-09:00|日本| |||明治9年|高橋お伝、強盗殺人容疑で逮捕
- 1876年9月9日-09:00|日本|北海道大学|明治9年|<改称>「札幌学校」⇒「札幌農学校」クラークが教頭と農場長を兼ねる
- 1876年9月11日-09:00|日本| |||明治9年|<創刊>愛媛新聞社「愛媛新聞」

1880迄 (3454件)

- 1876年9月12日-09:00|日本|同志社女子大学|明治9年|京都のアメリカ人デビースが自宅で数名の女性に女学教育を行う(同志社女学校の母体)
- 1876年9月12日-05:30|インド| |||<就任>村国ラジャ(ラジャ・インドラ・デオ)「インドラ・デオ・バハドゥル」(~18981103没)
- 1876年9月12日-01:00|ベルギー| |||<創設>ベルギー-王レオポルド2世「国際アフリカ協会」
- 1876年9月13日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第114号「府県裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置キ分轄ヲ定ム」;明治9年太政官布告第115号「上等裁判所分轄ヲ定ム」
- 1876年9月13日 00:00|イギリス/中国| ||清・光緒2年7月26日|清朝とイギリスがチーフ協定を結ぶ
- 1876年9月14日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第117号「東京並ニ地方違式ガ違条例第三条改正」
- 1876年9月14日-09:00|日本|東京都葛飾区|明治9年|<編入>東京府、埼玉県武蔵国葛飾郡中寄牧村飛地を編入
- 1876年9月16日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Janus August Garde」(2期目~18810323)
- 1876年9月18日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第120号「火薬庫圍線規則」
- 1876年9月18日-09:00|日本| ||明治9年|<創建>開成山大神宮(福島県郡山市)
- 1876年9月18日-09:00|日本|同志社大学|明治9年|<移転開校>同志社英学校、今出川校地(相国寺門前の薩摩藩邸跡)に校舎2棟と食堂1棟を建て寺町から
- 1876年9月18日 04:00|刊| |||<就任>刊共和国大統領「アハル・ヒント・ガルメンティア」(~18810918)
- 1876年9月20日-09:00|日本|群馬大学|明治9年|<改称>「暢発学校」⇒「群馬県師範学校」
- 1876年9月20日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治9年|<設立>弁達会社(甲府;11.15開業)
- 1876年9月21日-09:00|日本|東京都千代田区|明治9年|<死去>徳川慶頼(59歳)田安德川家5・8代当主
- 1876年9月23日-09:00|日本|サッポロ・ビール・イングス|明治9年|<設立>札幌に始めての麦酒(ビール)醸造所「開拓使麦酒醸造所」(→札幌麦酒(株)→大日本麦酒(株)→日本麦酒(株)→サッポロビール/日本初の営業用ビール「天沼ビヤざけ」醸造)
- 1876年9月25日-09:00|日本| ||明治9年|<開設>堂島米市場「米穀取引所」[大阪堂島](堂島米相場会所に代わって)
- 1876年9月25日-01:00|セルビア/トルコ| |||セルビアがオスマン帝国に対して再び戦闘を開始
- 1876年9月27日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第123号「禄高ニ関スル出願禄制改定後ハ一切採用ス」;明治9年内務省甲布達第36号「羊毛買上規則」
- 1876年9月28日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第124号「株式取引条例中改正」
- 1876年9月30日-05:30|インド| |||<就任>サウリ国統治者(ターケル)「ヒラ・シン」(~18870725)
- 1876年10月-09:00|日本|石川県羽咋郡志賀町|明治9年|<点灯>旧福浦灯台(石川県富来町,1950年(昭和25)まで使用、石川県の史跡)
- 1876年10月-09:00|日本|鹿児島大学|明治9年|<改称>「小学正則講習所」⇒「鹿児島女子師範学校」
- 1876年10月-09:00|日本|島根大学|明治9年|<分離>「島根県小学教員伝習所」⇒「松江師範学校」、「浜田師範学校」
- 1876年10月-09:00|日本|千葉大学|明治9年|<改称>「共立病院」⇒「公立千葉病院」/医学教場が付設された
- 1876年10月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ツァ(ト)・ウリス(総督)「ハル・リアト・バシヤ」(~1877年2月)
- 1876年10月-02:00|サンビエ| |||<就任>プロシヤ王国統治者(ム)ム・ワリウツガ「ムワウイナ2世」(~1878年5月)
- 1876年10月-01:00|スペイン/キューバ| |||スペイン軍総司令官となったマルチネス・カンボス将軍,ラスビリヤスを攻略
- 1876年10月1日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領スール総督代理「Eduardo Fernandez Bremon」(1期目~12.31)
- 1876年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「セフ・ティウス・ベルツツィ」[ミケレ・チェッコリ]
- 1876年10月2日-09:00|日本|東京都中央区|明治9年|<開設>東京兜町に米商会所
- 1876年10月2日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第16回全英オープン選手権優勝:ロバート・マーティン(スコットランド/176)
- 1876年10月3日-09:00|日本|秋田県大仙市|明治9年|<払い下げ>荒川鉱山(銅山;秋田県仙北郡荒川村)⇒瀬川安五郎
- 1876年10月3日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍エンタープライズ級砲艦「エックス」(1375t,ホーツマス海軍工廠)チャールズ・タウン海軍工廠にて
- 1876年10月5日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国上級理事会「ペドロ・パブロ・ロペス・ベリヤヌバ」/セルカミロ・マティアス/ファン・エステバン・アリーサ・マテオ/フイデル・ロドリゲス・ウルダネタ/セルテ・ハス・エドゥアルド・テ・カストロ・アルバレス/ファン・ハウテイスタ・ザ・フラ・イ・ミランタ/ペドロ・トマス・ガリド・マテオ(~11.11)
- 1876年10月6日 06:00|アメリカ| |||<創始>コロンビア大学のメルヴィル・デュイ教授「図書の十進分類法」;<設立>米国図書館協会
- 1876年10月9日-09:30|オーストラリア| |||クィーンズランドのグリフィス首相、慣習法と衡平法の法廷を統一する法律をオーストラリアで初めて施行
- 1876年10月9日-09:00|日本|大日本印刷|明治9年|<開業>「秀英舎」
- 1876年10月10日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>一里塚廢毀令
- 1876年10月10日-09:00|日本| ||明治9年|日本で初めて缶詰製造/内容はイワシの油漬け
- 1876年10月10日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ツイード・デール侯「ジョージ・ヘイ」
- 1876年10月10日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ツイード・デール侯「アーサー・ヘイ」(~18781229死去)
- 1876年10月11日-09:00|日本|高知大学|明治9年|<改称>「陶冶学校」⇒「高知県師範学校」
- 1876年10月12日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第125号「皇族大礼服制改正」
- 1876年10月12日-09:00|日本| ||明治9年|<設置>太政官正院に賞勲事務局

1880迄 (3454件)

- 1876年10月13日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第126号「再犯加等罪例条例改正」
- 1876年10月13日-09:00|日本|横浜銀行|明治9年|<設立>誠資社(資本金3万円)[長者町]
- 1876年10月14日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第127号「朝鮮国ト修好条規附録並ニ貿易規則」;明治9年太政官布告第128号「朝鮮国貿易ヲ一般人民ニ許ス」;明治9年太政官布告第129号「朝鮮国貿易品輸出入手順」
- 1876年10月17日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第130号「各区町村金穀公借共有物取扱土木起功規則」
- 1876年10月17日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第131号「栃木裁判所ヲ茨城ニ移シ水戸裁判所ト称ス」
- 1876年10月17日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>後藤一乗(86歳)装剣金工
- 1876年10月17日-09:00|日本| ||明治9年|政府、小笠原諸島を日本政府が直接統治する旨各国に通達
- 1876年10月20日-09:00|日本| ||明治9年|<竣工>長生橋(初代;新潟県長岡市の信濃川)
- 1876年10月20日-09:00|日本|青森県下北郡東通村|明治9年|<初点灯>尻屋崎灯台(東北初の灯台/青森県東通村, 32.82m, 日本で最も高い煉瓦建築)
- 1876年10月23日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第132号「罪囚証人並ニ無罪解放ノ者無罪ニ帰スル者旅費支給方布告中改正」
- 1876年10月23日-09:00|日本|熊本県|明治9年|<死去>細川韶邦(42歳)元肥後熊本藩主・知藩事
- 1876年10月23日-02:00|マウイ| ||<設立>プランドヤ(イギリスの宣教師により)
- 1876年10月24日 14:00|日本|熊本県熊本市|明治9年|<神風連の乱>深夜、旧肥後藩の士族太田黒伴雄、加屋霽堅、斎藤求三郎ら「敬神党」が廢刀令に反対して反乱/熊本鎮台司令官種田政明宅、熊本県令安岡良亮宅を襲撃し、種田・安岡ほか県庁役人4名を殺害/その後、全員で政府軍の熊本鎮台(熊本城内)を襲撃し、城内にいた兵士らを次々と殺害し、砲兵營を制圧
- 1876年10月24日 00:00|イギリス/中国| ||清の光緒2年9月8日|清が、イギリス人建設の淞滬鉄道を28万5000両で買収する
- 1876年10月25日-02:00|日本| ||明治9年|<開始>米南北戦争の幻灯興業
- 1876年10月25日-02:00|日本|熊本県熊本市|明治9年|<神風連の乱>朝、政府軍側では児玉源太郎が将校を駆けつけ、その指揮下で態勢を立て直し、本格的な反撃を開始/加屋・斎藤らは銃撃を受け死亡し、首謀者の太田黒も銃撃を受けて重傷を負い、付近の民家に避難したのち自刃/指導者を失ったことで、他の者も退却し、多くが自刃/敬神党側の死者・自刃者は、計124名。残りの約50名は捕縛され、一部は斬首された/政府軍側の死者は約60名
- 1876年10月26日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第134号「勸業ニ係ル通報等郵便遞送規則」
- 1876年10月27日-09:00|日本|福岡県朝倉市|明治9年|<秋月の乱>福岡県秋月で旧秋月藩の士族宮崎車之助、磯淳、戸原安浦、磯平八、戸波半九郎、宮崎哲之助、土岐清、益田静方、今村百八郎ら約400名「秋月党」が拳兵、福岡県警察官穂波半太郎を殺害(日本初の警察官の殉職)
- 1876年10月27日-03:00|マダガスカル/レユニオン/フランス| ||マダガスカルのセントマリ-島はレユニオンに従属
- 1876年10月28日-09:00|日本|山口県萩市|明治9年|<萩の乱>前参議前原一誠を指導者とする「殉国軍」が拳兵
- 1876年10月28日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国暫定大統領「セルマリヤ・イグナシオ・インサウラガ」(~18770117)
- 1876年10月29日-09:00|日本|千葉県千葉市|明治9年|<思案橋事件>永岡久茂ら数人が千葉県庁襲撃を企てるが露見して捕らえられる
- 1876年10月29日-09:00|日本|福岡県朝倉市|明治9年|<秋月の乱>乃木希典率いる小倉鎮台が秋月党を攻撃/秋月側は死者17名を出し(政府軍の死者2名)江川村栗河内へ退却
- 1876年10月29日-01:00|スペイン| ||<創立>スペインで、自由教育学院
- 1876年10月30日-09:00|日本|IHI|明治9年|<払い下げ>海軍省所管「石川島造船所」⇒平野富二「平野造船所」設立
- 1876年10月31日-09:00|日本| ||明治9年|兵部省所管「雲揚艦」紀州阿田浦で座礁(18770514売却)
- 1876年10月31日-09:00|日本|福岡県朝倉市|明治9年|<秋月の乱>秋月党は解散し、磯、宮崎、土岐ら七士は自刃/抗戦派の今村は他26名とともに秋月へ戻り、秋月小学校に置かれていた秋月党討伐本部を襲撃し県高官2名を殺害、反乱に加わった士族を拘留していた酒屋倉庫を焼き払ったのち、分かれて逃亡
- 1876年10月31日-09:00|日本|山口県萩市|明治9年|<萩の乱>萩・越ヶ浜より明倫館に戻ったが備蓄弾薬が池に破壊されており、待ち伏せていた政府軍と市街戦が発生/これを退けるも橋本町辺に68軒の焼失被害を出す
- 1876年10月31日-05:30|インド| ||サイクロンがベンガル地方を襲う(20万名死亡)
- 1876年11月-09:00|日本|慶應義塾|明治9年|<閉校>徳島慶應義塾分校
- 1876年11月-09:00|日本|東京学芸大学|明治9年|<改称>東京府小学師範学校⇒東京府師範学校
- 1876年11月-09:00|日本|東京大学|明治9年|<完成>東京医学校本館(→東京大学総合研究博物館小石川分館)
- 1876年11月1日-12:00|ニュージーランド| ||ニュージーランド 首相ボークルが各州議会を廃止
- 1876年11月1日-09:00|日本|宮城県石巻市|明治9年|<初点灯>金華山灯台(宮城県牡鹿町, 石造, 初期のものが現存)<設計>プラント
- 1876年11月1日-01:00|オランダ| ||<開通>北海運河(オランダ 中西部の海洋運河で北海に臨むアイゼンとアムステルダムを結ぶ)
- 1876年11月1日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Estanislau Xavier de Assumpcao e Almeida」(3期目~18790926)
- 1876年11月2日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治9年|<開業>堂島米商会所
- 1876年11月2日-01:00|セルビア/モンテネグロ/トルコ| ||ロシアの干渉によりセルビア、モンテネグロとオスマン朝が休戦決定
- 1876年11月4日-09:00|日本| ||明治9年|<変更>日本海軍軍艦「摂津」⇒貯蓄船

1880迄 (3454件)

- 1876年11月4日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネ・ブラーム《交響曲第1番ハ短調Op. 68》
- 1876年11月5日-09:00|日本|島根県出雲市|明治9年|<萩の乱>前原・奥平ら幹部と従者白井林蔵、馬来木工の7名は東京へ向かうべく船舶にて萩越ヶ浜を出港したが、悪天候のため宇竜港に停泊中水先案内人に通報されたことで島根県令佐藤信寛らに包囲され、弁明の機会を与えることを条件に投降し逮捕された
- 1876年11月5日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー36《スラヴ行進曲》
- 1876年11月6日-09:00|日本|東京藝術大学|明治9年|<創立>工部省付属美術学校
- 1876年11月6日-09:00|日本|山口県萩市|明治9年|<萩の乱>小倉らは萩で三浦梧楼少将率いる広島鎮台と軍艦孟春の攻撃を受け、政府軍により鎮圧された
- 1876年11月7日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「ホアキン・アントニオ・ダ・シルバ・フェレイラ」(~18780118)
- 1876年11月7日-01:00|チェコ| |||<初演>ベドジフ・スメタ《歌劇「ロヅケ」》
- 1876年11月7日 06:00|アメリカ| |||アメリカ大統領選挙、結果をめぐって紛糾(翌年3月2日ラザフォード・ヘイズの当選が確定)
- 1876年11月8日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第137号「再犯加等罪例条例」
- 1876年11月8日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第138号「岩国裁判所ヲ広島ニ移シ広島裁判所ト称シ浦和裁判所ヲ熊谷ニ移シ熊谷裁判所ト称ス」
- 1876年11月10日-09:00|日本|愛媛大学|明治9年|<改称>愛媛県師範学校⇒愛媛県伊予師範学校
- 1876年11月10日-09:00|日本|香川大学|明治9年|<改称>香川県師範学校⇒愛媛県讃岐師範学校
- 1876年11月11日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領(最高責任者)「イグナシオ・マリア・ゴンサレス・イ・サンティン」(3回目~12.9)
- 1876年11月14日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治9年|東京女子師範学校に付属幼稚園が開設される(初の近代幼稚園)
- 1876年11月14日-01:00|フランス| |||<初演>ヴィクトール・アントワヌ・エドゥアール・ラロ《歌劇「イスの王」序曲》
- 1876年11月15日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第141号「自今賞牌ヲ勲章従軍牌ヲ従軍記章ト改称」
- 1876年11月16日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治9年|東京女子師範学校附属幼稚園(現・お茶の水女子大学附属幼稚園)開園(日本初の幼稚園)
- 1876年11月18日-02:00|エジプト| |||エジプトが財政破綻で英仏の二重管理体制下におかれる
- 1876年11月21日 07:00|メキシコ| |||マヌエル・ゴンサレスの率いる反乱軍が、トラスカ州テコクで政府軍を撃破。レルトは米国亡命。米国はこれに介入しニューメキシコに侵入
- 1876年11月23日-09:00|日本| ||明治9年|<死去>山村登久(不明)日本舞踊家
- 1876年11月23日-03:00|イェメン/トルコ| |||北イェメン(サ)はオスマン帝国に併合された(~1905年)
- 1876年11月24日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第145号「一ノ関裁判所ヲ仙台ニ移シ仙台裁判所ト称ス」
- 1876年11月24日-09:00|日本|福岡県朝倉市|明治9年|<秋月の乱>乱の首謀者の一人の今村百八郎が逮捕された
- 1876年11月25日-09:00|日本| ||明治9年|<出版>福沢諭吉「学問のすずめ」完結17編
- 1876年11月27日-09:00|日本|茨城県筑西市|明治9年|<真壁一揆>茨城県真壁郡吉間村に約300人の農民が結集、副区長に強訴する事件が発生
- 1876年11月27日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍アト級砲艦PG-23「ナクケット」(1020t, Harlan & Hollingsworth Co. で建造⇒1920, 哨戒砲艦PG-23に艦種変更);「レンジャー」(1020t, Harlan & Hollingsworth Co.)リーグ・アライント 海軍工廠にて
- 1876年11月28日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第146号「新聞紙条例第二条削除」
- 1876年11月28日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領「セデ・ラ・カス・ポルフィリオ・ディアス・モリ」(1回目、18770505まで行政権担当立憲軍総司令官、その後暫定大統領~18801130/18841201まで事実上の支配者)
- 1876年11月29日 14:20|日本|東京都中央区|明治9年|<東京日本橋明治9年「数寄屋町の大火」>23時20分ごろ、東京日本橋区数寄屋町2番地の外濠寄りに土地を借りていた、秣(牛馬の飼料)業・鈴木禎蔵方の火の気のない秣置場から出火、炎は同家2階の瓦屋根をまたたく間に吹き抜け、たちまちのうちに数寄屋町を全焼させた/続いて勢いついた炎は、桧物町、上槇町、北槇町などを灰にするなど、東南の方向へ急速に燃え広がった。さらに炎は力を得、風に乗って東は箔屋町から樽正町、下槇町、本材木町二丁目へと進み、出火から40分ほどで、8か町1050戸を全焼させた/翌日午前0時頃になると、炎は京橋方面へと燃え移り、南側は南伝馬町一丁目から三丁目、桶町、南大工町、南鍛冶町、五郎兵衛町へと次々と灰にし、豊町を経て北紺屋町の川岸に達した/残った東側の炎は、中橋広小路町から大鋸町、南鞆町、松川町へと進み、鈴木町、具足町をから岸町、本材木町三丁目の両河岸までの22か町3600戸を全焼させた/更に南へ進んだ炎の道は、京橋竹河町の通りから木挽町一丁目へと飛び、大富町、新富町一丁目から七丁目、入舟町一丁目から八丁目、新栄町一丁目から七丁目、南八丁堀一丁目から三丁目及び墨田川川岸の新湊町二丁目から七丁目までと32か町1750戸を灰にした/一方、本材木町三丁目方面からの炎は、西風にあおられて川岸を越え、本八丁堀へと飛び火しそこから周辺の高代町、元島町、長沢町、松屋町一丁目から二丁目、三丁目へと、次から次へと炎はなめ尽くし、本八丁堀一丁目から五丁目までと日比谷町、幸町、八丁堀中町など17か町2506戸を焼き尽くした/午前6時頃までにはほとんど消しとめられ、7時になると、最後に入舟町八丁目や新湊七丁目方面が消し止められた/類焼した主な建物は、入舟町のオーストリア公使館及び築地の外国人居留地の各館、新富町の新富座、中橋座など劇場、警視庁第一方面第四分署など
- 1876年11月30日-09:00|日本| ||明治9年|府県職制および職務章程制定(県治条例廃止)
- 1876年11月30日-09:00|日本|茨城県|明治9年|<真壁一揆>茨城県、真壁・那珂・久慈・茨城諸郡の農民数千人が、地

1880迄 (3454件)

租改正反対の一揆を起こす/政府・県は軍隊を出動させて鎮圧

- 1876年11月30日 00:00|ガナ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地コロンビア=コスト総督・最高司令官「サンフォード・フリリング」(18770605まで代行~18780513)
- 1876年12月-09:00|日本| ||明治9年|木製汽船「貴保丸」(151G/T)進水(→1881年、渋谷庄三郎(大阪)の所有)
- 1876年12月-01:00|北マドニ/トルコ| |||<就任>マヌエル・ワリス(総督)「フェルナンド・アブティ・パシヤ」(~1877年4月)
- 1876年12月-01:00|ドイツ/リッパ| |||シュリマンがミケーネを発掘
- 1876年12月1日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第149号「露西亜国領樺太島貿易出入港手数料及輸出入物品税免除」
- 1876年12月1日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治9年|<開業>官設鉄道[新橋-品川]間に田町仮停車場
- 1876年12月1日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治9年|<設立>第三国立銀(日本橋小舟町3丁目10番地、西掘留川沿;12.5開業)
- 1876年12月1日-05:30|インド| |||<就任>ダナン国統治者(マハラ)「ジャヤワラツィム・ハリム」(~1908年没)
- 1876年12月1日-08:00|中国| ||清・光緒2年10月16日|<開通>淞滬鉄道全線
- 1876年12月2日-09:00|日本|日本経済新聞|明治9年|<創刊>中外物価新報局(三井物産会社内に創業→日本経済新聞社)「中外物価新報」(→「日本経済新聞」)
- 1876年12月3日-09:00|日本|福岡県福岡市|明治9年|<秋月の乱>福岡臨時裁判所で関係者の判決が言い渡され、首謀者とされた今村と益田は即日斬首、約150名に懲役、除族などの懲罰が下された
- 1876年12月3日-09:00|日本|山口県萩市|明治9年|<萩の乱>山口裁判所・萩臨時裁判所にて弁明の機会を与えられぬまま関係者の判決が言い渡され、首謀者とされた前原と奥平および横山俊彦、佐世一清(前原実弟)、山田頼太郎(前原実弟)、有福旬允、小倉信一、河野義一は即日斬首された
- 1876年12月6日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《歌劇「鍛冶屋のワケウ」》
- 1876年12月6日-01:00|ベルギー| |||ベルギーで、銀の自由鑄造禁止
- 1876年12月6日 07:00|メキシコ| |||<就任>メキシコ合衆国大統領代行「ジョン・ヘンリー・メンデス」(~18770215)
- 1876年12月7日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第150号「米沢裁判所ヲ福島ニ移シ福島裁判所ト称ス」
- 1876年12月8日-09:00|日本|茨城県|明治9年|<小瀬一揆>(~10日)茨城県那珂郡小舟村や上小瀬村の村人を中心に一揆が勃発(死刑3名を含む1,091名の処罰者を出した)
- 1876年12月8日-05:00|パキスタン/イギリス| |||<制定>イギリス保護領カッタ(条約により)
- 1876年12月8日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「エメノウ・ステイミル・テリゲルギス」(5回目~13日)
- 1876年12月8日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「ジョン・スコット・フツシュ」(3期目~18770203)
- 1876年12月9日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第151号「罪囚証人及無罪解放ノ者旅費支給方布告中増補」
- 1876年12月9日-09:00|日本| ||明治9年|各戸の門戸に姓名、番地などを記した標札をつけることが義務づけられる
- 1876年12月9日-04:00|ロシア/日本|日本郵船|明治8年|<開始>郵便汽船三菱会社:小笠原航路
- 1876年12月10日 04:00|トミカ共和国| |||<就任>トミカ共和国大統領(暫定統治委員会議長)「マルコス・エベキエル・アントニオ・カラル・フィゲロ」(~26日)
- 1876年12月11日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「マール・ロ公爵ジョン・ウィンストン・スペンサー・チャーチル」(~18800505)
- 1876年12月12日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第153号「西洋形商船船長及運転手機関手試験規則中改正」
- 1876年12月12日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第29代首相「ジュール・シモン」共和左派(第1次~18770517)
- 1876年12月13日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|明治9年|<死去>池田徳澄(23歳)元因幡庶奴藩主
- 1876年12月13日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリトノス・コウメントゥロス」(6回目~18770310)
- 1876年12月15日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第154号「西洋形船水先免状規則」
- 1876年12月16日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第155号「府県製造ノ旧証券界紙廃止」;明治9年太政官布告第156号「僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限ル」
- 1876年12月16日-05:30|インド| |||<就任>ナガール国ラジャ「イシュリ・シン」(~19110918没)
- 1876年12月18日-01:00|パチン| |||<就任>パチン枢機卿国務長官「ジョヴァンニ・シモーニ」(~18780305)
- 1876年12月19日-09:00|日本| ||明治9年|<公布>明治9年太政官布告第158号「明治十年郵便規則及罰則」
- 1876年12月19日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「アハメット・シェフィク・ミダット・パシヤ」(2期目~18770205)
- 1876年12月19日 03:00|日本|三重県松阪市|明治9年|<伊勢暴動>租税取り立ての延期を現在の三重県松阪市に相当する地域の農民が戸長らに申し入れ、松阪の農民は北と南に分かれ集団で行進を始め、各地で新政府に關係する施設の破壊・放火を行った/午後12時に納税の窓口であった三井銀行を焼き討ちにし、三井銀行の取締宅や垣鼻村の戸長宅も破壊
- 1876年12月19日 07:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>夕方より一志郡三渡村を中心に農民が結集、一志郡のほか安濃郡の農民を巻き込み県庁所在地の津を目指して進んだ、津方面への一揆の拡大を食い止めるために県の役人が一志郡久居付近に来て対策を検討している最中であったため、久居の町は農民に制圧された/一揆隊側は津に入ることはできず、農民は敗退、久居へ引き返し、更に南下して権現野に集結

1880迄 (3454件)

- 1876年12月20日-09:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>一揆隊は鈴鹿郡亀山へ入り、鈴鹿郡庄野村で学校を破壊、備品や書籍を焼却/鈴鹿郡石薬師村では役場を破壊
- 1876年12月20日-03:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>一揆隊は午前6時に三重郡采女村へ達し、日永の区扱所を打ちこわし、7時に三重郡四日市に入った
- 1876年12月20日-01:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>午前8時、一揆隊が伊賀名張郡梁瀬に入り、学校と区扱所を焼き払った/梁瀬経由の部隊は太郎生峠を超えた部隊と合流、さらに直接上野に向かった部隊とも再合流したが、午後大内川で上野支庁が派遣した土族と戦い敗走/伊賀での一揆は鎮圧された
- 1876年12月20日 04:00|バルバトス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバトス総督兼最高司令官「ジョージ・Cumine Strahan」(~1880.5)
- 1876年12月20日 04:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>午後、県庁派遣の土族が到着、農民側は敗北/一揆隊は県令宛ての嘆願書を渡し、解散
- 1876年12月20日 09:00|日本|愛知県|明治9年|(夜から~21日)愛知県海東郡や海西郡で暴動が展開
- 1876年12月21日-07:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>午前2時頃、約2000人の伊勢の一揆隊は小川町から山田に突入、八日市場町の農社に放火したのを皮切りに、山田師範学校・三重県山田支庁・小学校・三井銀行の支店・病院などの新政府と関係のある施設を襲った/特権を有する商人であった地主の家も焼き討ちに遭った/中島・浦口・常盤・大世古で町が炎上し、外宮別宮の月夜見宮の類焼が懸念されたため、神体を安全な風宮へ移した/火災は午前11時に収束
- 1876年12月21日 10:00|日本|三重県|明治9年|<伊勢暴動>神戸付近の一揆隊は、夜に到着した名古屋鎮台の前に敗れ去った
- 1876年12月22日 00:00|日本|三重県松阪市|明治9年|<伊勢暴動>午前、一揆隊側は垣鼻村の海会寺野で土族と戦い、敗れた
- 1876年12月22日 01:00|カホヘルテ/ホルガル| |||<就任>カホヘルテ 総督「ウァスコ・ゲテス・デ・カルウアーリョ・エ・メネス」(~18790613)
- 1876年12月23日-09:00|日本| ||明治9年|近畿地方の一揆は、軍の出兵で鎮圧
- 1876年12月23日-09:00|日本|岐阜県|明治9年|岐阜県内の一揆はすべて鎮静化
- 1876年12月23日-02:00|トルコ| |||<公布施行>オスマン帝国憲法(18780213廃止、19080724復元)第1次立憲政が始まる
- 1876年12月24日-09:00|日本|岐阜県|明治9年|<伊勢暴動>伊勢の一揆隊は鎮台兵が派遣され、抑え込まれた
- 1876年12月25日-09:00|日本|広島県|明治9年|<焼失>広島県庁[国泰寺境内]
- 1876年12月25日-02:00|エジプト/イギリス/フランス| |||<就任>エジプト財務総監「ウイリアム・ゴベット・ロメイン(イギリス)/マレ男爵ジョセフ・アルフォンス・ポール・マティン・エグシヴ・イヴス(フランス)」(~18780828)
- 1876年12月26日-09:00|日本|広島県|明治9年|<仮設>広島県庁[寺町仏護寺]
- 1876年12月27日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領「ブエナベンチュラ・バエス・メンデス」(5回目、18770321まで暫定~18780302)
- 1876年12月29日-09:00|日本| ||明治9年|三条実美、岩倉具視を各勲一等に叙し、旭日大綬章を賜う(臣下勲章拝受の始まり)
- 1876年12月29日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国ハワイ州アシュレユーラで列車の通過中に鉄橋が崩壊。92名死亡
- 1876年12月31日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領スール総督「Jose Paulin」(1期目~18770928)
- 1877年-09:00|日本|セブーン&アイホールディングス|明治10年|二代目十合伊兵衛が大阪心斎橋筋に大和屋を移転、十合呉服店と名づける
- 1877年-07:00|タイ| |||<就任>ランナー・シャム高等弁務官「テフ・プーラチュン」(2期目~1880年)
- 1877年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「ジグメ・ナムギヤル」(2回目~1878年)
- 1877年-05:30|インド| |||<死去>タン国ガドグアイのラジャ「フエトシ」
- 1877年-05:30|インド| |||<死去>ラタンマル統治者(タークル)「アヘイ・シン」
- 1877年-05:30|インド| |||<就任>タン国ガドグアイのラジャ「ナトゥシ」(~不明)
- 1877年-05:30|インド| |||<就任>テンカル国ラジャ「テイパントウ・マヘントラ」(~1885年没)
- 1877年-05:30|インド| |||<就任>ハリサワン国統治者(タークル)「ラグナート・シン・デオ」(~18840302没)
- 1877年-05:30|インド| |||<就任>マハタル国支配者(カン)「カル・アト・デイン・カン・ガザファル・カン」(~不明)⇒「ゾラワル・カン・カマル・アト・デイン・カン」(~18820612没)
- 1877年-05:30|インド| |||<就任>ミラジ・ジュニア国統治者(ワオ)「ラクシュマン・ラオ2世アブナ・サーヒブ・ハトワラタン」(~18990207没)
- 1877年-05:30|インド/イギリス| |||カンポール国をイギリス領インドが経営(~1906年)
- 1877年-05:00|パキスタン| |||<死去>スワット宗教指導者(アクホド)「アブド・アル・ガフル・サイドウ・ハバ」
- 1877年-05:00|パキスタン| |||<就任>スワット宗教指導者(アクホド)「ミヤゴル・アブドゥ・アル・ハナン」(~1887年没)
- 1877年-05:00|パキスタン| |||ナガル国、フンザ国はジャンム・カシミールの宗主権(準国家)下(~1947年)
- 1877年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>エリザヴェトポリ県総督「コンスタンチン・フリストフォウ・イチ・ママツェフ」(~1880年)
- 1877年-04:00|ロシア| |||アクティ汗国、カイタク汗国、カジムク汗国、キュラ汗国は短期間反乱を宣言
- 1877年-03:00|エトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セハイト総督「フランツ・ハッセン・ヘイ」(~1879年)
- 1877年-03:00|エトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国マッサラ総督「ウスマン・リフイク・ハシヤ」⇒「アラ・アルテ・イン・ハシヤ・シテイク」(2回目~1882年)
- 1877年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのワシ「ウエリク・フェリク・メフメト・ミュニル・ハシヤ」(~1879年9月)
- 1877年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ルンダ統治者(オムカマ)「タシソワ7世フワ・ワ・インハンコ2世」(~1920年没)
- 1877年-03:00|ウガンダ| |||<即位>トロ王国国王「Kyebambe3世 Rububi」(2期目~1879年)
- 1877年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「アフメト・ヘッテム・ハシヤ」(~1878年)

1880迄 (3454件)

- 1877年-02:00|レト/イギリス| |||<就任>ケプ 植民地政府ハ スラント 代理人代行「エミール・サミュエル・ロラン」(1回目~12.9)
- 1877年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>デリッ ール地区受託者「Ali Pasha al-Sharif」(~1879年)
- 1877年-02:00|モザンビーク| |||<即位>アンゴ シェ・スルタン国スルタン「スレイマン・イブン・ラジヤ」(~1884年)
- 1877年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Juan Garcia Torres」(~同年死去)⇒「Victoriano Lopez Pinto」(~1878年)
- 1877年-01:00|ホースニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ホースニア・ヘルツェゴビナ総督「メフメト・ナチフ・パシヤ」(~18770518)
- 1877年-01:00|コソボ| |||コソボ はコソボ・ウイライエティの一部(ノヴィ・パザールのサンジャク、ニシュのサンジャク[~1878年]、フラフとグシニェ周辺地域、ティムラ地域で構成~1912年)
- 1877年 00:00|トゴ| |||<就任>アガハナキン統治者(ホソウ)「ヤムリマージョ」(~1880年)
- 1877年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ総督「アントニオ・セルカ・ラル・ビエイラ」(~1879年)
- 1877年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ主任判事「Richard Mahoney Hickson」(~同年)
- 1877年1月-09:00|日本/イギリス| ||明治10年|英人ブランチ男爵、ヨット「日光号」で太平洋横断し横浜に到着
- 1877年1月-09:00|日本|青山学院|明治10年|<改称>救世学校⇒海岸女学校(築地明石町に移転)
- 1877年1月-09:00|日本|神戸大学|明治10年|<改称>兵庫県師範伝習所⇒神戸師範学校
- 1877年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Abdulhamid Ziyaeddin Pasha」(~6月)
- 1877年1月1日-09:00|日本| ||明治10年|タバコ課税の実施
- 1877年1月1日-09:00|日本|愛媛県|明治9年|<開業>道後松ヶ枝町遊廓
- 1877年1月1日-05:30|インド| |||<操業開始>エンブリス綿紡績工場[インドのナグプール]
- 1877年1月1日-05:30|インド| |||<即位>アジヤガール国サワイ・マハラジャ「ラング・ヨー・シン」(~19190607)
- 1877年1月1日-05:30|インド/イギリス| |||<即位>インド 皇帝「イギリスのヴィクトリア女王」58(~19010122)、インド 帝国が成立/以降、連合王国国王はインド 帝国皇帝を兼任
- 1877年1月1日-01:00|ドイツ| |||<開業>ドイツ「ライハバンク」
- 1877年1月1日-01:00|イタリヤ| |||<開始>イタリヤ、郵便貯金制度
- 1877年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨアキム・ヒャー」Lib(~12.31)
- 1877年1月1日 04:00|BES諸島| |||<就任>セント・ユースタティウス島副知事「Theophilus George Groebe」(1期目~1885年)
- 1877年1月2日 00:00|イギリス| |||<死去>「アルカサター・ベイン」発明家(生年1811年)世界で初めてファクシミリを発明
- 1877年1月3日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「メロザ・ルムの王子」》
- 1877年1月4日-09:00|日本| ||明治10年|地租を地価の3%から2.5%に引き下げ
- 1877年1月4日 06:00|アメリカ| |||<死去>「ユリアス・ヴァンダー・ビルト」実業家(生年1794年)鉄道王
- 1877年1月8日-09:00|日本|福島県福島市|明治10年|<死去>板倉勝顕(64歳)元陸奥福島藩主
- 1877年1月8日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍エンタープライズ 級砲艦「ライアン」(1375t, 海軍工廠ノフォーク)
- 1877年1月9日 00:00|カンボジア/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地が「シニア」管理者代行「ウィリアム・ハミルトン・パークレーン・ユニア」(~3.30)
- 1877年1月10日-01:00|ドイツ| |||ドイツで帝国議会選挙が行われ、社会主義労働者党が12議席を獲得して第4党になる
- 1877年1月11日-09:00|日本|東京大学|明治10年|<改称>工学校⇒工部大学校
- 1877年1月11日-09:00|日本|東京都千代田区|明治10年|内務省警保局を廃止し警視局を設置、警察権力を内務省に掌握させ東京警視庁を警視局東京警視本署とする;教部省廃止(事務は内務省へ)、内務省社寺局設置;工部省:鉄道寮⇒鉄道局、電信寮⇒電信局/改称:大蔵省:造幣寮⇒造幣局、駅通寮⇒駅通局/改称
- 1877年1月12日-09:00|日本|東京都千代田区|明治10年|<死去>永岡久茂(永岡敬次郎)(38歳)会津藩士. 思案橋事件で捕縛され、その時の負傷が元で鍛冶橋監獄で獄死
- 1877年1月14日-09:00|日本| ||明治10年|<大相撲>明治10年1月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西前1)梅ヶ谷, 8勝0敗2休/前場所初日から58連勝始まる
- 1877年1月15日-07:00|カンボジア| |||カンボジアの「ロム」王が近代化等に関する王令を発布
- 1877年1月15日-01:00|オーストリア/ハンガリー/ロシア| |||「ブダペスト」でロシアとオーストリアの間の秘密協定が成立する(「ブダペスト条約」)
- 1877年1月17日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第5号「裁判所/呼出ヲ受ケ無届ニ遅参不参入者ニ罰金ヲ科ス」;明治10年太政官布告第6号「建物書入質規則第二条ハ但書追加」
- 1877年1月18日-09:00|日本| ||明治10年|<廃止>正院、修史局
- 1877年1月19日-09:00|日本| ||明治10年|<新設>内務省「警視局」
- 1877年1月19日-09:00|日本|神戸大学|明治10年|<統合>豊岡県、飾磨県、兵庫県の各師範学校⇒<創設>神戸師範学校
- 1877年1月22日-09:00|日本| ||明治10年|<廃止>「太政官日誌」⇒「東京日日新聞」(太政官記事及公報)欄を設けて代行
- 1877年1月26日-09:00|日本| ||明治10年|<設置>太政官内「修史館」;<改称>「東京博物館」⇒「教育博物館」
- 1877年1月29日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第12号「預け金穀/訴訟二十年以前ニ係ルハ裁判セズ」;明治10年太政官布告第13号「府県庁布達/条規ニ違犯ル者ニ罰金ヲ科ス」
- 1877年1月29日-09:00|日本|高知大学|明治10年|<改称>「高知県師範学校」⇒「高知県高知師範学校」
- 1877年1月30日-09:00|韓国/日本| ||明治10年|政府、朝鮮と釜山港居留地借入約書の調印
- 1877年1月30日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|西郷隆盛が設立した私学校の生徒が、政府側の陸軍火薬庫を襲撃して兵器弾薬を奪う(西南戦争の発端)
- 1877年1月30日 06:00|アメリカ| |||アメリカのベル、受話機の特許を受く

1880迄 (3454件)

- 1877年1月31日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|鹿児島私学校生が海軍造船所襲撃
- 1877年2月-09:30|オーストラリア| |||ニューサウスウェールズ政府天文学者、H. C. ラッセルが新聞に毎日天気図を発行し始めた
- 1877年2月-09:00|日本| ||明治10年|<就任>14代横綱「境川浪右衛門」(~明治14年1月)
- 1877年2月-09:00|日本|奈良県奈良市|明治10年|<開催>「第3回奈良博覧会」(~5月)[開催地]奈良県[会場]東大寺大仏殿[主催]奈良博覧会社
- 1877年2月-09:00|日本|新潟大学|明治10年|<改称>「官立新潟師範学校」⇒「新潟学校師範科」
- 1877年2月-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第六国立銀行(福島;3.15,開業)
- 1877年2月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ツナ(トナ)・クリス(総督)「カウエジブル・ムフメド・サレイク・ハシヤ」(~5月)
- 1877年2月 06:00|アメリカ| |||アメリカ海軍シヤワ級フリゲイト「テラウエア」(3954t)ニューヨークにて波止場で沈没(引き揚げられ、解体のため売却)
- 1877年2月1日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>真報社(広島塩屋町)「広島新聞(第2)」(~3月、第12号で終刊)
- 1877年2月1日-09:00|日本|東京都|明治10年|<焼失>外務省(江戸時代に建てられた大名屋敷の福岡藩黒田邸)
- 1877年2月1日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治10年|<設立>第十国立銀行(山梨「興益社」を元に;4.15開業)
- 1877年2月2日-09:00|日本|東京都台東区|明治10年|<改称>文部省所管「東京博物館」⇒「教育博物館」(8月公開)
- 1877年2月3日-09:00|日本|金沢大学|明治10年|<廃止>福井・武生・大野の小学授業伝習所; <設立>福井に石川県第三師範学校と石川県第三女子師範学校
- 1877年2月3日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第八国立銀行(豊橋;3.20開業)
- 1877年2月3日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事代行「ジョージ・ウィリアム・デ・ボウス」(~18780202)
- 1877年2月4日-05:30|インド| |||<就任>アスマリク国ラジャ「マヘンドラ・テオ・サマント」(~19011102没)
- 1877年2月5日-05:30|インド| |||<就任>グランド・ワト・ジュニア部統治者(5才)「ハリハオ・ウイナヤクオ・タジ・サヒブ・パトリダン」(~1911年)
- 1877年2月5日-02:00|トルコ| |||<交替>オスマン帝国第246代大宰相「ミドハト・ハシヤ」スルタンのアブデェル・ハミト2世により罷免⇒「イブラヒム・エム・ハシヤ」就任(~18780111)
- 1877年2月5日-01:00|コソボ/アルバニア| |||<就任>コソボのクリス(総督)「ハル・リファット・ハシヤ」(~1878年6月)
- 1877年2月6日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治10年|<延伸>官設鉄道[京都-大宮通飯停車場]間0.81km,大宮通飯停車場廃止⇒[京都-神戸]開業
- 1877年2月7日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第15号「煙草税則第一則第一条但書中削除」
- 1877年2月7日-09:00|日本|東京都|明治10年|思案橋事件犯の高津仲三郎、竹村俊秀、井口慎次郎に斬罪
- 1877年2月8日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>アセンション島司令官「アンリー・ブーキエ・フィエフ」(~18781212)
- 1877年2月9日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第17号「保釈条例」
- 1877年2月9日-09:00|日本| ||明治10年|東京府下の警察事務を管轄している内務省警視局東京警視本署の大警視川路利良の名で、「出火消防現場心得」を府下各署、各分署に通達した/全部で12条あり、火災現場での持ち場(第1、2)、消火活動上の注意事項(第3、9)、指揮命令系統(第4、5、6、7)、他管内出張中の自管内での火災の際の進退(第8)、火災現場での注意事項と役割分担(第10、11)、隣接地での火災の際の役割(第12)などを具体的に述べたもので、これにより組織的に統制のとれた消防活動が行われるようになった
- 1877年2月10日-09:00|日本| ||明治10年|紙鳶(たこ)あげ、羽根つき、独楽(ま)あそび、交通妨害の理由で禁止に
- 1877年2月10日-09:00|日本|有斐閣|明治10年|<創業>有史閣(のちの有斐閣)、はじめ古書籍店(まもなく有斐閣と改称,明治17年,法律書出版開始,昭和19年戦時企業整備のため5書店を合同し<書肆有斐閣>と改称)
- 1877年2月13日-09:00|日本| ||明治10年|東京警視本署、風紀悪化の傾向防止のため、揚弓店取締規則制定
- 1877年2月13日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー総督「アレハンドロ・アリアス・サルガド・イ・トレス」(~18790201)
- 1877年2月14日-09:00|日本| ||明治10年|<領収>北海道開拓使「雷電丸」⇒日本海軍
- 1877年2月14日-04:00|ロシア| |||<初演>アレクサンドル・ボロヴィン「イ・ボロヴィン」《交響曲第2番短調Op.5》
- 1877年2月14日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍フリゲイト「トレント」(3900t,ブルックリン海軍工廠)
- 1877年2月15日-09:00|日本| ||明治10年|<交付>日本海軍木造汽船「沖鷹丸」⇒北海道開拓使(雷電丸との交換)
- 1877年2月15日-09:00|日本| ||明治10年|<創立>偕行社(陸軍将校組織)
- 1877年2月15日-09:00|日本| ||明治10年|<閉館>文部省所管「東京書籍館」
- 1877年2月15日-09:00|日本|鹿児島県|明治10年|西郷隆盛が1万3000の兵を率いて鹿児島を出発し、西南戦争が勃発
- 1877年2月17日-09:00|日本| ||明治10年|<改称>日本政府「雷電丸」⇒軍艦「雷電」(練習艦)
- 1877年2月18日-09:00|日本|東京都|明治10年|<解散>東京府「東京会議所」
- 1877年2月19日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第19号「大審院諸裁判所職制章程及控訴上告手続改正巡迴裁判規則判事職制通則削除」; 明治10年太政官布告第20号「毒薬劇薬取扱規則」施行; 明治10年太政官布告第21号「鹿児島県下暴徒征討ニ関スル無根ノ伝説等新聞紙ニ掲載ヲ許サズ」
- 1877年2月19日-09:00|日本| ||明治10年|<廃止>5官立英語学校(愛知・広島・長崎・新潟・宮城)ならびに3官立師範学校(愛知・広島・新潟)
- 1877年2月19日-09:00|日本/世界| ||明治10年|万国郵便連合に日本加盟
- 1877年2月19日-09:00|日本| ||明治10年|コレラ治療の医師沼野玄昌、肝取りと流言され、漁民数十人に惨殺される
- 1877年2月19日-09:00|日本|お茶の水女子大学|明治10年|<廃止>「官立東京女学校」、<設置>東京女子師範学校「英学科」生徒を編入
- 1877年2月19日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治10年|<創立>第九国立銀行(熊本;12.15開業)

1880迄 (3454件)

- 1877年2月19日 02:40|日本|熊本県熊本市|明治10年|午前11時40分から午後3時まで原因不明の出火で熊本城大小天守などの建物(同時に30日間の米、城下の民家約千軒)を焼失
- 1877年2月20日-09:00|日本|四国銀行|明治10年|<設立>第七国立銀行(高知;3.15開業)
- 1877年2月20日 06:00|アメリカ| ||<創設>インターナショナル・アソシエーション(最古のマイナーリーグ)
- 1877年2月20日 14:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<西南の役>別府晋介率いる加治木の諸隊が川尻に到着/深更、鎮台参謀長の榊山資紀中佐の発案で派遣された偵察隊が独立大隊に発砲し、西南戦争の実戦が始まった
- 1877年2月21日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第22号「変死/屍ヲ警察官吏検査スルに其致命ノ原由ヲ確知シ難キ時ハ解剖スル得」
- 1877年2月21日-09:00|日本|熊本県|明治10年|熊本県士族池辺吉十郎ら西郷軍に呼応して挙兵
- 1877年2月21日 04:30|ベネチア| ||<就任>ベネチア連邦大統領代理「Jacinto Gutierrez y Martinez de Aleman」PL(1期目~3.2)
- 1877年2月22日-09:00|日本|日本郵船|明治10年|<売却>日本政府「天草丸」(1854年、The Peninsular And Oriental Steam Navigation Co., London「Candia」C. J. Mare & Co., London建造進水→1874年、James Howden, Londonに売却→1875年、西南の役のため日本政府に用船され「天草丸」と改名)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「和歌浦丸」と改名
- 1877年2月22日-04:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<熊本城攻防戦>夜明け前、薩軍の熊本城攻撃は池上隊への鎮台側の砲撃から始まった。池上隊2000名は千葉城の堡壘や京町口の埋門を攻撃したが鎮台側の激しい砲撃で堡壘の一塁も抜けず、県庁付近に肉薄した桐野隊800名も撃退された。城の西端藤崎台の西の段山は城内へ突入する際の有力な橋頭保となりえた為、薩軍は篠原、村田、別府の各隊計3000名が殺到したが、鎮台側も精鋭の歩兵第13連隊第三大隊(大隊長:小川又次大尉)など強固な防御態勢を敷いて応戦
- 1877年2月22日 01:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<熊本城攻防戦>段山の戦いは10時ごろに薩軍が多大な犠牲を出しながら占領に成功。薩軍は段山の山頂から猛射を浴びせ鎮台側に多くの損害がでてしまい、11時頃には同地で指揮をしていた歩兵第13連隊長の与倉知実中佐が狙撃され、翌23日に死亡。それでも鎮台側は薩軍の猛攻に耐え、こうして熊本城攻撃の初日は薩軍は鎮台側の予想外の奮闘で城郭の一角にも取り付くことが出来なまま攻撃を終えた
- 1877年2月22日 06:00|カナダ| ||カナダ 総選挙で保守党が勝利
- 1877年2月22日 10:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<植木の戦い>午後7時、先行してきた村田隊が乃木率いる200名と交戦し撃退される。しかし後続の伊東隊が加わると薩軍の兵力は乃木らの倍近くとなり形勢が逆転。更に一部が乃木らの後方に回り込もうとしたことで退路が断たれる恐れが出たので、乃木は後方の千本桜まで後退する事を決断。しかし夜間の撤退戦は混乱を生み、この間伊東隊の岩切正九郎が歩兵第14連隊の軍旗を分捕する事態が起こる。こうして勝利を収めた薩軍だが、村田隊・伊東隊双方とも疲弊しており、乃木らを追撃することなく引き上げた
- 1877年2月23日-09:00|日本| ||明治10年|舶来麦酒等へ貼付之銘紙贋造禁止(内達)を達す
- 1877年2月23日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<西南の役>西郷軍の一部が北上、小倉第14連隊は敗北して後退
- 1877年2月23日-09:00|日本|熊本県玉名郡玉東町|明治10年|<木葉の戦い>6個小隊が小倉へ向けて出発。総勢1800名は2手に分かれて植木方面に進出するが、対する乃木の歩兵第14連隊は未だ兵力は完全に集結しておらず、手元には700名ほどしかなかった。木葉で展開する歩兵第14連隊は8時30分頃より優勢な薩軍と交戦を開始し午後1時頃までは互角に戦っていたが、薩軍右翼の1隊が遠く南回りに回り込んで第14連隊の右翼を脅かした事で連隊は劣勢となる。それでも夕刻まで持ちこたえた第14連隊は夜陰に乗じての撤退を開始するが、木葉山を大きく迂回してきた薩軍が側面を襲ったことで部隊は総崩れとなり、第14連隊は木葉川を越えて寺田山へと退却。この戦いで乃木は第三大隊長であった吉松秀枝少佐など多くの部下を失う/篠原や別府らの隊は、引き続き熊本城攻撃を続行
- 1877年2月23日-01:00|フランス| ||<初演>シャル・ガミュー・サン・サンス 《歌劇「銀の音色」》
- 1877年2月24日-09:00|日本|熊本県玉名郡玉東町|明治10年|<木葉の戦い>砲隊も加わり攻撃を続行するが戦果ははかばかしくなく、結局包囲を池上隊3000名で実施しつつ、桐野隊が山鹿方面、篠原隊が田原方面、村田隊別府隊が木留方面に進出し、南下してくる政府軍主力を待ち構える事となり、小倉への電撃作戦は失敗
- 1877年2月24日 00:00|イギリス| ||<開催>イギリスで初のクオカントリー
- 1877年2月25日-09:00|日本|日本郵船|明治10年|<改名>郵便汽船三菱会社「快順丸」⇒「浦門丸」
- 1877年2月25日-04:00|ロシア| ||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー 《幻想曲「ファンタスカ・ダ・リミニ」》
- 1877年2月26日-04:00|日本|熊本県玉名市|明治10年|<高瀬の戦い>午前5時、前衛の乃木隊は石貴を発ち、菊池川を渡河して薩軍右翼の越山隊を強襲。これに後衛の知識大尉指揮の1個中隊も加わった事で正午には越山隊は植木方面に敗走。乃木の第14連隊はこれを猛追し木葉を経て田原坂上まで進出、乃木は第2旅団長の三好に田原坂の確保を具申するが、三好はこれを認めず後退を指示。この判断が、後々征討軍に苦戦を強いることになる
- 1877年2月26日-01:00|フランス| ||<刊行>エミール・ゾラ「居酒屋」
- 1877年2月27日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第24号「御国内西洋形船舶普通信号等ノ事務内務省管理ト為ス」
- 1877年2月27日-05:45|ベルギー| ||<就任>ベルギー王国首相「ラデューブ・シムパルト・カール・ラッパ」(~18851122)
- 1877年2月27日-04:00|日本|熊本県玉名市|明治10年|<高瀬の戦い>未明、薩軍の右翼隊は山鹿から菊池川に沿って南下し、玉名付近の征討軍左翼を攻撃。中央隊は田原坂を越え、木葉で征討軍捜索隊と遭遇戦になり、左翼隊は吉次峠・原倉と進み、ここから右縦隊は高瀬橋に、左縦隊は伊倉・大浜を経て岩崎原に進出。第2旅団は捜索隊の報告と各地からの急報で初めて薩軍の大学来襲を知り、各地に増援隊を派遣するとともに三好旅団長自ら追

- 間に進出。両軍の戦いは激しく、三好少将が銃創を負ったほどの銃砲撃戦・接戦が行われた
- 1877年2月27日 01:00|日本|熊本県玉名市|明治10年|<高瀬の戦い>午前10時頃、桐野率いる右翼隊は迂回して石貫にある征討軍の背後連絡線を攻撃。この時に第2旅団本営にたまたま居合わせた野津道貫大佐(第1旅団長の野津鎮雄少将の実弟)は旅団幹部と謀って増援を送るとともに、稲荷山の確保を命じた。この山を占領した征討軍は何度も奪取を試みる薩軍右翼隊を蹴射して退けた。稲荷山は低丘陵であるが、この地域の要衝であったので、ここをめぐる争奪戦は西南戦争の天王山ともいわれている。薩軍左翼隊は菊池川下流より攻勢を強め、中央隊に属する西郷小兵衛の隊らと共同して邀撃してきた歩兵第8連隊と交戦し、これを退却させた
- 1877年2月27日 04:30|ベネズエラ| ||<就任>ベネズエラ大統領「フランシスコ・リナレス・アルカンタラ」(~18781130)
- 1877年2月27日 05:00|日本|熊本県玉名市|明治10年|<高瀬の戦い>午後2時頃、薩軍中央隊が弾薬の欠乏を受け、左右の隊に断りもなく突然撤退を開始。援軍を得た征討軍中央諸隊はこの機を逃さず反撃。西郷小兵衛・浅江直之進・相良吉之助三小隊も敵前渡河を強行したりして高瀬奪回を試みたが征討軍の増援に押され、西郷小兵衛は繁根木の堤防の上で胸に被弾し戦死
- 1877年2月27日 07:00|日本|熊本県玉名市|明治10年|<高瀬の戦い>午後4時ごろ、左翼隊は伊倉に退却、戦場に取り残された右翼隊は3方から攻撃を受ける羽目になり、更に南下してきた野津鎮雄少将の兵が右翼隊の右側面を衝いたので、桐野の率いる右翼隊も敵わず、江田方面に退いた。征討軍側も疲労で追撃する余裕は無かった
- 1877年2月28日-09:00|日本|熊本県阿蘇郡小国町|明治10年|西南戦争がきっかけで熊本の阿蘇郡小国郷で農民3000人の一揆が起こる
- 1877年2月28日-08:00|フィリピン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督「ドミンゴ・モリアス」(~18800320)
- 1877年2月28日-01:00|セルビア| ||セルビアが、オスマン朝との講和条約に調印
- 1877年2月28日-01:00|セルビア| ||セルビアがロシアの支援でオスマン帝国の大公国として自治権を獲得/しかしモンテネグロとボスニア・ヘルツェゴビナ問題は進展せず
- 1877年3月-09:30|オーストリア| ||<完成>ハートエウアンテン間の鉄道
- 1877年3月-09:00|日本|愛媛県|明治9年|<創立>「私立浩然病院」[愛媛県宇和郡平城村(御荘町)]
- 1877年3月-09:00|日本|新潟大学|明治9年|<合併>官立英語学校・官立師範学校・新潟県師範講習所・県立新潟学校 ⇒新潟学校/講習・百工化学・英語学科・師範学科の4学科
- 1877年3月-09:00|日本|古河機械金属|明治10年|古河市兵衛が足尾銅山(栃木県)を譲り受る
- 1877年3月-09:00|日本|北海道教育大学|明治10年|<設立>札幌に小学科授業伝習生徒教場
- 1877年3月 00:00|シラレネ/イギリス| ||<就任>イギリス王領シラレネ植民地総督代行「レインョ・ジョエル・ハギンズ」(~18770902)
- 1877年3月1日-09:00|日本|長野県飯山市|明治10年|<死去>本多助実(59歳)元信濃飯山藩主・知藩事
- 1877年3月2日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第25号「懲役人又犯罪条例外律例共改正」
- 1877年3月2日 04:30|ベネズエラ| ||<就任>ベネズエラ連邦大統領「Francisco de Paula Linares Alcantara」(~18781130死去)PL
- 1877年3月2日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍アメリカ海軍カトウク級スループ「セウアン」(3300t)
- 1877年3月3日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第26号「内国製ノ摺附木当分無税輸出ヲ許ス」
- 1877年3月3日 00:00|イギリス| ||<死去>ノサンプトン侯「チャールズ・ダグラス=コンプトン」
- 1877年3月3日 00:00|イギリス| ||<就任>ノサンプトン侯「ウィリアム・コンプトン」(~18970911死去)
- 1877年3月3日 06:00|アメリカ| ||アメリカで荒地法制定
- 1877年3月4日-09:00|日本|熊本県玉名郡玉東町|明治10年|<西南の役/田原坂・吉次峠の戦い>征討軍は田原方面を主攻、吉次方面を助攻とする全面攻勢を開始。田原方面は近衛歩兵第1連隊第一大隊(大隊長:山口素臣少佐)基幹の本隊が平原・大平を、歩兵第14連隊の1部からなる右翼隊が田原坂を攻めたが強固な薩軍の陣地に突破は失敗し、野津少将自ら樽木まで出向いて督戦するも、遊軍が二俣台地(田原丘陵と谷を隔てて向かい合っていた)を占領したに留まった/同じ頃、征討軍と薩軍は吉次峠でも交戦を開始。第2旅団参謀長の野津道貫大佐が自ら率いる支隊が払暁からの濃霧を利用して吉次峠北隣の半高山を占領しようとした。これを見た篠原、村田の両隊長は反撃に出て、両軍は激戦となった。この際近衛第1連隊第二大隊長の江田国道少佐は外套に銀装の太刀を帯びて指揮する篠原を視認し部下に狙撃させる。被弾した篠原は戦死するが、激怒した薩軍の猛攻で江田少佐は戦死し、野津支隊は原倉まで後退
- 1877年3月4日-04:00|ロシア| ||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー「白鳥の湖」Op. 20) モスク、ボリソイ劇場
- 1877年3月4日 06:00|アメリカ| ||<就任>アメリカ合衆国第19代大統領「ラザフォード・バーチャート・ヘイズ」共和党(~18810303)
- 1877年3月5日-09:00|日本|東京都文京区|明治10年|<開催>東京・湯島聖堂地内で内国勸業博覧会/日本初の博覧会
- 1877年3月5日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル王国第33代首相「アントニオ・セルゲイウ」(3期目~18780129)
- 1877年3月6日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第27号「外国人傭入ノ節心得方」
- 1877年3月6日-09:00|日本| ||明治10年|四国と本州を通じる海底電信、讃岐・備前間に開通
- 1877年3月8日-09:30|オーストリア| ||<就任>クイーンズランド植民地政府首相「ジョン・ダグラス」
- 1877年3月8日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第28号「船舶ヲ売買書入質トサントスル時ハ戸長ノ公証ヲ受ケム」
- 1877年3月8日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>綾瀬川山左エ門、大相撲の力士(生年:1835年)
- 1877年3月8日-09:00|日本|広島大学|明治10年|<開校>広島県師範学校(廃止された官立広島師範学校をひきつぎ公立師範学校と合併)
- 1877年3月8日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ガイアナ総督代行「ウィリアム・アレクサンダー・ジョージ・ヤング」(1回目~8.3)

1880迄 (3454件)

- 1877年3月9日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年海軍省甲布達第2号「造船所定雇職工規則中第二十一条取消」
- 1877年3月9日-09:00|日本|熊本県玉名郡玉東町|明治10年|<田原坂の戦い>官軍は田原坂防衛線突破のため、横平山の攻略にとりかかったが攻撃は地形を存分に利用した薩軍の激しい銃撃と抜刀白兵戦に手も足も出ず、征討軍は薩軍の抜刀白兵戦への早急な対処を迫られることになった
- 1877年3月9日-09:00|日本|国立科学博物館|明治10年|<移転>「教育博物館」[上野]
- 1877年3月10日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第29号「内国難破船及漂流物取扱規則第三十七条改正」
- 1877年3月10日-09:00|日本| ||明治10年|<発行>製紙分社、投書雑誌「穎才新誌」
- 1877年3月10日-09:00|日本|京都府京都市|明治10年|<開催>「第6回京都博覧会」(~6.22)[開催地]京都府[会場]仙洞洞院,大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]63,782人
- 1877年3月10日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「エフ・メイノダ・ステ・イミテール・デ・リゲ・オルギス」(6回目~5.31)
- 1877年3月10日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サテティアコ 総督代行「エドワード・エウ・アード・ラッシュワース」(~8.10没)
- 1877年3月11日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|明治10年|孫右衛門が横浜元町で輸入自転車の貸自転車業をはじめ/1時間25銭という高い賃料にもかかわらず、在庫の自転車が不足するほど繁盛
- 1877年3月11日-09:00|日本|国立国会図書館|明治10年|<廃止>東京書籍館
- 1877年3月12日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第30号「明治十年郵便規則中第六十一節改正」
- 1877年3月12日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>国沢新九郎.結核のため(31歳)土佐藩士、画家
- 1877年3月12日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領グワランツ 西州管理者代行「ジェイコブ・ダーク・ハーリー」(~6月)
- 1877年3月12日 06:00|ペリズ/イギリス| ||<就任>イギリス領ホヅェルス副総督(ジャマイカ総督に従属)「フレデリック・ハルグレイブ・ハーリー」(6.11まで代行~1882年)
- 1877年3月13日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第31号「控訴上告手続改正」付八年第百号民事上告者預け金/布告ハ消滅トス」
- 1877年3月13日-09:00|日本|熊本県熊本市中央区|明治10年|<西南の役>(12日~)段山をめぐる両軍の争奪戦/霧の中、砲撃・銃撃を混じえた激戦は、霧が晴れたときには双方の距離10数歩という接近戦であった/段山の背後に出た鎮台側が薩軍を敗走させた
- 1877年3月14日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<田原坂の戦い>征討軍は田原坂攻撃を開始し抜刀隊も投入される。抜刀隊はたちまち3つの堡壘を奪うが後続が続かなかったので薩軍の反撃を受け後退
- 1877年3月14日 03:00|アルゼンチン| ||<死去>アン・マヌエル・デ・ロサ,アルゼンチンの指導者(生年1793年)
- 1877年3月15日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<田原坂の戦い>征討軍は横平山攻撃に抜刀隊50名を加え猛攻をかける。彼らは薩軍の守備を破り、ついに横平山(那智山)を占領
- 1877年3月15日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治10年|<開催>勸業博覧会
- 1877年3月15日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治10年|<設立>海軍仮病院(大浦外人居留地)
- 1877年3月15日-01:00|イタリア| ||イタリアで、農業調査委員会設置法が制定される
- 1877年3月16日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍エンタープライズ 級砲艦「エンタープライズ」(1375t,ホーツマス海軍工廠)
- 1877年3月17日-09:00|日本|岡山県新見市|明治10年|<死去>関長克(38歳)元備中新見藩主・知藩事
- 1877年3月17日-09:00|日本|神奈川県横浜市中区|明治10年|横浜元町5丁目から出火し約200戸焼失
- 1877年3月17日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<田原坂の戦い>官軍は西側からと正面からの攻撃を開始。地形を生かした薩軍にあと一歩及ばず、田原坂の防衛線を破ることはできなかった/この間、3月4日からの征討軍の戦死者は約2,000名、負傷者も2,000名に上った
- 1877年3月17日-05:30|インド| ||<就任>ジュバル国統治者(王)「ハダム・チャンド」(~1898年11月没)
- 1877年3月18日-01:00|オーストリア/ロシア| ||ロシア暦3月6日|オーストリアとロシアが、ブタペスト協定追加条項を締結し、ロシアはバルカンに大スラブ 国家の建設を断念
- 1877年3月19日-09:00|日本|熊本県八代市|明治10年|<西南の役>高島鞆之助大佐(後に少将)率いる別働第2旅団(後に別働第1旅団に改称)が艦砲射撃に援護されて日奈久南方の州口および八代の背後に上陸し、薩軍を二面から攻撃して八代の占領に成功
- 1877年3月19日-02:00|トルコ| ||オスマン朝で上院・下院からなる議会議が開会
- 1877年3月20日-03:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<田原坂の戦い>早朝、征討軍は開戦以来、最大の兵力を投入。攻撃主力隊(19個中隊)は豪雨と霧に紛れながら、二俣から谷を越え、田原坂付近に接近。そして雨の中、二俣の横平山の砲兵陣地から田原坂一帯に未だかつてない砲撃を開始。砲撃が止むと同時に薩軍の出張本営七本の中に攻撃目標を絞り、一斉に突撃。薩軍は征討軍の猛砲撃と、断続的に降り注ぐ雨のため応戦が遅れ、七本では状況が把握できないまま攻撃を受けざるを得なかった/薩軍は防衛線を築いていながらも、突然の攻撃のため徐々に応戦できなくなった。また七本には昨夜ついたばかりの高鍋隊が守っており状況把握が出来ないまま征討軍の猛攻を受け敗走。これに貴島、佐土原、熊本の諸隊も連鎖反応を起こして潰走、植木方面に敗走した。こうして征討軍は激闘17日、田原坂を抜くことに成功/薩軍では副司令格であった一番大隊指揮長篠原国幹をはじめ、勇猛の士が次々と戦死/征討軍も3月20日の田原での戦死者だけで495名、4日からの田原方面での戦死者総数は2401名に上った。薩軍の戦死者数は不明ながら参加した30小隊(党薩隊除く)の小隊長のうち11名が命を落とした。こうして多大な戦死者を出しながらも、官軍は田原坂の戦いで薩軍の防衛線を破り、熊本鎮台救援の第一歩を着実に踏み出した
- 1877年3月21日 00:00|イギリス| ||<死去>10代リンズー伯「ジョージ・オーガスタス・フレデリック・アルマール・ハーティ」

1880迄 (3454件)

- 1877年3月21日 00:00|イギリス| |||<就任>11代リンズー伯「モンタギュー・ペレグリン・バートン」(~18990127死去)
- 1877年3月22日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「ヘンリー・パークス」無所属(~8.16)
- 1877年3月22日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第33号「伊豆七島裁判事務東京裁判所へ属ス」
- 1877年3月24日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>団団社、週刊の滑稽諷刺雑誌「団々珍聞」
- 1877年3月24日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォルター・バジョット、評論家・ジャーナリスト(生年1826年)
- 1877年3月25日 00:00|イギリス| |||イギリスで自転車による1時間25.6Km走破世界記録を樹立/自転車がスポーツとして注目され始める
- 1877年3月26日-09:00|日本|熊本県|明治10年|<西南の役>植木方面で銃声を聞くが征討軍が現れないので、後方攪乱部隊を3隊に分け、京町口・井芹村・本妙寺に出撃させた/これらの部隊は一時薩軍を走らせたものの、逆襲に遭い、撤退
- 1877年3月26日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<小川の戦い>黒田参軍の指揮のもと、衝背軍は左翼に別働第1旅団、中央に同第2旅団、右翼に同第3旅団に展開し進撃を開始、海上からは海軍艦船が援護、激戦の末、薩軍を撃退して小川を占領
- 1877年3月28日-09:30|オーストラリア| |||ロバート・サージェントとフレリック・ウルリが羊の毛刈機の特許を取得
- 1877年3月28日-09:00|日本|福岡県福岡市中央区|明治10年|福岡県士族越智彦四郎ら福岡城を襲撃するも城兵に敗北する
- 1877年3月29日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第35号「青森裁判所ヲ弘前に移シ弘前裁判所ト称ス」
- 1877年3月29日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>稲妻雷五郎(76歳、生年1802年)第7代横綱
- 1877年3月29日-09:00|日本|神奈川県小田原市|明治10年|<死去>大久保忠良、西南戦争で戦死(21歳)元相模小田原藩主・知藩事
- 1877年3月29日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治10年|<設置>第1分遣長崎軍団病院(大音寺)
- 1877年3月29日-05:00|ロシア| |||<就任>フェルディナンド・ニコラエヴィチ「Aleksandr Konstantinovich Abramov」(~18831116)
- 1877年3月30日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<松橋の戦い>衝背軍は3個旅団の並進を崩さず松橋へ進撃を開始、黒田は別働第3旅団に松橋東方の豊野村を占領させ、残り2個旅団で松橋を包囲、しかし薩軍は頑強に抵抗し、折からの大雨と、薩軍が故意に御船新田の水門を破壊して一帯に海水を流入させた事で攻め手は泥まみれとなり疲労は極限に達していた。それでも高島少将(昇進)は攻撃続行を主張、各隊は前進地点で露営
- 1877年3月30日-08:00|マレーシア| |||<就任>ヘンリー・ラッセル「トウアンク・ユス71世・シヤリフ・イン・ムザル・シャー・イブン・アル=マラム・スルタン・アブド・ラ・ムハンマド・シャー」(~18860511)
- 1877年3月30日-04:00|日本|熊本県菊池市|明治10年|<西南の役>明け方に近衛鎮台の2隊が二手に分かれて隈府に攻め入ってきたが薩軍はどうか官軍を敗退させることができた
- 1877年3月30日 00:00|ガンビア/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ガンビア管理者「ヴァレリウス・スキップトン・コールズ・ハー」(~18840303)
- 1877年3月31日-09:00|日本| ||明治10年|大分県中津で西郷軍に呼応した士族が反乱(失敗して西郷軍に合流)
- 1877年3月31日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<松橋の戦い>引き潮に乗じて別働第1旅団は進撃を再開し山背と本道の両面から松橋を攻撃、別働第1旅団は北豊崎から御船に進み、薩軍の右側を攻撃、これに耐えきれず、薩軍は川尻に後退し正午には松橋を制圧
- 1877年3月31日-09:00|日本|山口大学|明治10年|<改称>「山口県教員養成所」⇒「山口県師範学校」
- 1877年3月31日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地総督「ヘンリー・バートン・エドワード・フレール卿」(~18800915)
- 1877年3月31日-01:00|フランス| |||<死去>アントワヌ・オーギュスタン・クルーゼ、哲学者、数学者、経済学者(生年1801年)
- 1877年3月31日-01:00|オーストリア/フランス/ドイツ/イタリア/イギリス/ロシア/アメリカ| |||英・独・仏・米・露・伊・オーストリアがオスマン朝に関するロンドン議定書に調印
- 1877年4月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのワリス「アルファド・マフムド・アキフ・ハシム」(~1878年2月)
- 1877年4月-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>マケドニア・ワリス(総督)「アサフ・ハシム」(~1879年3月)
- 1877年4月1日-09:00|日本| ||明治7年|<開業>静岡～江尻間乗合馬車
- 1877年4月1日-09:00|日本|大分県大分市|明治10年|増田ら蜂起軍、大分県庁を襲撃するも失敗に終わる
- 1877年4月1日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<松橋の戦い>部隊は攻勢を続け宇土を占領、緑川を挟んで両軍は対峙
- 1877年4月1日-09:00|日本|熊本県下益城郡美里町|明治10年|<西南の役>別働第3旅団は甲佐に退却した薩軍を追撃して堅志田を占領
- 1877年4月1日-09:00|日本|熊本県玉名郡玉東町|明治10年|<西南の役>官軍主力は半高山、吉次峠を占領
- 1877年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「イノセント・ボネリ」
- 1877年4月1日-08:00|中国| ||清・光緒3年2月18日|宜昌・蕪湖・温州・北海の4港が開市になる
- 1877年4月2日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<西南の役>官軍は木留をも占領し、薩軍は辺田野に後退し、辺田野・木留の集落は炎上
- 1877年4月3日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督代行「エドワード・アーチボルト・ハーバート・アンソン」(3度目~10.29)
- 1877年4月3日-04:00|日本|熊本県上益城郡甲佐町|明治10年|<西南の役>早朝の霧に乗じた薩軍の急襲を別働第3旅団は激闘5時間の末、これを退け、追撃して緑川を越えて薩軍の側背を衝き、進んで甲佐を占領/薩軍は悉く御

1880迄 (3454件)

船に退却

- 1877年4月4日-09:00|日本|熊本県八代市|明治10年|<西南の役>人吉から球磨川に沿い、或いは舟で下って八代南郊に出た薩軍は、まず坂本村の官軍を攻撃して敗走させた
- 1877年4月4日 06:00|アメリカ| |||世界初の電話:アメリカ・ストンの大富豪チャールズ・ウィリアム宅に設置
- 1877年4月5日-09:00|日本|熊本県合志市|明治10年|<西南の役>第3旅団(三浦梧楼少将)は鳥巢に攻撃をしかけ、薩軍の平野隊と神宮司隊が守備している真ん中に攻め入った/虚を衝かれた両隊はたちまち敗走
- 1877年4月5日-01:00|フランス| |||<初演>シャル・フランソワ・グノー《歌劇「サン・マル(5人の軍神)」》
- 1877年4月6日-09:00|日本|熊本県八代市|明治10年|<西南の役>(5~)薩軍は勝利を収め、八代に迫った
- 1877年4月6日-09:00|日本|広島県福山市|明治10年|<改称>「勇鷹神社」(福山)⇒「阿部神社」(県社に列格)
- 1877年4月6日-01:00|ナイジェリア| |||<即位>ソト帝国スルタン「Mu'azu」(~18810926)
- 1877年4月6日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第17回全英オープン選手権優勝:ジミー・アンダーソン(スコットランド/160)
- 1877年4月6日 04:00|セントクリストファー・ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「アーサー・エリバンク・ハブロック」(~1879年)
- 1877年4月7日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>隆文社「新潟新聞」
- 1877年4月7日-09:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<西南の役>緑川左岸に進出している薩軍を別働第2旅団が別働第1および第4旅団の援護を得て右岸に押し返した/第2および第4旅団は木原山急襲の薩軍を挟撃して川尻に敗走させた
- 1877年4月8日-09:00|日本|熊本県熊本市北区|明治10年|<西南の役>辺田野方面は激戦となり、官軍は荻迫の柿木台場を占領
- 1877年4月8日-09:00|日本|熊本県八代市|明治10年|<西南の役>(7~)薩軍は官軍の反撃によって八代に至ることができず、再び坂本付近まで押し戻された
- 1877年4月9日-09:00|日本|熊本県菊池市|明治10年|<西南の役>薩軍は再び隈府に攻め入った官軍を撃退したが、弾丸・武器の不足によりこれ以上の戦闘を不可能と考え、赤星坂へ撤退
- 1877年4月10日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治10年|<開催>「愛媛博覧会」(~5.29)[開催地]愛媛県[会場]松山公園
- 1877年4月10日-09:00|日本|大阪府堺市|明治10年|<開催>「堺博覧会」(~6.8)[開催地]大阪府[会場]南宗寺[主催]堺博物館
- 1877年4月10日-09:00|日本|福井県福井市|明治10年|<仮設>「第三女子師範学校」[佐佳枝町]
- 1877年4月10日 06:00|アメリカ| |||アメリカ再建の終了、連邦軍が南部からひきあげる
- 1877年4月11日-09:00|日本|熊本県八代市|明治10年|<西南の役>再び薩軍は八代を攻撃/疲労もあって官軍が一時的敗退
- 1877年4月12日-09:00|日本|熊本県宇土市|明治10年|<西南の役>別働第2旅団は新川堤で薩軍の猛射に阻まれ、第4旅団も進撃を阻止された
- 1877年4月12日-09:00|日本|熊本県上益城郡御船町|明治10年|<西南の役/御船の戦い>別働第1旅団は宮地を発して緑川を渡り、薩軍を攻撃/薩軍は敗戦続きに氣勢揚がらず、民家に放火して退却/負傷を推して二本木本営から人力車で駆けつけた永山弥一郎は酒樽に腰掛け、敗走する薩軍兵士を叱咤激励していたが、挽回不能と見て、民家を買取り、火を放ち、従容として切腹/御船は官軍に占領された
- 1877年4月12日-09:00|日本|東京大学|明治10年|<合併>「開成学校」「東京医学校」⇒「東京大学」;<併合改称>「東京英語学校」「東京開成学校普通科」⇒「東京大学予備門」
- 1877年4月12日-09:00|日本|長崎大学|明治10年|<改称>長崎公立師範学校(長崎市勝山小学校内)⇒崎陽師範学校;<設立>佐賀師範学校
- 1877年4月12日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||南アフリカ、1852年のサント・ルガー協定に違反して、イギリスがトランスヴァール共和国を併合⇒イギリス植民地トランスヴァール準州(公式にはトランスヴァール州とも呼ばれている)、南アフリカ共和国はイギリスの領土と宣言される
- 1877年4月12日 04:00|パラグアイ| |||<就任>パラグアイ共和国大統領代行「セルヒオ・ウリアルテ・ガルシア・デル・パロ」(~18781125)
- 1877年4月12日 06:00|アメリカ| |||野球のキャッチャーマスクが初めて使用された(アメリカ)
- 1877年4月13日-09:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<西南の役>別働第2旅団と別働第4旅団は連繫しながら川尻を目指して進撃した。別働第4旅団の一部が学科新田を攻撃して薩軍を牽制している間に、主力が緑川を渡り、薩軍と激戦しながら川尻へと進んだ。川尻に向かった別働第4旅団と第2旅団は両面から薩軍を攻撃して退け、遂に川尻を占領
- 1877年4月13日-04:00|ロシア| |||チェェンでアリバック・バグ・アルタモフ・サンダクスキーの下での反乱(~11.27)
- 1877年4月14日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第36号「明治十年郵便規則中外国郵便税表改正」
- 1877年4月14日-09:00|日本|熊本県熊本市|明治10年|<西南の役>征討衝背軍が川尻を占領、熊本城下に入る/薩軍、熊本城包囲を解き撤退
- 1877年4月15日-09:00|日本|三重県津市|明治10年|<開園>「三重県公園」[津の藤堂家山荘跡](一偕楽公園)
- 1877年4月16日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||ロシア暦4月4日|ブカレスト協定が結ばれ、ロシア軍のルーマニア領内通過をめぐる交渉が妥結
- 1877年4月17日-09:00|日本|熊本県上益城郡御船町|明治10年|<西南の役>別働第3旅団は熊本から引き返して来て御船を攻めた/坂元の諸隊はこの攻撃は退けたが、それに続く別働第1・第2・第3旅団の西・南・東からの包囲攻撃には堪えきれず、御船から敗れ去った
- 1877年4月19日-09:00|日本|熊本県熊本市東区|明治10年|<城東会戦>熊本鎮台・別働第5旅団・別働第2旅団は連繫

- して健軍地区の延岡隊を攻めた。延岡隊は京塚を守って健闘したが、弾薬が尽きたので後線に退き、替わって河野主一郎の中隊が逆襲して征討軍を撃破。征討軍は別働第1旅団からの援軍を得たが、苦戦をいかんともしなかった。征討軍はさらに援軍を得てやっとのことで薩軍の2塁を奪ったが、薩軍優位のまま日没になった
- 1877年4月19日-01:00|フランス| |||<初演>ジャン・ロベール・フランケト《歌劇「コルマの鐘」》
- 1877年4月20日-09:00|日本|あいちフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第十一国立銀行(名古屋;7.18開業)
- 1877年4月20日-09:00|日本|熊本県菊池郡大津町|明治10年|<城東会戦>黎明、第1・第2・第3旅団は連繫して大津街道に進撃したが、野村の諸隊は奮戦してこれを防ぎ、そのまま日没に及んだ
- 1877年4月20日-09:00|日本|熊本県熊本市東区|明治10年|<城東会戦>別働第5旅団の主力は保田窪地区の薩軍を攻め、午後3時には猛烈な火力を集中して薩軍の先陣を突破して後陣に迫ったが、中島が指揮する薩軍の逆襲で左翼部隊が総崩れとなった。腹背に攻撃を受けた征討軍は漸く包囲を脱して後退
- 1877年4月21日-09:00|日本|同志社女子大学|明治10年|<開設>「同志社分校女紅場」
- 1877年4月22日-08:00|中国/イギリス| |||<就任>香港第8代総督「サー・ジョン・ポープ・ハネシー」(~18830330)
- 1877年4月23日-09:00|日本|佐賀県唐津市|明治10年|<死去>小笠原長国(66歳)元肥前唐津藩主・知藩事
- 1877年4月24日-09:00|日本| ||明治10年|<交付>日本海軍運輸船「千早号」⇒工部省
- 1877年4月24日-04:00|ロシア/トルコ| ||ロシア暦4月12日|ロシアがオスマン帝国に宣戦を布告し、第3次露土戦争が勃発
- 1877年4月25日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第37号「生糸取締規則ヲ廢シ向後製造ノ生糸繭真綿出穀山繭等ハ捺印セム」;明治10年太政官布告第38号「建物売買譲渡規則中第一条ハ但書追加」;明治10年太政官布告第39号「蚕種原紙規則第二条中改正」
- 1877年4月26日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第40号「謀殺祖父母父母律第二項中改正」
- 1877年4月26日-08:00|中国| ||清・光緒3年3月13日|西征の清軍が、トルファン、トクソを攻略
- 1877年4月27日-01:00|フランス| |||<初演>ジュール・エミール・フレデリック・マッセ《歌劇「ラールの王」》
- 1877年4月27日 06:00|アメリカ| |||エジソンは炭素送話器の特許をとり、生産を開始
- 1877年4月28日-09:00|日本| ||明治10年|<改題>「愛媛新聞」⇒「海南新聞」
- 1877年4月30日-09:00|日本| ||明治10年|<廃止>「生糸取締規則」生糸売買鑑札撤廃; <公布>明治10年太政官布告第41号「明治八年第四百四十六号僧尼トナル者管庁ハ可届出ノ布告廢止」
- 1877年5月-09:00|日本|東京都新宿区|明治10年|この頃、内藤新宿の勸農局で、ジャム・桃李の砂糖漬けを製造販売
- 1877年5月-02:00|ブルガリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ツタ(ドナウ)・ワリス(総督)「カイザリ・アフメド・パシャ」(~1878年)
- 1877年5月 04:00|ゲレタ/イギリス| |||<就任>ゲレタ 副総督代行「ウィリアム・マッキューエン」(3回目)⇒副総督「ロバート・ウィリアム・ハーレー」(1回目~1878年8月)
- 1877年5月1日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<人吉攻防戦>別働第2旅団は7つの街道から球磨盆地に攻め入る作戦を遂行。まず前衛隊は球磨川北岸沿いを通る球磨川道、南岸沿いを通る佐敷道から攻めたが、街道は大部隊が通るには困難な地形であったために官軍は各地で薩軍に敗退。しかし、人員・物資の不足により、薩軍は当初の勢いがなくなった
- 1877年5月1日-09:00|日本|NIPPON EXPRESSホールディングス|明治10年|<就航>内国通運、隅田川に蒸気船「通運丸」(深川扇橋-栃木県生井村間)
- 1877年5月1日-09:00|日本|日本赤十字|明治10年|<創立>佐野常民「博愛社」/政府軍・西郷軍の別なく西南戦争の負傷者を看護
- 1877年5月1日 04:00|アルバ/シント・マルテン/キュラソー/BES諸島| |||<就任>オランダ 領アンティル総督「Hendrik Bernardus Kip」(~18801001)
- 1877年5月1日-08:00|中国| ||清の光緒3年3月18日|<死去>ヤークブ・ベクが、コルムで自殺(脳溢血との記述もある)/58歳(誕生1820年)東トルキスタンの支配者でイスラム教徒反乱の指導者
- 1877年5月3日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第42号「春蚕同時ニ飼立ノ夏蚕種製造ノ者最寄組合ニ附属セム」
- 1877年5月4日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<大口の戦い>征討軍は別働第3旅団の3個大隊を水俣から大口攻略のため派遣。この部隊は途中、小河内・山野などで少数の薩軍を撃退しながら大口の北西・山野まで進攻
- 1877年5月5日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<鹿児島、西南戦争の兵火>(~7日)西郷軍が鹿児島奪還を目指し進軍、市街戦が起き上町を中心に大火となり3日間燃え続けた/西口線でおよそ1352戸、西南口でおよそ1019戸、北口でおよそ3470戸、合計およそ5846戸が焼失
- 1877年5月5日-09:00|日本|熊本県宇城市|明治10年|<大口の戦い>雷撃隊と征討軍は牛尾川付近で交戦したが、雷撃隊は敗れ、征討軍は大口に迫った
- 1877年5月5日-09:00|日本|国立国会図書館|明治10年|<開館>東京府「東京府書籍館」(文部省所管「東京書籍館」を受継ぎ)
- 1877年5月6日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<紫原の戦い>薩軍は西方に迂回して甲突川を越えて急襲しようとしたが、渡河中に猛烈な射撃を受けて大敗し、伊敷へ後退
- 1877年5月6日-09:00|日本|熊本県葦北郡芦北町|明治10年|<西南の役>官軍が材木村の鵬翼隊四番中隊を攻めたので、薩軍はこれを迎え撃ち、いったんは佐敷に退却させることに成功
- 1877年5月7日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<人吉攻防戦>(3日~)宮藤の戦いで、征討軍は中村中佐の活躍によりこれらを敗走させることに成功
- 1877年5月8日-09:00|日本|熊本県水俣市|明治10年|<西南の役>辺見は雷撃隊を中心に正義隊・干城隊・熊本隊・協同隊などの諸隊を加えて朝から久木野本道に大挙して攻撃を加え、官軍を撃退/押されて官軍は深渡瀬まで下がった
- 1877年5月8日-09:00|日本|東京大学|明治10年|<開館>東京大学大学院理学系研究科附属植物園(小石川植物園/

1880迄 (3454件)

東京都)【日本最古】

- 1877年5月8日-09:00|日本|福井県|明治10年|<開院>「公立福井病院」隣接の旧女学校校舎を病舎にあて(1878. 8新築再開院)
- 1877年5月9日-09:00|日本|熊本県葦北郡芦北町|明治10年|<西南の役>一ノ瀬の鵬翼隊三番中隊は官軍の襲来に苦戦しつつも材木村まで到達し、材木村の薩軍と共に壘の奪還に成功/官軍は再び材木村の鵬翼隊六番中隊を攻め激戦が行われたが、薩軍は敗れ、長園村に退いた/このとき淵辺が本営より干城隊八番中隊左半隊を応援に超越したので、官軍を挟み撃ち攻撃で翻弄し、壘を取り戻した
- 1877年5月9日-09:00|日本|熊本県葦北郡芦北町|明治10年|<西南の役>鵬翼隊二・五番中隊、干城隊四番中隊、その他諸隊は佐敷方面湯ノ浦の官軍を攻めたが失敗し大野に退却
- 1877年5月9日-09:00|日本|熊本県水俣市|明治10年|<西南の役>久木野・山野を手に入れた辺見は自ら隊を率いて官軍に激しい攻撃を加えて撃退し、肥薩境を越えて追撃
- 1877年5月9日-02:00|ルーマニア/トルコ| ||ルーマニア、オスマン帝国から独立宣言
- 1877年5月9日 25:05|リ| ||リ北部沖、伊予地震(マグニチュード 8. 6) 死者2000人、日本・三陸に遠地津波の記録(房総半島で死者を含む被害)
- 1877年5月10日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「ウィリアム・ローリー・モリソン」(~8. 10)
- 1877年5月11日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>塩川文麟(70歳) 画家
- 1877年5月11日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治10年|「西海新聞」主筆の西道仙が独立し、酒屋町に新たに西海社を創立。「長崎自由新聞」を発刊/1部1銭5厘(1か月40銭)
- 1877年5月11日 00:00|イギリス| ||<死去>シュルズベリー伯・ウォーターウオード 伯・タルボット伯「チャールズ・ジョン・チェットウインド」=タルボット
- 1877年5月11日 00:00|イギリス| ||<就任>シュルズベリー伯・ウォーターウオード 伯・タルボット伯「チャールズ・ヘンリー・ジョン・チェットウインド」=タルボット 先代の息子(~19210507死去)
- 1877年5月12日-09:00|日本|大分県佐伯市|明治10年|<西南の役>先発の4個中隊が延岡を出発して重岡に入って占領
- 1877年5月13日-09:00|日本|大分県竹田市|明治10年|<茶屋の辻の戦い、竹田の戦い>西郷軍の野村忍介が率いる奇兵隊2000名は、大分への進撃を図り、竹田の町を占領/竹田には1800人の西郷軍が集結し、新たに竹田の士族からなる堀田政一以下の報国隊600人も加わった。西郷軍は、竹田を拠点に鶴崎方面へも出沒/これを知った政府軍は、熊本から阿蘇山の外輪山を越える100kmの道に兵を送り、壮絶な白兵戦となった。主戦場となったのは、岡城の支城であった鬼ヶ城、茶屋の辻と呼ばれた辺りになる
- 1877年5月14日-09:00|日本|熊本県球磨郡五木村|明治10年|<西南戦争>(10日~)平瀬の戦いで、征討軍は中村中佐の活躍によりこれを敗走させることに成功
- 1877年5月14日-01:00|日本| ||明治10年|<死去>8:00、参議兼内務卿大久保利通が暗殺される/47歳/元加賀藩出身者6名が滅多斬り/自首し斬罪
- 1877年5月15日-09:00|日本|東京都|明治10年|<開校>東京府「府立産婆教授所」
- 1877年5月16日-09:00|日本|大分県佐伯市|明治10年|<西南の役>官軍が一ノ瀬の鵬翼隊五番中隊を攻撃/薩軍は苦戦したが、大野からきた干城隊三番中隊の参戦により官軍を退ける
- 1877年5月16日-01:00|フランス| ||<解任>フランス第三共和政第29代首相「ジュール・シモン」/マクマホン大統領(69)が辞任強要(フランス、5月16日の政変)
- 1877年5月16日 00:00|イギリス| ||<死去>5代オーケー伯「トマス・フィッツモリス」
- 1877年5月16日 00:00|イギリス| ||<就任>6代オーケー伯「ジョージ・フィッツモリス」(~18891021死去)
- 1877年5月17日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南戦争>(14日~)征討軍によって薩軍の硝石製造所・糧秣倉庫等が焼却された
- 1877年5月17日-01:00|フランス| ||<就任>フランス第三共和政第30代首相「アルベール・ド・ブロイ」王党派(第3次~18771123)
- 1877年5月18日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第44号「明治四年六月商人買取品代金滞云々並六年第二百三十九号人民相互ノ証書ニ実印ヲ用ユ可キヲ布告廃止」
- 1877年5月18日-04:00|シヨージア/トルコ| ||スラム(スラム)がオスマン帝国に占領された(~9. 2)
- 1877年5月18日-03:00|スーダン/エジプト| ||<就任>エジプト領スーダン総督「チャールズ・ジョージ・ゴードン・パシャ」(1回目~1879年12月)
- 1877年5月18日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「アマト・マザール・パシャ」(~18780712)
- 1877年5月19日-09:00|日本|熊本県|明治10年|<西南の役>別働第2旅団(山田少将)は人吉に通じる諸道の一つ万江越道の要衝水無・大河内の薩軍を攻撃/迎え撃った薩軍の常山隊七番中隊はいったん鹿沢村に退く
- 1877年5月19日-04:00|ロシア/トルコ| ||ロシア軍がオスマン軍のアルダハンを占領
- 1877年5月20日-09:00|日本|熊本県阿蘇郡南阿蘇村|明治10年|<西南の役>別働第3旅団が久木野に進入/大野本営にいた淵辺は干城隊番三・四・八番中隊に命令して久木野の官軍を襲撃させ、退却させることに成功/この戦いは薩軍の圧勝となり、銃器や弾薬、その他の物品を多く得た
- 1877年5月20日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第十五国立銀行(東京、21日開業)
- 1877年5月20日-05:30|インド| ||<就任>マドラス統治者(ターケル・サーヒブ)「キダール・シン」(~19020713没)
- 1877年5月21日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ケラム・ベリー」(~18800305)
- 1877年5月21日-09:00|日本| ||明治10年|築地の陸軍省で気球の放揚試験を実施、馬場新八が搭乗し、100mほど浮揚
- 1877年5月21日-09:00|日本|熊本県|明治10年|<西南の役>薩軍の常山隊七番中隊は水無・大河内の官軍に反撃したが、勝敗を決することができず、再び鹿沢村に引き揚げた

1880迄 (3454件)

- 1877年5月21日-09:00|日本|熊本県山鹿市|明治10年|<西南の役>中村中佐は横野方面の薩軍を襲撃し、岩野村に敗走させた
- 1877年5月21日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治10年|<開業>第十三国立銀行(大阪)
- 1877年5月21日-02:00|ルーマニア|ルーマニアがオスマン帝国に宣戦布告し独立を宣言、露土戦争に参加
- 1877年5月22日-09:00|日本|鹿児島県始良市|明治10年|<西南の役>川村参軍は第4旅団1個大隊半・別働第3旅団2個中隊を右翼、別働第1旅団2個大隊半を左翼として軍艦4隻と小舟に分乗させ、艦砲で援護しながら重富に上陸させて薩軍の後方を攻撃させた/また、軍艦龍驤を加治木沖に回航して薩軍の増援を阻止させた/左右翼隊の健闘でさしもの薩軍も遂に重富から撃退され、次いで磯付近で包囲攻撃を受け、北方に敗走
- 1877年5月22日-09:00|日本|熊本県阿蘇郡南阿蘇村|明治10年|<西南の役>淵辺群平は干城隊八番中隊を久木野に寄越し干城隊三・四番中隊と合流し、官軍を退けた
- 1877年5月22日-09:00|日本|宮崎県児湯郡西米良村|明治10年|<西南の役>干城隊二番中隊は前面の官軍を襲撃し敗走させた/さらに追撃しようとしたが弾薬が不足していたこともあり、米良の西八重に退却
- 1877年5月23日-09:00|日本|大分県豊後大野市|明治10年|<西南の役>別働第三旅団が倉谷・高平・大野方面の薩軍を次々と破り、大野に進入/鵬翼隊五番中隊左小隊、干城隊二番中隊は防戦したが、敗れて石河内に退却/淵辺群平は、壘を奪還するため夜襲を命じたが、官軍の反撃で退却/一瀬の鵬翼隊三番中隊の壘にも官軍が襲来し三番中隊は左小隊を鎌瀬、右小隊を植柘に分けて退いた。その後舞床に退いた/鵬翼隊二番中隊は岩棚より程角道三方塚に退却
- 1877年5月23日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>中島・貴島・相良は官軍に反撃し、行進隊8個中隊と奇兵隊2箇中隊で雀宮・桂山を襲撃し、多数の銃器・弾薬を獲得
- 1877年5月23日-09:00|日本|熊本県水俣市|明治10年|<西南の役>官軍は矢筈岳へ進攻し、圧倒的物量と兵力で薩軍を攻撃/熊本隊は奮戦したが、支えきれずに撤退
- 1877年5月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>薩軍に包囲されて市街の一画を占領している状態の別働第1旅団は武村を攻撃したが敗退
- 1877年5月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>別働第1旅団と別働第3旅団は大挙攻勢に出、涙橋付近で交戦する一方、軍艦に分乗した兵が背後を衝き、薩軍を敗走させた。逆襲した薩軍と壮烈な白兵戦が展開されたが、夕方、暴風雨になり、これに乗じた官軍の猛攻に弾薬乏しくなった薩軍は耐えきれず、吉野に退却/紫原方面の戦闘は鹿児島方面で行われた最大の激戦で、官軍211名、薩軍66名の死傷者を出した
- 1877年5月24日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍ポトマック級フリゲイト「ポトマック」(1726t) E. Stannard&Co. に
- 1877年5月25日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>第4旅団は下田街道を南下し、坂元・催馬楽・桂山から別府隊・振武隊十番中隊の背後を攻撃し、吉野へ追い落とした
- 1877年5月25日-09:00|日本|熊本県球磨郡五木村|明治10年|<西南の役>(12日~)別働第2旅団は五木荘道の頭治・竹の原、球磨川道の神瀬、種山道、仰烏帽子岳など多くの要地を陥落させた
- 1877年5月25日-09:00|日本|宮崎県西臼杵郡高千穂町|明治10年|<西南の役>第1旅団は折原を攻撃し、遂に三田井を占領
- 1877年5月26日-09:00|日本|鹿児島県出水市|明治10年|<西南の役>未明、佐々友房・深野一三らが指揮する約60名の攻撃隊が矢筈岳の官軍を急襲したが、官軍の銃撃の前に後退し、熊本隊はやむなく大口へと後退
- 1877年5月26日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>第4旅団が鳥越道と桂山の二方から前進攻撃したところ、薩軍は抵抗することなく川上地方へ退却
- 1877年5月26日-09:00|日本|京都府京都市|明治10年|<死去>木戸孝允(桂小五郎)。脳病および胃病のため(45歳、天保4(1833)0626生)長州藩士、参議・文部卿・内務卿
- 1877年5月26日-09:00|日本|福井大学|明治10年|<改称>「小浜小学授業法伝習所」⇒「小浜伝習学校」
- 1877年5月26日-08:00|台湾| ||清・光緒3年4月14日|丁日昌の要請で、台湾に電線が設置される
- 1877年5月28日-09:00|日本|熊本県球磨郡山江村|明治10年|<西南の役>今度は官軍が鹿沢村の常山隊七番中隊を攻撃/常山隊は必死に防戦したが、弾薬が尽きたために内山田に退く
- 1877年5月28日-04:00|日本|大分県豊後大野市|明治10年|<西南の役>明け方、官軍が舞床の鵬翼隊三番中隊を襲ったが防戦に成功
- 1877年5月28日 03:00|サント・エル島/ミクロン島/フランス| ||<就任>サント・エル島・ミクロン島司令官「Antoine Etienne Guien」(~18791125)
- 1877年5月29日-09:00|日本|大分県竹田市|明治10年|<西南の役>政府軍は総攻撃を行った。要害堅固な山城に立て籠もった西郷軍であったが、装備に勝る政府軍に押されて臼杵方面に敗走、ここでも田原坂の戦いと同じ様に政府軍の勝利となった/死者の数は1,000名、焼失した家屋は1,500軒とも言われる大きな犠牲を出した/竹田の町は、武家屋敷通りなどは残ったものの、城下町の大部分が焼失
- 1877年5月29日-09:00|日本|大分県豊後大野市|明治10年|<西南の役>官軍は再び鵬翼隊三番中隊右半隊を攻撃/薩軍は壘を捨てて後退したが、鵬翼隊三番中隊左小隊の活躍により壘を取り返し、銃器・弾薬を得た/夜、三方塚の鵬翼隊二番中隊も襲われ、弾薬不足のため背進/舞床の薩軍は鶴越に退いた
- 1877年5月29日-09:00|日本|大分県豊後高田市|明治10年|<西南の役>西郷軍、豊後竹田から敗走
- 1877年5月29日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南の役>第4旅団が薩軍の不意を衝いて花倉山と鳥越坂から突入したが、これも撃退された
- 1877年5月30日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<人吉攻防戦>山田少将が指揮する別働第2旅団の主力部隊は、五家荘道・照岳道などから人吉に向かって進撃。これと戦った薩軍は各地で敗退し、五家荘道の要地である江代も陥落。また神瀬口の河野主一郎、大野口の淵辺は共に人吉にいたが、薩軍が敗績し、人吉が危機に陥ったことを聞き、球磨川に架かる鳳凰橋に向かったが、官軍の勢いは止められず、橋を燃やしてこれを防ごうとした

1880迄 (3454件)

- 淵辺は銃撃を受けて重傷を負い、吉田に後送されたが亡くなった
- 1877年5月30日-04:00|日本|大分県豊後大野市|明治10年|<西南の役>夜明け頃、官軍が程角左翼の壘を攻撃し、薩軍は敗北/官軍は勢いに乗じて干城隊八番中隊・振武隊十六番小隊を攻めた/薩軍各隊は大いに苦戦し、次々と兵を原田村に引き揚げた
- 1877年5月31日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリトノス・コモントウロス」(7回目~6.7)
- 1877年6月-09:00|日本|福井大学|明治10年|小浜伝習学校在学生徒を大津師範学校に移し、現職の教員40余人を入学させて伝習学科とする
- 1877年6月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス「Kucuk Omer Fevzi Pasha」(~1878.2)
- 1877年6月1日-09:00|日本| ||明治10年|ドイツの紹介により<万国郵便聯合創立に係る条約>に加入(6月19日公布。これにより日本領土における郵便権を確保)。
- 1877年6月1日-09:00|日本|大分県臼杵市|明治10年|<西南の役>奇兵隊は臼杵を占領
- 1877年6月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治10年|<開設>「南地五花街女紅場」[大阪]
- 1877年6月1日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<西南の役>三洲盤踞の根拠地となっていた人吉が陥落し、薩軍本隊は大畑へ退いた
- 1877年6月1日-09:00|日本|広島県|明治10年|<開院>県立広島病院
- 1877年6月1日-09:00|日本|宮崎県西臼杵郡高千穂町|明治10年|<西南の役>薩軍は日影川の線を占領し、官軍進撃を阻止
- 1877年6月1日-09:00|日本|山口県|明治10年|山口県士族町田梅之進、拳兵計画が発覚して県官巡查と戦い破れる
- 1877年6月1日 06:00|アメリカ| |||<設立>アメリカ芸術家協会
- 1877年6月1日 06:00|アメリカ| |||ヘイズ大統領、メキシコとテキサスの境界周辺の山賊に対して軍を派遣
- 1877年6月2日-09:00|日本| ||明治10年|<大相撲>明治10年6月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西小結)梅ヶ谷、7勝0敗1分2休/18連勝
- 1877年6月3日-09:00|日本|熊本県葦北郡芦北町|明治10年|<西南の役>官軍の二方面からの大関山への総攻撃が始まった/官軍の正面隊は原生林に放火しながら進撃/球磨川方面からは別働隊が攻撃/雷撃隊はこれらを激しく邀撃したが、二面攻撃に耐え切れず、大口方面へ後退/これを追って官軍は久木野前線の数火点および大関山・国見山を占領
- 1877年6月3日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<人吉攻防戦>戦いは三日間続き薩軍本隊は大畑などで大口方面の雷撃隊と組んで戦線を構築し、征討軍のさらなる南下を防ごうとしたが失敗し、堀切峠を越えて、飯野へと退却。人吉は征討軍の占領するところとなった
- 1877年6月3日-01:00|オランダ| |||<死去>ゾフィー・フォン・グェルテンベルク、オランダ王ウィルム3世の妃(生年1818年)
- 1877年6月3日-01:00|オーストリア| |||<死去>ルートヴィヒ・フォン・ケッヘル/77歳(誕生:18000114)。オーストリアの音楽学者で、モーツァルトの作品目録を作成した
- 1877年6月4日-09:00|日本|熊本県人吉市|明治10年|<西南の役>薩軍人吉隊隊長犬童治成らが部下と共に別働第2旅団本部に降伏し、その後も本隊に残された部隊が官軍の勧告を受け入れ次々と降伏
- 1877年6月4日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ファン・ブエンデ・イ・ノリエガ」(~18780618)
- 1877年6月6日-09:00|日本|愛媛県|明治10年|<仮移転>愛媛県庁[大林寺]松山城三の丸に丸亀連隊松山分営設置のため
- 1877年6月6日-09:00|日本|大阪府大阪市北区|明治10年|<移転>「集成学校・進級学校・師範学校」[中之島3丁目に新築]
- 1877年6月7日-09:00|日本|熊本県水俣市|明治10年|<西南の役>久木野が陥落し、薩軍は小河内方面に退却
- 1877年6月7日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「コンスタンティノス・ミハイル・カリス」(5回目~9.14)
- 1877年6月8日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治10年|<西南の役>官軍は薩軍を追撃して小河内を占領
- 1877年6月9日-09:00|日本|東京都中央区|明治10年|新橋から京橋までの銀座煉瓦街完成。欧米都市風となり、世間では銀座といわず<レガ>と呼んだという
- 1877年6月10日-09:00|日本|大分県臼杵市|明治10年|<西南の役>野津道貫大佐の指揮する4個大隊の攻撃と軍艦3隻による艦砲射撃により奇兵隊は敗退
- 1877年6月10日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||ロシア暦4月4日|ドブルジヤをロシアが占領(~18781008)
- 1877年6月13日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>桜水舎、日本初の工業雑誌「中外工業新報」6月13日号
- 1877年6月13日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治10年|<西南の役>山野が陥落/官軍は大口へ迫り、人吉を占領した別働第2旅団は飯野・加久藤・吉田越地区進出のため、大畑の薩軍本隊に攻撃を加えた/結果、雷撃隊と薩軍本隊との連絡が絶たれた
- 1877年6月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン大公「ルートヴィヒ3世」(生年1806年)
- 1877年6月13日-01:00|ドイツ| |||<即位>ヘッセン大公「ルートヴィヒ4世」ルートヴィヒ3世の甥(~18920313死去)
- 1877年6月16日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>初代真清水蔵六(56歳)陶工
- 1877年6月16日-09:00|日本|兵庫県姫路市|明治10年|<死去>建部政世(24歳)元播磨林田藩主・知藩事
- 1877年6月17日 06:00|アメリカ| |||<ブラッセルズ戦争>ロスバッドの戦いで米陸軍が金鉱占領のためス族らインディアン襲撃するも敗退
- 1877年6月18日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治10年|<西南の役>官軍の山野への進撃に対し、雷撃隊を率いる辺見は砲弾の雨の中、必死に官軍を食い止めていた/北東の人吉からの別働第2旅団の攻撃、北西の山野からの別働第3旅団の攻撃により、郡山・坊主石山が別働第2旅団の手に落ちた/高熊山に籠もっていた熊本隊は完全に包囲された
- 1877年6月19日-09:00|日本| ||明治10年|アメリカの動物学者モース博士が列車の中から大森貝塚(東京都)を発見

1880迄 (3454件)

- 1877年6月20日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治10年|<大口の戦い>征討軍は高熊山の熊本隊と雷撃隊が占領する大口に攻撃を加えた。この時の戦闘では塹壕に拠る白兵戦が繰り広げられた。しかし、人吉・郡山・坊主石山からの三方攻撃の中、寄せ集め兵士の士気の激減と敵軍の圧倒的な物量で、さしもの辺見指揮下の部隊も敗れ、遂に大口は陥落
- 1877年6月20日-01:00|フランス| ||<竣工>フランス海軍装甲艦「フリートランド」(リアン造船所)
- 1877年6月21日-09:00|日本|宮崎県えびの市|明治10年|<西南戦争>(19日~)河野主一郎は破竹隊を率いて別働第2旅団が守る飯野を猛撃して奪取をはかったが、官軍は善戦し、陥とすことはできなかった
- 1877年6月22日 06:00|アメリカ| ||<エイズ>、大統領令で連邦職員の政治活動への関与を禁止
- 1877年6月23日-09:00|日本|鹿児島県薩摩郡さつま町|明治10年|大口南部の薩軍を退けた川路少将率いる別働第3旅団は宮之城に入り川内川の対岸および下流の薩軍を攻撃/一斉突撃を受けた薩軍は激戦の末、遂に鹿児島街道に向かって退却
- 1877年6月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南戦争>別働第3旅団の部隊は催馬楽に至り、次々に薩軍の堡壘を落として、夕方には悉く鹿児島に入り、鹿児島周辺の薩軍を撃退
- 1877年6月24日 04:00|プエルトリコ| ||<就任>プエルトリコ総督兼総司令官「イル候Manuel de la Serna y Hernandez」(~18780426死去)
- 1877年6月25日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治10年|<大口の戦い>雷撃隊は大口の南に布陣し、曾木、菱刈にて官軍と戦ったが、覆水盆に返ることなく、相良率いる行進隊と中島率いる振武隊と合流し、南へと後退していった
- 1877年6月25日-01:00|フランス| ||フランスで、マクマホン大統領が下院を解散
- 1877年6月26日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>山田方谷、病没(73歳)儒学者、陽明学者
- 1877年6月26日-03:00|サウジアラビア| ||<死去>メッカ・シャリフ「アブドゥッラー・ハッシャ・ブン・ムハンマド」
- 1877年6月26日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>D. R. McGregor, Leith「Duna」(1871年, Aitken&Manse l&Co., Glasgow建造進水)⇒郵便三菱会社(東京)、「住/江丸」と改名
- 1877年6月26日 05:00|エカトル| ||エカトルでコパケツ山が噴火(死者千名)
- 1877年6月27日-09:00|日本| ||明治10年|神奈川県芝生村山田与七がケトモジから香水・香油等採取法を発明
- 1877年6月29日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<鹿児島、西南戦争の兵火>呉服町も兵火で焼け、つごう9778戸が灰となり、鹿児島は壊滅
- 1877年6月29日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|<発行>(小判)小判切手(1877年)額面:6銭、10銭、12銭、15銭
- 1877年6月29日 00:00|世界/日本| ||明治10年|日本が万国郵便連合に加盟
- 1877年6月30日-09:00|日本| ||明治10年|鎌倉郡鍛冶ヶ谷村小岩井善六郎が生蠟の晒方を発明
- 1877年6月30日-09:00|日本| ||明治10年|初の交通規制が制定され、泥酔者の馬車運転が禁止される
- 1877年7月-09:00|日本| ||明治10年|<設立>第十四国立銀行(松本;8.5開業)
- 1877年7月-09:00|日本| ||明治10年|滝沢安之助、愛国石油削井を設立し、新潟県萩平で機械掘開始
- 1877年7月1日-09:00|日本| ||明治10年|<施行>明治10年太政官布告第1号「地租減額/詔書」(地租3%から2.5%に軽減)、明治10年太政官布告第2号「地租減額=付民費賦課定限」(各1.4公布)
- 1877年7月1日-09:00|日本|広島大学|明治10年|<移転>「広島県師範学校」[広島竹屋町(元官立広島師範学校新築校舎)]
- 1877年7月2日-09:00|日本| ||明治10年|渋沢栄一第一国立銀行頭取ら、択善会を組織(東京銀行典会所の前身)
- 1877年7月2日-09:00|日本|ほくほくフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第十二国立銀行(金沢;8.26開業)
- 1877年7月2日-01:00|イタリア| ||イタリアでコッピノ法制定、義務教育がはじまる
- 1877年7月4日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第48号「西洋形船船長運転手機関手/免状並海技卒業免状アル者等陸軍徴兵免除」
- 1877年7月5日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>G. Bell, London「Gadshill」(1875年, C. Mitchell&Co., Newcastle Upon Tyne建造進水)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「熊本丸」と改名
- 1877年7月6日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|明治10年|<西南戦争>官軍は国分に進軍して背後より踊の薩軍を攻撃し、薩軍は大窪に退却/薩軍は襲山の桂坂・妻屋坂を守備すべく、干城隊七番中隊などを向かわせ、その他の諸隊に築壘の準備をさせたが、踊街道から官軍が進出しているとの情報を受け、正義隊四番・雷撃隊十三番・干城隊一番隊・雷撃隊八番隊がこれを防いだ/官軍は襲山街道からも攻めてきたため、干城隊三・七番隊、雷撃隊六番隊がこれを防いだ、決着はつかず両軍は兵を退いた
- 1877年7月7日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第50号「諸証書/姓名ハ自書シ実印ヲ押サム」公布;明治10年太政官布告第51号「硝石輸出禁止」
- 1877年7月7日-02:00|ブルガリア/ロシア| ||<就任>ロシア配備軍ブルガリア総司令官「ヴェルキー・クニヤース・ニコライ・ニコラエヴィチ・ロマノフ」(~18780521)
- 1877年7月7日-02:00|ブルガリア/ロシア| ||ブルガリアをロシアが占領(~18790808)
- 1877年7月8日-09:00|日本|鹿児島県鹿屋市|明治10年|<西南戦争>振武隊は百引に到着し三方面から官軍を抜刀戦術で襲撃/官軍は二川・高隈方面まで敗走(薩軍の死傷者が8名ほどであったのに対し、官軍の死傷者は95名ほどで、その上大砲2門・小銃48挺・弾薬など多数の軍需品を奪われた)
- 1877年7月8日-09:00|日本|広島大学|明治10年|<開学>「広島県医学校」[広島水主町]/同所に広島県仮病院を設置
- 1877年7月9日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第52号「外国へ渡航/日本形商船ハ国旗ヲ掲揚セシム」
- 1877年7月9日 00:00|イギリス| ||<開催>テニスの世界選手権・ウィンブルドン大会の第1回大会(~7.19)
- 1877年7月9日 06:00|アメリカ| ||<設立>ベル電話会社

1880迄 (3454件)

- 1877年7月10日-09:00|日本|鹿児島県薩摩川内市|明治10年|第3旅団が敷根・清水の両方面から永迫に進撃し、行進隊十二番中隊を攻撃したので、行進隊は通山へ退却/一方、敷根・上段を守備していた行進隊八番中隊は、官軍の攻撃を受け、福原山へと退却/行進隊八・十二番中隊は上段を奪回しようと官軍を攻撃するが、破ることができず、通山へ退却
- 1877年7月11日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>11代千宗室(68歳) 茶道家、裏千家家元
- 1877年7月11日-09:00|日本|鹿児島県志布志市|明治10年|<西南戦争>大崎に屯集しているとの情報を得た先発の奇兵隊は官軍を奇襲したが、二番隊長が戦死するほどの苦戦をし、勝敗が決しないうちに蓬原・井俣村に退却/後発の振武隊は進路を誤り、荒佐の官軍と遭遇し、半日に渡り交戦したが、結局大崎付近まで退却
- 1877年7月11日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治10年|<設立>第二十国立銀行(東京;8.10開業)
- 1877年7月11日-09:00|日本|宮崎県小林市|明治10年|破竹隊は小林を守備していたが、官軍第2旅団によって占領された
- 1877年7月11日-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「フェイン・ブン・ムハンマド」(~18800315)
- 1877年7月11日-01:00|ナイジェリア/イギリス| ||<就任>ビアラ湾・ベニ湾英国領事代理「ヘンリー・Chaster Tait」(~1878年)
- 1877年7月12日-09:00|日本|鹿児島県曾於郡大崎町|明治10年|蓬原・井俣村の奇兵隊は大崎に進撃したが、荒佐野の官軍はこの動きを察知し、大崎にて両軍が激突/当初、戦況は薩軍にとって不利な方向に傾いていたが、大崎の振武隊と合流し、官軍に快勝
- 1877年7月12日-09:00|日本|鹿児島県曾於市|明治10年|<西南戦争>辺見は赤坂の官軍の牙城を攻撃するため、雷撃隊を率いて財部の大河内に進撃/薩軍は左右翼に分かれて山道から官軍を奇襲し優位に立ったが、雨が降り進退の自由を失い、あと一步のところで兵を引き揚げた
- 1877年7月13日-02:00|ブルガリア/ロシア| ||<就任>ロシア配備軍ブルガリア司令官付民政長官「クニャース・ウジ・ミル・アレクサンドロフ・イ・チェルスキー」(~18780303)
- 1877年7月15日-04:00|日本|鹿児島県霧島市|明治10年|<西南戦争>早朝、行進隊・奇兵隊は嘉例川街道を攻撃したが、官軍の守りは堅く、加治木隊指揮長越山休蔵が重傷を受けたため、攻撃を中止し通山へ退却
- 1877年7月15日 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<就任>ギニア総督代理「Alexandre Eugene Bouet」(1期目~9.29)
- 1877年7月16日-09:00|日本| ||明治10年|烏森の温泉でシャワーを始める
- 1877年7月17日-09:00|日本| ||明治10年|東大教授E. S. モースが臨海実験所を江の島(神奈川県)に創設(~8月29日)
- 1877年7月17日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|明治10年|<西南戦争>薩軍は堀与八郎を全軍指揮長とし雷撃隊・鵬翼隊・破竹隊などの9個中隊を正面・左右翼・霞権現攻撃軍(鵬翼三番隊)の4つに分け、深夜に植松を発ち、正面・左右翼軍は曉霧に乗じて高原の官軍を奇襲し、あと一步のところで奪還するところであったが、官軍の増援と弾薬の不足により兵を引き揚げた/一方、霞権現へ向かった鵬翼三番隊は奇襲に成功し、銃器・弾薬等の軍需品を得た
- 1877年7月17日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|明治10年|<西南戦争>辺見は奇兵隊を率いてきた別府九郎と本営の伝令使としてやってきた河野主一郎らと合流し、荒磯野の官軍を攻撃するため兵を本道・左右翼に分け、夜明けに高野を出発/辺見らの諸隊は官軍に対し善戦するが、河野が本営に帰還するよう命じられたことによる右翼の指揮官の不在と官軍の援軍の参戦、弾薬の不足により、雷撃隊は高野へ、奇兵隊は庄内へとそれぞれ退却
- 1877年7月18日-05:30|インド | ||<就任>ヒンドゥスタン国ラジャ「ジャラル・マトルラジ・ジャガデブ」(~19060210没)
- 1877年7月19日 00:00|イギリス | ||<テニス>第1回ウィンブルドン選手権男子シングルス優勝「スペンサー・ゴア」
- 1877年7月20日-09:30|オーストラリア/イギリス | ||<就任>クイーンズランド植民地総督「アーサー・ケネディ」(~18830502)
- 1877年7月21日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|明治10年|<西南戦争>薩軍は再び高原を攻撃するため官軍を攻撃するが、官軍の強固な守備と援隊の投入により、高原奪還は果たせず、庄内へと退却
- 1877年7月21日-01:00|チュニジア | ||<就任>サイロン朝大法官「モハメド・ハズナール」無所属(1期目~18780824)
- 1877年7月22日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南戦争>別働第2旅団が野尻を占領
- 1877年7月23日-09:00|日本|鹿児島県曾於市|明治10年|干城隊指揮長阿多荘五郎は高山天包に進撃するも敗れ、越の尾に退却/官軍が岩川に進出したとの報を受け、高野から雷撃隊八・七番隊・干城隊七番隊を率いてきた辺見と合流し、辺見・相良を指揮長として岩川へ進撃し、官軍と交戦し16時間にも及ぶ砲撃・銃撃戦であったが、結局、薩軍は官軍を破れず、末吉へと退却
- 1877年7月23日-05:30|インド | ||<就任>パガル国ラジャ「モティ・シン」(~18771012)
- 1877年7月23日 06:00|アメリカ | ||サン・フランシスコで中国人排斥暴動発生
- 1877年7月24日-09:00|日本| ||明治10年|小児の種痘、どこの医者でも自由
- 1877年7月24日-09:00|日本|宮崎県都城市|明治10年|<宮崎の戦い>第3旅団は河野主一郎らの破竹隊を攻撃し、庄内を陥落させ、別働第1旅団は末吉を攻撃し、別働第2旅団は財部を攻撃/ついに第3旅団・別働第3旅団・第4旅団が都城を陥落させた
- 1877年7月24日-05:30|インド/ポルトガル | ||<就任>ポルトガル領インド総督代行「統治評議会:エラス・デ・オルネラス・エ・ウァスコンセロス(1回目)/ジョアン・カターノ・ダ・シルバ・カンポス(1回目)/フランスコ・ザビエル・ソアレス・ダ・ウエイガ(1回目)/エドゥアルド・アウグスト・ピント・バルセマン(1回目)」(~11.12)
- 1877年7月25日-09:00|日本|宮崎県都城市|明治10年|薩軍の中島や貴島らの振武隊、行進隊、熊本隊が山之口で防戦したが、第3旅団に敗北
- 1877年7月26日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>The Peninsular And Oriental Steam Navigation Co., London「Massilia」(1860年, Samuda Bros., London建造進水)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「愛宕丸」と改名、庫船として使用(1896年, Butterfield And Swire, に売却、芝罘で庫船として使用)
- 1877年7月27日-09:00|日本|宮崎県日南市|明治10年|<宮崎の戦い>別働第3旅団が鉄肥を攻めて陥落させ、多くの鉄肥隊員、薩兵が投降

1880迄 (3454件)

- 1877年7月28日-09:00|日本|宮崎県小林市|明治10年|<宮崎の戦い>今別府に集まった第2旅団は別働第2旅団と協力して紙屋に攻撃を仕掛け、辺見・中島・河野主一郎・相良長良らの防戦により官軍は苦しい戦いになったが、やっとの思いでこれを抜いた
- 1877年7月28日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>H. F. Swan, London「Lotus」(1873年, G. Mitchell & Co., Newcastle Upon Tyne建造進水)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「高千穂丸」と改名
- 1877年7月29日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|明治10年|<宮崎の戦い>官軍は兵を返して高岡に向かう途中で赤坂の險を破り、高岡を占領/干城隊指揮長阿多荘五郎は越の尾を攻めてきた官軍にまたも敗退
- 1877年7月29日 00:00|カナリア諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王領カナリア諸島総司令官「Florentino Meliton Catalan Lopez de Prado」(~18780124死去)
- 1877年7月30日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|明治10年|<宮崎の戦い>第3旅団・第4旅団・別働第3旅団は宮崎市の大淀河畔に迫った/同時に穆佐・宮鶴・倉岡を占領
- 1877年7月30日 06:00|アメリカ| ||エジソンが蓄音機の特許を取得
- 1877年7月31日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|明治10年|<宮崎の戦い>第3旅団・第4旅団・別働第3旅団は大雨で水嵩の増した大淀川を一気に渡って宮崎市街へ攻め込んだ。薩軍は増水のため官軍による渡河はないと油断していたので、抵抗できず、宮崎から撤退、官軍は宮崎を占領/次いで第2旅団により佐土原も占領
- 1877年8月-09:00|日本| ||明治10年|コレラ、上海より長崎や横浜に伝播、10月にかけて各地に蔓延/この年の死亡者8027人
- 1877年8月-01:00|ロシア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国トリポリリアニア・ワリス(総督)「メフメト・フェラッテ・イン・パシヤ」(~同年)
- 1877年8月-01:00|スペイン/キューバ| ||ラシバ・リヤス軍は大量の脱走者を出し事実上崩壊/オレグンではリパ・ノ・サンチェスに率いられる黒人兵が独立軍政府に対し反乱
- 1877年8月 00:00|セネガル| ||<就任>ファタ・ト・ロ統治者統治者(アルマ・ミ)「ママト・ウ・アマト・ウ・リ」(~10月)
- 1877年8月1日-09:00|日本|NIPPON EXPRESSホールディングス|明治10年|<開設>内国通運[木下-銚子]間航路
- 1877年8月2日-09:00|日本|鳥取県|明治10年|<死去>池田慶徳(41歳)元因幡島取藩主・知藩事
- 1877年8月2日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|明治10年|<宮崎の戦い>新撰旅団が他の旅団と共に高鍋を攻め、陥落させた
- 1877年8月3日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>「大阪新聞」(編集宇田川文海)
- 1877年8月3日-09:00|日本| ||明治10年|巡查へ暑気払い薬代として10銭ずつ下付(ホーナスの初め)
- 1877年8月3日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>Jenkins & Co. Ltd., London「Montgomeryshire」(1873年, London & Glasgow Engineering and Iron Shipbuilding Co Ltd., Glasgow建造進水)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「秋津洲丸」と改名
- 1877年8月3日 04:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領ギニア総督「コーネリアス・ヘントリック・カートライト」(1回目~18790406)
- 1877年8月4日-09:00|日本|宮崎県東臼杵郡美郷町|明治10年|<美々津の戦い>別働第2旅団は鬼神野本道坪屋付近に迂回して間道を通り、渡川を守備していた宮崎新募隊の背後を攻撃/薩軍は渡川、鬼神野から退く
- 1877年8月5日 04:00|マルティニーク/フランス| ||<就任>フランス領マルティニーク知事「Marie Bruno Ferdinand Grasset」(~1879年)
- 1877年8月7日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>3代桜田治助(76歳)歌舞伎作者
- 1877年8月7日-09:00|日本|宮崎県日向市|明治10年|<西南戦争>奇兵隊三・六・十四番隊は別働第2旅団の攻撃を受け、山蔭から敗退/官軍はそのまま薩軍を追撃し、富高新町に突入/薩軍はこれを抑えきれず、美々津から退いて門川に向かった
- 1877年8月8日-09:00|日本|十六銀行|明治10年|<設立>第十六国立銀行(岐阜松屋町11番地, 10.1開業)
- 1877年8月9日-09:30|オーストラリア| ||<就任>タスマニア植民地政府首相「フリップ・フィッシュ」(~18780305)
- 1877年8月9日-02:00|フィンランド| ||フィンランドが金本位制採用
- 1877年8月10日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ロバート・マイケル・ラファン卿」(1期目~18800610)
- 1877年8月10日 04:00|サン・バルテルミー/スウェーデン/フランス| ||スウェーデンはセント・バルトロミュー島をフランスに売却することに同意
- 1877年8月10日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領ジャマイカ総督代行「ジェームズ・ロバート・マン」(~23日)
- 1877年8月11日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第56号「北海道諸産物出港税則並各港船改所規則改正」
- 1877年8月11日 06:00|アメリカ| ||アメリカの天文学者アサ・ホルが、火星の衛星を発見/後に「ダイモス」と名付けた
- 1877年8月14日-09:00|日本|宮崎県延岡市|明治10年|<西南戦争>官軍別働第2旅団が延岡に突入し、薩軍は延岡市街の中瀬川の橋を取り除き抵抗したが、やがて第3・4旅団、新撰旅団も突入してきたため敗退
- 1877年8月15日-09:00|日本|宮崎県延岡市|明治10年|<和田越の戦い>和田越の戦闘が行われる/薩軍は長尾山から熊田に敗退
- 1877年8月16日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第58号「禄制廃止ニ付律例中収禄並功俸賞禄追奪ハ廢セラレタルトス」
- 1877年8月16日-09:00|日本|鹿児島県|明治10年|<西南戦争>西郷軍に解散令が出され、半数が降伏する
- 1877年8月16日-09:00|日本|群馬県富岡市|明治10年|<死去>前田利裕(55歳)元上野七日市藩主・知藩事
- 1877年8月17日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ニューサウスウェールズ植民地政府首相「ジョン・ロバートソン」無所属(~18771217)
- 1877年8月17日 06:00|アメリカ| ||アメリカの天文学者アサ・ホル、火星の衛星「フォボス」発見
- 1877年8月18日-09:00|日本|東京都台東区|明治10年|<開館>教育博物館(→東京教育博物館→東京科学博物館→国立科学博物館)
- 1877年8月18日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|<発行>(小判)小判切手(1877年)額面:20銭、30銭、45銭
- 1877年8月18日-04:00|日本|宮崎県延岡市|明治10年|<西南戦争>早朝、西郷軍は可愛岳の頂上に到着/西郷軍は迎

1880迄 (3454件)

- 見を先鋒に一斉に下山攻撃を開始/官軍の第1・第2旅団は総崩れとなり、退却/西郷軍は、その地にあった官軍の食糧、弾薬3万発、砲一門を奪うことに成功/可愛岳を突破した西郷軍は鹿川分遣隊を粉砕
- 1877年8月19日-09:00|日本|宮崎県延岡市|明治10年|<西南戦争>西郷軍は祝子川の包圍第2線を破る
- 1877年8月21日-09:00|日本|東京都台東区|明治10年|<開催>「第1回内国勸業博覧会」(~11.30)[開催地]東京都[会場]上野公園[主催]日本政府[入場者]454,168人/人工池に日本初の噴水が造られた
- 1877年8月24日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントピア 総督「アンソニー・マスケレイブ」卿(1回目~18830420)
- 1877年8月25日 10:00|ポリネシア/フランス| |||<就任>フランス領地アニア司令官兼ツエ諸島共和国弁務官「Joseph Henri Brunet-Millet」(~9.15)
- 1877年8月26日-09:00|日本|広島県|明治10年|御調・沼隈・山県・佐伯・沼田の各郡に強風の被害続出し、堤防・道路・橋梁損壊、福山では234戸焼失
- 1877年8月27日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>「コレラ病予防法心得」わが国で初めての消毒法も別冊で規定/実際は不完全ではあるが規則の形をとっている/第1条において、検疫委員の選定、外国領事との協議、第2条で船舶検疫の方法や権限を決めている。次の第3条では、臨時の避病院(現在の感染症病棟・同専門病院)の設置、第4条で避病院の条件を定め、第15条では流行状況によつての同病専用の仮病院の設置を地方長官(現・道府県知事)に命じている。患者の隔離と表示は第4条の避病院の条件の中で決めているが、第5条で快癒患者の外出、全快患者への退院の許可制、第6条の死亡患者の埋葬許可規定など厳しい。また第16条では、家屋や船舶の入口への「コレラ伝染病あり」の表示義務があり、第12条で患者家族の他家への避難と外出禁止など、家族がらみの隔離対策もあり相当厳しい内容である。また消毒については、第18条でその方法を定め、環境整備としては、第14条で流行時の祭礼など人々の集合の禁止、第17条で吐瀉物の処置方法の徹底、第19条で流行時及びそのおそれのあるときの便所、芥溜(ゴミ捨て場)、下水、溝渠(下水溝)の清潔保持、第20条で病菌に汚染された物品の授与などの禁止、第21条で患者、汚染物、第22条で死体のむやみな移動禁止、第23条で内国船舶での患者発生の場合の措置など、すべて具体的でわかりやすい内容となっている。ちなみに第7条から第11条までは、医師や関係行政機関に対する指示で、報告(第7条)、届け出(第8条)、統計(第9条)、死亡数告示(第10条)、集団発生時の措置(第11条)
- 1877年8月27日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第三十八国立銀行(姫路;18781120開業)
- 1877年8月28日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>8代都太夫一中(30歳)浄瑠璃太夫
- 1877年8月28日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<西南戦争>薩軍は小林平地からの加治木進出を図るが、西郷軍の南進を阻止すべく鹿児島湾、重富に上陸した第2旅団にこれを阻まれ、失敗に終わった
- 1877年8月29日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第60号「建物売買譲渡規則第二条中削除」
- 1877年8月29日-04:00|ロシア| |||<就任>ダゲスタンとチェチンのイマム「ムハンマド・バグ・アス＝ガリ」(ダゲスタンのみ~11.3没)
- 1877年8月29日-04:00|ロシア| |||アヴァール地方ダゲスタンで反乱(~11.3)
- 1877年8月31日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第61号「美濃飛騨両国裁判事務7名古屋裁判所へ属す」
- 1877年9月-09:00|日本| ||明治10年|<改称>「井筒屋」⇒「中北商会」
- 1877年9月-09:00|日本| ||明治10年|木製外輪汽船「明凌丸」(126G/T)坂本忠五郎(攝津・兵庫)が建造進水(→1881年、偕行会社(兵庫)の所有)
- 1877年9月-09:00|日本| ||明治10年|木製汽船「太安丸」(103G/T)兵庫で建造進水(→1881年、撫養会社(徳島)の所有)
- 1877年9月-09:00|日本|同志社女子大学|明治10年|<改称>「同志社分校女紅場」⇒「同志社女学校」
- 1877年9月-09:00|日本|ふくおかフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第十七国立銀行(福岡;11.1開業)
- 1877年9月-09:00|日本|明治学院大学|明治10年|<設立>日本基督一致教会が教育機関として「東京一致神学校」[東京築地明石町]
- 1877年9月 06:00|アメリカ| |||<設立>「アメリカ電話会社」(ウェスタンユニオン電信会社が電話事業に参入)
- 1877年9月1日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第62号「凶歳租税延納規則」
- 1877年9月1日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<城山籠城戦>西郷軍は官軍の守備隊を撃破して鹿児島に潜入/鹿児島入りすると、辺見は私学校を守っていた200名の官軍を排除して私学校を占領し、突圍軍の主力は城山を中心に布陣/西郷軍は鹿児島市街をほぼ制圧し、官軍は米倉の本営を守るだけとなった
- 1877年9月1日-09:00|日本|JR東日本東海道本線|明治10年|<廃止>官設鉄道:田町仮停車場
- 1877年9月2日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|明治10年|<死去>「和宮親子内親王(静寛院宮)」箱根塔/沢元湯中田屋で病没(32歳、弘化3(1846)閏0510生)仁孝天皇の皇女、徳川家茂の正室
- 1877年9月2日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第十八国立銀行(長崎;12.20開業)
- 1877年9月2日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「サミュエル・ロウ」(2回目~18800504)
- 1877年9月3日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<城山籠城戦>官軍が形勢を逆転し、城山周辺の薩軍前方部隊を駆逐
- 1877年9月3日-01:00|フランス| |||<死去>アドルフ・ティエール、フランス大統領/80歳(誕生:17970416)
- 1877年9月4日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<城山籠城戦>反撃に出た西郷軍では貴島率いる決死隊が米倉を急襲したが、急遽米倉へ駆けつけた三好少将率いる第2旅団に阻まれ、貴島以下決死隊は一掃された
- 1877年9月4日-05:30|スリナム/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン第15代総督「ジェームズ・ロバート・ロングデン」卿(~18830710)
- 1877年9月4日 06:00|アメリカ| |||アパッチ族のジェロモ、スケルトン峡谷(アリゾナとメキシコの境)でマイルズ 将軍に追いつめられ降伏(インディアンの白人への抵抗終焉)
- 1877年9月5日-09:00|日本| ||明治10年|コレラが対外窓口の横浜で、米国三番館の日本人雇い人2人発病、東京を始め関東一円と福島、静岡、山梨、長野、新潟、愛知から三重へと拡がる。ついで長崎で、同港に入港した外国軍艦から流行が始まり九州西部、四国の高知、近畿の兵庫、大阪、和歌山の諸県に侵入、岡山、島根、石川各県から遠く北

1880迄 (3454件)

海道もこの系統と考えられている

- 1877年9月5日-05:30|イギリス| |||<就任>カール5世国統治者(ラジヤイ・ラジガシ)「ジヤカジツ・シン」(~19111212)
- 1877年9月6日-09:00|日本| ||明治10年|<設置>宮内省侍補
- 1877年9月7日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第64号「諸証書/姓名自書押印/布告^但書追加」
- 1877年9月8日-09:00|日本| ||明治10年|<完成>日本初の西洋式噴水/東京・上野公園で開催された第1回内国勸業博覧会の会場中央の美術館前の人工池
- 1877年9月8日 00:00|イギリス/日本|日本郵船|明治10年|<売却>J. Carlton, Liverpool「King Richard」(1875年, J. Read-head & Son., South Shields England建造進水)⇒郵便汽船三菱会社(東京)、「九重丸」と改名
- 1877年9月11日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第66号「利息制限法」
- 1877年9月14日-09:00|日本| ||明治10年|コレラ発生により深川他2カ所に避難病院設立
- 1877年9月14日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長代行「閣僚会議:アルカント・ロス・スピリト・ノ・コウメント・カリス/カリオス・スピリト・ノ・トク・ヒス/エ・メノダ・ステ・ミティウ・テ・リケ・オルギス/トシウ・ヴォス・アント・レア・ザ・イミス/テ・ト・ノ・パンガ・イ・テ・リ・ジャンニス/チャランポ・ス・シウ・ラ・カキ」(~18780123)
- 1877年9月15日-09:00|日本|大阪府堺市|明治10年|<点灯>旧堺灯台(1968年(昭和43年)廃灯、国指定史跡)
- 1877年9月15日-09:00|日本|東京都|明治10年|東京府, 区務所合併
- 1877年9月15日 10:00|ポルトガル/フランス| |||<就任>フランス領地ニア司令官兼ソシエ諸島共和国暫定弁務官「Paul Serre」(~12. 1)
- 1877年9月16日-09:00|日本|東京都|明治10年|大森貝塚発見/東京・大森(品川区大井6丁目と大田区山王1丁目)でアメリカの科学者モースが貝塚を調査
- 1877年9月17日 00:00|イギリス| |||<死去>ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、発明家・写真家/77歳(誕生:18000211)
- 1877年9月17日 10:00|ポルトガル| |||<死去>ソシエ諸島統治者「Aimata Pomare4世 Vahine」
- 1877年9月17日 10:00|ポルトガル| |||<就任>ソシエ諸島統治者「Ari`i aue Pomare5世」(~18801230)
- 1877年9月22日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年内務省甲布達第19号「内国勸業博覧会規則第二十五条改正」
- 1877年9月22日 06:00|カナダ| |||カナダが、ブラックフット族の酋長クワットとの間の第7号条約を調印
- 1877年9月23日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<城山籠城戦>川村は西郷陣営に無条件降伏を要求し、また西郷を差し出すなら命は助けるが、午後5時までに返答がなければ陣地を攻撃することを予告。結果返答はなく、砲撃が開始され、激しい砲撃に西郷陣営は壊滅的な打撃を受けた。西郷は、スライド銃などの限られた装備で応戦しようとするが、決定的に弾薬が不足しており、金属製の像を溶かして弾丸を作り、大工用ののこぎりで修繕するなどの手段を取らざるを得ないほどであった
- 1877年9月23日-01:00|フランス| |||<死去>ユルバン・ルヴェリエ、天文学者(18110311~)海王星の存在を予言
- 1877年9月23日 06:00|コスタリカ| |||<就任>コスタリカ共和国大統領「トマス・ミゲル・グアルティエ・グティエレス」(2回目、18800508まで暫定~18820706)
- 1877年9月24日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年海軍省甲布達第6号「造船所定雇職工規則中第七条第九条等改正第十三条削除」
- 1877年9月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<死去>西郷隆盛。西南戦争に敗れ、自刃(51歳、文政10(1827)1207生)薩摩藩士、陸軍大将、参議
- 1877年9月24日-05:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治10年|<城山籠城戦>夜通し砲撃を行った後、山縣陣営は午前4時、陣に攻め込んだ。西郷陣営は激しい銃撃を受けながら、近接戦闘の訓練を受けていない陸軍の隊列に突進していった。結果、わずか数分で、一時組織だった隊列は乱れ、高度な剣術が、訓練をほとんど受けていない陸軍戦力を打ち負かした/練度の差はあれど戦力差が圧倒的に劣っていた西郷陣営は、最終的に撤退することとなった。西郷は大動脈と腹部に重傷を負い、別府晋介に担がれ、切腹を行う場所を探しながら下山。別府は介錯として西郷の首を切り落とし、敵に見つからないように隠した/西郷の死後、別府は指揮を執っていたが自決し、弾薬が不足している中残りの侍たちも刀を抜いて下山し討ち死にし西南戦争は終結
- 1877年9月26日-09:00|日本| ||明治10年|<設置>大阪府、南長柄村に避病院
- 1877年9月28日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領スール総督「Carlos Martinez y Romero」(~18800203)
- 1877年9月29日-09:00|日本| ||明治10年|東京体育倶楽部(メンバーは外人)、陸上競技会を海軍兵学寮向側のグラウンドで挙行
- 1877年9月29日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ総督「Marie Alfred-Armand Huart」(1期目~18790803)
- 1877年9月30日-09:00|日本| ||明治10年|<設立>内務省、海外新作物の栽培基地(三田育種場)
- 1877年9月30日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治10年|大山綱良(53歳)、長崎桜町の獄舎で斬首
- 1877年10月-09:00|日本|群馬県吾妻郡草津町|明治10年|<開業>草津温泉「奈良屋」
- 1877年10月-09:00|日本|東京大学|明治10年|<設立>農学校
- 1877年10月-09:00|日本|長野県飯山市|明治10年|<設立>第二十四国立銀行(長野県飯山:11. 1開業)
- 1877年10月-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治10年|<設立>第二十二国立銀行(岡山:11. 15開業)
- 1877年10月-03:00|サウジアラビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ヒジャーズ総督「メフメド・ハレット・パシヤ」(~1879年6月)
- 1877年10月 00:00|イギリス| |||「Moray」Atken&Mansel, Glasgowで建造進水(→1894年、John Warwick & Co. の所有)
- 1877年10月 00:00|イギリス/カナダ| |||カナダのマニトバからイギリスに小麦輸出
- 1877年10月1日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>梅本敏鎌(39歳)歌人
- 1877年10月1日-09:00|日本| ||明治10年|この年のコレラ感染三つ目が西南戦争勝利を得て鹿児島港から帰還する軍隊を乗せた複数の軍艦が、一斉に神戸港に入港したとき、爆発的に発生。京都、滋賀、岐阜、愛媛、広島、山口の

1880迄 (3454件)

各府県で流行したが、陸路も含め帰還する将兵を介して流行が起こっている、第二の系統の鹿児島県からの延長/11月には病勢はおとろえた/この年の患者数は1万3816人、8027人が死亡

- 1877年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアノ・ベッルツィ」「ピエトロ・ウゴリーニ」
- 1877年10月1日 12:15|日本|JR西日本東海道本線|明治10年|21時13分、東海道線・神戸駅～西ノ宮駅間で上り旅客列車と下り回送列車が正面衝突し、乗務員3人が死亡/日本最初の鉄道死亡事故
- 1877年10月2日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>南オーストラリア植民地総督「ウィリアム・ジャック・フォイス」(~18830109)
- 1877年10月2日-09:00|日本| ||明治10年|<創業>其中堂(名古屋市)(三浦兼助)
- 1877年10月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>ルートヴィヒ・カール・ゲオルク・フ・ファイアー、医師・植物学者・貝類学者(生年1805年)
- 1877年10月3日-08:00|中国| |||<創設>開平鉱務局
- 1877年10月4日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第70号「田畑ノ称地租改正後モ併用」
- 1877年10月4日-09:00|日本| ||明治10年|内務省警視本署、コレラ大流行に対応し、初の感染症専門病院「避病院」設置
- 1877年10月4日 06:00|アメリカ| |||アイトホ・インディアンとの戦闘終結
- 1877年10月6日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第71号「明治六年第四百五号勅奏任官華族其外有位ノ輩訴訟関係ノ節呼出布告廃止」
- 1877年10月7日-08:00|中国| ||清・光緒3年9月1日|西征の清軍が、カシヤルを奪回
- 1877年10月8日-09:00|日本|明治学院大学|明治10年|<開校>「東京一致神学校」[東京・築地]
- 1877年10月9日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年内務省甲布達第21号「土石掘取規則」
- 1877年10月9日 06:00|アメリカ| |||<創立>米国人道協会
- 1877年10月9日-08:00|中国| ||清・光緒3年9月3日|西征の清軍が、コルを奪回
- 1877年10月10日-09:00|日本|十六銀行|明治10年|<開業>第十六国立銀行[岐阜]
- 1877年10月10日-09:00|日本|二松学舎大学|明治10年|<設立>三島中洲「漢学塾・二松学舎」[東京麹町]
- 1877年10月10日-09:00|日本|八十二銀行|明治10年|<設立>上田第十九国立銀行(11. 8開業)
- 1877年10月10日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治10年|<設立>「京町貸金会社」[福岡]
- 1877年10月11日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アウグスト・エイス・モ民政知事「ウイラ・ダ・ブライア・ダ・ピトリア伯、ブルジュ子爵Jacome de Ornelas Bruges de Avila PP Paim da Camara」(2期目~18780131)
- 1877年10月11日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ホセ・民政知事「Julio de Castilho」(~18780131)
- 1877年10月11日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ホセ・民政知事「Antonio da Fonseca Carvao Paim da Camara」(~18780131)
- 1877年10月12日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第72号「明治六年第三百二十四号家禄賞典米等渡方布告中取消」
- 1877年10月12日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>「東京毎夕新聞」(夕刊紙の始まり)
- 1877年10月12日-09:00|日本|大分銀行|明治10年|<設立>第二十三国立銀行(大分市茶屋町;11. 11開業)
- 1877年10月12日-05:30|インド| |||<就任>バガール国ラジャ「デイヤン・シン」(~19040412没)
- 1877年10月13日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド首相「ジョージ・グレイ卿」(~18791008)
- 1877年10月13日-09:00|日本| ||明治10年|<死去>5代坂東彦三郎(46歳)歌舞伎役者
- 1877年10月14日-01:00|フランス| |||フランスで下院選挙が行われ、共和党が勝利
- 1877年10月17日-09:00|日本|学習院|明治10年|東京・神田錦町の私立華族学校の開業式が行われ、天皇から「学習院」の称号が与えられた
- 1877年10月18日-09:00|日本|静岡銀行|明治10年|<設立>第二十八国立銀行(静岡県浜松;18780110開業)
- 1877年10月18日-01:00|スペイン/キューバ| |||戦線に復帰したマ材、ヒーロートの闘いでスペイン軍を撃破
- 1877年10月18日-08:00|中国| ||清・光緒3年9月12日|西征の清軍が、クチャを奪回し、イスラム教徒の馬由布を殺す/馬彦虎は西に逃亡
- 1877年10月19日-01:00|スペイン/キューバ| |||<交替>>キューバ共和国大統領「トマス・エストラダ・バルマ」罷免⇒暫定大統領「フランシスコ・ヒエルテ・ベス・テ・セス・テ・ス・イ・テル・カスティヨ」就任(~12. 13)
- 1877年10月21日-01:00|スイス| |||スイスで工場法が制定される
- 1877年10月24日-08:00|中国| ||清・光緒3年9月18日|清軍が、アスのイスラム教徒を降伏させる
- 1877年10月24日-08:00|中国| ||清・光緒3年9月20日|清軍が、ウツを奪回
- 1877年10月25日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャルグループ|明治10年|<設立>第四十一国立銀行(栃木;18780904開業)
- 1877年10月26日-09:30|オーストラリア| |||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ジェームズ・バウコート」(3期目~18780927)
- 1877年10月29日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| |||<就任>イギリス王領海峡植民地総督「ウィリアム・クリーバー・フランス・ロベソン卿」(~18790210)
- 1877年11月-09:00|日本|愛媛大学|明治10年|<改称>「愛媛県伊予師範学校」⇒「愛媛県師範学校」
- 1877年11月-09:00|日本|滋賀銀行|明治10年|<設立>第二十一国立銀行(滋賀県長浜;12. 15開業)
- 1877年11月-09:00|日本|日本郵船|明治10年|<売却>日本政府郵便汽船「櫻島丸」⇒三菱会社(東京)(1880年、庫船、以後不詳)
- 1877年11月1日-09:30|オーストラリア| |||<開通>ハートとロゼトン間鉄道
- 1877年11月1日-09:00|日本|JR|明治10年|横浜・新橋間に往復切手(往復乗車券)登場
- 1877年11月1日-09:00|日本|八十二銀行|明治10年|<開業>第六十三国立銀行が[長野県松代町]
- 1877年11月1日-02:00|トルコ/ロシア| |||カス地区をロシアが占領
- 1877年11月2日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第75号「徴兵令第六章第一条中削去」;明治10年太政官布告第76号「改定律例中間刑律並逃亡律例老少廢疾收贖条例等删除改正」

1880迄 (3454件)

- 1877年11月3日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ 王国首相「ヨハネス・カッペ・イン・ファン・デ・コッペ・ツロ」(~18790820)
- 1877年11月4日-01:00|ドイツ| |||<初演>マックス・クリスティアン・フリート・リヒ・ブルッフ《ヴァイオリン協奏曲2》
- 1877年11月7日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|明治10年|<死去>森川俊方(28歳)元下総生実藩主・知藩事
- 1877年11月9日-01:00|ドイツ| |||独, 専売特許条例発布
- 1877年11月11日-09:00|日本|大分銀行|明治10年|<創業>第二十三国立銀行[大分]
- 1877年11月12日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>西オーストラリア植民地総督「ハー・オート」(~18800409)
- 1877年11月12日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>東京毎夕新聞(夕刊紙の始め)(高島藍泉主宰. 半年後経営者が代り「真砂新聞」と改題, 朝刊となり, のち「東京真砂新聞」と改題)
- 1877年11月12日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「アントニオ・セルジオ・デ・ヌザ・ダ・イスコンテ・デ・セルジオ・デ・ソウザ」(~18780503)
- 1877年11月17日-01:00|スペイン/中国/キューバ| ||清・光緒3年10月13日|清が北京で, スペイン・キューバと中国人労働者に関する協定を妥結
- 1877年11月18日-04:00|アルメニア/ロシア| ||ロシア暦11月6日|ロシア軍が, アルメニアのガスを占領
- 1877年11月20日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第77号「硝石輸出ヲ許ス」
- 1877年11月20日-09:00|日本|JR|明治10年|京都~大阪に貨物営業開始
- 1877年11月20日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|<発行>(小判)小判切手(1877年)額面:8銭
- 1877年11月20日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|<発行>郵便はかき三銭五銭六銭/三種
- 1877年11月21日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第79号「租税未納ノ者身代限ヲ廢シ更ニ処分ヲ定ム」
- 1877年11月22日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第80号「地租金田方半額当分代米納ヲ許ス」
- 1877年11月22日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>興風社(広島平田屋町)「広島新聞(第3)」
- 1877年11月23日-01:00|フランス| |||<辞任>フランス第三共和政第30代首相「アルベール・ド・ブローイ」
- 1877年11月23日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第31代首相「ガエタン・ド・ロシュフェ」保守系(王党派)(第1次~12.13)
- 1877年11月24日-01:00|フランス| |||フランス下院で, ロシュフェ内閣の不信任を決議
- 1877年11月24日 00:00|ポルトガル| |||<就任>フンチャル地区民政知事「Afonso de Castro」(2期目~18790609)
- 1877年11月24日 06:00|アメリカ| |||アメリカ海軍アト級砲艦「ヒュロン」(1020t)Nag's Head近海にて荒天により難破
- 1877年11月27日-09:00|日本| ||明治10年|六郷川(多摩川)の木橋を鉄橋に改築する(日本最初の鉄橋)
- 1877年11月28日-01:00|フランス| |||<初演>アレクシ=エマニュエル・シャブリエ《喜歌劇「エトワール(星)」》
- 1877年11月30日-09:00|日本| ||明治10年|<開校>出島神学校(→出島資料館, 長崎市)
- 1877年12月-09:30|オーストラリア| |||ハース=アデレード間の電信線の完成
- 1877年12月-01:00|ロシア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ワリス(総督)「ソルメツゲル・アリ・ケマリ」(~1878年2月)
- 1877年12月1日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治8年|<廃止>官設鉄道安治川支線[大阪-安治川]間
- 1877年12月1日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク州総督「フランシスコ・マリア・ダ・ケニャ」(~18800116)
- 1877年12月1日 10:00|ポルトガリア/フランス| |||<就任>フランス領モザンビーク司令官兼ソコエ諸島共和国弁務官(暫定)「Auguste Marie Edouard d'Oncieu de la Batie」(~18780205)
- 1877年12月2日-01:00|フランス| |||<初演>シャルル・カミュ・サンサンス《歌劇「サムソンとデリラ」》コロ管弦楽団*創立
- 1877年12月3日-01:00|フランス| |||フランスの化学者カイエは, 酸素の液化に成功, 友人を通じてパリ科学アカデミーに報告
- 1877年12月5日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第81号「酒類税則中改正追加」
- 1877年12月6日 06:00|アメリカ| |||<創刊>ワシントン・ポスト
- 1877年12月6日 06:00|アメリカ| |||米国で, トマス・エジソンが蓄音機を発明/レコードの再生に成功
- 1877年12月7日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第82号「旧藩主へ下賜賞典禄ノ内列士民へ分与セシムハ旧藩主適宜処分セシム」
- 1877年12月7日-09:00|日本| ||明治10年|<設立>第二十七国立銀行(東京・八王子;12.28開業)
- 1877年12月7日-09:00|日本| ||明治10年|原田千之介が企画し, 島津源蔵が製作した, 日本国産初の有人水素気球が京都仙洞御所で36メートルの高さまで飛揚
- 1877年12月9日-02:00|レイト/イギリス| |||<就任>ケープ 植民地政府ハストラント 職員「チャールズ・ダンカン・グリフィス」(2回目~1878年)
- 1877年12月10日-02:00|ブルガリア/ロシア| ||ロシア暦11月28日|ロシアが, ルーマニアの援軍を得て, ブルガリアのプレヴネの戦いでオスマン帝国軍を破る
- 1877年12月11日-09:00|日本| ||明治10年|<大相撲>明治10年12月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西関脇)梅ヶ谷, 9勝0敗1休/27連勝
- 1877年12月12日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第83号「国立銀行条例へ追加」(国立銀行の乱立を抑制)
- 1877年12月12日-09:00|日本| ||明治10年|最初の欧州回航船「清輝艦」(国産の軍艦)発航
- 1877年12月13日-09:00|日本|岩手銀行|明治11年|<開業>第八十八国立銀行(岩手)
- 1877年12月13日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第32代首相「ジュール・フェール」無所属(王党派)(第5次~18790204)
- 1877年12月13日 05:00|キューバ| |||<就任>キューバ 共和国大統領「ウイセント・ガルシア・イ・ゴンザレス」(~18780210)
- 1877年12月14日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第84号「明治十一年郵便規則及罰則」
- 1877年12月14日-09:00|日本|大阪府|明治10年|<改称>大阪府, 「女紅場」⇒「女子手芸学校」
- 1877年12月14日-01:00|セルビア/トルコ| |||セルビアがオスマン朝に再び宣戦布告

1880迄 (3454件)

- 1877年12月14日-01:00|フランス| |||フランスのマクマホン大統領が、共和派の主張を承認し、議会共和政が確立
- 1877年12月16日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヨーゼフ・アントン・ブルックナー《交響曲第3番ニ短調「ワグナー」》
- 1877年12月17日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第85号「鳥獣猟規則第九条」但書同第十八条追加
- 1877年12月17日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治10年|<設立>第二十五国立銀行(福井県小名浜;18780104開業)
- 1877年12月17日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月13日|清軍がカシュガルを攻略
- 1877年12月18日-09:30|オーストリア| |||<就任>ニュー・サウスウェールズ植民地政府首相「ジームス・ファーネル」無所属(~18781220)
- 1877年12月18日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第86号「内国製木綿メリヤス襦袢股引無税輸出ヲ許ス」
- 1877年12月18日-09:00|日本| ||明治10年|<創刊>「大阪新報」
- 1877年12月18日-01:00|スロベニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア領スロベニア大統領代行「アントン・シェッパル・リッター・フォン・ゾングァルテン」(1度目~18780423)
- 1877年12月19日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月15日|清軍が陝西イスラム教徒の余青虎を捕らえる/白彦虎はタケントに逃亡
- 1877年12月20日-02:00|ギリシャ| |||クレタ島でギリシア人が蜂起
- 1877年12月20日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月16日|清軍が、イスラム教徒の馬元を捕らえ、白彦竜を殺す
- 1877年12月21日-09:00|日本| ||明治10年|東京工部省電信局より宮内省間に電話開通(実用電話最初の記録)
- 1877年12月21日-08:00|中国| |||チベットで、ダライ・ラマ13世が選出される
- 1877年12月21日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月17日|清軍がヤルカントを攻略
- 1877年12月22日-08:00|インドネシア| |||<即位>ジヨグ・ジャカルタ・スルタン「Hamengkubuwono7世」(~19210129)
- 1877年12月24日-09:00|日本|静岡銀行|明治10年|<設立>第三十五国立銀行(静岡県有渡郡静岡本通2丁目8番地;18780515開業)
- 1877年12月25日-09:00|日本| ||明治10年|<設置>刑法草案審査局(伊藤博文を総裁とする)
- 1877年12月25日-09:00|日本|大阪府|明治10年|<焼却>大阪府「避病院」
- 1877年12月26日 06:00|アメリカ| |||アメリカで社会主義労働党が結成される
- 1877年12月27日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年地租改正事務局甲布達第3号「地租改正施行規則第十二条」但書追加
- 1877年12月27日-09:00|日本| ||明治10年|<設立>第四十六国立銀行(多治見;18790214開業)
- 1877年12月28日-09:00|日本| ||明治10年|<公布>明治10年太政官布告第89号「売薬規則第一条第五条第十四条改正」
- 1877年12月28日-09:00|日本| ||明治10年|<発行>一円紙幣(不換紙幣)
- 1877年12月28日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治10年|<開業>第三十国立銀行(東京)
- 1877年12月28日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月24日|カシュガリアは清帝国に再編入された(カシュガリアは1876年に占領された)
- 1877年12月29日-08:00|マレーシア/イギリス| |||<就任>サバ・マハラジャ兼ガヤ・サンダカン・ラジャ「アルフレッド・デント」(~18810826)
- 1877年12月30日-09:00|日本|香川県高松市|明治10年|<死去>松平頼胤(68歳)元讃岐高松藩主
- 1877年12月30日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《交響曲第2番ニ長調Op. 73》
- 1877年12月31日-01:00|フランス| |||<死去>市民生活や身近なところに主題を求めた、フランスの代表的「写実主義」絵画の画家ギュスターヴ・クールベがスイスで(1819-、58歳)/パリのコミューンに参加、のちスイスに亡命(1873年)/代表作の「石割り」は第2次大戦中にドイツで焼失
- 1877年12月31日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、ハミルトン山に「リック天文台」を設置(口径91cm望遠鏡)
- 1878年-13:30|キリバス| |||<就任>アヘンマ首長(UEA)「ヒノカ」(~18911110没)
- 1878年-09:00|日本| ||明治11年|平岡照が最初の野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を組織
- 1878年-09:00|日本|東急百貨店|明治8年|白木屋本館新装開店
- 1878年-08:00|インドネシア| |||<即位>パク・アラマン君主「Pakualam5世」(~1900年)
- 1878年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「キツェツ・ドルジ・ナムギャル」(2回目~1879年)
- 1878年-05:30|インド| |||<死去>パナマ国マハラジャ「プラタップ・シン・デオ」
- 1878年-05:30|インド| |||<就任>チャタルプール国摂政「ムンシ・チュンデ・イ・ヘルシヤト」(~18860401)
- 1878年-05:30|インド| |||<就任>ラタンマル統治者(ターケル)「デイヤップ・シン」(~1899年没)
- 1878年-05:30|インド/イギリス| |||サンガル国をイギリス領インドが統治(~1889年)
- 1878年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン(カーブル)首相(ワジール・イ・アサム)「ミルザ・モハマド・ハッサン・カーン」(~1880年)
- 1878年-03:00|イェメン/イギリス| |||<就任>イギリス領アデン理事官「フランス・Adam Ellis Loch」(~1882年)
- 1878年-03:00|エチオピア/エジプト| |||<就任>エジプトのハラル総督「ラトウアン・ハシヤ」(~1880年)
- 1878年-03:00|カタール| |||<即位>カタールのアミール(首長)「ジャシム・ビン・ムハンマド・アル＝サーニー」(~19130717)
- 1878年-03:00|ソマリア| |||<即位>ゲレディ・スルタン「Osman Ahmed」(~1910年)
- 1878年-03:00|エチオピア| |||<即位>ムワリ・スルタン国スルタン「アブ・デレマネ・ベン・サイデ・イ・ハマデ・イ・マダラ」(~1885年没)
- 1878年-03:00|マダガスカル/フランス| |||ノシベ島はフランスの単独植民地となる
- 1878年-02:00|キプロス/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領キプロス地区総督「サミ・ハシヤ」
- 1878年-02:00|モザンビーク| |||<就任>タンゴニア首長「アファデー・イ・アフト・アツァー」(~1884年)
- 1878年-02:00|レソト/イギリス| |||<就任>ケープ植民地政府ハストラント職員代行「エミール・サミュエル・ロソ」(2回目~10. 10)
- 1878年-02:00|フィンランド| |||フィンランドで新徴兵法が制定

1880迄 (3454件)

- 1878年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督(北アフリカ総司令部総督)「Jose Maria Velasco Postigo」(~1879年)
- 1878年-01:00|ニジェール| |||<就任>マティ国統治者(サキン・カツイ)「マザウジエ・ダ・タン・カワ」(~1880年)
- 1878年-01:00|中央アフリカ| |||<即位>ハンガース・スルタン国スルタン「ハンガース」(~19070608没)
- 1878年-01:00|カメルーン| |||<即位>ホンペラ王国国王「デイト3世エ・エ・エカラ・ジム・デイト」(~1903年)
- 1878年 00:00|シエラレオネ| |||<死去>カア・メンデ統治者「グバニヤ・ランゴ」
- 1878年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>カア・メンデ統治者「ヨコ」(~1906年8月没)
- 1878年 00:00|セカール| |||<就任>シシ統治者(フール・シシ)「セム・マク・シユフ」(~1881年)
- 1878年 00:00|ギニア| |||ギニア高原でサリ帝国が成立
- 1878年 04:00|サン・マルタン| |||<死去>フランス領サンマルタン島市長「Pierre Auguste Beauperthuy」
- 1878年 04:00|サン・マルタン| |||<就任>フランス領サンマルタン島市長代理「Charles Becker」(1期目~1879年)
- 1878年 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス・カイコス諸島弁務官「Edward Noel Walker」(~1879年)
- 1878年1月-09:00|日本| ||明治11年|<結成>横浜ジヨッキークラブ(YJC)
- 1878年1月-09:00|日本| ||明治11年|<就役>日本海軍中央砲装束甲艦「扶桑」(18770417イギリス、ロンドンテムズ川沿いのサミュエル社造船所にて進水)
- 1878年1月-09:00|日本| ||明治11年|<竣工>日本海軍鉄骨木皮装甲コルヴェット「金剛」(2250トン)英国、ハル・アール社で
- 1878年1月-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第二十六国立銀行(大阪;4.25開業)
- 1878年1月-02:00|ギリシャ/トルコ| |||自治を求めるクレタ島の反乱(~10月)
- 1878年1月-01:00|ナイジェリア/イギリス| |||<就任>ヒアラ湾・ベニン湾英国領事「デヴィッド・Hopkins」(~18790913)
- 1878年1月-01:00|ドイツ| |||ドイツで反ユダヤ的キリスト教社会労働者党が創設
- 1878年1月 00:00|イギリス| |||<竣工>鉄製蒸気船「Orduña」(729総ト)イギリス・サンタ・ラントのW. F. Piles&Co. で
- 1878年1月 06:00|アメリカ| |||<設立>エジソン、「エジソン・スピークング・フォノグラフ社」
- 1878年1月1日-09:00|日本|静岡銀行|明治11年|<設立>隆栄会社(静岡県敷知郡和地村)
- 1878年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨハン・カール・エマニュエル・シェンク」Rad(4期目~12.31)
- 1878年1月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領「ホセ・アントニオ・レサ」(2回目~12.28)
- 1878年1月1日 06:00|アメリカ| |||<設立>「労働騎士団」全国組織として
- 1878年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「James Russell McCoy」(2期目~18791231)
- 1878年1月2日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>新島襄ら「日本基督教伝道会社」
- 1878年1月2日-03:00|モット/フランス| |||<就任>フランス保護領モット司令官代行「ジャン・ロマン」(~12.9)
- 1878年1月2日-08:00|中国| ||清・光緒3年11月29日|新疆のイスラム教徒の反乱が、清朝の左宗棠により平定される
- 1878年1月5日-09:00|日本| ||明治11年|<改題>英字週刊新聞「ラジック・サン・アント・エクスプレス」⇒「キューシュータイム」
- 1878年1月5日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「シモン・子爵ジョアン・リンス・ウエイラ・カンサッパ・デ・シンプー」(~18800328)
- 1878年1月6日 00:00|イギリス| |||<死去>2代アイルズ・ヘリー侯・8代カーティガン伯「ジョージ・ウィリアム・フレデリック・ブルデネル＝ブルース」
- 1878年1月6日 00:00|イギリス| |||<就任>3代アイルズ・ヘリー侯・9代カーティガン伯「アーネスト・オガスタス・チャールズ・ブルデネル＝ブルース」先代の弟(~18861018死去)
- 1878年1月7日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>北溟社「函館新聞」道初
- 1878年1月7日 00:00|リベリア| |||<就任>リベリア共和国大統領「アンソニー・ウィリアム・ガードナー」(~18830120)
- 1878年1月8日-09:30|オーストラリア| |||メルボルンで最初の電話線の敷設
- 1878年1月8日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事代行「セル・アルベス・ダ・コスタ」(~7.3)
- 1878年1月9日-04:00|ロシア/トルコ| |||トルコ軍が、ブルガリアのシカ峠で降伏し、ロシアに休戦を要請
- 1878年1月9日-01:00|イタリア| |||<死去>イタリア王・サルデーニャ王「ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世」57歳(誕生18200314)
- 1878年1月9日-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア王「ウンベルト1世」サルデーニャ王太子・ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世の長男、スペイン王マテオの兄(~19000729死去)
- 1878年1月11日-09:00|日本|東京都|明治11年|<移管>静岡県伊豆七島→東京府
- 1878年1月11日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「アット・ハムディ・パシャ」(~2.4)
- 1878年1月11日-01:00|セルビア| |||ニッシュはセルビアに占領される(~7.13)
- 1878年1月12日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<設立>第四十国立銀行(群馬県館林;11.5開業)
- 1878年1月16日-02:00|ブルガリア/ロシア| |||東ルミアをロシアが占領(~18790530)
- 1878年1月17日-09:00|日本| ||明治11年|<公布>明治11年内務省甲布達第1号「紅茶製方伝習規則」
- 1878年1月17日 11:00|米領サモア/アメリカ| |||アメリカがサモアと通商条約、パゴパゴに海軍補給基地を建設
- 1878年1月19日-09:00|日本| ||明治11年|<公布>明治11年太政官布告第2号「通用貨幣ヲ溶解シ又ハ其体面ヲ毀傷スル等ヲ禁ス」
- 1878年1月20日-09:00|日本|東京都|明治11年|<開場>常設の商品陳列場「東京府第一勸工場」(東京麹町永楽町,辰ノ口評定所跡)
- 1878年1月20日-04:00|ロシア| ||ロシア暦1月8日|ロシア軍が、アソリアノールを占領
- 1878年1月22日-08:00|マレーシア/イギリス| |||イギリスが北ボルネオ一帯を獲得
- 1878年1月23日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|明治11年|<死去>阿部正静(30歳)元陸奥棚倉藩主
- 1878年1月23日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリトノス・コウメントゥロス」(8回目~11.2)
- 1878年1月24日-09:00|日本|東京大学|明治11年|<開校>駒場農学校(新宿農事修学場より移転改称)

1880迄 (3454件)

- 1878年1月24日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王領カナリヤ諸島総司令官「Florentino Meliton Catalan Lopez de Prado」
- 1878年1月27日-01:00|チェコ| |||<初演>アントニン・レハ・ルト・ド・ヴァルザーク《歌劇「いたずら農夫」》
- 1878年1月28日-02:00|ギリシャ| |||テッサリアでギリシア人が反トルコ蜂起
- 1878年1月28日 06:00|アメリカ| |||世界最初の電話機、米国コネカット州ニューヘイブーンに架設される
- 1878年1月29日-09:00|日本|伊予銀行|明治11年|<設立>第二十九国立銀行(愛媛県川之石浦;3.15開業)
- 1878年1月29日-01:00|スペイン/キューバ| |||マテオ、シエラエストラ山中のラ・ジヤナ・ダ・テルムラート溪谷で、スペイン部隊を待ち伏せ攻撃、部隊を撃退するとともに大量の武器・弾薬を鹵獲
- 1878年1月29日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル王国第34代首相「アントニオ・マリア・デ・フォンテス・ペレイラ・デ・メロ」(3期目~18790601)
- 1878年1月30日 11:00|米領サモア/アメリカ| |||アメリカ上院、サモアとの条約を批准
- 1878年1月31日-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシア暦1月19日|エルズムズがロシアに降伏、休戦条約に調印
- 1878年1月31日-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシア軍がエディルネを占領し、イスタンブルを閉鎖
- 1878年1月31日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アングラ・ド・エロイス民政知事「Antonio da Fonseca Carvao Paim da Camara」(2期目~18790603)
- 1878年1月31日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>オリーブ民政知事「Antonio Maria de Oliveira」PR(~18790602)
- 1878年2月-09:00|日本| |||明治11年|<改称>表記社⇒ス好スチツク社
- 1878年2月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのワリス「サニ・ムハンマド・カトリハ・シャ」(~11月)
- 1878年2月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Kibrizli Mehemet Kamil Pasha」(~1879.3)
- 1878年2月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Ahmed Cevdet Pasha」(~11月)
- 1878年2月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ワリス(総督)「メフメト・サブリハ・シャ」(~1879年7月没)
- 1878年2月1日-09:00|日本| |||明治11年|<開業>第三十三国立銀行(東京)
- 1878年2月1日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治11年|<開業>第三十二国立銀行(大阪)
- 1878年2月2日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||ギリシアがオスマン朝に宣戦布告
- 1878年2月2日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード・知事「ヘンリー・ターナー・アーヴィング」(2期目~18800727)
- 1878年2月4日-12:00|フィジー/イギリス| |||<就任>イギリス領西太平洋領土高等弁務官「ワイグ・総督」(~19520703)
- 1878年2月4日-09:00|日本| |||明治11年|<創業>春陽堂(文芸書出版、春陽堂文庫などを刊行)
- 1878年2月4日 02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「アフメト・ガエフィク・ハ・シャ」(~4.18)
- 1878年2月4日 05:00|キューバ/スペイン| |||マテオ、サン・ウルビーノで敵有力部隊に包囲される/38人の手兵を率い、3時間の激戦の末、8倍の敵を撃退
- 1878年2月5日-09:00|日本| |||明治11年|<公布>明治11年内務省警視局甲布達第11号「角艇并行司取締規則及興業場取締規則」(東京相撲統合一本化/興行場の清潔、観客の賭博行為の取締など)
- 1878年2月5日 10:00|ポリアネシア/フランス| |||<就任>フランス領地アニア司令官兼リツエ諸島共和国弁務官「Jacques Ferdinand Planche」(~18800224)
- 1878年2月6日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地首相「ジョン・ゴートン・スプリック」無党派(1期目~18810508)
- 1878年2月7日-09:00|日本| |||明治11年|<公布>明治11年司法省甲布達第1号「代言人規則中第十七条増補」
- 1878年2月7日-09:00|日本| |||明治11年|<設立>第五十二国立銀行(松山;9.25開業)
- 1878年2月7日-09:00|日本| |||明治11年|<変更>日本海軍軍艦「浅間」⇒練習艦
- 1878年2月7日-01:00|バチカン| |||<死去>255代ローマ教皇「ピウス9世」85歳(誕生17920513)
- 1878年2月7日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ポルトガルの民政知事「Julio de Castilho」(~9.30)
- 1878年2月9日 05:00|キューバ/スペイン| |||マテオ軍、サン・クエンティン軍団を撃滅
- 1878年2月10日 05:00|キューバ/スペイン| |||スペインとキューバ反乱軍がサンホン協定を結ぶ/第1次キューバ独立戦争(キューバ10年戦争)が終結
- 1878年2月11日-09:00|日本| |||明治11年|<創業>文盛堂(榊原友吉).はじめ取次、のち文部省発行《小学読本》などの翻刻、教科書出版
- 1878年2月11日-09:00|日本| |||明治11年|<創業>良明堂(山本良助).薬品と新聞雑誌書籍販売(明治25年、売薬業を中井真三に譲り、取次専業)
- 1878年2月11日-05:30|インド| |||<就任>ラトウルク国統治者(王)「ガイヤンカトラオ・ヨグ・ラオ・ハ・ハ」(~19070430没)、摂政「ゴビント・アトラム・ポトニス」(1回目~18961103)
- 1878年2月12日-08:00|中国| |||<即位>ダライ・ラマ「13世トウブテン・ギャツォ」(19040730~1909年12月、モンゴル、後に中国亡命⇒19100225~1912年6月、インド亡命~19331217)
- 1878年2月13日-02:00|トルコ| |||オスマン朝のハミド2世が憲法を停止し議会を解散、独裁が始まる
- 1878年2月14日-09:00|日本| |||明治11年|<廃止>官立長崎師範学校・宮城師範学校・大阪師範学校⇒官立は東京師範、東京女子師範のみとなる
- 1878年2月14日-09:00|日本| |||明治11年|堺紡績所、浜崎太平次・肥後孫左衛門に払下
- 1878年2月14日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カナリヤ諸島総司令官「Valeriano Weyler i Nicolau」(~1883年)
- 1878年2月15日 06:00|アメリカ| |||アメリカで女性弁護士に最高裁弁護資格をみとめる
- 1878年2月16日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第三十六国立銀行(八王子;4.23開業)
- 1878年2月19日-01:00|フランス| |||<死去>シャルル=フランソワ・ド・ペーニ、画家(生年1817年)

1880迄 (3454件)

- 1878年2月19日 06:00|アメリカ| |||イジツン発明の蓄音機、ニューヨークにて世界最初の特許権を獲得
1878年2月19日-02:00|ルーマニア/ブルガリア| ||ロシア暦4月4日|ブルガリアがマカリア地方を割譲される(~7.1)
1878年2月20日-09:00|日本| ||明治11年|公布>明治11年外務省布達第1号「海外旅券規則」(海外行免状を海外旅券と改称)
1878年2月20日-01:00|バチカン| |||<就任>第256代ローマ教皇「レオ13世」(~19030720死去)
1878年2月20日 06:00|アメリカ| |||米国、銀貨鑄造法成立(金銀複本位制に復帰)
1878年2月21日 06:00|アメリカ| |||米コネチカット州ニューヘイブンで初の電話帳発行(加入者50人ほど電話局関係者のみ)
1878年2月22日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《交響曲第4番^短調》サクトペ、テルブルク
1878年2月22日 06:00|アメリカ| |||アメリカのグリーンバック党と労働党が合同してグリーンバック労働党が結成される
1878年2月22日-08:00|中国| ||清の光緒4年1月21日|清で駐仏公使が設置される
1878年2月23日-09:00|日本| ||明治11年|守田勘弥(12世)、西南戦争の実況や逸話を福地源一郎(桜痴)などから聞き、河竹新七に執筆させた<西南雲晴朝東風>を新富座で上演し、80余日間の大入りを記録
1878年2月24日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ハースト伯「ウィリアム・レノックス・ハースト」
1878年2月24日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ハースト伯「アレクサンダー・ハースト」先代の甥(~18920801死去)
1878年2月25日-09:00|日本/アメリカ| ||明治11年|<死去>アメリカ初代駐日総領事・公使ハリス(生年:1804年)
1878年2月25日-09:00|日本| ||明治11年|<就役>日本海軍巡洋艦「比叡」(340t;18770611イギリス、ペンブロークのシルフォード・ハヴン造船会社で進水)
1878年2月26日-01:00|イタリア| |||<死去>イタリアの天文学者「ピエトロ・セッキ」(18180629~)恒星の分光観測をし、4つのスペクトル型を提案した
1878年2月28日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、プラント・アリン法が議会で可決される/ドル銀貨が法定通貨になる
1878年3月-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第六十国立銀行(東京;9.2開業)
1878年3月-09:00|日本| 静岡銀行|明治11年|<設立>整品会社(静岡県君沢郡三島宿)
1878年3月-09:00|日本| 商船三井|明治11年|<設立>尼崎伊三郎「共同組」(大阪)、沿岸航路の海運業開始(1904年、尼崎汽船大阪共同組(大阪)に改組)
1878年3月-09:00|日本| 三井住友フィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第五十六国立銀行(明石;8.4開業)
1878年3月-09:00|日本| 三菱UFJフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第三十一国立銀行(福島県若松;6.9開業)
1878年3月-09:00|日本| 三菱UFJフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第三十四国立銀行(大阪;4.13開業)
1878年3月 00:00|イギリス/日本| 商船三井|明治11年|<売却>イギリス蒸気船「Orduna」→三井養之助(長崎)、「秀吉丸」と改名(1896年、谷與三右門(神戸)に売却→1900年、谷三郎(神戸)に移籍→1909年、西川豊四郎(神戸)に売却→1910年、尼崎伊三郎(大阪)に売却→1920年、尼崎船舶合名会社(大阪)に移籍)
1878年3月1日-09:00|日本| ||明治11年|<開通>昌平橋鉄橋(日本初のアスファルト舗装)
1878年3月1日-09:00|日本| ||明治11年|福沢諭吉主宰の雑誌《民間雑誌》、日刊新聞となる(ただし5月終刊)
1878年3月1日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア管理者代行「トマス・H・デュークス」(2度目~6.18)
1878年3月1日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領(国民運動臨時政府議長)「イグナシオ・マリア・ゴンサレス・イ・サンティン」(4回目~4.13)
1878年3月2日-09:00|日本| ||明治11年|<公布>明治11年太政官布告第5号「国立銀行条例第十八条改正十年第八十三号布告同条例追加取消」(設立資本金・紙幣発行に関する大蔵卿の権限を強化)
1878年3月2日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国国務大臣評議会「セルマリア・カラル・イ・デルナ/ホキン・アントニオ・モントリオ・モリス」(~5日)
1878年3月3日-09:00|日本| 長崎県|明治11年|<移管>文部省「長崎英語学校」→長崎県、県の所轄として存続(3.22長崎県立長崎中学校と改称)
1878年3月3日-04:00|ジョージア/トルコ/ロシア| |||サンステファン条約でバトゥム州(アルタインを含む)地域がオスマン帝国からロシアに割譲された(7月13日確定、1878年ベルリン条約により18780803に批准)
1878年3月3日-02:00|ブルガリア/ロシア| |||<就任>ロシア配備軍ブルガリア司令官付民政長官「ドミトリー・ガヴリウイッチ・アヌチン」(~5.21)
1878年3月3日-02:00|ブルガリア/セルビア/モンテネグロ/ロシア/トルコ| |||オスマン帝国がロシアに敗れる/ヤステファン条約が締結/アルメニア、トブルジャ、ベッサリア、およびアナトリア東部バトゥミ、カス、アルタハン、バヤジト地方のロシアへの割譲/ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立の承認/ブルガリアへの自治権の付与(マケドニアを含む大ブルガリア公国が成立)/ボスニア・ヘルツェゴヴィナへの自治権付与
1878年3月4日-09:00|日本| 愛媛県|明治11年|県立松山病院収養館に医学所を再興し、薬学教授所を併設
1878年3月5日-09:30|オーストラリア| |||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・ギブリン」(~12.20)
1878年3月5日-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿国務長官「アレサントロ・フランキ」(~7.31)
1878年3月5日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領(臨時政府議長)「チェザレ・キルモイ・バスタルト」(1回目~7.6)
1878年3月11日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百五銀行(津市)
1878年3月11日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百十五銀行(三重亀山)
1878年3月11日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百二十二銀行(三重県桑名)
1878年3月11日-09:00|日本| JR|明治11年|鉄道局、下等客車内での広告掲示を許可
1878年3月11日-09:00|日本| 百五銀行|明治11年|<設立>第八十三銀行(三重県上野)
1878年3月12日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>東京商法会議所
1878年3月12日-09:00|日本| プロウエルホルディングス|明治11年|<設立>第五十九国立銀行(青森県弘前;18790120開業)
1878年3月12日-01:00|パルマ/イギリス| |||ウエルズ湾がイギリスに併合される(ウエルズ保護領、併合は18781214に確

1880迄 (3454件)

認)

- 1878年3月13日-05:30|インド| |||インドで現地語出版規制法が成立
- 1878年3月14日-09:00|日本| ||明治11年|<公布>明治11年内務省甲布達第4号「部分木仕付条例」
- 1878年3月15日-09:00|日本| ||明治11年|<開催>「第7回京都博覧会」(~6.22)[開催地]京都府[会場]仙洞御所,大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]167,287人
- 1878年3月16日 04:00|サン・バルテルミー/フランス| |||セント・バーツミー島をグアトループの一部としてフランスが所有(サン・バルテルミー)
- 1878年3月16日 05:00|キューバ| |||<就任>キューバ共和国大統領「マヌエル・デ・ヘスス・カバール・イ・オドアルト」(臨時政府) (~5.28)
- 1878年3月17日-09:00|日本| ||明治11年|<竣工>「第一回漕丸」東京川崎造船所で(1886年,七等艦に定め、航海練習艦とされた)
- 1878年3月17日 12:30|日本| ||明治11年|<東京神田明治11年黒門町の大火>21時半ごろ、神田黒門町五番地の浅井勝五郎方から出火、神田一帯に燃え広がった。炎は北側に隣接する鍋町、東松下町、通新石町を焼き、平永町と小柳町から柳原本町三丁目と四丁目の河岸まで達した。また南側は松田町から富山町、紺屋町へと焼き広げ、北乗物町、鍛冶町、東紺屋町と、炎は扇形に広がって燃え、その先の西福田町へ出たところで東へ転じ、南乗物町、美倉町、東福田町、神田材木町と大通りに沿って帯状に延焼。また炎の一部は日本橋まで延び、大伝馬町、小伝馬町、鉄砲町などへも伸びた。翌日午前4時鎮火。被害は2人死亡、町数で32か町、5120戸を全焼
- 1878年3月18日-02:00|南アフリカ| |||<植民地>ケープ植民地がウールワース湾を併合
- 1878年3月20日-09:00|日本| ||明治11年|<開催>「松山全国物産博覧会」(~5.8)[開催地]愛媛県[会場]松山城公園[主催]松山博覧会社
- 1878年3月21日-09:00|日本| ||明治11年|<公布>明治11年内務省甲布達第6号「浅草文庫書籍借覧人心得方規則中追加」
- 1878年3月23日 06:00|アメリカ/メキシコ| |||アメリカがメキシコのデ・イヌ政権を承認
- 1878年3月24日-09:00|日本| ||明治11年|『団々珍聞』、黒田清隆の醜聞を風刺して発行停止
- 1878年3月24日-01:00|イタリヤ| |||<就任>イタリヤ王国首相(閣僚評議会議長)「ベネディクト・カローリ」(1回目~12.19)
- 1878年3月25日-09:00|日本| ||明治11年|軍艦「高雄丸」長崎の佐野弥平に売却
- 1878年3月25日-09:00|日本| ||明治11年|東京・木挽町十丁目に工部省電信中央局が開業/全国主要都市および国際電報の受け付けを開始
- 1878年3月25日-09:00|日本| ||明治11年|日本初の電灯/東京・虎ノ門の工部大学校(東大工学部)で50個のフランス製アーク灯が15分間点灯した
- 1878年3月28日-09:00|日本|群馬県高崎市|明治11年|<高崎大火>住吉町より出火、700戸あまりが焼失
- 1878年3月29日-09:00|日本|広島大学|明治11年|<改称>「広島県医学校」病院へ合併⇒「広島県病院附属学校」
- 1878年3月30日-06:30|ミャンマー/イギリス| |||<就任>英領下ビルマ主席弁務官「チャールズ・アンファースト・アイトン」(~18800702)
- 1878年3月30日-05:30|インド| |||<就任>パタヤイ国支配者(ナワブ)「モハメド・モムタズ・サイヤン・アリ・カーン」(~1898年没)
- 1878年4月-09:00|日本| ||明治11年|「第4回奈良博覧会」開催(~7月)[開催地]奈良県[会場]東大寺大仏殿[主催]奈良博覧会社
- 1878年4月-09:00|日本|青山学院|明治11年|東京築地に耕教学舎が設立される
- 1878年4月-09:00|日本|愛媛県喜多郡内子町|明治11年|<設立>私立病院普衛館[愛媛県喜多郡大洲本町]
- 1878年4月-09:00|日本|川崎重工|明治11年|<創業>川崎正蔵「川崎築地造船所」(東京築地南飯田町の官有地を借受け)
- 1878年4月-09:00|日本|名古屋大学|明治11年|公立医学所を公立医学校と改称
- 1878年4月 00:00|セネガル| |||<就任>ファタト・ロ統治者統治者(アルマニ)「ソグエイ・エリ・ハロ」(2回目~1879年7月)
- 1878年4月1日-09:00|日本| ||明治11年|「郵便報知」(新聞)に初めて棋譜(中川亀三郎・古橋杵三郎の3月29日対局)が掲載される
- 1878年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「トメニコ・ファットリ」[マリノ・バッポネーニ]
- 1878年4月1日 05:00|コロンビア/ブラジル/ペルー| |||<就任>コロンビア合衆国大統領「ジュリアン・トルヒーヨ・ラルガチャ」(18800401から代行~18800408)
- 1878年4月2日-09:00|日本|北越銀行|明治11年|<設立>第六十九国立銀行(長岡;12.20開業)
- 1878年4月4日-09:00|日本| ||明治11年|大日本帝国海軍の木製巡洋艦「天城」(920トン)横須賀造船所で竣工
- 1878年4月7日-01:00|チェコ| |||チェコスラフ社会民主党が創立
- 1878年4月10日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治11年|<開催>聚楽園(旧松山城跡公園)で物産博覧会(~5.29)
- 1878年4月11日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア知事「Jean-Baptiste Leon Olry」(~18800808)
- 1878年4月12日-09:00|日本|秋田大学|明治11年|太平学校を秋田師範学校と改称
- 1878年4月15日-09:00|日本|東京大学|明治11年|工部大学校開校
- 1878年4月16日-09:00|日本|広島県|明治11年|<移転>「広島県庁」[広島水主町]新築
- 1878年4月17日-09:00|日本|千葉県館山市|明治11年|<死去>平岡道弘(81歳)元安房船形藩主、若年寄
- 1878年4月18日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「メフメド・サトウク・ハシヤ」(~5.28)
- 1878年4月19日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オレンジ自由国政府書記代行「オロフ・ヨハネス・トルター」(~5.20)
- 1878年4月19日-01:00|ベナン/フランス| |||<就任>コトヌのフランス総領事「アルバート・リチャード・アルタン・デルティユ」(~1881年)
- 1878年4月20日-09:00|日本/ロシア|北海道|明治11年|前年11月19日に北海道瀬棚海岸沖にて暴風に煽られ座礁し地元住民により救助されたロシア軍艦「アレウト」乗組員60人を迎えに来た軍艦「エルマック」へ「アレウト」乗組員がボートで向かう途中高波により転覆、12人が犠牲になった

1880迄 (3454件)

- 1878年4月21日-01:00|ハンガリー| |||ハンガリーで非有権者党が結成
- 1878年4月23日-01:00|スロベニア/オーストリア| |||<就任>オーストリア領スロベニア大統領「フランツ・リッター・カーナ・フォン・ウルハノウ」(~18800408)
- 1878年4月25日 00:00|イギリス| |||<死去>アン・シュエル、作家(生年1820年)
- 1878年4月26日-09:00|日本|日本化学会|明治11年|各方面の化学者の集団として化学会創立(翌年、東京化学会と改称、のち日本化学会と改称)
- 1878年4月26日 04:00|プエルトリコ| |||<死去>プエルトリコ総督兼総司令官「ルン侯Manuel de la Serna y Hernandez」
- 1878年4月26日 04:00|プエルトリコ| |||<就任>プエルトリコ総督兼総司令官代理「Jose Gamir Maladen」(1期目~6.24)
- 1878年4月27日-05:30|インド| |||加カッタ大学に最初的女子学生が入学
- 1878年4月28日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>キエフホシニャーヴォルニニ総督「Mikhail Ivanovich Chertkov」(~18810125)
- 1878年4月29日 06:00|アメリカ| |||ニューヨークに初めて高架鉄道開通
- 1878年5月-09:00|日本| ||明治11年|<創建>兜神社(東京都日本橋兜町)
- 1878年5月-09:00|日本| ||明治11年|八馬兼介は経営する八馬商店に船舶部を設け、西宮浜久保町で風帆船西尾丸(442G/T)を購入して海運業を開始
- 1878年5月-09:00|日本|熊本大学|明治11年|熊本県立仮熊本師範学校を熊本師範学校と改称
- 1878年5月-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<設立>第四十九国立銀行(京都;6.1開業)
- 1878年5月1日-09:00|日本| ||明治11年|<移転開館>「書籍館」[大阪市北区常安町](教育博物館併設)
- 1878年5月1日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年大蔵省甲布達第013号「起業公債証書発行条例」公布
- 1878年5月1日-01:00|スペイン/キューバ| |||ハヤメ、マンサニョに続きベリサリオ・デ・アラタ大佐の率いるルギンも陥落
- 1878年5月2日 06:00|アメリカ| |||<ワッシュバートン製粉所大爆発>ミシシッピ州・ミネアポリスにあるワッシュバートン製粉所で粉塵爆発。18人が死亡
- 1878年5月3日-05:30|インド| |||<就任>サントウル国ラジャ「ラマチャンドラ・ヴァイッラ・ラオ」(~18921203没)
- 1878年5月3日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督代行「統治評議会:アリス・テ・オルネラス・エ・ヴァスコンセルス(2回目)/ジョアン・カエターノ・ダ・シルバ・カンホス(2回目)/フランスコ・ザビエル・ソアレス・ダ・ウエイガ(2回目)/トマス・ヌネス・ダ・セルヴァ・エ・モウラント・コ・セルビオ・デ・ソウザ・ジニア/エドゥアルド・アウグスト・ヒントバル・レマン(2度目)」(~12.3)
- 1878年5月4日-09:00|日本| ||明治11年|日本海軍の軍艦「金剛」(18770417イギリス・ハルのアール社で進水)就役
- 1878年5月4日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第008号「株式取引所条例制定株式取引条例廃止」公布;明治11年太政官布告第009号「海外行印鑑免状渡方廃止外務省布達海外旅券規則ニ照準」公布;明治11年太政官布告第010号「蚕種原紙規則蚕種製造組合条例並会議局規則夏蚕製造方布告廃止」公布
- 1878年5月13日 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ゴルト・コースト総督・最高司令官代行「チャールズ・キャモン・リース」(3回目~18790630)
- 1878年5月13日 06:00|アメリカ| |||アメリカの物理学者ジョセフ・ヘンリー没(17971217~)電磁誘導を発見
- 1878年5月14日-09:00|日本|東京都千代田区|明治11年|<死去>大久保利通。紀尾井坂にて西郷心酔者の石川県士族島田一郎ら5人に暗殺される(49歳、文政13(1830)0810生)
- 1878年5月15日-09:00|日本| ||明治11年|朝野新聞、7日間の発行停止(日刊紙の発行停止の初め)
- 1878年5月15日 04:00|フォーランド/イギリス| |||<就任>イギリス領フォーランド諸島総督代理「アーサー・Bailey」(~12.20)
- 1878年5月19日-01:00|ベナン/フランス| |||コヌーはフランスの保護領(ガボンに付属)となる(1883年にポルトガルの保護領と合併)
- 1878年5月20日-02:00|南アフリカ| |||<就任>オランダ自由国政府書記「ピーター・ジエミアス・ブリニョー」(~19020531)
- 1878年5月20日-01:00|フランス| |||「パリ万国博覧会」開催(~11月10日)[会場]シャン・ド・マルス庭園[主催]政府・民間(日本参加)[入場者]16,032,725人●「エジソンの初期蓄音器、馬車用ゴム、タイヤ、自動車、500人乗り係留<開館>トカテロ水族館
- 1878年5月21日-02:00|ブルガリア/ロシア| |||<就任>ブルガリア駐在ロシア帝国弁務官「クニャース・アレクサンドル・ミハイロヴィッチ・ドントウコフコルサコフ」(~18790709)
- 1878年5月21日-01:00|スペイン/キューバ| |||カルハール大統領、スペインとの和平を受け入れ、ロマーデ・ペレーダでスペインに対し降服
- 1878年5月23日-09:00|日本| ||明治11年|文部省、学制に基づき制定された小学教則等を一括廃止
- 1878年5月24日-09:00|日本| ||明治11年|<死去>初代鶴澤清六(55歳)文楽義太夫節三味線方
- 1878年5月24日-09:00|日本|京都府立聾学校|日本初の盲啞学校の「京都盲啞院」が京都市上京区に開校/生徒は盲児20名、聾児29名で、生徒の通学には人力車十数両が用いられる
- 1878年5月25日-09:00|日本| ||明治11年|札幌農学校でクラーク博士が提唱していた第1回運動会が開催される(学校運動会の初め)
- 1878年5月25日-09:00|日本| ||明治11年|有害鳥の排除規則施行(17日布達)
- 1878年5月27日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第012号「貿易銀貨一般通用」公布;明治11年太政官布告第013号「貨幣条例中貨幣通用制限第五節並造幣規則中改正」公布;明治11年太政官布告第014号「違式が違条例第三条中増加」公布
- 1878年5月28日-09:00|日本| ||明治11年|新富座新築落成
- 1878年5月28日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「ミュテルラム・マフメト・リュシュティ・イ・ハシヤ」(5期目~6.4)
- 1878年5月28日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ラッセル伯「ジョン・ラッセル」元イギリス首相(生年1792年)
- 1878年5月28日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ラッセル伯「フランク・ラッセル」(~19310303死去)
- 1878年5月28日 04:00|セントピント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントピント副総督代行「エドワード・ダニエル・ラホルト」(~18

1880迄 (3454件)

790321)

- 1878年5月30日 00:00|イギリス/ロシア| ||ロシア暦:1878/5/18|ロシアがイギリスと秘密協定を結び、ブルガリア大公国の領土を縮小することに合意
- 1878年5月31日 06:00|アメリカ| ||グリーンバック紙幣回収禁止法制定
- 1878年6月-09:00|日本| ||明治11年|加賀大聖寺から丸岡町にいたる新道が完成
- 1878年6月-09:00|日本| |広島修道大学|明治11年|修道館を母体に私立浅野学校設立
- 1878年6月-01:00|コソボ/アルバニア| ||<就任>コソボのワス(総督)「メフメト・ナジフ・パシャ・マヌティルリ」(~1879年12月)
- 1878年6月1日-09:30|オーストラリア| ||鉄製快速船ロック・アード号がウイクトリアの南海岸で難破し、45人が死亡し、2人が生き残った
- 1878年6月1日-09:00|日本| |東京証券取引所|明治11年|小松彰・渋沢喜作(栄一)ら、東京兜町に東京株式取引所を開業
- 1878年6月1日-01:00|フランス| ||日本がパリで万国郵便連合条約に調印
- 1878年6月2日-01:00|ドイツ| ||ドイツ皇帝ヴィルヘルム1世が狙撃され重傷
- 1878年6月3日 06:00|アメリカ| ||アメリカ、樹木伐採法と樹木及び石材法制定
- 1878年6月4日-09:00|日本| ||明治11年|海軍兵学校横須賀分校を海軍兵学校附属海軍機関学校と改称
- 1878年6月4日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国総理大臣「サファット・パシャ」(~12.4)
- 1878年6月4日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地マルタ総督「アーサー・Borton卿」(~18840408)
- 1878年6月4日-01:00|ドイツ| ||<就任>ドイツ帝国摂政「フリードリヒ・ヴィルヘルム・フォン・プロシエン」(~18781205/無能力のヴィルヘルムのために代行)
- 1878年6月4日 00:00|イギリス/キプロス/トルコ| ||イギリスとオスマン帝国の間に秘密同盟が結ばれる/イギリスはキプロスの支配権を獲得
- 1878年6月5日-09:00|日本| ||明治11年|春季皇霊祭(春分日)・秋季皇霊祭(秋分日)制定
- 1878年6月6日-09:00|日本| ||明治10年|<大相撲>明治11年6月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西幕内格別席)響矢,6勝1敗1分2休/梅ヶ谷31連勝
- 1878年6月6日-01:00|オーストリア/イギリス| ||イギリスとオーストリアが秘密協定を結び、ブルガリア領土の削減とロシアの南下政策を阻止することで合意
- 1878年6月7日-09:00|日本| ||明治11年|<開館>新富座(東京市京橋区新富町6丁目,新築)舞台内外にガス灯を設置するなど近代的な装置を施す
- 1878年6月9日-01:00|ベルギー| ||<死去>バルテルミー・シャルル・ジョゼフ・デュモルティエ,政治家・植物学者(生年1797年)
- 1878年6月10日-09:00|日本| ||明治11年|東京・市谷に陸軍士官学校が新築,開校式
- 1878年6月10日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第015号「外国勲章佩用免許願手續改正」公布
- 1878年6月10日-01:00|マルタ/イギリス| ||<就任>イギリス領マルタ総督「アーサー・ボートン」(~1884.4)
- 1878年6月12日-01:00|ドイツ| ||<即位>ハノーファー王エルンスト・オカスト2世(~19231114)
- 1878年6月12日 00:00|イギリス| ||<死去>カンパ・ランド=テウ・イオット・イル公「ジョージ」
- 1878年6月12日 00:00|イギリス| ||<就任>カンパ・ランド=テウ・イオット・イル公「アーネスト・オーガスタス」(~19190328,公位剥奪)
- 1878年6月12日 06:00|アメリカ| ||アメリカ合衆国のチャールズ・リッチェルの開発した人力飛行船がマーク・キランの操縦で、コネチカット州のハートフォードで飛行
- 1878年6月14日-09:00|日本| ||明治11年|青山の大宮御所内に能楽堂開設
- 1878年6月15日-11:00|ニューカドニア/フランス| ||ニューカドニアの一部であるイルズ・フェスターフィールドをルイ・アドルフ・ガイヤン中尉がフランスに併合
- 1878年6月16日-09:00|日本| ||明治11年|<死去>菊池容斎(91歳,生年1788年)絵師/「前賢故実」作者
- 1878年6月16日-09:00|日本| |長崎県|明治11年|<改称>崎陽師範学校(新町)⇒長崎県立師範学校;<廃止>佐賀師範学校
- 1878年6月19日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー-内閣長官「ユベール・ジョゼフ・ヴァルテル・フレール=オルバン」(2回目~18840616)
- 1878年6月19日 04:00|セントルシア/イギリス| ||<就任>イギリス領セントルシア管理者「アーサー・エリバンク・ハブロック」(~18790829)
- 1878年6月20日-09:00|日本| ||明治11年|福井の九十九橋修復,すべて板橋となる
- 1878年6月21日-09:00|日本| |三重県亀山市|明治11年|<死去>石川成之(24歳)元伊勢亀山藩主・知藩事
- 1878年6月21日-09:00|日本| |山梨中央銀行|明治11年|<設立>貸付商会(山梨;のち富士銀行)
- 1878年6月22日-09:00|日本| |新潟県糸魚川市|明治11年|<死去>松平直春(69歳)元越後糸魚川藩主
- 1878年6月24日 04:00|プエルトリコ| ||<就任>プエルトリコ総督兼総司令官「カスパー・伯Eulogio Despujol y Dussay」(~18810706)
- 1878年6月25日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>興風社「広島雑誌」
- 1878年6月26日-12:00|フィジー/イギリス| ||<就任>イギリス領西太平洋高等弁務官代行「ジョン・ゴリ」(~18790910)
- 1878年6月26日-12:00|フィジー/イギリス| ||<就任>フィジー-総督代行「ジョージ・ウィリアム・デ・ウー」(1回目~18790910)
- 1878年6月27日-09:00|日本| |お茶の水女子大学|明治11年|東京女子師範学校に幼稚園保姆練習科を設置
- 1878年6月28日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ| ||ボスニアで反乱(~8.19)
- 1878年6月29日-09:00|日本| ||明治11年|医師の薬商兼業を禁止
- 1878年6月29日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年内務省甲布達第020号「部分木仕付条例第四条中加除」公布
- 1878年7月-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第六十四国立銀行(大津;7.20開業)
- 1878年7月-09:00|日本| ||明治11年|横浜市、婦女弄鞠社に山手公園の地を貸与してテニスコートを設置
- 1878年7月-09:00|日本| ||明治11年|木製貨客船「運輸丸」(128G/T)大阪・安治川で建造進水

1880迄 (3454件)

- 1878年7月-05:30|インド| |||<就任>サンガリ国統治者(王)「ウオーラー」(~1880年8月)
- 1878年7月-03:00|スーダン| |||スーダンのパフル・アル・ガザール州で反乱
- 1878年7月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュトウのワリス「ヒューセイ・パシヤ」(~同年)
- 1878年7月1日-09:00|日本| ||明治11年|<設置>我が国初の地方測候所「内務省地理局長崎測候所」(長崎県肥前国西彼杵郡下長崎村十善寺郷中ノ平361番地)/電信回線が開通している兵庫、仙台、新潟、青森にもそれぞれ設置/気象観測は毎日3回行なわれ、内務省地理局測量課へ電信で報告
- 1878年7月1日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>愛善社「芳譚雑誌」家庭常備薬「宝丹」の本舗がスポンサーのPR誌
- 1878年7月1日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「バスコ・デ・シモン・カヴァーリョ・エ・メネズ」(~1880 0708)
- 1878年7月2日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第016号「銀行紙幣五円札発行」公布
- 1878年7月3日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「ヒューゴ・グデア・デ・ラセタ・カステロ・ブランコ」(2 期目~18800901)
- 1878年7月4日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年大蔵省甲布達第023号「起業公債証書発行条例中追加削除」公布
- 1878年7月6日 04:00|トミニカ共和国| |||<就任>トミニカ共和国大統領「イクナオ・マリア・ゴンサレス・イ・サンティン」(5回目~9. 2)
- 1878年7月7日-09:00|日本| ||明治11年|<死去>3代澤村田之助(34歳)歌舞伎役者(女形名人)
- 1878年7月9日-09:00|日本|京都府京都市|明治11年|<死去>鷹司輔熙(72歳)元関白、右大臣
- 1878年7月10日-09:00|日本|東京都|明治11年|政府が東京神田神保町に、府立脚気病院設立
- 1878年7月12日-02:00|キプロス/イギリス| |||<就任>イギリス保護領キプロス行政官「ジョン・ヘイ卿」(~22日)
- 1878年7月12日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア・ヘルツェゴビナ総督「ハフィズ・アフメト・パシヤ」(~8. 19)
- 1878年7月13日-02:00|モルバ/ロシア| |||イスマイル郡、チャル郡、ポルクラト郡がロシアに返還される
- 1878年7月13日-02:00|ルーマニア/セルビア/モンテネグロ| |||ベルリン会議で、セルビア・モンテネグロ・ルーマニア独立承認
- 1878年7月13日-01:00|セルビア| |||ニッシュをセルビアが併合
- 1878年7月13日-01:00|ドイツ/ロシア/トルコ| |||ベルリン会議で、露土戦争調停のサン・ステファノ条約が破棄され、ベルリン条約が締結される/サン・ステファノ条約で定められたセルビア、モンテネグロ、ルーマニアの三国の独立は認められた/セルビアとモンテネグロの領土は戦争前と比べて拡大したものの、サン・ステファノ条約で得た領土の大部分はオスマン帝国に返還/サン・ステファノ条約で成立した、広汎な自治権を持つ大ブルガリア公国は三分割/マケドニアはオスマン帝国に返還、残る地域のうち、バルカン山脈以北がオスマン帝国主権下の自治国であるブルガリア自治公国となり、バルカン山脈以南はオスマン帝国の自治州である東ルメリ自治州となった/サン・ステファノ条約では自治権が付与されることになっていたボスニアとヘルツェゴヴィナは、オーストリア・ハンガリー帝国が占領することとなった(ボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合)/サン・ステファノ条約では黒海南岸のバトゥミとアトリア東部のカス、アルダハ、トウバヤットがロシアに割譲されることになっていたが、このうちトウバヤットはオスマン帝国に返還
- 1878年7月15日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>外人専用ホテル「富士屋ホテル」(箱根町宮ノ下359/温泉村底倉359、藤屋旅館を買収→1906年西洋館1号・2号開業)
- 1878年7月15日-09:00|日本| ||明治11年|工部大学校開校式挙行
- 1878年7月19日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>大阪株式取引所
- 1878年7月19日-09:00|日本|横浜銀行|明治11年|<創立>横浜第七十四国立銀行(横浜・南仲通;7. 30開業)
- 1878年7月19日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「ルネ・ポル・ド・イ・コソ」(2回目~12. 16)
- 1878年7月20日 00:00|イギリス| |||<テニス>第2回ウィンブルドン選手権男子シングルス優勝:フランク・ハドール
- 1878年7月22日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第017号「郡区町村編制法」公布;明治11年太政官布告第018号「府県会規則」公布;明治11年太政官布告第019号「府県税及民費ノ名目ヲ以テ徴収セシメ府県費ニ費ラズ地方税ト改メ規則ヲ定ム」公布
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての阿賀郡発足、郡役所は新見村;下道郡発足、郡役所は川辺村;賀陽郡発足、郡役所は八部村;窪屋郡発足、郡役所は倉敷村;御野郡、岡山区発足、郡役所は巖井村;児島郡発足、郡役所は味野村;勝南郡発足、郡役所は勝間田村;上房郡発足、郡役所は高梁本町;真島郡発足、郡役所は高田村;赤坂郡発足、郡役所は町刈田村;川上郡発足、郡役所は下原(東成羽)村;津高郡発足、郡役所は金川村;都宇郡発足、郡役所は下撫川村;磐梨郡発足、郡役所は吉原村;邑久郡発足、郡役所は尾張村;和気郡発足
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県英田郡|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての英田郡発足;行政区画としての吉野郡発足、郡役所は下庄(下町)村
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県浅口郡|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての浅口郡発足、郡役所は玉島村
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県井原市|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての下道郡発足、郡役所は井原村
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県岡山市|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての岡山区・上道郡発足、郡役所は藤井村
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県小田郡|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての小田郡発足、郡役所が笠岡町
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県勝田郡|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての勝北郡発足、郡役所は勝加茂西村
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県久米郡|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての久米南条郡・久米北条郡発足
- 1878年7月22日-09:00|日本|岡山県津山市|明治11年|<発足>岡山県で行政区画としての東南条郡・東北条郡発足

1880迄 (3454件)

- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岡山県 苫田郡 | 明治11年 | <発足>岡山県で行政区画としての西尾条郡・西北尾条郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岡山県 新見市 | 明治11年 | <発足>岡山県で行政区画としての阿賀郡発足, 郡役所は新見村
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岡山県 真庭市 | 明治11年 | <発足>岡山県で行政区画としての大庭郡発足, 郡役所は久世村
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 | 明治11年 | <発足>愛媛県香川郡が行政区画として発足、郡役所を高松に設置; 鶴足郡が行政区画として発足「阿野鶴足郡役所」が阿野郡坂出村に設置され阿野郡とともに管轄; 寒川郡が行政区画として発足、「大内寒川郡役所」が津田村に設置され大内郡とともに管轄; 豊田郡が行政区画として発足「豊田三野郡役所」が観音寺村に設置され三野郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 綾歌郡 | 明治11年 | <発足>愛媛県阿野郡が行政区画として発足「阿野鶴足郡役所」が坂出村に設置され鶴足郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 木田郡 | 明治11年 | <発足>愛媛県三木郡が行政区画として発足「三木山田郡役所」が三木郡池戸村に設置され山田郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 小豆郡 | 明治11年 | <発足>愛媛県小豆郡が行政区画として発足、郡役所を土庄町に設置
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 高松市 | 明治11年 | <発足>愛媛県山田郡が行政区画として発足「三木山田郡役所」が三木郡池戸村に設置され三木郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 仲多度郡 | 明治11年 | <発足>愛媛県[多度郡・那珂郡]が行政区画として発足「那珂多度郡役所」が那珂郡丸亀に設置されともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 東かがわ市 | 明治11年 | <発足>愛媛県大内郡が行政区画として発足「大内寒川郡役所」が寒川郡津田村に設置され寒川郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 香川県 三豊市 | 明治11年 | <発足>愛媛県三野郡が行政区画として発足「豊田三野郡役所」が豊田郡観音寺村に設置され豊田郡とともに管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 | 明治11年 | <発足>岐阜県で益田郡・下石津郡・海西郡・各務郡・吉城郡・恵那郡・山県郡・席田郡・大野郡・中島郡・土岐郡・武儀郡・本巢郡・郡上郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 安八郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で安八郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 揖斐郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で大野郡・池田郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 可児郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で可児郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 加茂郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で加茂郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 岐阜市 | 明治11年 | <発足>岐阜県で厚見郡・方県郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 羽島郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で羽栗郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 岐阜県 不破郡 | 明治11年 | <発足>岐阜県で上石津郡・多芸郡・不破郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 高知県 | 明治11年 | <発足>高知県で行政区画としての土佐郡・幡多郡・高岡郡・吾川郡・長岡郡・香美郡・安芸郡補足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 佐賀県 | 明治11年 | <発足>佐賀県で行政区画としての佐賀郡・神埼郡・養父郡・基肄郡・小城郡・杵島郡・藤津郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 佐賀県 西松浦郡 | 明治11年 | <発足>長崎県松浦郡を分割し行政区画としての西松浦郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 佐賀県 東松浦郡 | 明治11年 | <発足>長崎県松浦郡を分割し行政区画としての東松浦郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 佐賀県 三養基郡 | 明治11年 | <発足>佐賀県で行政区画としての三根郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての秋鹿郡・仁多郡・邇摩郡・安濃郡・邑智郡・那賀郡・鹿足郡・神門郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 飯石郡 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての飯石郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 出雲市 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての出雲郡・楯縫郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 雲南市 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての大原郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 隠岐郡 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画として周吉郡・穂地郡・知夫郡・海士郡が発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 益田市 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての美濃郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 松江市 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての島根郡・意宇郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 島根県 安来市 | 明治11年 | <発足>島根県で行政区画としての能義郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画として長柄郡・海上郡・匝瑳郡・上埴生郡発足; 行政区画としての望陀郡・周准郡が発足、郡役所は天羽郡とともに望陀郡木更津村に置かれた; 行政区画としての千葉郡発足、市原郡とともに千葉町に「千葉市原郡役所」設置管轄; 下総国葛飾郡のうち千葉県に属する部分が分立して東葛飾郡となる; 埴生郡の区域に行政区画としての下埴生郡を設立; 相馬郡のうち千葉県に属する部分に南相馬郡を設置、印旛郡佐倉新町に設けられた郡役所が印旛郡、下埴生郡および南相馬郡の3郡を管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県 市原市 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画としての市原郡発足、千葉郡とともに千葉町に「千葉市原郡役所」設置管轄
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県 印旛郡 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画として印旛郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県 香取郡 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画として香取郡発足

1880迄 (3454件)

- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県山武郡 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画として武射郡・山辺郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 千葉県富津市 | 明治11年 | <発足>千葉県で行政区画としての天羽郡が発足、郡役所は望陀郡・周准郡とともに望陀郡木更津村に置かれた
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての麻植郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県阿波市 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての阿波郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県板野郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての板野郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県海部郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての海部郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県勝浦郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての勝浦郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県那賀郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての那賀郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県美馬郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての美馬郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県名西郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての名西郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県名東郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての名東郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 徳島県三好郡 | 明治11年 | <発足>徳島県で行政区画としての三好郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県岩美郡 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての岩井郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県西伯郡 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての会見郡・汗入郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県東伯郡 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての河村郡・八橋郡・久米郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県鳥取市 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての気多郡・高草郡・法美郡・邑美郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県日野郡 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての日野郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 鳥取県八頭郡 | 明治11年 | <発足>鳥取県で行政区画としての智頭郡・八上郡・八東郡発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県 | 明治11年 | <発足>三重県[伊賀郡・鈴鹿郡・菟芸郡・一志郡・答志郡]が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県伊賀市 | 明治11年 | <発足>三重県[阿拝郡・山田郡]が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県員弁郡 | 明治11年 | <発足>三重県員弁郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県桑名郡 | 明治11年 | <発足>三重県桑名郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県志摩市 | 明治11年 | <発足>三重県河曲郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県鈴鹿市 | 明治11年 | <発足>三重県英虞郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県多気郡 | 明治11年 | <発足>三重県多気郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県津市 | 明治11年 | <発足>三重県安濃郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県名張市 | 明治11年 | <発足>三重県名張郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県松阪市 | 明治11年 | <発足>三重県[飯高郡・飯野郡]が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県三重郡 | 明治11年 | <発足>三重県[三重郡・朝明郡]が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 三重県度会郡 | 明治11年 | <発足>三重県度会郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県 | 明治11年 | <発足>山口県[厚狭郡・豊浦郡・都濃郡・佐波郡・吉敷郡]が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県阿武郡 | 明治11年 | <発足>山口県阿武郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県大島郡 | 明治11年 | <発足>山口県大島郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県玖珂郡 | 明治11年 | <発足>山口県玖珂郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県熊毛郡 | 明治11年 | <編入>山口県熊毛郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県下関市 | 明治11年 | <発足>山口県赤間関区が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県長門市 | 明治11年 | <編入>山口県大津郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県萩市 | 明治11年 | <分割>山口県見島郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山口県美祢市 | 明治11年 | <発足>山口県美祢郡が行政区画として発足
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山梨県 | 明治11年 | <発足>山梨県巨摩郡のうち44村の区域をもって北巨摩郡が発足、郡役所を河原部村に設置; 巨摩郡のうち25村の区域をもって南巨摩郡が発足、郡役所を鵜沢村に設置; 都留郡のうち18村の区域をもって北都留郡が発足、郡役所を大原村に設置; 山梨郡のうち31村の区域をもって東山梨郡が発足、郡役所を日下部村に設置; 八代郡のうち42村の区域をもって東八代郡が発足、郡役所を鶴飼村に設置
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山梨県甲府市 | 明治11年 | <発足>山梨県山梨郡のうち1町15村の区域をもって西山梨郡が発足、郡役所を甲府常盤町に設置
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山梨県中巨摩郡 | 明治11年 | <発足>山梨県巨摩郡のうち52村の区域をもって中巨摩郡が発足、郡役所を竜王村に設置
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山梨県西八代郡 | 明治11年 | <発足>山梨県八代郡のうち35村の区域をもって西八代郡が発足、郡役所を市川大門村に設置
- 1878年7月22日-09:00 | 日本 | 山梨県南都留郡 | 明治11年 | <発足>山梨県都留郡のうち21村の区域をもって南都留郡が発足、郡役所を谷村に設置
- 1878年7月22日-02:00 | ｷﾞﾌﾞﾘｽ / ｲｷﾞﾘｽ | ||| <就任>ｲｷﾞﾘｽ保護領ｷﾞﾌﾞﾘｽ高等弁務官・最高司令官「ガ-ネット・ｼﾞｮﾌﾞ・ｳｵﾙｽﾞﾘ-卿」(~18790623)
- 1878年7月24日-08:00 | 中国 | || 清・光緒4年6月25日 | 李鴻章が、招商局の石炭を自給するため、中国初の近代的炭坑の開平鉱務局を設立
- 1878年7月25日-09:00 | 日本 / ｱﾒﾘｶ | || 明治11年 | 日米修好通商条約中、関税改定約書調印(翌年7月1日布告、但し

1880迄 (3454件)

発効せず)

1878年7月25日-09:00|日本| ||明治11年|府県官職制制定(府県職制並事務章程廃止)
1878年7月26日-09:00|日本| ||明治11年|<死去>建宮敬仁親王(2歳)明治天皇の皇子
1878年7月27日-09:00|日本|東京都新宿区|明治11年|大久保利通暗殺犯6名斬罪
1878年7月28日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治11年|高島炭鉱坑夫賃上げ要求し暴動、100余人逮捕
1878年7月29日-03:00|イェメン| ||<死去>ラッソ朝イマム「ムタワキル・アルム・シン・ビーン・アフマド」
1878年7月29日-01:00|オーストリア/ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| ||オーストリア=ハンガリー軍がボスニアに出兵
1878年8月-09:00|日本| ||明治11年|「第2回秋田博覧会」開催(～9月)[開催地]秋田県[会場]八橋植物園[入場者]30,000人
1878年8月-09:00|日本|常陽銀行|明治11年|<設立>第五十国立銀行(土浦;9.9開業)
1878年8月-09:00|日本|山形銀行|明治11年|<設立>第八十一国立銀行(山形;12.16開業)
1878年8月-02:00|ザンビア| ||<就任>ブローズ 王国統治者(ムブム・ワ・リトゥンガ)「ルシシ世」(1回目～1884年8月)
1878年8月 04:00|グレタ/イギリス| ||<就任>グレタ 副総督代行「サミュエル・ミッセル」
1878年8月1日-09:00|日本| ||明治11年|渋沢栄一らによる東京商法会議所設立(のち、大阪・長崎・横浜に設立)
1878年8月1日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<開業>第四十四国立銀行(東京)
1878年8月3日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第020号「常備兵役ノ竟ハル前分家スルヲ禁ス」公布
1878年8月3日 05:00|キューバ| ||ハバナでキューバ 地区委員会を母体に自由党創設
1878年8月7日-09:00|日本|茨城県下妻市|明治11年|<死去>井上正兼(56歳)元常陸下妻藩主
1878年8月8日 04:00|グレタ/イギリス| ||<就任>グレタ 副総督「トマス・カー」(～18790402)
1878年8月9日-09:00|日本| ||明治11年|新富座「舞台明治世夜劇」と題し歌舞伎最初の夜芝居興行
1878年8月9日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第021号「薬用阿片売買並製造規則制定阿片取扱規則廃止」公布
1878年8月9日-01:00|ハチカン| ||<就任>ハチカン枢機卿國務長官「ロイツォ・ニコナ」(～18801216)
1878年8月14日 00:00|イギリス/キプロス/トルコ| ||トルコが、キプロス島の統治権をイギリスに譲渡
1878年8月15日-09:00|日本|東京証券取引所|明治10年|大阪株式取引所開業
1878年8月15日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第百国立銀行(東京;9.4開業)
1878年8月16日 05:00|キューバ| ||ボルトリオの流れをくむ親スペイン派、自由党に対抗して立憲連合党を結成
1878年8月18日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|(小判)小判切手(1877年)額面:20銭,30銭,45銭発行
1878年8月19日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/オーストリア/ハンガリー| ||<就任>オーストリア=ハンガリー軍ボスニア・ヘルツェゴビナ司令官「ヨゼフ・フライヘル・フィリップ・グィッチ・フォン・フィリップスブルク」(～11.18)
1878年8月21日-09:00|日本| ||明治11年|<死去>林玄仲、医師・役人(生年1795年)
1878年8月21日 06:00|アメリカ| ||米国弁護士協会設立
1878年8月22日 00:00|イギリス| ||<死去>フヴァーエル・リー・モーター、児童文学作家(生年1802年)
1878年8月23日-09:00|日本|東京都千代田区|明治11年|近衛砲兵隊が、減給などに反発して反乱を起こすが、翌日鎮圧される(竹橋騒動)
1878年8月24日-01:00|チュニジア| ||<就任>サイッ朝大法官「ムスタファ・ベーン・イスマイル・イスマイル」無所属(～18810912)
1878年8月27日-09:00|日本| ||明治11年|大阪商法会議所設立
1878年8月27日-09:00|日本|東京証券取引所|明治11年|五代友厚ら、大阪北浜に大阪株式取引所を開業
1878年8月28日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第022号「新旧公債証書発行条例並家禄引換公債利息渡方改正」公布
1878年8月28日-05:30|インド| ||<就任>ハランブル国統治者(ティーン)「ゾフダット・アル・モルク・シル・モハマト・カーン」(～1910年)
1878年8月28日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「ホコス・ヌバル・パシャ」(1回目～18790223)
1878年8月30日-09:00|日本| ||明治11年|<竣工>亀甲橋(山梨市)
1878年8月30日-09:00|日本|群馬県|明治11年|<完成>群馬県衛生所兼医学校(→移築・相生村役場→桐生明治館)
1878年8月30日-08:00|中国| ||清・光緒4年8月3日|福州の烏石山で、イギリス人司祭の住宅が焼き打ちされる
1878年9月-09:00|日本|日本郵船|明治11年|<開設>郵便汽船三菱会社[函館-根室]間定期航路
1878年9月-09:00|日本|フイテアホールディングス|明治11年|<設立>第六十七国立銀行(鶴岡;12.1開業)
1878年9月-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第四十国立銀行(館林)
1878年9月1日-09:00|日本|新潟県長岡市|明治11年|<死去>牧野忠恭(55歳)元越後長岡藩主
1878年9月2日 04:00|ドミニカ共和国| ||<就任>ドミニカ共和国大統領「革命運動最高責任者:ユリシズ・イリオン・ヒューロール・ベル/チザレオ・ギレルモ・イ・バスタルト」(～6日)
1878年9月3日-09:30|オーストリア| ||ニューサウスウェールズ 政府が、グイクトリアからグイエリアの交易を奪おうとして、グレイト・サザン鉄道をウオガウガまで伸ばした
1878年9月3日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第023号「札幌裁判所ヲ置キ宮城上等裁判所所轄トス」公布
1878年9月4日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<開業>第四十一国立銀行(栃木)
1878年9月5日-09:00|日本| ||明治11年|新潟～東京間の電信開通
1878年9月6日 04:00|ドミニカ共和国| ||<就任>ドミニカ共和国大統領代行「ハント・テル・マリオ・デ・カストロ」(～30日)
1878年9月7日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第024号「内国製ワル初紋羽綾木綿無税輸出差許ス」公布
1878年9月9日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第025号「金禄公債証書書入質入並売買解禁」公布
1878年9月12日-09:00|日本| ||明治11年|大阪に愛国社再興

1880迄 (3454件)

- 1878年9月12日 00:00|イギリス| ||ロンドンでエジプトのアレクサンドリアからイギリスのテムズ河畔に運ばれてきた古代エジプトのオベリスクであるクハトウの針をテムズ河畔の台座の上に設置
- 1878年9月13日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第026号「金禄公債証書発行条例第二条但書追加」公布
- 1878年9月14日-09:00|日本|伊予銀行|明治11年|<設立>第五十二国立銀行(愛媛県温泉郡紙屋町:9.25開業)
- 1878年9月15日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>「和光雑誌」(河野一郎)
- 1878年9月15日-09:00|日本| ||明治11年|<創設>名古屋博物館(名古屋区門前町総見寺境内、→1881年公立名古屋博物館)
- 1878年9月15日-09:00|日本| ||明治11年|「愛知県博覧会」開催(～11月3日)[開催地]愛知県[会場]総見寺境内[主催]名古屋博物館
- 1878年9月16日-08:00|中国| ||清の光緒4年8月20日|ロシアに逃亡していた陝西イスラム教徒の白彦虎、馬良会らが新疆のウチに侵入する
- 1878年9月17日 06:00|カナダ| ||カナダ総選挙で保守党が勝利
- 1878年9月18日-01:00|チェコ| ||<初演>ヘドヴィ・フスマタ《歌劇「秘密」》
- 1878年9月19日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第027号「売薬規則中改正」公布
- 1878年9月19日-09:00|日本|フィテアホルディングス|明治11年|<設立>第六十七国立銀行(山形:12.1開業)
- 1878年9月20日-05:30|インド| ||<創刊>「サ・ヒンズー」紙(マドラス)
- 1878年9月21日-09:00|日本|長崎県|明治11年|長崎県下にコレラが流行、患者1854、死亡511
- 1878年9月25日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第七十二国立銀行(山形)
- 1878年9月27日-09:30|オーストラリア| ||<就任>南オーストラリア植民地政府首相「ウィリアム・モーガン」(～18810624)
- 1878年9月27日-09:00|日本|静岡銀行|明治11年|<設立>第五十四国立銀行(駿東郡沼津宿:10.11開業)
- 1878年9月27日 00:00|イギリス| ||<就任>初代ケアンズ伯「ヒュー・マッカロン・ケアンズ」(～18850402死去)
- 1878年9月28日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第028号「酒類税則中改正追加」公布
- 1878年9月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・光緒4年9月3日|釜山・豆毛浦に税関を設置、日本製品に関税をかける
- 1878年9月30日 01:00|アリス諸島/ポルトガル| ||<就任>ポントデルガダ民政知事「Gualdino Alfredo Lobo de Gouveia」(1期目～18790619)
- 1878年9月30日 04:00|トミニカ共和国| ||<就任>トミニカ共和国大統領「國務大臣評議会:フェザレオ・ギレモ・イ・バスタルト/アレハンドロ・アングロ・ゲリディ/ヘド・ラモン・マリア・アリスティ・ディアス」(～18790227)
- 1878年9月30日 10:00|ハワイ/ポルトガル| ||最初のポルトガル人移民がフンシャルからハワイ王国へ到着
- 1878年10月-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第七十八国立銀行(中津町)
- 1878年10月-09:00|日本| ||明治11年|木製貨客船「廣嶋丸」(121G/T)大阪・湊屋新田で建造進水
- 1878年10月-03:00|イェメン| ||<即位>ラッシー朝イマム「al-Hadi Sharaf ad-Din」(～18900608死去)
- 1878年10月1日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第031号「国立銀行条例第五十七条改正」公布
- 1878年10月1日-09:00|日本|JR|明治11年|新橋～横浜間および京都～神戸間、上・中等旅客に割引往復切手(割引往復乗車券)を発売
- 1878年10月1日-06:30|ミャンマー| ||<死去>ビルマ王「ミントウンミン」
- 1878年10月1日-06:30|ミャンマー| ||<即位>ビルマ王「ティボーンミン」(～18851129)
- 1878年10月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「カミッロ・ボネリ」[ピエトロ・ベルティ]
- 1878年10月1日 00:00|チャーン諸島| ||<就任>イギリス王領ジャージー島副知事「Lothian Nicholson」(～18830930)
- 1878年10月2日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍スワラ級スloop「クイネボーク」(1900t,フィテアホルディングス海軍工廠)
- 1878年10月3日-09:00|日本|ほくほくフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第九十一国立銀行(福井:12.9開業)
- 1878年10月3日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第三十八国立銀行(姫路:11.20開業)
- 1878年10月3日-08:00|中国| ||清・光緒4年9月8日|清軍がイスラム教徒の馬良会らを殺す
- 1878年10月4日-09:00|日本|長野県松本市|明治11年|<死去>松平光庸(81歳)元信濃松本藩主
- 1878年10月4日 00:00|イギリス| ||<ゴルフ>第18回全英オープン選手権優勝:ジェミー・アンダーソン(2回目)(スコットランド/157)
- 1878年10月5日-09:00|日本|ほくほくフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第五十七国立銀行(福井県武生:10.28開業)
- 1878年10月7日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第百八国立銀行(福島)
- 1878年10月7日-09:00|日本| ||明治11年|<創建>出水神社(熊本市水前寺公園)
- 1878年10月7日-09:00|日本|第四銀行|明治11年|<設立>第七十一国立銀行(村上:11.15開業)
- 1878年10月7日-01:00|フランス| ||<初演>シャル・フランソワ・グノー《歌劇「ボリュクト」》
- 1878年10月8日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第百十二国立銀行(東京)
- 1878年10月8日-09:00|日本|岩手銀行|明治11年|<設立>第九十国立銀行(岩手:12.2開業)
- 1878年10月8日-09:00|日本|四国銀行|明治11年|<設立>第八十国立銀行(高知県土佐郡下知村農民町11番邸:10.28開業)
- 1878年10月8日-09:00|日本|南都銀行|明治12年|<設立>「第六十八国立銀行」(奈良県大和郡山:18790111開業)
- 1878年10月8日-02:00|ルーマニア/ロシア| ||トブルジャはベッサラビア南部の3つの地区と引き換えに、ロシアからルーマニアに割譲される
- 1878年10月9日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>団団社、大衆雑誌「驥尾団子」(「団団珍聞」の附録小説欄を拡大独立)
- 1878年10月10日-09:00|日本|長野県諏訪市|明治11年|<死去>諏訪忠礼(26歳)元信濃諏訪藩主・知藩事
- 1878年10月10日-02:00|リト/イギリス| ||<就任>ケープ植民地政府パストラント職員「チャールズ・ダンカン・グリフィス」(3回目～188

1880迄 (3454件)

10825)

1878年10月11日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第九十二国立銀行(福井;12.2開業)
1878年10月11日 06:00|アメリカ| ||<就役>アメリカ海軍エンタープライズ級砲艦「ニブシク」(1375t, ワシントン海軍工廠)
1878年10月12日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第七十九国立銀行(松江;11.23開業)
1878年10月12日 00:00|イギリス/ロシア/アフガニスタン| ||ロシア暦9月30日|ロシアを牽制する目的で、イギリス軍がアフガニスタンへの
侵攻を開始
1878年10月13日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ヨヴァン・リストイ」(3度目~18801102)
1878年10月14日-09:00|日本| ||明治11年|兵庫商法会議所設立
1878年10月14日-09:00|日本|常陽銀行|明治11年|<設立>第六十二国立銀行(水戸;10.25開業)
1878年10月15日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第七七国立銀行(福島)
1878年10月15日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第032号「内国船難破及漂流物取扱規則中第三十
八条増加」公布
1878年10月15日-09:00|日本|東京都|明治11年|竹橋事件首謀者53名銃殺刑
1878年10月15日-09:00|日本|りそなホールディングス|明治11年|<設立>第八十五国立銀行(川越町百七十七番地;12.17
開業)
1878年10月15日 06:00|アメリカ| ||アメリカでエジソンが電灯会社を設立(後のゼネラル・エレクトリック)
1878年10月16日-09:00|日本| ||明治11年|札幌農学校演武場(北海道)完成(→時計台)
1878年10月17日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第九十五国立銀行(東京)
1878年10月17日-09:00|日本|四国銀行|明治11年|<設立>第三十七国立銀行(高知;12.8開業)
1878年10月17日 06:00|カタール| ||<就任>カタール総理大臣「ジョン・アルクサンダー・マクドナルド」(2回目~18910606)
1878年10月18日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第七十八国立銀行(大分;11.20開業)
1878年10月18日-09:00|日本|ほくほくフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第四十七国立銀行(千葉県市原郡八幡宿
浜本町;11.15開業)
1878年10月18日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャルグループ|明治11年|<開業>第四十二国立銀行(大阪)
1878年10月19日-01:00|ドイツ| ||ビスマルクが「社会主義者鎮圧法」を制定(1890年廃止)
1878年10月19日 06:00|カタール/イギリス| ||<就任>カタール総督代行「パトリック・レナート・マクドナルド」(~11.25)
1878年10月20日-09:00|日本|東京大学|明治11年|東京大学に生物学会創立
1878年10月20日-01:00|オーストリア/ハンガリー/オーストリア/ハンガリー軍| ||オーストリア=ハンガリー軍がボスニア占領完了
1878年10月21日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第033号「違式が違条例中贖金ヲ科料ト改メ第三条
改正」公布;明治11年太政官布告第034号「明治十年第七十九号布告租税未納者処分第五条第六条追加」公布
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県|明治11年|<発足>宮城県桃生郡が行政区画として発足、郡役所を広淵村に置
く;名取郡が行政区画として発足、郡役所を長町村に設置;志田郡が行政区画として発足、玉造郡と共に志田・玉
造郡役所の所轄となり郡役所を古川村に設置;栗原郡が行政区画として発足、郡役所を築館村に置く;亶理郡が
行政区画として発足、伊具郡と共に伊具・亶理郡役所の所轄となり、郡役所は伊具郡角田本郷に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県伊具郡|明治11年|<発足>宮城県伊具郡が行政区画として亶理郡と共に伊具・
亶理郡役所の所轄となり、郡役所を角田本郷に置く
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県大崎市|明治11年|<発足>宮城県玉造郡が行政区画として発足、志田郡と共に
志田・玉造郡役所の所轄となり、郡役所は志田郡古川村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県牡鹿郡|明治11年|<発足>宮城県牡鹿郡が行政区画として発足、郡役所を石巻
村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県刈田郡|明治11年|<発足>宮城県刈田郡が行政区画として発足、柴田郡と共に
柴田・刈田郡役所の所轄、郡役所は柴田郡大河原村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県加美郡|明治11年|<発足>宮城県加美郡が行政区画として発足、黒川郡と共に
黒川・加美郡役所の所轄、郡役所は黒川郡今村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県黒川郡|明治11年|<発足>宮城県黒川郡が行政区画として発足、加美郡と共に
黒川・加美郡役所の所轄となり郡役所を今村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県柴田郡|明治11年|<発足>宮城県柴田郡が行政区画として発足、刈田郡と共に
柴田・刈田郡役所の所轄となり郡役所を大河原村に置く
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県仙台市|明治11年|<発足>宮城県、仙台北下町が宮城県から分立し行政区画と
して仙台区が発足、小田原村の一部(小田原車通・小田原山本丁・小田原金剛院丁・小田原広丁・小田原大行院・小
田原清水沼通・小田原牛小屋・小田原蜂屋敷)を編入
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県遠田郡|明治11年|<発足>宮城県遠田郡が行政区画として発足、郡役所を馬場
谷地村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県登米市|明治11年|<発足>宮城県登米郡が行政区画として発足、郡役所を北方
村の佐沼城下町に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県宮城郡|明治11年|<発足>宮城県宮城郡が行政区画として発足、郡役所を南目
村に設置
1878年10月21日-09:00|日本|宮城県本吉郡|明治11年|<発足>宮城県本吉郡が行政区画として発足、郡役所を本吉
村(志津川宿)に設置
1878年10月22日-09:00|日本|常陽銀行|明治11年|<開業>第百四国立銀行(茨城)
1878年10月22日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治11年|<設立>盛産社(山梨:のち盛産合資会社;12.15開業)
1878年10月23日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第百三国立銀行(岩国;12.2開業)

1880迄(3454件)

1878年10月24日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年文部省布達第005号「東京府下ニ体操伝習所開設」公布
1878年10月24日-09:00|日本| ||明治11年|アメリカ人「ラント」を招き、東京神田一橋に文部省直轄の体操伝習所を開設
1878年10月25日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第四十五国立銀行(東京)
1878年10月25日-09:00|日本|大垣共立銀行|明治11年|<設立>第七十六国立銀行(海津郡高須村;18790106開業)
1878年10月25日-09:00|日本|九州フィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第三百三十五国立銀行(熊本県宇土;18790415開業)
1878年10月26日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>熊本毎日新聞
1878年10月26日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 暫定総督「ルイ・デ・メトリス・テトール・ネステイ」(2度目~18790223)
1878年10月28日-09:00|日本|長崎県|明治11年|<発足>長崎県松浦郡を分割し行政区画としての南松浦郡・北松浦郡発足;高来郡を分割し行政区画として島原半島部分の南高来郡、島原半島以外の北高来郡発足
1878年10月28日-09:00|日本|長崎県対馬市|明治11年|<発足>長崎県で行政区画としての下県郡・上県郡発足
1878年10月28日-09:00|日本|長崎県長崎市|明治11年|<発足>長崎県で行政区画としての長崎区発足
1878年10月28日-09:00|日本|長崎県西彼杵郡|明治11年|<発足>長崎線彼杵郡を分割し行政区画としての西彼杵郡成立
1878年10月28日-09:00|日本|長崎県東彼杵郡|明治11年|<発足>長崎線彼杵郡を分割し行政区画としての東彼杵郡成立
1878年10月28日-09:00|日本|八十二銀行|明治11年|<設立>第六十三国立銀行(松代;12.1開業)
1878年10月30日-09:00|日本|青森県上北郡|明治11年|<発足>青森県で北郡の一部(旧第7大区)をもって行政区画としての上北郡が発足・郡役所を七戸村に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県北津軽郡|明治11年|<発足>青森県で津軽郡の一部をもって行政区画としての北津軽郡が発足・郡役所を五所川原村に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県三戸郡|明治11年|<発足>青森県で行政区画としての三戸郡が発足・郡役所を八戸鳥屋部町に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県下北郡|明治11年|<発足>青森県で北郡の一部(旧第6大区)をもって行政区画としての下北郡が発足・郡役所を田名部村に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県中津軽郡|明治11年|<発足>青森県で津軽郡の一部をもって行政区画としての中津軽郡が発足・郡役所を弘前に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県西津軽郡|明治11年|<発足>青森県で津軽郡の一部をもって行政区画としての西津軽郡が発足・郡役所を鯉ヶ沢町に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県東津軽郡|明治11年|<発足>青森県で津軽郡の一部をもって行政区画としての東津軽郡が発足・郡役所を青森町に設置
1878年10月30日-09:00|日本|青森県南津軽郡|明治11年|<発足>青森県で津軽郡の一部をもって行政区画としての南津軽郡が発足・郡役所を黒石に設置
1878年11月-09:00|日本| ||明治11年|<開通>弾正橋(東京京橋区)
1878年11月-09:00|日本| ||明治11年|水府流太田派、東京浜町河岸に教場を開設
1878年11月-09:00|日本| ||明治11年|木鉄混合汽船「Flora Mcdonald」(131G/T)英国で建造進水(→1883年、借行会社(兵庫)の所有「速凌丸」と命名)
1878年11月-09:00|日本|大分県|明治11年|<発足>大分県で国東郡を分割し行政区画としての西国東郡・東国東郡発足;海部郡を分割し行政区画としての北海部郡発足;行政区画としての速見郡・大分郡・大野郡・直入郡発足
1878年11月-09:00|日本|大分県玖珠郡|明治11年|<発足>大分県で行政区画としての玖珠郡発足
1878年11月-09:00|日本|大分県佐伯市|明治11年|<発足>大分県で海部郡を分割し行政区画としての南海部郡発足
1878年11月-09:00|日本|大分県日田市|明治11年|<発足>大分県で行政区画としての日田郡発足
1878年11月-03:00|イタリヤ/トルコ| ||<就任>バグダットのワリス「メフメド・カドリ・パシヤ」(~1879年)
1878年11月-01:00|アルバニア/トルコ| ||<就任>イシュトラのワリス「アリフ・パシヤ」(~1879年11月)
1878年11月1日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第二百二十国立銀行(茨城)
1878年11月1日-09:00|日本|百十四銀行|明治11年|<設立>第百十四国立銀行(香川県高松;百十四銀行の前身;11.6開業)
1878年11月1日-09:00|日本|広島県|明治11年|<発足>広島県[高田郡・佐伯郡・賀茂郡・御調郡・沼隈郡(郡役所は深津郡福山町)・芦田郡・甲奴郡]が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県安芸郡|明治11年|<発足>広島県安芸郡が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県庄原市|明治11年|<発足>広島県[恵蘇郡・三上郡・奴可郡]が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県神石郡|明治11年|<発足>広島県神石郡が行政区画として発足、郡役所は小島村
1878年11月1日-09:00|日本|広島県世羅郡|明治11年|<発足>広島県世羅郡が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県豊田郡|明治11年|<発足>広島県豊田郡が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県広島市|明治11年|<発足>広島県[広島区・高宮郡・沼田郡]が行政区画として発足
1878年11月1日-09:00|日本|広島県福山市|明治11年|<発足>広島県[安那郡・深津郡・品治郡]が行政区画として発足

足

- 1878年11月1日-09:00|日本|広島県三次市|明治11年|<発足>広島県[三谿郡・三次郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|広島県山県郡|明治11年|<発足>広島県山県郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県|明治11年|<発足>福岡県[生葉郡・怡土郡・御笠郡・三池郡・嘉麻郡・竹野郡・山門郡・志摩郡・宗像郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県朝倉郡|明治11年|<発足>福岡県[上座郡・夜須郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県朝倉市|明治11年|<発足>福岡県下座郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県遠賀郡|明治11年|<発足>福岡県遠賀郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県糟屋郡|明治11年|<発足>福岡県糟屋郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県嘉穂郡|明治11年|<発足>福岡県穂波郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県北九州市|明治11年|<発足>福岡県企救郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県鞍手郡|明治11年|<発足>福岡県鞍手郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県久留米市|明治11年|<発足>福岡県山本郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県田川郡|明治11年|<発足>福岡県田川郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県筑後市|明治11年|<発足>福岡県下妻郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県筑紫郡|明治11年|<発足>福岡県那珂郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県築上郡|明治11年|<発足>福岡県[上毛郡・築城郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県福岡市|明治11年|<発足>福岡県[福岡区・早良郡・席田郡]が行政区画として発足
- 足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県三井郡|明治11年|<発足>福岡県[御原郡・御井郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県三潞郡|明治11年|<発足>福岡県三潞郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県京都郡|明治11年|<発足>福岡県[京都郡・仲津郡]が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|福岡県八女市|明治11年|<発足>福岡県上妻郡が行政区画として発足
- 1878年11月1日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治11年|<開業>第五十五国立銀行(兵庫)
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県|明治11年|<発足>山形県で村山郡のうち7町84村に行政区画としての南村山郡が発足, 郡役所を山形旅籠町に設置; 山形県で田川郡のうち鶴岡ほか1町114村に行政区画としての西田川郡が発足, 郡役所を鶴岡馬場町に設置; 山形県で置賜郡のうち1町63村に行政区画としての南置賜郡が発足, 郡役所を米沢屋代町に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県飽海郡|明治11年|<発足>山形県で行政区画としての飽海郡が発足, 郡役所を酒田秋田町に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県北村山郡|明治11年|<発足>山形県で村山郡のうち2町104村に行政区画としての北村山郡が発足, 郡役所を楯岡村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県西置賜郡|明治11年|<発足>山形県で置賜郡のうち116村に行政区画としての西置賜郡が発足, 郡役所を宮村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県西村山郡|明治11年|<発足>山形県で村山郡のうち118村に行政区画としての西村山郡が発足, 郡役所を楯南村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県東置賜郡|明治11年|<発足>山形県で置賜郡のうち111村に行政区画としての東置賜郡が発足, 郡役所を高島村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県東田川郡|明治11年|<発足>山形県で田川郡のうち藤島村ほか197村に行政区画としての東田川郡が発足, 郡役所を藤島村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県東村山郡|明治11年|<発足>山形県で村山郡のうち1町97村に行政区画としての東村山郡が発足, 郡役所を天童村に設置
- 1878年11月1日-09:00|日本|山形県最上郡|明治11年|<発足>山形県で行政区画としての最上郡が発足, 郡役所を新庄小田島町に設置
- 1878年11月2日-09:00|日本|第四銀行|明治11年|<設立>第百三十九国立銀行(高田; 18790703開業)
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都|明治11年|<区制>東京府で豊島郡のうち12町25村の区域をもって行政区画としての南豊島郡, 13町65村の区域をもって行政区画としての北豊島郡が発足・郡役所を下板橋宿に設置; 多摩郡に属する区域をもって行政区画としての東多摩郡が発足・郡役所を中野村に設置; 葛飾郡に属する区域をもって行政区画としての南葛飾郡が発足・郡役所を小松川村大字逆井に設置; 足立郡に属する区域をもって行政区画としての南足立郡が発足・郡役所を千住一丁目に設置; 行政区画としての荏原郡が発足・郡役所を北品川宿(要津橋北岸)に設置
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都江東区|明治11年|<区制>東京府で深川95町村・南葛飾郡[深川本村の一部・猿江村の一部・深川毛利新田・大島村の一部・亀戸村の一部・八右衛門新田の一部・永代新田の一部・海辺新田・久左衛門新田の一部・平井新田の一部・石小田新田・千田新田]が合併区制施行→東京市深川区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都新宿区|明治11年|<区制>東京府で四谷31町・鮫河橋谷2町・元鮫河橋町・元鮫河橋南町・麴町十一丁目・麴町十二丁目・麴町十三丁目・南豊島郡千駄ヶ谷村の一部・内藤新宿一丁目の一部・内藤新宿添地町の一部が合併区制施行→東京市四谷区; 市ヶ谷22町・神楽3町・牛込47町・新小川3町・大久保余丁町・南豊島郡[牛込早稲田村・牛込改代町・牛込水道町]が合併区制施行→東京市牛込区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都墨田区|明治11年|<区制>東京府で本所37町・南本所2町・柳島町・新小梅町・小梅瓦町・中ノ郷6町・小梅業平町・柳島横川町・南葛飾郡[須崎村・北本所出村の一部・南本所出村の一部・押上村・請地村の一部・中ノ郷村・亀戸村の一部・小梅村・柳島村の一部・深川本村の一部・八右衛門新田の一部・六軒堀出村]の一部が合併区制施行→東京市本所区

- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都台東区|明治11年|<区制>東京府で下谷27町・練堀町・上野公園地・上野11町・五條町・池ノ端2町・谷中10町・北豊島郡[日暮里村の一部・谷中村・金杉村の一部・下駒込村の一部・下谷竜泉町・千束村の一部・竜泉寺村・三ノ輪村の一部]が合併区制施行→東京市下谷区;浅草83町・向柳原・浅草公園地・新吉原5町・北豊島郡[地方山谷町・地方今戸町・地方橋場町の一部・千束村・坂本村の一部]が合併区制施行→東京市浅草区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都中央区|明治11年|<区制>東京府で南槇町・北槇町・桶町・南大工町・南鍛冶町・五郎兵衛町・畳町・南紺屋町・西紺屋町・北紺屋町・中橋広小路町・南伝馬町・中橋和泉町・大鋸町・南鞆町・松川町・鈴木町・常盤町・具足町・因幡町・柳町・本材木町・炭町・元数寄屋町・山下町・山城町・南佐柄木町・加賀町・八官町・丸屋町・弓町・新肴町・弥左衛門町・鎗屋町・南鍋町・滝山町・惣十郎町・日吉町・金六町・京橋水谷町・銀座・尾張町・尾張町新地・竹川町・出雲町・南金六町・三十間堀・木挽町・采女町・南八丁堀・新富町・入船町・新栄町・新湊町・本湊町・船松町・明石町・築地・南小田原町・南飯田町・上柳原町・南本郷町・松屋町・高代町・岡崎町・元島町・水谷町・八丁堀仲町・永島町・長沢町・幸町・日比谷町・本八丁堀・富島町・南新堀・霊巖島5町・大川端町・長崎町・越前堀・川口町・東湊町・新船松町・佃島・石川島が合併区制施行→東京市京橋区;本銀町・本石町・本石町十軒店・本町・室町・岩附町・金吹町・本革屋町・本両替町・駿河町・瀬戸物町・伊勢町・北鞆町・品川町・品川町裏河岸・本船町・長浜町・安針町・本小田原町・箱崎町・北新堀町・通・西河岸町・元四日市町・万町・青物町・呉服町・平松町・佐内町・元大工町・新右衛門町・川瀬石町・数寄屋町・箔屋町・檜物町・樽正町・上槇町・下槇町・本材木町・兜町・南茅場町・坂本町・三代町・北島町・亀島町・大伝馬塩町・小伝馬町・鉄砲町・大伝馬・通旅籠町・通油町・堀留町・田所町・堀江町・小船町・小網町・新大坂町・元浜町・彌生町・新材木町・新乗物町・長谷川町・富沢町・葺屋町・塚町・岩代町・新和泉町・高砂町・芳町・新葺町・住吉町・浪花町・小網町仲町・元大坂町・蠣殻町・松島町・小伝馬上町・亀井町・馬喰町・通塩町・横山町・吉川町・元柳町・新柳町・橋町・薬研堀町・米沢町・村松町・久松町・若松町・矢ノ倉町・浜町・中洲町が合併区制施行→東京市日本橋区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都千代田区|明治11年|<区制>東京府で神田41町・通新石町・須田町・松田町・東福田町・西福田町・南乗物町・北乗物町・美倉町・東今川町・元岩井町・東紺屋町・東松下町・岩本町・東龍閑町・豊島町・江川町・橋本町・金沢町・田代町・神田3町・松住町・一ツ橋通町・今川小路・南神保町・北神保町・表神保町・裏神保町・西小川町・三崎町・小川町・猿楽町・中猿楽町・裏猿楽町・美土代町・三河町・駿河台6町・連雀町・神田錦町・淡路町・雉子町・神田松下町・皆川町・神田関口町・神田蠟燭町・永富町・旭町・神田新銀町・神田佐柄木町・千代田町・新石町・神田堅大工町・神田多町・西今川町・神田塗師町・神田上白壁町が合併区制施行→東京市神田区;代官町・祝田町・宝田町・元千代田町・大手町・元衛町・竹平町・道三町・銭瓶町・永楽町・八重洲町・有楽町・西日比谷町・内山下町・霞ヶ関・裏霞ヶ関・外桜田町・三年町・永田町・飯田町・内幸町・麹町・麹町山元町・麹町紀尾井町・麹町隼町・麹町元園町・麹町平河町・平河町・富士見町・一番町・上二番町・下二番町・三番町・土手三番町・四番町・五番町・上六番町・中六番町・下六番町が合併区制施行→東京市麹町区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都文京区|明治11年|<区制>東京府で小石川37町・西江戸川町・小日向12町・桜木町・音羽・東青柳町・西青柳町・関口4町・高田2町・雑司ヶ谷町・巢鴨3町・北豊島郡[小石川村・雑司ヶ谷村の一部・巢鴨村の一部・高田村の一部]が合併区制施行→東京市小石川区;本郷14町・湯島9町・妻恋町・駒込15町・丸山2町・根津7町・向ヶ丘弥生町・北豊島郡[下駒込村・日暮里村の一部]が合併区制施行→東京市本郷区
- 1878年11月2日-09:00|日本|東京都港区|明治11年|<区制>東京府で元赤坂町・赤坂27町・溜池2町・霊南坂町・青山17町・南豊島郡原宿村の一部が合併区制施行→東京市赤坂区;芝3町・源助町・露月町・柴井町・汐留2町・今入町・新幸町・二葉町・琴平町・南佐久間2町・新桜田町・桜田8町・兼房町・烏森町・日蔭2町・西久保6町・神谷町・葺手町・田村町・宇田川町・宇田川横町・神明町・芝公園地・芝54町・本芝7町・下高輪町・高輪4町・三田17町・白金5町・荏原郡白金村が合併区制施行→東京市芝区;飯倉8町・麻布39町・芝森元3町・芝北門前町・南豊島郡[下渋谷村の一部・原宿村の一部]が合併区制施行→東京市麻布区
- 1878年11月2日-09:00|日本|北越銀行|明治11年|<設立>第六十九国立銀行(長岡;12.20開業)
- 1878年11月2日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「チャリオス・スパイル・イト・ノストリコウピス」(2回目~7日)
- 1878年11月3日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第百一国立銀行(福島)
- 1878年11月4日-05:30|インド| |||<就任>トリ国統治者(タル・サ・ヒブ)「スルンジ 3世・タツツンジ」(~1900年没)
- 1878年11月5日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<設立>第八十二国立銀行(鳥取;11.24開業)
- 1878年11月6日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第七十五国立銀行認可(金沢;18790126開業)
- 1878年11月7日-09:00|日本|七十七銀行|明治11年|<設立>第七十七国立銀行(仙台;12.9開業)
- 1878年11月7日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリト・ノ・コメント・ウロス」(9回目~18800322)
- 1878年11月8日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百十一国立銀行(京都;12.10開業)
- 1878年11月8日-09:00|日本|栃木県|明治11年|<発足>栃木県で都賀郡のうち2町97村の区域に行政区画としての上都賀郡が発足・鹿沼町に郡役所を設置;行政区画としての足利郡が発足、足利町に「足利梁田郡役所」が設置され梁田郡とともに管轄;行政区画としての那須郡が発足、郡役所を大田原宿に設置;行政区画としての安蘇郡が発足、佐野町に郡役所を設置;行政区画としての塩谷郡が発足、郡役所を矢板村に設置
- 1878年11月8日-09:00|日本|栃木県足利市|明治11年|<発足>栃木県で行政区画としての梁田郡が発足、足利郡足利町に「足利梁田郡役所」が設置され足利郡とともに管轄
- 1878年11月8日-09:00|日本|栃木県河内郡|明治11年|<発足>栃木県で行政区画としての河内郡が発足、宇都宮江野町に郡役所を設置
- 1878年11月8日-09:00|日本|栃木県下都賀郡|明治11年|<発足>栃木県で都賀郡のうち7町2宿220村の区域に行政区画としての下都賀郡が発足、栃木町に「下都賀寒川郡役所」が設置され寒川郡とともに管轄
- 1878年11月8日-09:00|日本|栃木県芳賀郡|明治11年|<発足>栃木県で行政区画としての芳賀郡が発足、真岡町に

1880迄 (3454件)

郡役所を設置

- 1878年11月10日-09:00|日本| ||明治11年|<開場>「広島博物館」(24日まで毎日、平常は日曜日ごとに一般縦覧を許す)
- 1878年11月11日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治11年|<設立>興商社
- 1878年11月12日-09:00|日本|群馬銀行|明治11年|<開業>第三十九国立銀行(前橋)
- 1878年11月12日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治11年|<設立>第百三十四銀行(名古屋;18790108開業)
- 1878年11月13日-09:00|日本|八十二銀行|明治11年|<設立>協力社(長野)
- 1878年11月13日-09:00|日本|北海道銀行|明治11年|<設立>第百十三国立銀行(本店函館;18790106開業)
- 1878年11月13日-02:00|シリア・アラブ・トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス「Ali Haydar Midhat Pasha」(~1879.6)
- 1878年11月15日-09:00|日本|三井住友フィナンシャル・グループ|明治11年|<設立>第六十五国立銀行(鳥取;18790104開業)
- 1878年11月16日-09:00|日本| ||明治11年|東京漕艇倶楽部(メンバーは外人)、秋季競漕会を東京の大橋と永代橋間で挙行
- 1878年11月16日-09:00|日本|大分銀行|明治11年|<設立>第百九国立銀行(大分;18790113開業)
- 1878年11月16日-09:00|日本|千葉銀行|明治11年|<設立>第九十八国立銀行(千葉県千葉町;12.7開業)
- 1878年11月16日-09:00|日本|北海道函館市|明治11年|<函館明治11年こう洞町の大火「ヤシヨウ火事」>2時20分頃、こう洞町一番地の大工職小針由松の細工小屋から出火、火元の町を焼き払い、そこから二手に分かれ函館山の山裾を東へと街並みに沿って延び、上の方は鍛冶町まで焼け上がり、下の方は鱈横町から神明町、仲町などを残らず灰にした。そこより弁天町に延焼、ここも15、6戸ほどを残して丸焼けにし、幸町から大黒町も残らず焼き、宮岡町も大半が灰となり、そこから炎は大町に延び、ここも大方灰にした後、西浜町に移り中浜町をほとんどき尽くして11時半ごろ、大町で鎮火/焼失数は住家954戸、土蔵10棟、板庫41棟、神社2か所、実行寺内の鐘撞き堂など、同寺と称名寺の寺門など
- 1878年11月17日-09:00|日本|四国銀行|明治11年|<設立>第百二十七国立銀行(香川県丸亀;18790201開業)
- 1878年11月18日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>桂林舎「桂林一枝」11月号
- 1878年11月18日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年海軍省甲布達第003号「海軍兵器局定雇職工規則」公布
- 1878年11月18日-09:00|日本|神奈川県|明治11年|<発足>神奈川県で行政区画としての三浦郡が発足、郡役所は横須賀町;行政区画としての鎌倉郡が発足、郡役所は戸塚駅吉田町;行政区画としての高座郡が発足、郡役所は藤沢駅;行政区画としての大住郡・洵綾郡が発足、洵綾郡大磯町に「洵綾大住郡役所」が設置されともに管轄;行政区画としての足柄上郡が発足、郡役所は関本村;行政区画としての足柄下郡が発足、郡役所は小田原駅;行政区画としての愛甲郡が発足、郡役所は厚木村;行政区画としての久良岐郡が発足、郡役所は笹下村東樹院;行政区画としての橋樹郡が発足、郡役所は神奈川町;行政区画としての都筑郡が発足
- 1878年11月18日-09:00|日本|神奈川県相模原市緑区|明治11年|<発足>神奈川県で行政区画としての津久井郡が発足、郡役所は中野村に設置
- 1878年11月18日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治11年|<発足>神奈川県で行政区画としての横浜区が発足
- 1878年11月18日-09:00|日本|東京都|明治11年|<発足>神奈川県多摩郡を分割、府中番場宿(府中宿のうち)ほか1町131村の区域をもって行政区画としての北多摩郡が発足、府中宿番場宿に郡役所を設置、青梅町ほか1町93村の区域をもって行政区画としての西多摩郡が発足、郡役所を青梅町に設置、八王子横山宿ほか126村の区域をもって行政区画としての南多摩郡が発足、郡役所を八王子横山宿に設置
- 1878年11月18日-09:00|日本|百五銀行|明治11年|<開業>第八十三国立銀行(三重)
- 1878年11月18日-09:00|日本|みずほフィナンシャル・グループ|明治11年|<設立>大聖寺第八十四国立銀行(石川;18790104開業)
- 1878年11月19日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/オーストリア/ハンガリー| ||<就任>オーストリア=ハンガリー帝国ボスニア・ヘルツェゴビナ総司令官・州政府長官「カイルヘルム・ニコラウス・ヘルツォーク・フォン・グェルテンベルク」(~18810406)
- 1878年11月20日-09:00|日本|日本郵政|明治10年|(小判)小判切手(1877年)額面:8銭発行
- 1878年11月20日-09:00|日本|三井住友フィナンシャル・グループ|明治11年|<開業>第六十一国立銀行(福岡)
- 1878年11月21日-04:30|アフガニスタン/イギリス| ||<ペシャワール野戦軍がカイバル峠に置かれたアフガニスタンの国境警備隊を蹴散らす/第2次アフガン戦争が始まる
- 1878年11月22日-09:00|日本| ||明治11年|早大・大隈重信総長が戸塚球場で日本初の始球式
- 1878年11月22日-09:00|日本|東邦銀行|明治11年|<開業>第九十三国立銀行(福島)
- 1878年11月22日-06:30|ココス諸島/イギリス| ||<就任>ココス(キリング)諸島知事「セイロン総督」(~18860318)
- 1878年11月23日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第七十九国立銀行(島根)
- 1878年11月23日-05:30|インド| ||<就任>コック・サンガニ国統治者(タコル)「ムルグァージ」(~1913年没)
- 1878年11月25日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治11年|<開業>第四十三国立銀行(和歌山)
- 1878年11月25日-09:00|日本|山口フィナンシャル・グループ|明治11年|<設立>第百十国立銀行(赤間関;18790310開業)
- 1878年11月25日-05:30|インド| ||<即位>パトナ国マハラジャ「ラムチャンドラ・シン・デオ2世」(~1895年没)
- 1878年11月25日 04:00|パラグアイ| ||<就任>パラグアイ共和国大統領「カンテイト・パストル・ハレイロ・カバジェロ」(~18800904没)
- 1878年11月25日 06:00|カナダ/イギリス| ||<就任>カナダ総督「ロンドン侯爵ジョン・ダグラス・サザランド=キャンベル」(~18831023)
- 1878年11月26日-09:00|日本|岩手県|明治11年|<発足>岩手県で行政区画としての岩手郡・磐井郡・閉伊郡・九戸郡が発足;行政区画としての気仙郡が発足、郡役所は盛村;行政区画としての二戸郡が発足、郡役所は福岡村
- 1878年11月28日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャル・グループ|明治11年|<設立>第九十六国立銀行(福岡;18790104開業)
- 1878年11月28日-09:00|日本|みずほフィナンシャル・グループ|明治11年|<開業>第五十八国立銀行(大阪)
- 1878年11月29日-09:00|日本|広島銀行|明治11年|<設立>第六十六国立銀行(尾道;18790420開業)

1880迄 (3454件)

- 1878年11月30日 04:30|^ハ ^ス ^エ ^コ |||<死去>^ハ ^ス ^エ ^コ連邦大統領「Francisco de Paula Linares Alcantara」
- 1878年11月30日 04:30|^ハ ^ス ^エ ^コ |||<就任>^ハ ^ス ^エ ^コ連邦大統領代理「Jacinto Gutierrez y Martinez de Alemana」PL (2期目~18790101)
- 1878年12月-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百二十五国立銀行 (米沢; 18790211開業)
- 1878年12月-09:00|韓国| |||<創建>東本願寺釜山別院 (一大覚寺)
- 1878年12月-09:00|日本| ||明治11年|木製汽船「凌波丸」(131G/T) 鈴木吉蔵 (攝津・兵庫) が建造進水 (→1881年、偕行会社 (兵庫) の所有→1884年、「第二凌波丸」と改名)
- 1878年12月-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<設立>第百三十国立銀行 (大阪; 18790215開業)
- 1878年12月-08:00|中国| |||新疆省を新設
- 1878年12月1日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治11年|<移転開庁>愛媛県庁 [一番町 (松山市) の旧松山藩家老奥平家跡] 新築
- 1878年12月1日-09:00|日本|山陰合同銀行|明治12年|<設立>第五十三国立銀行 (津和野; 18790201開業)
- 1878年12月1日-09:00|日本|第四銀行|明治11年|<設立>第百十六国立銀行 (新発田; 18790205開業)
- 1878年12月2日-09:00|日本|茨城県|明治11年|<発足>茨城県で茨城郡を分割し笠間町ほか1町104村の区域に西茨城郡、水戸上市ほか1町179村の区域に東茨城郡を行政区画として発足; 行政区画としての久慈郡が発足・郡役所は太田村に設置; 行政区画としての行方郡が発足・郡役所は麻生村に設置; 行政区画としての鹿島郡が発足・郡役所は鉢田村に設置; 行政区画としての新治郡が発足・郡役所は土浦町に設置; 行政区画としての真壁郡が発足・郡役所は下館城下に設置; 行政区画としての多賀郡が発足・郡役所は高萩村に設置; 行政区画としての筑波郡が発足・郡役所は谷田部町に設置; 行政区画としての那珂郡が発足・郡役所は菅谷村に設置; 下総国相馬郡の区域をもって行政区画としての北相馬郡が発足・郡役所を取手村に設置; 行政区画としての信太郡・河内郡が発足・郡役所は信太郡江戸崎町に設置され管轄; 行政区画としての猿島郡・西葛飾郡が発足・境町に「猿島西葛飾郡役所」が設置され管轄; 行政区画としての岡田郡・豊田郡・結城郡が発足、豊田郡本宗道村に設置された「結城豊田岡田郡役所」が管轄
- 1878年12月3日-05:30|^イ ^ト / ^ホ ^ル ^ガ ^ル |||<就任>^ホ ^ル ^ガ ^ル領^イ ^ト 総督「^カ ^エ ^ー ^ノ ^ア ^ル ^カ ^ン ^ト ^ル ^デ ^ア ^ル ^メ ^イ ^ダ ^エ ^イ ^ア ^ル ^ハ ^カ ^キ」 (~18820410)
- 1878年12月4日-09:00|日本|百五銀行|明治11年|<設立>第百五国立銀行 (三重県津沢ノ上町1番地; 18790311開業)
- 1878年12月4日-09:00|日本|三菱UFJファイナンシャルグループ|明治11年|<設立>第百十九国立銀行 (東京京橋区; 18790111開業)
- 1878年12月4日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「ト^カ ^ス ^ル ^ヘ ^イ ^レ ^イ ^ン ^パ ^シヤ」 (~18790729)
- 1878年12月5日-09:30|オーストラリア| |||ファースト政権が崩壊
- 1878年12月5日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>馬耳念仏社「瀟湘叢談」12月号
- 1878年12月5日-09:00|日本| ||明治11年|参謀本部条約を制定し、陸軍省参謀局を廃止、参謀本部設置/これにより統帥権が政府の手から離れ、独走を始めることになる
- 1878年12月5日-09:00|日本|京都府京都市|明治11年|<死去>二条斉敬 (63歳) 元関白、左大臣
- 1878年12月5日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治11年|<開業>第八十七国立銀行 (福岡)
- 1878年12月5日-09:00|日本|三井住友ファイナンシャルグループ|明治11年|<開業>第五十一国立銀行 (大阪)
- 1878年12月5日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ノースフォーク伯爵「ウ^イ ^リ ^ア ^ム ^ホ ^ブ ^タ ^ン ^カ ^キ」
- 1878年12月5日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ノースフォーク伯爵「^ジ ^ョ ^ン ^ジ ^ョ ^ン ^カ ^キ」 (~18910909死去)
- 1878年12月6日-09:00|日本| ||明治11年|「東京曙新聞」に、黒枠付きの死亡広告が初めて掲載される
- 1878年12月7日-09:00|日本|群馬県|明治11年|<発足>群馬県で行政区画としての東群馬郡 (群馬郡のうち利根川以東の1町22村の区域)・南勢多郡 (勢多郡のうち赤城山南麓の1町157村の区域) が発足、前橋橋輪町に「東群馬南勢多郡役所」が設置され管轄; 西群馬郡 (群馬郡のうち利根川以西の2町1駅140村)・片岡郡が発足、西群馬郡高崎連雀町に「西群馬片岡郡役所」が設置され管轄; 緑野郡・多胡郡・南甘楽郡 (甘楽郡のうち25村の区域) が発足、緑野郡藤岡町に「緑野多胡南甘楽郡役所」が設置され管轄; 利根郡・北勢多郡 (勢多郡のうち赤城山北麓の13村の区域) が発足、沼田町に「利根北勢多郡役所」が設置され北勢多郡とともに管轄; 佐位郡・那波郡が発足、佐位郡伊勢崎町に「佐位那波郡役所」が設置され管轄; 北甘楽郡 (甘楽郡のうち5町92村の区域) が発足、富岡町に郡役所を設置; 碓氷郡が発足、安中駅に郡役所を設置; 吾妻郡が発足、中之条町に郡役所を設置; 新田郡が発足、太田町に郡役所を設置; 山田郡が発足、桐生新町に郡役所を設置; 邑楽郡が発足、館林町に郡役所を設置
- 1878年12月9日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百二十八国立銀行
- 1878年12月9日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第037号「西洋形船水先免状規則改正」公布
- 1878年12月9日-09:00|日本|石川県|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての江沼郡・能美郡・石川郡発足; 河北郡発足・郡役所が森本村に置かれた; 羽咋郡発足・郡役所が羽咋村に置かれた; 鹿島郡発足・郡役所が七尾町に置かれた; 鳳至郡発足・郡役所が輪島町に置かれた; 珠洲郡発足・郡役所が飯田町に置かれた
- 1878年12月9日-09:00|日本|石川県金沢市|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての金沢区発足
- 1878年12月9日-09:00|日本|中国銀行|明治11年|<設立>第八十六国立銀行 (岡山; 19790501開業)
- 1878年12月9日-09:00|日本|富山県|明治11年|<発足>石川県新川郡の一部の区域をもって行政区画としての上新川郡が発足、石川県婦負郡が発足、「上新川婦負郡役所」が富山に設置され上新川郡とともに管轄; 新川郡の一部の区域をもって行政区画としての下新川郡が発足、郡役所を魚津町に設置; 富山県射水郡が行政区画として発足・郡役所を高岡城鍛冶丸跡に設置; 礪波郡が行政区画として発足・郡役所を今石動町に設置
- 1878年12月9日-09:00|日本|福井県|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての[坂井郡・大野郡・吉田郡]発足; 滋賀県で行政区画としての[遠敷郡]発足
- 1878年12月9日-09:00|日本|福井県今立郡|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての今立郡発足

1880迄 (3454件)

1878年12月9日-09:00|日本|福井県南条郡|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての南条郡発足
1878年12月9日-09:00|日本|福井県丹生郡|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての丹生郡発足
1878年12月9日-09:00|日本|福井県福井市|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての[南条郡・足羽郡]発足
1878年12月9日-09:00|日本|福井県三方郡|明治11年|<発足>石川県で行政区画としての三方郡発足
1878年12月9日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治11年|<開業>第百十八国立銀行(東京)
1878年12月9日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット司令官代行「シャル・オノウ・アッサル」(~18790907)
1878年12月9日 06:00|アメリカ| |||ヒューリッサーが「セントルイス・デ・イスパッチ」を再建
1878年12月10日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百十六国立銀行(新発田;18790205開業)
1878年12月10日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百二十六国立銀行(大阪;18790116開業)
1878年12月10日-09:00|日本| ||明治11年|大蔵省:紙幣寮活版局→印刷局/改称
1878年12月10日-09:00|日本|広島大学|明治11年|<改称>「広島県公立師範学校分校」⇒「広島県福山師範学校」
1878年12月10日-09:00|日本|プロクレアホールディングス|明治11年|<設立>第五十九国立銀行(青森県弘前;18790120開業)
1878年12月11日-09:30|オーストリア| |||ハークス=ロバートソン連立内閣が成立
1878年12月12日-09:00|日本|東京海上ホールディングス|明治11年|東京海上保険会社設立
1878年12月12日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>アセンション島司令官「アーサー・ジョージ・ロバートソン・ロー」(~18820910)
1878年12月13日-09:00|日本| ||明治11年|教育総監部の前身となる監軍本部創設(中部は野津鎮雄、東部は谷干城、西部に三浦梧桜)
1878年12月13日-09:00|日本| ||明治11年|日本海軍貯蓄船「摂津」を兵学校練習船とする
1878年12月13日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治11年|<開業>第九十四国立銀行(兵庫)
1878年12月15日-09:00|日本| ||明治11年|鉄道局が京浜間鉄道の各駅で公衆電報の取り扱いを開始
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県|明治11年|<発足>愛媛県で行政区画としての伊予郡・宇摩郡・越智郡・喜多郡・久米郡・周布郡・新居郡・野間郡発足;浮穴郡を分割し行政区画としての下浮穴郡・上浮穴郡発足;宇和郡を分割し行政区画としての東宇和郡発足
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県北宇和郡|明治11年|<発足>愛媛県宇和郡を分割し行政区画としての北宇和郡発足
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県西条市|明治11年|<発足>愛媛県で行政区画としての桑村郡発足
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県西宇和郡|明治11年|<発足>愛媛県宇和郡を分割し行政区画としての西宇和郡発足
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治11年|<発足>愛媛県で行政区画としての温泉郡・風早郡・和気郡発足
1878年12月16日-09:00|日本|愛媛県南宇和郡|明治11年|<発足>愛媛県宇和郡を分割し行政区画としての南宇和郡発足
1878年12月17日-09:00|日本| ||明治11年|<設立>第百二十七国立銀行(愛媛県讃岐郡丸亀通町18番地;18790201開業)
1878年12月17日-09:00|日本| ||明治11年|<創刊>東京新聞
1878年12月17日-09:00|日本|秋田銀行|明治11年|<設立>第四十八国立銀行(秋田県;18790104開業)
1878年12月17日-09:00|日本|大垣共立銀行|明治11年|<設立>第百二十九国立銀行(大垣;18790410開業)
1878年12月17日-09:00|日本|ほくほくフィナンシャルグループ|明治11年|<設立>第百二十三国立銀行(富山中町68番邸、頭取前田則邦)(18790201開業)
1878年12月17日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国閣僚評議会議長(首相)「マヌエル・イリコ・イエン・アリアス・イ・ラア」(1回目~18790519)
1878年12月18日-09:00|日本| ||明治11年|杉亨二・小幡篤次郎ら、製表社を設立(のちの東京統計協会)
1878年12月18日-03:00|カタル| |||<死去>カタル・ハキム「シャイフ・ムハンマド・ビン・サーニー」
1878年12月18日-03:00|カタル| |||<就任>カタル統治者「シェイク・カシム・イブン・ムハンマド・アル・サーニー」(~19130717没)
1878年12月18日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《喜歌劇「目隠し鬼」》
1878年12月19日-09:00|日本| ||明治11年|文部省、東京大学に学位授与権を与える。学位の種類は法学士・医学士・理学士・文学士・製菓士の5種類
1878年12月19日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第038号「明治十二年郵便規則及罰則」公布
1878年12月19日-01:00|イタリア| |||<就任>イタリア王国首相(閣僚評議会議長)「アゴスティーノ・デ・プレティス」(2回目~18790714)
1878年12月19日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・光緒4年11月26日|釜山税関を閉鎖(関税徴収に対する日本の抗議のため)
1878年12月20日-09:30|オーストリア| |||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・クラウザー」(~18791030)
1878年12月20日-09:00|日本| ||明治11年|食中毒の統計調査というのが厚生労働省で行われ、飲食物による中毒、薬物の誤用がが発生するごとに国へ届出をすることが、この日全国に通達された
1878年12月20日-09:00|日本| ||明治11年|明治11年太政官布告第039号「地方税中営業税雑種税ノ種類及制限」公布
1878年12月20日-09:00|日本|愛知県|明治11年|<発足>愛知県で愛知郡・渥美郡・海西郡・春日井郡・中島郡・幡豆郡・八名郡・碧海郡・宝飯郡・葉栗郡が行政区画として発足;加茂郡を分割し西加茂郡が行政区画として発足
1878年12月20日-09:00|日本|愛知県海部郡|明治11年|<発足>愛知県で海東郡が行政区画として発足
1878年12月20日-09:00|日本|愛知県北設楽郡|明治11年|<発足>愛知県設楽郡を分割し北設楽郡が行政区画として発足

1880迄 (3454件)

- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県新城市|明治11年|<発足>愛知県設楽郡を分割し南設楽郡が行政区画として発足
- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県知多郡|明治11年|<発足>愛知県で知多郡が行政区画として発足
- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県豊田市|明治11年|<発足>愛知県加茂郡を分割し東加茂郡が行政区画として発足
- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県名古屋市|明治11年|<発足>愛知県で名古屋区が行政区画として発足
- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県丹羽郡|明治11年|<発足>愛知県で丹羽郡が行政区画として発足
- 1878年12月20日-09:00|日本|愛知県額田郡|明治11年|<発足>愛知県で額田郡が行政区画として発足
- 1878年12月20日 04:00|フォークランド/イギリス| ||<就任>イギリス領フォークランド 諸島総督「Jeremiah トーマス・Fitzgerald Callaghan」(2期目~18800406)
- 1878年12月21日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ニューサウスウェールズ 植民地政府首相「ヘンリー・パークス」無所属(~18830104)
- 1878年12月22日-09:00|日本| ||明治11年|<開業>第七十三国立銀行(兵庫;1885年大阪に移転)
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県|明治11年|<発足>秋田県で河辺郡が発足、郡役所を牛島村に設置;由利郡が発足、郡役所を本荘中町に設置;平鹿郡が発足、郡役所を横手根岸下町に設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県雄勝郡|明治11年|<発足>秋田県で雄勝郡が発足、郡役所を湯沢町に設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県鹿角郡|明治11年|<発足>秋田県で鹿角郡が発足、郡役所を花輪村に設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県北秋田郡|明治11年|<発足>秋田県で秋田郡のうち鷹巣村など3町120村の区域に北秋田郡が行政区画として発足・郡役所を鷹巣村に設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県仙北郡|明治11年|<発足>秋田県で仙北郡が発足、郡役所を大曲村に設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県南秋田郡|明治11年|<発足>秋田県で秋田郡のうち秋田町など2町157村の区域に南秋田郡が行政区画として発足・秋田土手長町中丁に郡役所を設置
- 1878年12月23日-09:00|日本|秋田県山本郡|明治11年|<発足>秋田県で山本郡が発足、郡役所を能代上町に設置
- 1878年12月24日-09:00|日本| ||明治11年|侍従長を置く(米田虎雄中佐任命)
- 1878年12月24日-09:00|日本| ||明治11年|両国若松町の米津風月堂、初めて貯古齡糖(チョコレート)の販売広告を「かなよみ新聞」に掲載
- 1878年12月24日-09:00|日本|広島銀行|明治11年|<設立>第百四十六国立銀行(広島;18791207開業)
- 1878年12月25日-09:00|日本| ||明治11年|両国の米津風月堂が貯古齡糖(チョコレート)を発売
- 1878年12月25日-02:00|コンゴ 民主共和国/ベルギー| ||ベルギー-王オットー 2世が上コンゴ 研究委員会を設立
- 1878年12月25日 07:00|日本| ||明治11年|<大背美流れ>和歌山県太地鯨方(鯨漁師)背美鯨漁で遭難鯨漁船の船が遭難、16時ごろ、力のない老人や少年たちが多い船は次々と海中に沈んでいったという/30日、九死に一生を得た漁師8人が、伊豆諸島神津島に漂着、その他の島に漂着した人も含め生存者は72人、111人が死亡及び行方不明だった
- 1878年12月29日 00:00|イギリス| ||<死去>9代ワイトデー爾侯「アーサー・ヘイ」
- 1878年12月29日 00:00|イギリス| ||<就任>10代ワイトデー爾侯「ウィリアム・モンタギュー・ヘイ」(~19111125死去)
- 1878年12月29日 05:00|パナマ| ||<就任>パナマ大統領代行「ホセ・リカルド・カソラ」(1回目~18790601)
- 1878年12月31日-04:00|モリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官代行「フレデリック・ネヒア・アブルム」(1回目~18790404)
- 1879年-11:00|ミクロネシア| ||<死去>モル国王「ヤルキベン」
- 1879年-11:00|ミクロネシア| ||<即位>モル国王「マク」(~1884年没)
- 1879年-09:00|日本|神戸女学院|明治12年|神戸ホーム、校名を神戸英和女学校と改称
- 1879年-09:00|日本|佛教大学|明治12年|宗学校西部本校を浄土宗総本山宗学校に改称
- 1879年-08:00|マレーシア| ||<就任>スガ イ・ウジヨン 摂政「サイト・アハマト・ヒンサイト・イブラヒム・アル・カトリ」(~18800217)
- 1879年-08:00|インドネシア| ||<即位>チルメン・カマラン 君主「Sultan Anom 8世 Raja Dulkarnain」(~1934年)
- 1879年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナテ・スルタン「Ayanhar」(~1900年)
- 1879年-05:30|インド| ||<就任>スケト国ラジャ「アマルタム・セン」(~同年没)
- 1879年-05:30|インド| ||<就任>トウツヤナ国支配者(ナワブ)「モムタズ・アリ・カーン」(~1908年没)、摂政「モハマト・ナジヤハット・アリ」(~1882年)
- 1879年-05:30|インド| ||<就任>ラサク国統治者(ターケル)「ハミルシジ・ウアジエンシジ」(~18900205没)
- 1879年-05:00|パキスタン| ||<就任>ジャントル国支配者(カーン)「モハマト・ザマン・カーン」(~1881年没)
- 1879年-04:30|アフガニスタン| ||<就任>アフガニスタン(カーブル) 摂政大臣「モハマト・ジヤン」(~18800331)
- 1879年-04:00|セイシェル/イギリス| ||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「アンジュ・エドモント・ド・ラペール」(~12. 11)
- 1879年-04:00|UAE| ||<即位>フジヤイラ首長「Sheikh Hamad bin Abdullah Al Sharqi」(~1936年)
- 1879年-03:00|ウガンダ| ||<死去>ブジンバ 統治者(オムカマ)「ワルサナ」
- 1879年-03:00|エリトリア/エチオピア| ||<就任>エチオピアのメルバ・ミラシュ 総督「ラス・アル・ラ」(~1890年)
- 1879年-03:00|エリトリア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国セハイト 総督「シャル・リコレ」
- 1879年-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>ハスラのワス「フェリク・サヒット・ハシヤ」(~1880年)
- 1879年-03:00|ウガンダ| ||<就任>ブジンバ 統治者(オムカマ)「ゴロロ」(~1892年)
- 1879年-03:00|スーダン| ||<即位>ダル・キムル 国スルタン「イドリス・イブン・アヒ・バクル」(~1935年没)
- 1879年-03:00|ウガンダ| ||<即位>トロ王国国王「Nyamuyonjo Kakende」(2期目~1880年)
- 1879年-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領グリアランド 西州管理者代行「チャールズ・ウォレン」(~10月)⇒「ジエゴフス・ペトルス・デ・ウェット」(1880年1月)⇒「ジェームズ・ローズ=イネス・ジュニア」(~18801015)
- 1879年-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>チツサ 臨時総督「Graf Eduard Ivanovich Totleben」(~1880年)

1880迄 (3454件)

- 1879年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>デシリール地区受託者「Hassan Pasha al-Fariq」(~1881年)
- 1879年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ハリコフ臨時総督「Graf Mikhail Tarnelovich Loris-Melikov」(~1880年)
- 1879年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>マリ統治者(マンボ)「チンバブエ4世」
- 1879年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・キニア湾入植地司令官「オーガスティン・アネスト・デュモン」(~1880年)
- 1879年-01:00|ベナン| |||<就任>サウイ・フエタ 国統治者「ジソフメ」(~1882年)
- 1879年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領地総督(北アフリカ総司令部総督)「Jose Aizpurua y Lorries Fontecha」(~1881年)
- 1879年 00:00|セカール| |||<就任>サルム統治者(フール・サルム)「ケタルム・ムシ」(~1896年)
- 1879年 00:00|モロッコ| |||<就任>モロッコ大宰相「モハメド・ビン・アルビ・アル・ジャマイ」(~1886年没)
- 1879年 00:00|シエラレオネ| |||<即位>シエラレオネ王国国王(ハイ・シエラレオネ)「クワンタ・ルイス」(~1898年シエラレオネ王国は消滅)
- 1879年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>アンギラ治安判事「James L. Lake」(~1882年)
- 1879年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ主任判事「James Louis Lake」(⇒1882年、治安判事~1889年)
- 1879年 04:00|セントクリストファー・ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領代行「ジョン・ケミス・スペンサー=チャーチル」
- 1879年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島主席「ジョン・ケミス・スペンサー=チャーチル」(~1882年)
- 1879年 04:00|サン・マルタン| |||<就任>フランス領サンマルタン島市長「Jean Frederic Becker」(~1891年)
- 1879年 05:00|ケイマン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ケイマン諸島総督「William Bodden Webster」(~1888年)
- 1879年 10:00|ホーリネア| |||<就任>ルツ統治者「Epatiamia Teuruari i4世」(~19000825)
- 1879年1月-03:30|イラン| |||イランがロシアの支援でオスマン連隊を結成
- 1879年1月1日-09:00|日本| ||明治12年|経済雑誌社創業(田口卯吉)
- 1879年1月1日-09:00|日本|東邦銀行|明治12年|<設立>棚倉協同舎(福島;1892年棚倉協同株式会社>1927年棚倉協同銀行と改称)
- 1879年1月1日-09:00|日本|広島県|明治12年|広島県が広島測候所を創設、気象観測を開始
- 1879年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「ヨハン・ヘルハルト・ハンマー」Lib(1期目~12.31)
- 1879年1月1日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《ヴァイオリン協奏曲ニ長調Op. 77》ライブツヒ
- 1879年1月1日 04:30|ベネズエラ| |||<就任>ベネズエラ連邦大統領代理「セルゲイ・レコリョ・パレラ」(~18790213)PL
- 1879年1月1日 06:00|アメリカ| |||アメリカで、正貨兌換法が発効になる
- 1879年1月2日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>第百二国立銀行(巖原;1.28開業)
- 1879年1月3日 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス・カイコス諸島弁務官「Robert Baxter Llewelyn」(~1883年)
- 1879年1月4日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>山陽新聞社「山陽新聞」
- 1879年1月4日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第001号「名例律五刑条例中一条創定梟示刑廃止」公布/犯罪者で死刑になった者のさらし首が廃止
- 1879年1月4日-09:00|日本|岩手県|明治12年|<発足>岩手県で岩手郡を分割し玉山村など47か村を行政区画としての南岩手郡(郡役所は仁王村)、沼宮内村など38か村を行政区画としての北岩手郡(郡役所は大更村)が発足;和賀郡を分割し黒沢尻村など62村を行政区画としての東和賀郡(郡役所は黒沢尻村)、猿橋村など7村を行政区画としての西和賀郡(郡役所は新町村)が発足;磐井郡を分割し西岩井・流26か村を行政区画としての西磐井郡、東山34か村を行政区画としての東磐井郡が発足;閉伊郡を五郡に分割し行政区画としての南閉伊郡・東閉伊郡・西閉伊郡・中閉伊郡・北閉伊郡が発足;九戸郡を分割し南方27か村を行政区画としての南九戸郡、北方32か村を行政区画としての北九戸郡が発足
- 1879年1月5日-01:00|フランス| |||フランスの上院選挙で、共和派が多数を占め、王党派が敗北
- 1879年1月6日-09:00|日本| ||明治12年|上野の風月堂が日本初のケーキを販売
- 1879年1月8日-09:00|日本|朝日新聞|明治12年|大阪に朝日新聞社が創立
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県|明治12年|<発足>兵庫県[明石郡・美嚢郡・印南郡・加東郡・加西郡・揖東郡・揖西郡・宍粟郡・養父郡・菟原郡・武庫郡・有馬郡・川辺郡・津名郡・三原郡・有馬郡]が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|明治12年|<発足>兵庫県赤穂郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県朝来市|明治12年|<発足>兵庫県朝来郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県加古郡|明治12年|<発足>兵庫県加古郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県神崎郡|明治12年|<発足>兵庫県[神東郡・神西郡]が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県神戸市|明治12年|<発足>兵庫県八郡が行政区画として発足;八郡郡[神戸町・兵庫町・坂本村]が合併して行政区画としての神戸区となる
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県佐用郡|明治12年|<発足>兵庫県佐用郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県多可郡|明治12年|<発足>兵庫県多可郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|明治12年|<発足>兵庫県多紀郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県丹波市|明治12年|<発足>兵庫県氷上郡が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|明治12年|<発足>兵庫県[出石郡・気多郡・城崎郡]が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県姫路市|明治12年|<発足>兵庫県[飾東郡・飾西郡]が行政区画として発足
- 1879年1月8日-09:00|日本|兵庫県美方郡|明治12年|<発足>兵庫県[美含郡・七美郡・二方郡]が行政区画として発足
- 1879年1月9日-09:00|日本| ||明治12年|大蔵省に商務局を設置
- 1879年1月11日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリス軍がスール王国を攻撃し、第1次スール戦争が勃発

1880迄 (3454件)

1879年1月12日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | 横浜元町5丁目から出火、300戸焼失
1879年1月13日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | <竣工>蓬莱橋(静岡県島田市、大井川) 世界最長の木造歩道橋
1879年1月13日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | <設立>「公立病院収成館」[愛媛県新居郡西条東町]
1879年1月13日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | 明治12年内務省甲布達第001号「紅茶製方伝習規則第一条第十四条第十五条中加除改正」公布
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県 | 明治12年 | <発足>長野県で行政区画としての更級郡が発足、郡役所を塩崎村に設置;安曇郡を分割し行政区画としての南安曇郡発足、郡役所は豊科村;筑摩郡を分割し行政区画としての西筑摩郡発足、郡役所は福島村に置かれた
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県上伊那郡 | 明治12年 | <発足>長野県伊那郡を分割し行政区画としての上伊那郡発足、郡役所は伊那村
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県上高井郡 | 明治12年 | <発足>長野県で高井郡のうち1町44村の区域に行政区画としての上高井郡が発足(更級郡牛島村も編入)、郡役所は須坂町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県上水内郡 | 明治12年 | <発足>長野県で水内郡のうち3町101村の区域に行政区画としての上水内郡が発足(更級郡[川合新田村・大豆島村]も編入)、郡役所を長野町に設置
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県北安曇郡 | 明治12年 | <発足>長野県安曇郡を分割し行政区画としての北安曇郡発足
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県北佐久郡 | 明治12年 | <発足>長野県佐久郡を分割し行政区画としての北佐久郡発足、郡役所は岩村田町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県下伊那郡 | 明治12年 | <発足>長野県伊那郡を分割し行政区画としての下伊那郡発足、郡役所は飯田町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県下高井郡 | 明治12年 | <発足>長野県で高井郡のうち1町56村の区域に行政区画としての下高井郡が発足、郡役所は中野町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県下水内郡 | 明治12年 | <発足>長野県で水内郡のうち1町18村の区域に行政区画としての下水内郡が発足、郡役所は飯山町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県諏訪郡 | 明治12年 | <発足>長野県で行政区画としての諏訪郡が発足、郡役所を上諏訪村に置く
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県小県郡 | 明治12年 | <発足>長野県で行政区画としての小県郡が発足、郡役所を上田町に置く
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県埴科郡 | 明治12年 | <発足>長野県で行政区画としての埴科郡(更級郡向八幡村も編入)が発足、郡役所を屋代村に設置
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県東筑摩郡 | 明治12年 | <発足>長野県筑摩郡を分割し東筑摩郡発足、郡役所は松本町
1879年1月14日-09:00 | 日本 | 長野県南佐久郡 | 明治12年 | <発足>長野県佐久郡を分割し南佐久郡発足、郡役所は臼田村
1879年1月15日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | <開業>第百十五国立銀行(三重)
1879年1月15日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | 東京学士会院が設立され、福澤諭吉が初代会長に選ばれる
1879年1月15日-09:00 | 日本 | 八十二銀行 | 明治12年 | <開業>第百十七国立銀行(野県飯田町)
1879年1月18日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | <大相撲>明治12年1月場所[東京本所回向院](~10日間) 幕内優勝:(西関脇) 武藏瀧, 7勝0敗2分1休/梅ヶ谷37連勝
1879年1月20日-09:00 | 日本 | | 明治12年 | 明治12年太政官布告第003号「国立銀行成規第二十四条改正」公布
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての飽田郡・宇土郡・山鹿郡・山本郡・合志郡・天草郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県葦北郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての葦北郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県阿蘇郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての阿蘇郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県上益城郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての上益城郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県菊池郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての菊池郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県球磨郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての球磨郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県熊本市 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての熊本区・託麻郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県下益城郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての下益城郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県玉名郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての玉名郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 熊本県八代郡 | 明治12年 | <発足>熊本県で行政区画としての八代郡発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 三重県北牟婁郡 | 明治12年 | <分割>和歌山県牟婁郡を分割し三重県に北牟婁郡が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 三重県南牟婁郡 | 明治12年 | <発足>和歌山県牟婁郡を分割し三重県に南牟婁郡が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 和歌山県 | 明治12年 | <発足>和歌山県[那賀郡・海部郡・名草郡]が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 和歌山県有田郡 | 明治12年 | <発足>和歌山県有田郡が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 和歌山県伊都郡 | 明治12年 | <発足>和歌山県伊都郡が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 和歌山県西牟婁郡 | 明治12年 | <分割>和歌山県牟婁郡を分割し西牟婁郡が行政区画として発足
1879年1月20日-09:00 | 日本 | 和歌山県東牟婁郡 | 明治12年 | <分割>和歌山県牟婁郡を分割し東牟婁郡が行政区画として発足

1880迄 (3454件)

- 1879年1月20日-09:00|日本|和歌山県日高郡|明治12年|<発足>和歌山県日高郡が行政区画として発足
- 1879年1月20日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|明治12年|<発足>和歌山県和歌山区が行政区画として発足
- 1879年1月21日-01:00|デンマーク| ||イブセン戯曲「人形の家」初演(コペンハーゲン)
- 1879年1月21日 11:00|日本/イギリス| ||明治12年|英国の帆船「スター・クイーン号」が20時頃、五島列島南方に差しかった頃、折からの強い南東の風にあおられ船は操舵不能、五島列島南端の黄島沖で座礁、海水が船内になだれ込む/マツキトツシ船長は落下していたマストに当たり即死。夜明けまでに死者は22人
- 1879年1月22日-09:30|オーストラリア| ||<就任>クイーンズランド植民地政府首相「トマス・マキルイス」保守派
- 1879年1月22日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||南アフリカで、スール王国軍が、侵攻してきたイギリス軍をイソトルナの戦いで破る
- 1879年1月24日-09:00|日本|大分銀行|明治12年|<設立>株式森昌会社(大分県玖珠郡森村)
- 1879年1月25日-09:00|日本|朝日新聞|明治12年|<創刊>朝日新聞社「大阪朝日新聞」(→「朝日新聞」)小説と通俗記事を中心として大衆向けの絵入り「小新聞」だった
- 1879年1月27日-09:00|日本|新潟県東蒲原郡|明治12年|<発足>福島県蒲原郡を分割し行政区画としての東蒲原郡が発足、郡役所を津川町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての岩瀬郡が発足、郡役所を須賀川村に設置;福島県で行政区画としての信夫郡が発足、郡役所を福島町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県会津若松市|明治12年|<発足>福島県会津郡のうち若松城下および67村に行政区画としての北会津郡が発足、郡役所を若松栄町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県安達郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての安達郡が発足、郡役所を二本松町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県石川郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての石川郡が発足、郡役所を石川村に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県いわき市|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての菊多郡・磐前郡・磐城郡が発足「菊多磐前磐城郡役所」が磐前郡平町に設置され菊多郡とともに管轄
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県大沼郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての大沼郡が発足、郡役所を高田村に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県河沼郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての河沼郡が発足、郡役所を坂下町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県郡山市|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての安積郡が発足、郡役所を郡山村に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県相馬郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての宇多郡・行方郡が発足、宇多・行方郡役所は宇多郡中村
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県伊達郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての伊達郡が発足、郡役所を保原町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県田村郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての田村郡が発足、郡役所を三春町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県西白河郡|明治12年|<発足>福島県白河郡の区域をもって行政区画としての西白河郡が発足、郡役所を白河町に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県東白川郡|明治12年|<発足>福島県白川郡の区域をもって行政区画としての東白川郡が発足、郡役所を棚倉に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県双葉郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての檜葉郡・標葉郡が発足「檜葉標葉郡役所」が檜葉郡小浜村に設置され管轄
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県南会津郡|明治12年|<発足>福島県会津郡のうち99村に行政区画としての南会津郡が発足、郡役所を田島村に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|福島県耶麻郡|明治12年|<発足>福島県で行政区画としての耶麻郡が発足、郡役所を塩川村に設置
- 1879年1月27日-09:00|日本|宮城県|明治12年|<発足>宮城県宇多郡・行方郡は宇多・行方郡役所の所轄となり、郡役所を中村に置く;入山上村を山上村に合併
- 1879年1月28日-05:30|インド| ||<就任>ジャファラハート国・ジャングラ国支配者(ナワブ)「アハマト・カン」(~19220502没)
- 1879年1月29日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>経済雑誌社、総合経済雑誌「東京経済雑誌」
- 1879年1月29日-09:00|日本| ||明治12年|万国電信条約に加入、外国電信業務を開始
- 1879年1月30日-01:00|アンドラ| ||<就任>アンドラ公国共同大公「フランス第三共和政大統領ジュール・グレヴィー」(~18871202)
- 1879年1月30日-01:00|フランス| ||フランスのマクマオン大統領が辞任/<就任>フランス共和国第三共和政大統領臨時代行ジュール・デュフォール。穏健共和派(~1.30)→4代大統領ジュール・グレヴィー。穏健共和派左翼共和派(~18871202, 第2期任期途中で辞任)
- 1879年1月31日-09:00|日本| ||明治12年|高橋お伝(30歳)殺人犯。市ヶ谷監獄で斬首刑に処された(最後の斬首刑)
- 1879年2月-09:00|日本|滋賀銀行|明治12年|<設立>第百三十三国立銀行(滋賀、第六十四国立銀行より分離;4.1開業)
- 1879年2月-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治12年|<設立>第百六国立銀行(佐賀;18790401開業)
- 1879年2月-03:00|イタリコ| ||<就任>バグダットのワリス「ハッ・アブドゥルラフマン・スレッティーン・パシャ」(2回目~1880年1月)

1880迄 (3454件)

- 1879年2月1日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第004号「米商会所条例第二条第八条第十一条中改正」公布
- 1879年2月1日-09:00|日本|静岡銀行|明治12年|<設立>第百二十四国立銀行(静岡県磐田郡見付駅)
- 1879年2月1日-01:00|赤道キニア/スペイン| ||<就任>フェルナンド・ポネ総督代行「ルイス・デ・ラ・ピラ」(~4.21)
- 1879年2月1日-01:00|オーストリア| ||<初演>フランツ・フォン・スッペ《歌劇「ボッカッチョ」》
- 1879年2月4日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年大蔵省甲布達第016号「米商会所成規中追加」公布
- 1879年2月4日-01:00|フランス| ||<就任>フランス第三共和政第33代首相ウイリアム・アンリ・ド・ヴィンソン[無所属(王党派)]第1次(~1879年12月28日)
- 1879年2月5日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官代行「カタル・フイゲロア・イ・ガラント」(~4.17)
- 1879年2月7日-09:00|日本|福井大学|明治11年|小浜伝習学校(伝習学科のみ)が小浜初等師範学校となる
- 1879年2月8日-04:00|ロシア/トルコ| ||ロシアとオスマン朝がコンスタンティノープル平和確定条約に調印
- 1879年2月9日-09:00|日本|十六銀行|明治12年|<開業>第百二十八国立銀行(岐阜)
- 1879年2月10日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第005号「西洋形商船ヲ沿海管庁/所轄ニ附シ」公布;明治12年太政官布告第006号「地所売買譲与等/節券状余白裏面ニ確認/証ヲ記シテ下付シ」公布;明治12年太政官布告第007号「地所質入書入規則第五条改正」公布
- 1879年2月10日-09:00|日本|大阪府|明治12年|<発足>大阪府で行政区画としての島下郡(郡役所は茨木村)発足:豊島郡(郡役所は池田村)発足;志紀・安宿部・古市・石川・錦部・丹南・八上7郡(合同の郡役所は古市郡古市村)発足;河内・高安・大泉・若江・渋川・丹北6郡(合同の郡役所は若江郡寺内村)発足;茨田・交野・讃良3郡(合同の郡役所は茨田郡三矢村)発足
- 1879年2月10日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治12年|<発足>大阪の市街地を行政区画としての北区、西区、東区、南区に分割;行政区画としての西成郡・東成郡・住吉郡発足
- 1879年2月10日-09:00|日本|大阪府高槻市|明治12年|<発足>大阪府で行政区画としての島上郡発足、郡役所が高槻村に置かれた
- 1879年2月10日-09:00|日本|大阪府豊能郡|明治12年|<発足>大阪府で行政区画としての能勢郡発足、郡役所が地黄村に置かれた
- 1879年2月10日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|明治12年|和歌山区庁を開庁
- 1879年2月10日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| ||<就任>イギリス王領海峡植民地総督代行「エドワード・アチボルト・ハーバート・アンソン」(4回目~18800506)
- 1879年2月10日-01:00|フランス| ||<死去>フランスの「写実主義」絵画の画家オル・ヴァクトラン・ド・ミエ(1879-、70歳)/いきいきとした辛辣な筆致で世相を描いた風刺画・版画を残す
- 1879年2月12日-05:00|パキスタン| ||<死去>パルハール国摂政「ヘガム・サハ」
- 1879年2月13日 04:30|ベネズエラ| ||<就任>ベネズエラ連邦大統領「Jose Gregorio Cedeno」(~26日)PL
- 1879年2月14日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>第四十六国立銀行(岐阜多治見)
- 1879年2月14日-05:00|パキスタン| ||<就任>パルハール国摂政「マハート・カーン」(1回目~11.28)
- 1879年2月14日 03:00|ウルグアイ| ||<就任>ウルグアイ大統領代理「フランスコ・アントニオ・ビタル・シルヴァ」コロラド党(1期目~3.1)
- 1879年2月14日 04:00|ボリビア/チリ| ||<就任>チリ軍がアントファガスタに上陸。ボリビア政府が硝石会社を競売しようとするのを阻止
- 1879年2月15日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>13代木村庄之助(72歳)大相撲立行司
- 1879年2月15日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャルグループ|明治12年|<開業>第九十九国立銀行(長崎)
- 1879年2月15日-01:00|オーストリア| ||<就任>オーストリア首相代行「カール・アントン・フランツ・フォン・シュトラマイヤー」(~8.12)
- 1879年2月15日 00:00|イギリス| ||イギリス海軍の砲塔装甲艦「ドレッドノート」(1879年にボーツマスで竣工)就役(1905年退役、1908年7月スクラップとして売却廃棄)
- 1879年2月19日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第009号「西洋形商船海員雇入雇止規則」公布
- 1879年2月19日 06:00|アメリカ| ||エディソン、写真の特許を得る
- 1879年2月20日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治12年|<設立>第百三十六国立銀行(半田村;6.28開業)
- 1879年2月21日-12:00|ニュージーランド/イギリス| ||<就任>ニュージーランド 総督代行「ジェームズ・ブレンダースト」(1回目~3.27)
- 1879年2月22日-04:30|アフガニスタン| ||<死去>アフガニスタン(カブル)エミール「シル・アリ・カーン」
- 1879年2月22日-02:00|ブルガリア| ||ブルガリアで国民議会が召集され、立憲君主政憲法が制定される
- 1879年2月22日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ニューカッスル=アンダーライン公・13代リンカン伯「ヘンリー・ヘラム・アレクザンダー・ヘラム=クリントン」
- 1879年2月22日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ニューカッスル=アンダーライン公・14代リンカン伯「ヘンリー・ヘラム・アチボルト・ダグラス・ヘラム=クリントン」6代公の長男(~19280530死去)
- 1879年2月23日-09:30|オーストラリア| ||マリブブリッジに607メートルの鉄橋が建設される
- 1879年2月23日-09:00|日本|大分県玖珠郡玖珠町|明治12年|<死去>久留島通靖(29歳)元豊後森藩主・知藩事
- 1879年2月23日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 総督「ジャン・ジョゼフ・マリー・レオン・ロゼ」(~1881年4月)
- 1879年2月23日-05:30|インド| ||西部インドで、ファトケの反英武装蜂起が起こる
- 1879年2月23日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「ケイフ・イスマイル・パシャ」(~3.10)
- 1879年2月24日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>不知火光右衛門(55歳、1825年3月3日生)第11代横綱、不知火親方
- 1879年2月24日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年内務省甲布達第003号「医師試験規則」公布
- 1879年2月24日 04:00|ボリビア/チリ| ||ボリビア、硝石会社を接收/チリは、戦艦をコパに派遣、アントファガスタに5千の兵を

1880迄 (3454件)

出動させ占領

- 1879年2月26日-09:00|日本|第四銀行|明治12年|<設立>第百三十九国立銀行(高田;7.3開業)
- 1879年2月26日 00:00|イギリス| |||イギリスの女流写真家カロ没/63歳(誕生:18150611)
- 1879年2月26日 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア連邦大統領「アントニオ・グスマン・ブランコ」(4期目~5.8)PL
- 1879年2月27日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第010号「地租改正条例第八章但書削除」公布
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として阿多郡・出水郡・揖宿郡・穎娃郡・川辺郡・給黎郡・甕島郡・日置郡・大隅郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県始良郡|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として始良郡・桑原郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県伊佐市|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として伊佐郡・菱刈郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として鹿児島郡・谿山郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県肝属郡|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として肝属郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県熊毛郡|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として熊毛郡・馭謨郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県薩摩川内市|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として薩摩郡・高城郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|鹿児島県曾於郡|明治12年|<発足>鹿児島県で行政区画として曾於郡が発足
- 1879年2月27日-09:00|日本|宮崎県|明治12年|<発足>鹿児島県に行政区画として那珂、諸県、臼杵郡が置かれる
- 1879年2月27日-09:00|日本|宮崎県児湯郡|明治12年|<発足>鹿児島県に行政区画として児湯郡が置かれる
- 1879年2月27日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|明治12年|<発足>鹿児島県に行政区画として宮崎郡が置かれる
- 1879年2月27日-02:00|モルトバ/ロシア| |||<就任>ロシア領ベッサラビア州総督「セルゲイ・フョードロヴィチ・タンスキー」(~5.15)
- 1879年2月27日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国大統領「フェルナンド・レオ・ギレルモ・イバスタル」(2回目~12.6)
- 1879年2月27日 06:00|アメリカ| |||人工甘味料サッカリンがアメリカで発明される
- 1879年2月28日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン(カブル)エミール「モハメド・ヤアケブ・カーン」(~10.28退位)
- 1879年3月-09:00|日本|商船三井|明治12年|尼崎汽船部設立
- 1879年3月-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治12年|<設立>第百四十八国立銀行(大阪府下東区唐物町;4.21開業)
- 1879年3月-06:00|プータン| |||<就任>プータン摂政「チョギヤル・ザンボ」(~1880年6月)
- 1879年3月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリス(総督)「Abdullah Ghalib Pasha」(~1879.9)
- 1879年3月-01:00|北マダガスカル/トルコ| |||<就任>マダガスカル(総督)「アフメド・ムフタル・パシャ」(~1880年8月)
- 1879年3月 00:00|シエラレオネ/フランス| |||フランス軍がマコン島上陸/のちに撤退
- 1879年3月1日-09:00|日本| ||明治12年|「高松博覧会(琴平山博覧会)」開催(~6月30日)[開催地]香川県[会場]金比羅宮[主催]琴平山博覧会社
- 1879年3月1日-09:00|日本|静岡銀行|明治12年|<開業>第百三十八国立銀行(静岡県豊田郡二俣村)
- 1879年3月1日-09:00|日本|三井住友フィナンシャル・グループ|明治12年|<設立>榎原貸金会社(福岡)
- 1879年3月1日 03:00|ウルク・アイ| |||<就任>ウルク・アイ大統領「ロレンツ・アントニオ・イセンシオ・ラトル」コロド党(2期目~18800315)
- 1879年3月1日 04:00|ボリビア/チリ| |||ペルーと同盟したボリビア、チリに対し宣戦布告/沿岸部のボリビア軍はあっけなく敗退
- 1879年3月1日 06:00|ニカラガア| |||<就任>ニカラガア共和国大統領「ホセ・サアラ・ソリス」(1回目~18830301)
- 1879年3月3日-09:00|日本|富山県高岡市|明治11年|<高岡明治12年の大火>真夜中、木舟町の太物商(綿や麻織物を商う呉服商)浅井吉平方の失火/たちまち四方に燃え広がり、住家2000余戸を焼失、神社1か所、寺院23か所、学校1か所を焼失/少なくとも北は千木屋町、下川原の線から、南は鴨島町、博労町に及ぶ、中心部の大半を焦土と化した
- 1879年3月3日 06:00|アメリカ| |||米最高裁で初の女性判事が任命
- 1879年3月3日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国地質調査所設立
- 1879年3月5日-09:30|オーストラリア| |||ウィリアム・ギブソンが、タスマニア首相としてウィリアム・カウザーの後を継ぐ。5年にわたる「連続内閣」の成立
- 1879年3月7日-09:00|日本|奈良県桜井市|明治12年|<死去>織田長恭(79歳)元大和芝村藩主
- 1879年3月7日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Arsenio Martinez-Campos[保守党](~18791209)
- 1879年3月10日-09:00|日本| ||明治12年|横浜洋銀取引所が第二国立銀行内倉庫で開所式(頭取茂木惣兵衛)
- 1879年3月10日-09:00|日本| ||明治12年|「第5回奈良博覧会」開催(~5月4日)[開催地]奈良県[会場]東大寺大仏殿[主催]奈良博覧会社
- 1879年3月10日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「ムハンマド・タフイク・パシャ王子」(1回目~4.7)
- 1879年3月10日 06:00|アメリカ| |||グイオン・ライン「アリゾナ」ジョン・エルダー・アント・カンパニーで進水(1898年、アメリカ合衆国旧陸軍省に引き取られ、1902年にブルックリン海軍工廠で改装を受け、輸送船ハンコックとして北大西洋で1918年まで運航、1926年5月にスクラップ)
- 1879年3月12日-09:00|日本|静岡県|明治12年|<発足>静岡県に行政区画としての田方郡・君沢郡が発足「田方君沢郡役所」が田方郡菰山町に設置されとともに管轄;賀茂郡・那賀郡が発足「賀茂那賀郡役所」が賀茂郡下田町に設置されとともに管轄;佐野郡・城東郡が発足「佐野城東郡役所」が佐野郡掛川宿に設置されとともに管轄;志太郡・益津郡が発足「志太益津郡役所」を藤枝宿に設置しとともに管轄;豊田郡・山名郡が発足「磐田豊田山名郡役所」が磐田郡見附宿に設置され磐田郡とともに管轄;敷知郡・長上郡が発足「敷知浜名長上郡役所」が敷知郡高町に設置され浜名郡とともに管轄;駿東郡が発足・郡役所を沼津上土町に設置;富士郡が発足・郡役所を吉原宿に設置;庵原

1880迄(3454件)

- 郡が発足・郡役所を興津宿に設置;榛原郡が発足、郡役所を静波町に設置;周智郡が発足・郡役所を森町村に設置
1879年3月12日-09:00|日本|静岡県磐田市|明治12年|<発足>静岡県に行政区画としての磐田郡が発足「磐田豊田山名郡役所」が見附宿に設置され豊田郡・山名郡とともに管轄
- 1879年3月12日-09:00|日本|静岡県湖西市|明治12年|<発足>静岡県に行政区画としての浜名郡が発足「敷知浜名長上郡役所」が敷知郡浜松高町旧浜松県庁舎に設置され敷知郡・長上郡とともに管轄
- 1879年3月12日-09:00|日本|静岡県静岡市|明治12年|<発足>静岡県に行政区画としての安倍郡・有渡郡が発足「安倍有渡郡役所」を静岡追手町に設置しともに管轄
- 1879年3月12日-09:00|日本|静岡県浜松市北区|明治12年|<発足>静岡県に行政区画としての麓玉郡が発足「引佐麓玉郡役所」が引佐郡気賀村に設置され引佐郡とともに管轄
- 1879年3月14日-09:00|日本| ||明治12年|松山にコレラ発生、全国に蔓延(12月27日までに罹病者16万8314人、死亡者10万5784人)
- 1879年3月14日-09:00|日本|京都府|明治12年|<発足>京都府で行政区画としての船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡・愛宕郡(郡役所は下鴨村)・葛野郡(郡役所は太秦村)・乙訓郡(郡役所は向日町)・紀伊郡(郡役所は伏見板橋二丁目)・宇治郡・久世郡(宇治・久世両郡合同の郡役所は宇治郡宇治村)・綴喜郡(郡役所は田辺村)・相楽郡(郡役所は木津村)発足
- 1879年3月14日-09:00|日本|京都府京丹後市|明治12年|<発足>京都府で行政区画としての竹野郡・熊野郡・中郡(郡役所は峰山町)発足
- 1879年3月14日-09:00|日本|京都府京都市|明治12年|<発足>京都府で行政区画としての上京区と下京区
- 1879年3月14日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治12年|<設立>第百四十二国立銀行(千葉県海上郡銚子荒野村;18790503開業)
- 1879年3月15日-09:00|日本| ||明治12年|新政府に接收され、孔子像を祀ることのできなかった湯島の聖堂を公開し一般の参拝を許可
- 1879年3月15日-09:00|日本| ||明治12年|「大阪博覧会」開催(～6月22日)[開催地]大阪府[会場]大阪府立博物館[主催]大阪府
- 1879年3月15日-09:00|日本| ||明治12年|「第8回京都博覧会」開催(～6月22日)[開催地]京都府[会場]仙洞御所、大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]334,276人
- 1879年3月15日-09:00|日本| ||明治12年|「長崎博覧会」開催(～6月12日)[開催地]長崎県[会場]長崎公園
- 1879年3月15日-01:00|アルジェリア/フランス| ||<就任>フランス領アルジェリア総督代行「アルベール・クレマン」(~18811126)
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての高麗郡が発足(入間郡・高麗郡合同の郡役所は入間郡川越町);幡羅郡・榛沢郡・男衾郡(幡羅郡・榛沢郡・男衾郡合同郡役所は大里郡熊谷宿の大里郡役所)発足;新座郡(北足立郡浦和宿に設置された北足立郡役所の管轄)が発足;埼玉郡のうち5町188村の区域に北埼玉郡(郡役所は成田町)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県入間郡|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての入間郡が発足(入間郡・高麗郡合同の郡役所は川越町)
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県大里郡|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての大里郡(郡役所は熊谷宿)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県北足立郡|明治12年|<発足>埼玉県で足立郡の区域をもって行政区画としての北足立郡(郡役所は浦和宿)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県北葛飾郡|明治12年|<発足>埼玉県で武蔵国葛飾郡のうち埼玉県に属する区域をもって北葛飾郡・中葛飾郡(合同郡役所は杉戸宿)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県児玉郡|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての児玉郡・賀美郡・那珂郡(児玉郡・賀美郡・那珂郡合同郡役所は本庄宿)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県秩父郡|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての秩父郡(郡役所は大宮郷)が発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県比企郡|明治12年|<発足>埼玉県で行政区画としての比企郡・横見郡(比企郡・横見郡合同の郡役所は比企郡松山町)発足
- 1879年3月17日-09:00|日本|埼玉県南埼玉郡|明治12年|<発足>埼玉県で埼玉郡のうち6町218村の区域に行政区画としての南埼玉郡(郡役所は岩槻町)が発足
- 1879年3月18日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| ||ビサウとカエウがカポベルデからポルトガル領ギニアとして分離
- 1879年3月20日-01:00|モンテネグロ| ||<就任>モンテネグロ総理大臣「ボジヨ・ペトロヴィッチ・ニコシ」(~19051218)
- 1879年3月22日-03:30|イラン| ||イラン・ブズケシュ地震(M6.7)死者2千人
- 1879年3月23日-01:00|アンドラ| ||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルム教皇ヴァトル・カサス・イ・ハゲス」(~19010924)
- 1879年3月23日 04:00|ボリビア/チリ| ||カマでマ川を挟んで両軍が対決。トパーテル橋の戦いにおいて、エドアルド・アハロフが戦死
- 1879年3月25日-09:00|日本| ||明治12年|<開業>第九十七国立銀行(佐賀)
- 1879年3月25日-09:00|日本| ||明治12年|<竣工>「川口天守堂」[大阪富島]
- 1879年3月25日-09:00|日本|兵庫県姫路市|明治12年|<死去>酒井忠邦(26歳)元播磨姫路藩主・知藩事
- 1879年3月25日-05:30|インド| ||<就任>スルジャ国ラジャ「ラガナート・サン・シン・デオ」(~19171231没)
- 1879年3月27日-12:00|ニューズランド/イギリス| ||<就任>ニューズランド 総督「ハキュリス・ジョージ・ロバート・ロビンソン卿」(4.17まで代行~18800909)
- 1879年3月27日-09:00|日本| ||明治12年|日本軍が、琉球に出兵して那覇を占領
- 1879年3月28日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>長谷川貞信(71歳)浮世絵師

1880迄 (3454件)

- 1879年3月28日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第012号「鉄道犯罪罰例中禁錮ヲ禁獄ニ改メ第二条第九条第十一条改正」公布
- 1879年3月28日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治12年|<設立>第百四十三国立銀行(千葉県印旛郡八街村;6.7開業)
- 1879年3月28日-01:00|イタリア| ||<就任>聖ヨハネ騎士団大公グランド・マスター「キャヴ・エテ・イン伯爵ジョヴァンニ・パツィスタ・フェスキ・ア・サンタ・クロチェ男爵」(~19050124)
- 1879年3月29日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>梁川紅蘭(76歳)漢詩人. 梁川星巖の妻
- 1879年3月29日-05:30|インド| ||<就任>スケ国ラジャ「トウシュト・ニカンタン・セン」(~19080527没)、摂政「サヒブ・シン/ジヤカット・シン」(~1884年)
- 1879年3月29日-04:00|ロシア| ||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《歌劇「エフゲニー・オネギン」Op. 24》モスクワ
- 1879年3月30日-01:00|フランス| ||<死去>トマ・クチュール、画家(生年1815年)
- 1879年4月-09:00|日本| ||明治12年|<遷座>三吉神社(札幌市渡島通121番地)
- 1879年4月-09:00|日本| ||明治12年|敦賀・三国汽船会社, 三国丸を新造
- 1879年4月-09:00|日本| ||明治12年|函館の末広町八幡板下で若山惣太郎洋食店「五島軒」開業
- 1879年4月-09:00|日本|東京都足立区|明治12年|伊興村で経塚を発掘し、兜、太刀などが出土(現在東京国立博物館保存)
- 1879年4月 04:00|セントクリストファー・ネイビス| ||<就任>ネイビス大統領「チャールズ・スペンサー・サーモン」(~1882年)
- 1879年4月1日-09:00|日本| ||明治12年|<開院>「広島県病院」[水主町]新築
- 1879年4月1日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>第百五十一国立銀行(熊本;10.15開業)
- 1879年4月1日-09:00|日本| ||明治12年|小菅の監獄を東京集治監と改称
- 1879年4月1日-09:00|日本| ||明治12年|製表社より統計協会に改称
- 1879年4月1日-09:00|日本|足利ホールディングス|明治12年|<開業>第七十国立銀行(京都)
- 1879年4月1日-09:00|日本|大阪府|明治12年|<開院>「大阪公立病院」[北区常安町, 大阪府病院を移転]
- 1879年4月1日-09:00|日本|京都府京都市|明治12年|<発足>京都府で行政区画としての伏見区
- 1879年4月1日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治12年|<開業>第百二十一国立銀行(大阪)
- 1879年4月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「カエターノ・シモンチニ」「マリノ・ニコリーニ」
- 1879年4月2日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>第百三十二国立銀行(神奈川程ヶ谷;5.21開業)
- 1879年4月2日 04:00|グレタ/イギリス| ||<就任>グレタ 副総督「ロバート・ウィリアム・ハーレー」(2回目~18810928)
- 1879年4月3日-09:00|日本|群馬県沼田市|明治12年|迦葉山弥勒寺が大火、多くの重宝を焼失
- 1879年4月3日 04:00|リベリア| ||リベリア、ペルーとの外交関係を断つ
- 1879年4月4日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第013号「府県会規則第十三条第二款改正」公布
- 1879年4月4日-09:00|日本|沖縄県|明治12年|<改称>明治政府が、琉球藩→沖縄県とし全国に布告
- 1879年4月4日-09:00|日本|京都大学|明治12年|<改称>「大阪英語学校」⇒「大阪専門学校」
- 1879年4月4日-04:00|モリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モリシャス総督・最高司令官「ジョージ・ファーガソン・ホーイン卿」(~18830505)
- 1879年4月5日 04:00|ボリビア/リベリア| ||ペルー、ニコラス・デ・ピエロ新大統領のもと参戦. リベリアとボリビア両国に対し宣戦布告/4年間にわたる「太平洋戦争」起こる
- 1879年4月6日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ガイアナ総督代行「ウィリアム・アレクサンダー・ジョージ・ヤング」(2回目~12.4)
- 1879年4月7日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「ムハンマド・シャリフ・パシャ」(1回目~8.18)
- 1879年4月8日-09:00|日本|鹿児島県大島郡|明治12年|<発足>明治12年太政官布告第015号「鹿児島県下大島外四島ヲ大島郡ト為シ大隅国ニ属ス」公布
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県|明治12年|<分割>新潟県魚沼郡を分割し小千谷町など1町156村に北魚沼郡(郡役所は小千谷町)が行政区画として発足;蒲原郡を分割し新津町ほか4町350村に中蒲原郡(郡役所は新津町)が行政区画として発足;頸城郡を分割し高田城下など3町771村に中頸城郡(郡役所は高田城下), 糸魚川町など7町167村に西頸城郡(郡役所は糸魚川町), 安塚村など167村に東頸城郡(郡役所は安塚村)が行政区画として発足;古志郡(郡役所は長岡城下)が行政区画として発足
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県岩船郡|明治12年|<発足>新潟県で行政区画としての岩船郡が発足, 郡役所を村上城下に設置
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県刈羽郡|明治12年|<分割>新潟県で行政区画としての刈羽郡が発足, 郡役所を柏崎町に設置
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県北蒲原郡|明治12年|<分割>新潟県蒲原郡を分割し新発田村ほか7町603村に行政区画としての北蒲原郡が発足, 郡役所を新発田本村に設置
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県佐渡市|明治12年|<発足>新潟県で行政区画としての加茂郡・雑太郡・羽茂郡が発足「雑太加茂羽茂郡役所」が雑太郡相川町に設置され管轄
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県三島郡|明治12年|<発足>新潟県で行政区画としての三島郡が発足, 郡役所を与板城下に設置
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県中魚沼郡|明治12年|<分割>新潟県魚沼郡を分割し十日町村など78村に行政区画としての中魚沼郡が発足, 郡役所を十日町村に設置
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県新潟市|明治12年|<分割>新潟県蒲原郡を分割し新潟町・寄居白山新田村の区域に新潟区が行政区画として発足
- 1879年4月9日-09:00|日本|新潟県西蒲原郡|明治12年|<分割>新潟県蒲原郡を分割し巻村ほか2町350村に行政区

1880迄 (3454件)

- 画としての西蒲原郡が発足、郡役所を巻村に設置
1879年4月9日-09:00|日本|新潟県南魚沼郡|明治12年|<分割>新潟県魚沼郡を分割し六日町村など168村に行政区画としての南魚沼郡が発足、郡役所を六日町村に設置
- 画としての南魚沼郡が発足、郡役所を六日町村に設置
1879年4月9日-09:00|日本|新潟県南蒲原郡|明治12年|<分割>新潟県蒲原郡を分割し三条町ほか3町303村に行政区画としての南蒲原郡が発足、郡役所を三条町に設置
- 1879年4月10日-09:00|日本| ||明治12年|「筑波博覧会」開催(～8月9日)[開催地]茨城県[会場]筑波神社境内[主催]筑波町民間人
- 1879年4月12日-09:00|日本|広島銀行|明治12年|<設立>第百四十一国立銀行(愛媛県新居東町;7.1開業)
- 1879年4月14日-09:00|日本|JR|明治12年|日本人初の機関方3名が乗務開始
- 1879年4月15日-09:00|日本| ||明治12年|兵学校内に機関課設置
- 1879年4月15日 00:00|イギリス| ||英国、デボンポート造船廠に近いキラムに海軍機関学校設立
- 1879年4月17日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ペーニャ・フーラ侯爵モン・ブランコ・イレニャス」(1回目～18811128)
- 1879年4月20日-09:00|日本| ||明治12年|「方円社」結成:囲碁結社「方円社」(社長・村瀬秀甫)が東京府神田区相生亭に創設される
- 1879年4月21日-09:30|オーストラリア| ||8時間労働を勝ち取った1856年の石工のストライクを記念して、ウイクトリアではじめて公的な休日を実施
- 1879年4月21日-09:00|日本|広島銀行|明治12年|<設立>第百四十六国立銀行(広島;12.7開業)
- 1879年4月21日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治12年|<設立>補融社(のち補融銀行)
- 1879年4月21日-01:00|赤道ギニア/スペイン| ||<就任>フェルナンド・ホー総督代行「ファン・アギラル」(~6.20)
- 1879年4月21日-01:00|オーストラリア/オーストリア/オーストリア/オーストリア| ||オーストリア=ハンガリーがオーストリア=ハンガリーの行政権を取得
- 1879年4月23日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ロクスバラ公「ジェームズ・ヘンリー」
- 1879年4月23日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ロクスバラ公「ジェームズ・ヘンリー」(~18921023死去)
- 1879年4月24日-09:00|日本|東京湾フェリー|明治12年|東京・浦賀・館山間に汽船運航
- 1879年4月28日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>方円社、機関誌(初の囲碁月刊誌)「囲碁新報」(520号まで続刊)月に一度の手合日に打たれた碁を厳選して村瀬秀甫の解説付きで棋譜を公開した
- 1879年4月28日-02:00|ブルガリア| ||ブルガリアで初の憲法が施行、立憲君主制へ移行
- 1879年4月29日-09:30|オーストラリア/イギリス| ||<就任>ビクトリア植民地総督「ジョージ・フィッツ」(~18840418)
- 1879年4月29日-04:00|ルイジアナ/フランス| ||<死去>ルイジアナ知事「Pierre Aristide Faron」
- 1879年4月30日-01:00|ドイツ/イギリス| ||イギリスとドイツが奴隷貿易禁止条約を締結
- 1879年5月-13:00|サエ7王/米領サエ7| ||<即位>サエ7王「マリエト・トスマイア・ア・タラ」(~18801108没)
- 1879年5月-09:00|日本| ||明治9年|<発売>金沢三右衛門が、東京・芝に設立した醗酵社「桜田ビール」
- 1879年5月-09:00|日本| ||明治7年|浜脇向浜(別府)を中心にコレラ流行。患者237人、死者137人に及ぶ
- 1879年5月-09:00|日本| ||明治12年|「國千保丸」(123G/T)三軒榮次郎で建造進水
- 1879年5月1日-09:00|日本| ||明治12年|藤倉五郎兵衛が横浜・横須賀間往復1日4回の汽船営業開始
- 1879年5月1日-01:00|フランス| ||<初演>アレクサンダー・ド・マシヤン《喜歌劇「しくじり教育(まちがった教育)」》
- 1879年5月2日-09:00|日本|東邦銀行|明治12年|<設立>第百五十国立銀行(青森;鶴鳴社を元とする;7.10開業)
- 1879年5月2日-01:00|スペイン| ||スペインで、社会主義労働者党が創立される
- 1879年5月3日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第016号「明治六年第二百三十号飛脚貨物運送営業禁止布告廃止」公布
- 1879年5月4日-09:00|日本|龍谷大学|明治12年|西本願寺大教校創立
- 1879年5月4日 01:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル民政知事「Manuel Francisco de Medeiros」PP(1期目～18810528)
- 1879年5月6日-09:00|日本| ||明治12年|<開業>第百二十二国立銀行(三重)
- 1879年5月6日-09:00|日本| ||明治12年|新宿植物御苑(後の新宿御苑)開設
- 1879年5月6日-04:00|ルイジアナ/フランス| ||<就任>ルイジアナ知事「Pierre Etienne Guinier」(~18860323)
- 1879年5月8日 04:30|ペルー/イギリス| ||<就任>ペルー連邦大統領代理「Jose Rafael Pacheco Rodriguez」(~12日)PL
- 1879年5月8日 06:00|アメリカ| ||<売却>アメリカ海軍外輪戦艦「ゲティスバーグ」(1100t)
- 1879年5月9日-09:00|日本| ||明治12年|官吏の公開の場での政談演説を禁止
- 1879年5月12日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>加藤素毛(55歳)俳人
- 1879年5月12日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第017号「東京上等裁判所管轄内へ小笠原島ヲ加フ」公布
- 1879年5月12日 04:30|ペルー/イギリス| ||<就任>ペルー連邦暫定大統領「アントニオ・ゲスマン・ブランコ」(5期目⇒18800317大統領～18840427)PL
- 1879年5月13日-09:30|オーストラリア| ||メルボルンの「ロイヤル・サババン」銀行が支払いを停止
- 1879年5月13日-09:00|日本| ||明治12年|陸軍幕僚参謀条例を定める
- 1879年5月13日-01:00|フランス/ペトナム| ||仏領コチンが民政移管、グイルが初代総督に就任
- 1879年5月14日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第018号「電信条例第十七条削除」公布
- 1879年5月15日-09:00|日本| ||明治12年|山林局を内務省に設置
- 1879年5月15日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第019号「航海公証規則ヲ廢シ西洋形商船免状改正」公布
- 1879年5月15日-09:00|日本|横浜国立大学|明治12年|横浜師範学校が神奈川県師範学校と改称

1880迄 (3454件)

- 1879年5月15日-02:00|モルトバ/ロシア| |||<就任>ロシア領ベッサラビア州総督「エフゲニー・オホビッチ・ヤコフスキー」(~18810812)
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての野洲郡・甲賀郡・神崎郡・坂田郡
発足:浅井郡が分割され行政区画としての西浅井郡と東浅井郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県犬上郡|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての犬上郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県愛知郡|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての愛知郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県大津市|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての滋賀郡・栗太郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての蒲生郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県高島市|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての高島郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|滋賀県長浜市|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての伊香郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|福井県大飯郡|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての大飯郡発足
- 1879年5月16日-09:00|日本|福井県敦賀市|明治12年|<発足>滋賀県で行政区画としての敦賀郡発足
- 1879年5月19日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年大蔵省甲布達第050号(内務卿連署):生糸繭茶共進会規則
- 1879年5月19日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「マヌエル・デ・メンデイス・ボルネット」(~10.16)
- 1879年5月20日-09:00|日本| ||明治12年|<開業>第八十九国立銀行(徳島)
- 1879年5月21日-09:00|日本| ||明治12年|政府の支持を得て長崎造船所に東洋一の立神船渠(現第1ドック)完成/
総長140米、幅入口にて37.17米、内部の幅31米、深さ10.40米
- 1879年5月21日-09:00|日本|三重県四日市市|明治12年|<死去>5代伊藤小左衛門(62歳)実業家/工業都市四日市市
の基礎を作り貿易を重視して産業の近代化を推進
- 1879年5月21日 04:00|ボリビア/刊/ペルー| |||イタ海戦で刊戦艦エスメラルダ号が撃沈され、ペルーも戦艦インペペンソア号
が座礁沈没
- 1879年5月24日 06:00|アメリカ| |||<死去>ウィリアム・ロイド・ガリソン、奴隷制廃止運動家(生年1805年)
- 1879年5月25日-09:00|日本|北海道|明治12年|<開場>開拓使函館仮博物場(函館公園内)
- 1879年5月26日-09:00|日本| ||明治12年|<完成>御代島港(新居浜)、貨客取扱所設置される
- 1879年5月26日 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||アフガニスタンの国王ムハンマド・ヤクーブがイギリスとガンダマク条約を結ぶ/領土
の割譲を承認
- 1879年5月26日 06:00|アメリカ| |||米国でマディソン・スクエア・ガーデン(初代)開場
- 1879年5月27日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年工部省布達第009号「電信取扱規則改定」公布
- 1879年5月28日 04:00|刊/ペルー| |||Huascar、ペルーのスクナー、カタを奪還。さらに刊の輸送艦Emiliaを鹵獲
- 1879年5月29日-09:00|日本| ||明治12年|<開場>「神宮第十五教区教会所」[広島大手筋1丁目]
- 1879年6月-09:00|韓国/朝鮮| |||朝鮮で日本からはいったコレラが大流行
- 1879年6月-04:00|ロシア/アフガニスタン| |||ロシアがアフガニスタンと相互援助条約を締結
- 1879年6月-03:00|サングアラビヤ/トルコ| |||<就任>オスマン帝国ビジャース 総督「ラシッド・ナシッド・ハシヤ」(~1880年3月)
- 1879年6月1日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル王国第35代首相「アンセルモ・ド・ブラムキャンポ・エ・アルメイダ・カステロ・ブラン
コ」(~18810325)
- 1879年6月3日-09:00|日本| ||明治12年|<大相撲>明治12年06月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西
関脇)若嶋、6勝0敗2分1預1休/梅ヶ谷42連勝
- 1879年6月3日 01:00|アリス諸島/ポルトガル| |||<就任>アンゲラド・エロイス 民政知事「Jacome de Ornelas Bruges de
Avila PP Paim da Camaraj」(3期目~18810326)
- 1879年6月4日-09:00|日本| ||明治12年|1円銀貨幣の名称を「貿易一円銀」と定める
- 1879年6月4日-09:00|日本|靖国神社|明治12年|東京・九段の東京招魂社を靖国神社と改称して別格官弊社とし、
内務・陸軍・海軍3省の管轄とした
- 1879年6月5日-09:30|オーストラリア| |||メルボルンのオーストラリアン・ヨーロピアン銀行が支払いを停止
- 1879年6月6日-09:00|日本|佐賀銀行|明治12年|<設立>点滴社(福岡)
- 1879年6月8日-09:00|日本|大谷大学|明治12年|貫練場を貫練教校と改称
- 1879年6月8日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ヘラルド・オルテガ」(1回目~15日)
- 1879年6月9日-09:00|日本| ||明治12年|慈善団体・福田会が東京に日本初の孤児院を創設
- 1879年6月9日-09:00|日本|京都新聞|明治12年|<創刊>京都新聞社「京都新聞」
- 1879年6月9日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|明治12年|<死去>森俊滋(47歳)元播磨三日月藩主・知藩事
- 1879年6月9日-01:00|フランス| |||<死去>ナポレオン・ウジェーヌ・ルイ・ボナパルト(ナポレオン4世)、フランスの皇太子(生年1856年)
- 1879年6月10日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治12年|<開業>第三百三十一国立銀行(大阪)
- 1879年6月13日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第021号「木綿織物外十四品無税輸出差許」公布
- 1879年6月13日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「アントニオ・ド・サメント・ペレイラ・サンパオ」(~188107
27)
- 1879年6月14日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ファンチャル地区民政知事「Joao Read da Costa Cabral」(~18810404)
- 1879年6月15日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>アルマン、週間仏文紙「クワリエ・デュ・ジヤポン」
- 1879年6月15日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治12年|<開業>第三百三十七国立銀行(兵庫篠山)
- 1879年6月15日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ホセ・リカルド・カサル」(2回目~17日)
- 1879年6月16日-09:00|日本| ||明治12年|福田会(仏教徒の慈善団体)、東京に育児園(孤児院)を創立
- 1879年6月16日-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Giovanni Giacomo della Bona」(~18851117)
- 1879年6月16日 06:00|アメリカ| |||ギルバートとサリヴァンが、ニューヨークで「ピナフォア」を上演
- 1879年6月17日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ヘラルド・オルテガ」(2回目~12.31)
- 1879年6月18日 05:00|パナマ/イギリス| |||<就任>パナマ植民地総督代行「エドワード・ハートネット・アンダーソン・テイラー」(1回目~12.

1880迄 (3454件)

17)

- 1879年6月19日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル | |||<就任>ポルトガル 民政知事「Verissimo de Aguiar Cabral」(~18810330)
- 1879年6月20日-01:00|赤道ギニア/スペイン | |||<就任>フェルナント・ホー-総督代行「ホセ・モンテス・デ・カ・イ・アセニエロ」(1回目~7.24)
- 1879年6月22日-08:00|マレーシア | |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「トゥアンク・アフマト・タジユテ」イン3世 ムカラム・シャー・イブン・アル=マルフム・スルタン・ザイナル=ラシド・ムアッザム・シャー
- 1879年6月22日-08:00|マレーシア | |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「トゥアンク・ザイナル=ラシド・ムアッザム・シャー2世」イブン・アル=マルフム・スルタン・アフマト・タジユテ・イン・ムカラム・シャー(~18810922没)、摂政「トゥンク・ヤクブ・イブン・アル=マルフム・スルタン・ザイナル=ラシド・アル=ムアッザム・シャー」(~18810922)
- 1879年6月23日-02:00|キプロス/イギリス | |||<就任>イギリス保護領キプロス高等弁務官・最高司令官「ロバート・ヒドゥル卿」(~18860309)
- 1879年6月24日-09:00|日本 | ||明治12年|明治12年太政官布告第022号「金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ区会町村会議ニ付シ施行ス」公布
- 1879年6月26日-02:00|エジプト/トルコ | |||<解任>オスマン帝国領エジプト総督「イスマイル・パシャ」
- 1879年6月26日-02:00|エジプト/トルコ | |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・タウフィーク・パシャ」(~18920107没)
- 1879年6月27日-09:00|日本 | ||明治12年|明治12年太政官布告第023号「虎列刺病予防仮規則」公布
- 1879年6月30日-09:00|日本 | ||明治12年|<廃止>福山師範学校・南町学校
- 1879年6月30日-09:00|日本 | ||明治12年|明治12年大蔵省甲布達第068号(内務卿連署):生糸繭茶共進会規則第六条中改正
- 1879年6月30日-09:00|日本|日本郵政|明治12年|(小判)小判切手(1879年)額面:3銭、50銭、発行
- 1879年6月30日-09:00|日本|日本郵政|明治12年|郵便はかき三銭五銭六銭廃止、二銭三銭発行
- 1879年7月-09:00|日本 | ||明治12年|小浜製糸会社、士族授産事業として創業
- 1879年7月-09:00|日本|東京都立松沢病院|明治12年|東京府、癲狂院を開院
- 1879年7月-09:00|日本|東北大学|明治12年|共立病院附属塾舎は宮城病院附属医学校となる
- 1879年7月-09:00|日本|新潟大学|明治12年|新潟病院医学所が新潟医学校と改められ、新潟病院はその付属機関となる
- 1879年7月-01:00|リビア/トルコ | |||<就任>オスマン帝国トリポリリアニア・ワリス(総督)「アハメド・イゼット・パシャ」(2回目~1880年5月)
- 1879年7月-01:00|ナイジェリア/イギリス | |||<就任>ナイテッド・アフリカンカンパニー総督代理「デヴィッド・MacIntosh」(⇒1882年、国立アフリカ社総督代理⇒18860710、王立ニール社総督代理~1888年死去)
- 1879年7月1日-09:30|オーストラリア | |||<創刊>「アイリッシュ・テレグラフ」
- 1879年7月1日-09:00|日本 | ||明治12年|森鷗外の父、静男、千住一丁目に医院橋井堂を開業
- 1879年7月1日-09:00|日本|九州大学|明治12年|福岡病院あとに福岡医学校を開設
- 1879年7月1日-09:00|日本|滋賀県|明治12年|滋賀県、郡役所を開庁
- 1879年7月1日-08:00|中国 | |||中国・甘肅省武都地震(M8.0)、死者29480人
- 1879年7月1日 00:00|ガーナ/イギリス | |||<就任>イギリス領西アフリカ植民地コーネル=コースト総督・最高司令官「ハーバート・テイラー・アッシャー」(4回目~18801201)
- 1879年7月2日-09:00|日本 | ||明治12年|林屋正蔵・4代(落語家)死去
- 1879年7月3日-09:00|日本|岐阜大学|明治12年|岐阜県師範学校附属女子師範および普通女学校設立
- 1879年7月4日-02:00|南アフリカ/イギリス | |||イギリス軍がズールランドを占領し、ズール王のケチュワヨを捕らえる
- 1879年7月5日-09:00|日本 | ||明治12年|明治12年太政官布告第026号「新旧公債証書発行条例並金禄公債証書発行条例中追加改正」公布
- 1879年7月7日-09:00|日本 | ||明治12年|日本海軍練習艦「肇敏丸」を「肇敏」と改称(→明治13年1月22日:五等軍艦)
- 1879年7月8日-09:00|日本 | ||明治12年|<創刊>広島初の日刊紙「広島日報」(坪村梅坪ら数名が発刊~18820504、801号で発行禁止)
- 1879年7月9日-02:00|ブルガリア | |||<即位>ブルガリア大公「アレクサンドル1世」(1回目~18860821)
- 1879年7月10日-09:00|日本 | ||明治12年|東京大学卒業生に初めての学位(学士号)授与する(医学本科18名、製薬本科19名の計37名)
- 1879年7月10日 04:00|マルティニーク/フランス | |||<就任>フランス領マルティニーク知事代理「Charles Alexandre Lacouture」(~12.20)
- 1879年7月12日-01:00|ドイツ | |||ビスマルクが保護関税法を制定、ドイツが保護貿易へ転換
- 1879年7月12日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル | |||<就任>ポルトガル・ギニア総督「アウグスト・フルタオザ・フイゲイレイテ・デ・バロ」(~10.20)
- 1879年7月14日-09:00|日本 | ||明治12年|<設置>検疫所「長崎消毒所」(長崎港口・女神)来航船舶に対する海港検疫の初め
- 1879年7月14日-09:00|日本 | ||明治12年|明治12年太政官布告第028号「海港虎列刺病伝染予防規則」公布
- 1879年7月14日-01:00|イタリヤ | |||<就任>イタリヤ王国首相(閣僚評議会議長)「ベネデット・カイロリ」(2回目~18810529)
- 1879年7月15日-01:00|ドイツ | |||<死去>ヨハン・フリードリヒ・フォン・ブラント、自然学者(生年1802年)
- 1879年7月16日 00:00|イギリス | |||テニス第3回ウィンブルドン選手権男子シングルス優勝:ジョン・ハートリー
- 1879年7月17日-09:00|日本 | ||明治12年|東京府癲狂院(後の松沢病院)設立
- 1879年7月17日-02:00|ブルガリア | |||<就任>ブルガリア首相(閣僚会議議長)「トドル・スタヤノフ・ブルモ」(~12.6)

1880迄 (3454件)

1879年7月17日 10:00	ハワイ		ハワイ王国初の鉄道が開業(カライ・ワイル間)
1879年7月18日 05:00	ハワイ		<就任>ハワイ共和国大統領首都「ヒール・シャル・バー・ソムニ・デニス公共秩序委員会委員長」(~26日)
1879年7月19日-09:00	日本		明治12年 明治12年海軍省甲布達第001号「造船所並兵器局定雇職工規則中但書改正」公布
1879年7月20日-09:00	日本		明治12年 <開場>「集産場」[広島区下中町, 博物館を改称]
1879年7月21日-09:00	日本		明治12年 明治12年太政官布告第029号「海港虎列刺病伝染予防規則更正檢疫停船規則」改称」公布
1879年7月23日-09:00	日本	北海道	明治12年 <発足>北海道開拓使高島郡・札幌郡・千歳郡・釧路郡が行政区画としての発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道阿寒郡	明治12年 <発足>北海道開拓使阿寒郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道足寄郡	明治12年 <発足>北海道開拓使足寄郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道厚岸郡	明治12年 <発足>北海道開拓使厚岸郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道網走郡	明治12年 <発足>北海道開拓使網走郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道虻田郡	明治12年 <発足>北海道開拓使虻田郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道石狩郡	明治12年 <発足>北海道開拓使石狩郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道石狩市	明治12年 <発足>北海道開拓使厚田郡・浜益郡が行政区画としての発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道磯谷郡	明治12年 <発足>北海道開拓使磯谷郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道岩内郡	明治12年 <発足>北海道開拓使岩内郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道有珠郡	明治12年 <発足>北海道開拓使有珠郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道浦河郡	明治12年 <発足>北海道開拓使で行政区画としての浦河郡が発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道雨竜郡	明治12年 <発足>北海道開拓使雨竜郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道枝幸郡	明治12年 <発足>北海道開拓使枝幸郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道奥尻郡	明治12年 <発足>北海道開拓使奥尻郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道小樽市	明治12年 <発足>北海道開拓使小樽郡・忍路郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道河西郡	明治12年 <発足>北海道開拓使河西郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道河東郡	明治12年 <発足>北海道開拓使河東郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道樺戸郡	明治12年 <発足>北海道開拓使樺戸郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道上磯郡	明治12年 <発足>北海道開拓使上磯郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道上川郡	明治12年 <発足>北海道開拓使上川郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道亀田郡	明治12年 <発足>北海道開拓使亀田郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道茅部郡	明治12年 <発足>北海道開拓使茅部郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道川上郡	明治12年 <発足>北海道開拓使川上郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道釧路郡	明治12年 <発足>北海道開拓使釧路郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道久遠郡	明治12年 <発足>北海道開拓使久遠郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道様似郡	明治12年 <発足>北海道開拓使様似郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道沙流郡	明治12年 <発足>北海道開拓使沙流郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道標津郡	明治12年 <発足>北海道開拓使標津郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道島牧郡	明治12年 <発足>北海道開拓使島牧郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道積丹郡	明治12年 <発足>北海道開拓使美国郡・積丹郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道斜里郡	明治12年 <発足>北海道開拓使斜里郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道白老郡	明治12年 <発足>北海道開拓使白老郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道白糠郡	明治12年 <発足>北海道開拓使白糠郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道寿都郡	明治12年 <発足>北海道開拓使歌棄郡・寿都郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道瀬棚郡	明治12年 <発足>北海道開拓使瀬棚郡・太櫓郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道宗谷郡	明治12年 <発足>北海道開拓使宗谷郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道空知郡	明治12年 <発足>北海道開拓使空知郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道天塩郡	明治12年 <発足>北海道開拓使天塩郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道十勝郡	明治12年 <発足>北海道開拓使十勝郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道常呂郡	明治12年 <発足>北海道開拓使常呂郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道苫前郡	明治12年 <発足>北海道開拓使苫前郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道中川郡	明治12年 <発足>北海道開拓使中川郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道新冠郡	明治12年 <発足>北海道開拓使新冠郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道爾志郡	明治12年 <発足>北海道開拓使で行政区画としての爾志郡が発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道根室市	明治12年 <発足>北海道開拓使花咲郡・根室郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道野付郡	明治12年 <発足>北海道開拓使野付郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道登別市	明治12年 <発足>北海道開拓使幌別郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道日高郡	明治12年 <発足>北海道開拓使三石郡・静内郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道檜山郡	明治12年 <発足>北海道開拓使檜山郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道広尾郡	明治12年 <発足>北海道開拓使広尾郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00	日本	北海道古宇郡	明治12年 <発足>北海道開拓使古宇郡が行政区画として発足

1880迄 (3454件)

1879年7月23日-09:00|日本|北海道古平郡|明治12年|<発足>北海道開拓使で行政区画としての古平郡発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道幌泉郡|明治12年|<発足>北海道開拓使幌泉郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道日梨郡|明治12年|<発足>北海道開拓使日梨郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道紋別郡|明治12年|<発足>北海道開拓使紋別郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道山越郡|明治12年|<発足>北海道開拓使山越郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道夕張郡|明治12年|<発足>北海道開拓使夕張郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道勇払郡|明治12年|<発足>北海道開拓使勇払郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道余市郡|明治12年|<発足>北海道開拓使余市郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道利尻郡|明治12年|<発足>北海道開拓使で行政区画としての利尻郡が発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道留萌郡|明治12年|<発足>北海道開拓使留萌郡が行政区画として発足
1879年7月23日-09:00|日本|北海道礼文郡|明治12年|<発足>北海道開拓使で行政区画としての礼文郡が発足
1879年7月23日-04:00|ロシア/日本|北海道|明治12年|<発足>北海道開拓使国後郡・択捉郡・紗那郡が行政区画として発足
1879年7月24日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナンド・ホー総督「エンリケ・サンタロー・イ・サエンス・デ・テハダ」(~18800903)
1879年7月26日-09:30|オーストラリア| |||西オーストラリアでジェラルドトン=ノーストン間に、初の公有の鉄道が開通
1879年7月26日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国暫定政府「ヘリストン・ヘリセ(10.3まで)/ポール・ティレシアス・アンソニー・アウグスト・サ
イモン=サム・アデルソン・ド・ウボン(10.3まで)/ルネ・ラモス(10.3まで)/テオドール・ネス・セレス(10.3まで)/ルイス・ステイブソン・フェリシティ・リクス・ソロモ
ン(大統領)(10.3から)/リシユール・デュペルヴァル(10.3から)/ルイ・モンテ・ステイン・フォルグ・イル・ヒポリット(1回目、10.3から)/セイト・テ
レマクス(1回目、10.3から)/ヌマ・ジャン=オギュスト・ローラン・リゴ(10.3から)/サール・リス・ローラン(10.3から)」(~10.26)
1879年7月29日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「アフメト・アリフィ・パシャ」(~10.18)
1879年7月31日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第030号「検疫停船規則中正誤」公布
1879年8月-09:00|日本| ||明治12年|木製汽船「和歌浦丸」(108G/T)進水(→1881年、若山儀助(和歌山)の所有)
1879年8月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Bostancibashizade Reshid Mehmed Pasha」(~12月)
1879年8月1日-09:00|日本|東京海上ホールディングス| |東京・南茅場町で海上保険会社が営業を開始/日本で最初の保
険会社
1879年8月1日-09:00|日本|フィデアホルディングス|明治12年|<開業>第百四十国立銀行(山形)
1879年8月1日-09:00|日本|宮崎銀行|明治12年|<開業>第百四十五国立銀行(宮崎)
1879年8月2日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>2代本松斎一甫(不明)華道家
1879年8月3日-09:00|日本| ||明治12年|コレラ死亡者、5月24日よりこの日までに1489人に達する
1879年8月3日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督代理「Alexandre Eugene Bouet」(2期目~12.30)
1879年8月4日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督「オーガス・ロウ」(~18851109)
1879年8月6日-09:00|日本| ||明治12年|喜昇座(明治6年4月開場)を久松座と改称して新築開場
1879年8月7日-09:00|日本| ||明治12年|新潟中浦原群でコレラ騒乱起こる。暴徒700人に軍隊出動、死者13名。この
年各地で24騒乱続発
1879年8月7日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第031号「証券印税規則中追加」公布
1879年8月7日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ファイフ伯「アレクサンダー・ダフ」(⇒18850716連合王国初代ファイフ伯⇒188907
29連合王国初代ファイフ公⇒19000424兼マクダフ伯~19120112死去)
1879年8月10日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事代理「Hippolyte Pierre Maze」(1期目~12.21)
1879年8月12日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「カール・テューン」(2度目~18931111)
1879年8月14日-01:00|スペイン/バル| |||バルとスペインが講和条約を締結し外交関係を樹立
1879年8月15日-09:00|日本|東京都立墨東病院|明治12年|東京府、コレラ患者罹患のために、本所病院を設置
1879年8月17日-09:00|日本|長野県伊那市|明治12年|<死去>内藤頼直(40歳)元信濃高遠藩主・知藩事
1879年8月17日 05:00|パナマ| |||レップスがパナマ運河会社を設立
1879年8月18日-09:00|日本| ||明治12年|<開業>浪華温泉(大阪中之島)
1879年8月18日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治12年|官設鉄道[大谷-山科-稲荷(-京都)]間13.09km延伸→
[大谷-神戸]開通
1879年8月18日-09:00|日本|JR西日本奈良線|明治12年|官設鉄道[京都-稲荷(-大谷)]間13.09km開業
1879年8月18日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「ケイヴ・ムハンマド・タフイク・パシャ」(2回目~9.2
1)
1879年8月20日-01:00|オランダ| |||<就任>オランダ王国首相「リッデン・ファン・サンテンボルク男爵コンスタンティン・テオドル」(~1883042
3)
1879年8月22日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治12年|<設立>第百四十九国立銀行(北海道函館:1880021
0開業)
1879年8月24日-09:00|日本| ||明治12年|<遷座>織姫神社(足利市:通4丁目の八雲神社から)
1879年8月24日 05:00|キューバ| |||オリエント各地では、一斉蜂起。「小戦争」開始。カギンを中心にしたトウナス、バイルなどが
蜂起。ラス・ヒリヤスでも反乱開始
1879年8月25日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第032号「虎列刺病予防仮規則更正」公布:明治12
年太政官布告第033号「相州長浦湾及長崎港外に於て検疫法施行停止」公布
1879年8月27日-04:00|ロシア| |||ロシアで「土地と自由派」が全土地割替派と人民の意志派に分裂
1879年8月28日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリス軍が、ズールのケワイを占領
1879年8月29日-09:00|日本|東京都保健医療公社大久保病院|明治12年|東京府、コレラ患者罹患のために、大久保病
院を設置

1880迄 (3454件)

1879年8月30日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア管理者「トマス・H・ディックス」(3回目~18810304)
1879年9月-09:00|日本| ||明治12年|宮城集治監完成(六方放射型, 10月から収容)
1879年9月-09:00|日本| ||明治12年|「東京曙新聞」第1792で終刊
1879年9月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Ingiliz Mehemet Said Pasha」(~1881. 1)
1879年9月 06:00|アメリカ| |||ミル・リヴァーの戦い、ユート族がソング軍と衝突
1879年9月1日-09:00|日本| ||明治12年|<開業>第百四十四国立銀行(宮崎飴肥)
1879年9月1日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||イギリスとズール人首長との和議が成立
1879年9月2日-09:00|日本| ||明治12年|福沢諭吉の発起で交詢社が設立
1879年9月3日-04:30|アフガニスタン| |||ヘラト連隊は給与の全額支払を求めてカフガリの公舎を襲撃, 公舎周辺では略奪開始/その夜カフガリと随員、及び守備隊は全員殺害された
1879年9月4日-02:00|エジプト/イギリス/フランス| |||<就任>エジプト財務総監「イギリス」(18800623まで) /「フランス」(18820312まで) /「オランダ」(18800623から) /「ドイツ」(18820313から) (~18821207)
1879年9月7日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット司令官代行「シャルル・バリエ」(~12. 16)
1879年9月8日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ズールランド植民地居住者「ウィリアム・ダグラス・ホールライト」(~1880年1月)
1879年9月8日 05:00|カリブ海/アメリカ| |||米国によってセラニャ・パンク領有宣言(ニカラガの北東210マイルに位置)
1879年9月9日-09:00|日本| 東京都立駒込病院|明治12年|東京府、コレラ患者罹患のために、駒込病院を設置
1879年9月9日-05:00|トルクメニスタン/ロシア| |||<戦い>ロシアがキョクテペに侵入しアハル・テケ・トルクメンに敗北
1879年9月10日-12:00|フィジー/イギリス| |||<就任>フィジー総督兼西太平洋高等弁務官「アーサー・ハミルトン・ゴートン」(2回目~1880年1月)
1879年9月10日-09:00|日本| ||明治12年|<改称>「広島県師範学校」⇒「広島県広島師範学校」
1879年9月10日-01:00|セルビア/オーストリア/ハンガリー/トルコ| |||「グィン・ザール」のサンジャクはオーストリア=ハンガリー帝国に占領され(ホスニア・ヘルツェゴビナに従属)、名目上はオスマン帝国の主権下に置かれる(~19081028) (~18821207)
1879年9月11日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第034号「地所名称区別中改正」公布
1879年9月13日-01:00|フィジー/イギリス| |||<就任>フィジー領事「エドワード・ハイド・ヒューズ」(~18850605)
1879年9月15日-09:00|日本| ||明治12年|昨年10月来日本で猛威を奮うコレラの被害発表(罹患138, 953名, 死者76, 597名)
1879年9月15日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第036号「鎮台条例廃止」公布
1879年9月16日-09:00|日本| 千葉県館山市|明治12年|<死去>稲葉正巳(65歳)元安房館山藩主、若年寄・老中格・陸軍奉行・海軍総裁
1879年9月17日-09:30|オーストリア| |||「シトニー万国博覧会」開催(~1880年04月27日)[会場]シトニー(オーストリア)[入場者]1, 117, 536人/日本は民間参加/オーストリア初のエレベーターなどが公開
1879年9月17日 05:00|ケイマン諸島/イギリス| |||<死去>イギリス領ケイマン諸島主任判事「ウィリアム・エデン」
1879年9月17日 05:00|ケイマン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ケイマン諸島主任判事「ウィリアム・ボッデン・ウェブスター」(~1888年)
1879年9月18日 00:00|イギリス| |||英国ブラックプールで最初の電飾
1879年9月20日-09:00|日本| 長崎県|明治12年|長崎県下のコレラ患者5585、うち死亡2469
1879年9月21日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>四国最初のプロテスタント教会[愛媛今治町]
1879年9月21日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト首相「リヤド・ハシム」(1回目~18810910)
1879年9月21日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリダ総督「Manuel Macias y Casado」(1期目~1880年)
1879年9月22日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第037号「東京並大阪株式取引所ニ於て金銀貨幣取引差許」公布: 明治12年太政官布告第038号「横浜洋銀取引所ヲ横浜取引所ト改称金銀貨幣取引差許」公布
1879年9月23日-09:00|日本| ||明治12年|<死去>高村東雲(54歳)仏師、彫刻家
1879年9月26日 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシパル総督「Francisco Joaquim Ferreira do Amaral」(~11. 28)
1879年9月27日-09:00|日本| ||明治12年|官當千住製絨所開業
1879年9月27日 00:00|イギリス| |||<ゴルフ>第19回全英オープン選手権優勝: ジェミー・アンダーソン(3回目)(スコットランド/169)
1879年9月28日-09:30|オーストリア| |||レッド・ファーン駅とハンター・ストリート間に蒸気トラムが開通
1879年9月28日-01:00|ドイツ/スイス| |||<創刊>ドイツの社会主義労働党機関誌「テール・ツァー・モラート」(チューリッヒ)
1879年9月29日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第040号「学制廃止教育令制定」公布
1879年10月-09:00|日本| ||明治12年|<創建>カトリック本所教会(旗本屋敷跡)
1879年10月-09:00|日本| ||明治12年|木製汽船「長崎丸」(336G/T) 政府長崎工作分局(長崎)で建造進水
1879年10月-09:00|日本| 青山学院|明治12年|横浜山手町に美會神学校が設立される
1879年10月-09:00|日本| 東京藝術大学|明治12年|文部省に我が国の音楽教育を実施するに当たつての諸事項を調査するため音楽取調掛を設置
1879年10月-05:30|インド| |||<就任>チャルカ国摂政「フレデリック・ヘンリー・メイトランド」(~1880年3月)
1879年10月 00:00|セネガル| |||<就任>セネガル統治者「マドゥ・ウ・ラミン・リ」(~1880年10月)
1879年10月 06:00|アメリカ| |||「プロクター&ギャンブル」社がアイリス・ストーンを販売開始
1879年10月1日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第041号「明治十一年第三十五号貿易券円銀再鑄発行布告」(但書追加)公布
1879年10月1日-09:00|日本| ||明治12年|陸軍省第一局は総務局に、第二局は人員局に改称

1880迄 (3454件)

- 1879年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・ゴジ」 「フランチェスコ・マルベリ」
- 1879年10月2日-04:00|ロシア/中国| ||清の光緒5年8月17日|崇厚が、イリ事件に関してロシアとロシア条約を結ぶ(批准せず)
- 1879年10月4日-09:00|日本|日本郵船|明治12年|郵便汽船三菱、香港航路を開設
- 1879年10月5日-05:30|インド| |||<就任>パト国ラジャ「ジョージ・ラ・テオ」 (~19130310没)
- 1879年10月6日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年大蔵省甲布達第099号(内務卿連署):生糸繭茶共進会会場規則第一条^但書追加
- 1879年10月6日-09:00|日本|九州フィナンシャルグループ|明治12年|<設立>第百四十七国立銀行(鹿児島)
- 1879年10月7日-09:00|日本|東京藝術大学|明治12年|伊沢修二の提唱により文部省に音楽取調掛を設置,以後,音楽伝習生を募集してこれを教育
- 1879年10月7日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ロシアを意識したビスマルクの画策で、ウィーンで、オーストリア・ドイツ2国同盟が結ばれる
- 1879年10月8日-12:00|ニュージーランド| |||<就任>ニュージーランド 首相「ジョン・ホル」 (~18820421)
- 1879年10月8日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第042号「拷問ニ関スル法令削除」公布
- 1879年10月8日-01:00|オーストリア/ハンガリー| |||<就任>オーストリア=ハンガリー帝国帝国・王室・外務大臣「ハインリッヒ・カール・フライヘル・フォン・ヘイムル」 (~18811010没)
- 1879年10月8日 04:00|ボリビア/チリ/ペルー| |||イキ付近Angamosで海戦/ペルー唯一の大型戦艦ウアスカル号がチリ艦船の攻撃を受け、ウアスカル船上で白兵戦/61名の将校・水兵が殺され、船は乗っ取られる
- 1879年10月8日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ 総督代行「エドワード・ニュートン」 (~18800604)
- 1879年10月10日-09:00|日本| ||明治12年|砲兵工廠条例及び、陸軍職制を制定:東京砲兵工廠と、支廠たる大阪砲兵工廠の二つが設置され、砲兵工廠提理が統括:陸軍省第五局が会計局と改められる
- 1879年10月10日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第043号「銀行当座預り金小切手税印ハ姑ク証券印紙交用苦ナシ」公布:明治12年大蔵省甲布達第101号「造幣地金受取方規則」公布
- 1879年10月10日-02:00|エジプト/イギリス| |||<就任>イギリスのエジプト代理人・総領事「エドワード・ホルト・ウィン・マレ卿」 (~18830911)
- 1879年10月11日-09:00|日本|日本郵政|明治12年|(小判)小判切手(1879年)額面:1銭、2銭、発行
- 1879年10月12日 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||イギリス軍が、カブルを再占領
- 1879年10月13日-09:00|日本| ||明治12年|宮内省侍補制度廃止
- 1879年10月13日-09:00|日本|東京都|明治12年|<死去>川路利良(45歳)日本警察の父
- 1879年10月15日-09:00|日本| ||明治12年|陸軍軍医本部が置かれる
- 1879年10月15日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|明治12年|<死去>岩城隆彰(17歳)元出羽亀田藩主・知藩事
- 1879年10月15日 07:00|メキシコ| |||ビクトリア酋長の部隊,1年のたたかひのあと,メキシコ軍に捕らえられ処刑される
- 1879年10月16日 05:00|ペルー| |||<就任>ペルー共和国閣僚評議会議長(首相)「マヌエル・ゴンサレス・デ・ラコテラ・ニコラス・デ・ビエラ」軍反乱政府(~12.18)
- 1879年10月18日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国総理大臣「メフメト・サイト・パシャ」(1期目~18800609)
- 1879年10月20日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>早矢仕有的,丸家銀行(日本橋檜物町10番地)
- 1879年10月20日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第048号「明治十三年郵便規則及罰則」公布:明治12年海軍省甲布達第002号「患者免役帰籍仮規則中改正」公布
- 1879年10月20日 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル・ギニア総督「アウグスティヌス・ユエリヨ」 (~18811216)
- 1879年10月21日 00:00|アイルランド| |||アイルランド 土地同盟が結成、地主に対するボイコット運動を展開
- 1879年10月21日 06:00|アメリカ| |||エジソンが、日本産の竹を使って40時間以上も発光する白熱電球を完成
- 1879年10月22日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《カプーリッチョ 短調Op.76-2》
- 1879年10月25日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>嚶鳴社「嚶鳴雑誌」(沼間守一ら,1883年5月10日輿論社の東京輿論新誌と合併75号で終刊)
- 1879年10月26日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「ルイス・ステイブ・ン・フェリシティ・リウス・ソロモン」 (~18880810)十年間にわたる内戦がほぼ終結
- 1879年10月27日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第046号「徴兵令改正」(徴兵年限を延長)公布:明治12年司法省甲布達第002号「訴訟入費償却規則中差添人ニ係ル件々削除」公布
- 1879年10月28日-09:00|日本| ||明治12年|<国営移管改称>札幌測候所⇒文部省所管「中央气象台札幌支台」
- 1879年10月28日-09:00|日本| ||明治12年|東京警視本署,京橋新船町に水上警察署を設置する
- 1879年10月28日-04:30|アフガニスタン| |||<退位>アフガニスタン(カブル)エミール「モハメド・ヤクーブ・カーン」イギリス軍が退位させる
- 1879年10月30日-09:30|オーストラリア| |||<就任>タスマニア植民地政府首相「ウィリアム・ギブリン」 (~18840815)
- 1879年10月31日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年内務省甲布達第013号(大蔵卿連署):綿砂糖共進会規則
- 1879年11月-09:00|日本| ||明治12年|雅楽課内に洋楽協会が設立される
- 1879年11月-09:00|日本|青山学院|明治12年|ロバート・S・マクレイ博士、横浜に美曾神学校を創立
- 1879年11月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュトラのワリス「メフメト・イェット・パシャ」 (~1880年8月)
- 1879年11月1日-09:00|日本| ||明治12年|三田育種場に農具製作所を開場
- 1879年11月3日-09:00|日本| ||明治12年|函館公園完成開園式
- 1879年11月4日 06:00|アメリカ| |||アメリカでレジスターが特許を取得/酒場を運営するジエムス・リッティ考案
- 1879年11月5日-09:00|日本| ||明治12年|共同競馬会設立
- 1879年11月5日 00:00|イギリス| |||イギリスの物理学者ジエムス・クラーク・マクスウェル死去/48歳(誕生:18310613)
- 1879年11月5日 05:00|キューバ| |||キューバ自治政府成立.カボス総督がみずから首相に就任

1880迄 (3454件)

- 1879年11月10日-09:00|日本| ||明治12年|広島県広島師範学校、失火により校舎を全焼
- 1879年11月10日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャルグループ|明治12年|<設立>日新社(福岡)
- 1879年11月11日-09:00|日本| ||明治12年|<設立>第百五十三国立銀行(京都;12.5開業)以降国立銀行の設立停止
- 1879年11月11日-09:00|日本| ||明治12年|愛国石油会社、日本初の石油輸送管を新潟県萩平に設置
- 1879年11月13日-09:00|日本|金沢大学|明治12年|金沢医学所、福井・富山両医学所を合併し、金沢医学校と改称
- 1879年11月16日-09:00|日本| ||明治12年|村瀬秀甫が家元側の退会した方円社を再組織し、神田神保町で発会
- 1879年11月16日-03:00|マヨット/フランス| ||<就任>フランス保護領マヨット司令官代行「エドゥアル・サアス」(~31日)
- 1879年11月17日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年陸軍省布達第002号「徴兵事務条例」公布
- 1879年11月18日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>「東京横浜毎日新聞」(沼間守一、横浜毎日新聞を買収)
- 1879年11月18日-09:00|日本| ||明治12年|豊国神社、中之島に落成(1961年大阪城内に移転)
- 1879年11月19日 04:00|ホーリア/刊/ペルー| ||ホーリアのイリオン・ダサ大統領軍と、ペルーのプラド大統領軍が刊軍とピサガア近郊のドロレスで決戦/刊軍が圧勝
- 1879年11月21日-09:00|日本|愛知県岡崎市|明治12年|<死去>本多忠考(75歳)元三河岡崎藩主
- 1879年11月22日-09:00|日本|みずほフィナンシャルグループ|明治12年|<設立>合本安田銀行(安田商店改組;18800101開業)
- 1879年11月25日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| ||<就任>サンピエール島・ミクロン島暫定司令官「Auguste Rene Cariot」(~18800118)
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県|明治12年|<発足>岩手県で行政区画として江刺郡(胆沢郡との合同郡役所「胆沢・江刺郡役所」は胆沢郡塩竈村)発足:磐井郡・閉伊郡・稗貫郡(郡役所は里川口村)発足
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県胆沢郡|明治12年|<発足>岩手県で行政区画として胆沢郡(江刺郡と共に胆沢・江刺郡役所を胆沢郡塩竈村に設置)発足
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県岩手郡|明治12年|<発足>岩手県で岩手郡が行政区画として発足
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県九戸郡|明治12年|<発足>岩手県で九戸郡が行政区画として発足
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県紫波郡|明治12年|<発足>岩手県で行政区画としての紫波郡(日詰新田に郡役所)発足
- 1879年11月26日-09:00|日本|岩手県和賀郡|明治12年|<発足>岩手県で行政区画としての和賀郡が発足
- 1879年11月27日-09:00|日本|広島大学|明治12年|<移転>「広島県広島師範学校」[広島南町附属小学校]
- 1879年11月27日-01:00|フランス| ||フランスの政府と両院が、ヴェルサイユからパリに移転
- 1879年11月27日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ダラム伯「ジョージ・フレデリック・ダーク・ラムトン」
- 1879年11月27日 00:00|イギリス| ||<就任>3代ダラム伯「ジョージ・ラムトン」2代伯の長男(~19280918死去)
- 1879年11月27日 04:00|ホーリア/刊/ペルー| ||エスカラ、2300人の先鋒隊をトラパチャに送りこむ。ペルー軍は5000人の兵で反撃。刊軍は687人の戦死者と捕虜を出して敗退
- 1879年11月28日-09:00|日本| ||明治12年|松山堂創業(藤井利八)。漢籍出版および販売
- 1879年11月28日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ 総督代理「Custodio Miguel de Borja」(1期目~18800103)
- 1879年11月29日-01:00|ドイツ| ||<初演>ヨハネス・ブラーム《ヴァイオリン・ソナタ第1番》長調Op. 78「雨の歌」
- 1879年11月30日-09:00|日本| ||明治12年|第1回共同競馬会が陸軍戸山学校の競馬場で開催される
- 1879年12月-09:00|日本| ||明治12年|子どもの玩具泥メコが鉛メコに変化/大正期に紙製になるまで続く
- 1879年12月-09:00|日本|横浜銀行|明治12年|<設立>長岡商会(第六十九国立銀行内;18800311開業、長岡地方の殖産興業を目的とす)
- 1879年12月-03:00|エトリア/イタリア| ||<就任>アッザブ 司令官「チャールズ・デ・アマザガ」(~1880年7月)
- 1879年12月-03:00|スーダン/エジプト| ||<就任>エジプト領スーダン総督「ムハンマド・ラウフ・パシャ」(~1882年2月)
- 1879年12月-03:00|エメン/トルコ| ||<就任>オスマン帝国エメン・ウオリス(総督)「Botgoriceli Ismail Hakki Pasha」(~1882.12)
- 1879年12月-01:00|コソボ/アルバニア| ||<就任>コソボのウリス(総督)「フェイン・フィクリ・パシャ」(~1880年8月)
- 1879年12月-01:00|フランス| ||フランスが、「ラ・マルセイエーズ」を国歌とし、7月14日を国祭日と定める
- 1879年12月 00:00|イギリス/日本| ||明治12年|英国香港郵政庁と日本間で小包郵便条約・郵便為替条約締結
- 1879年12月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治12年|大阪交換所開業、同盟銀行と合議して手形交換を開始
- 1879年12月1日-09:00|日本|活水女子大学|明治12年|エリザベス・ラッセル宣教師、活水女学校を創設
- 1879年12月4日 04:00|カイナ/イギリス| ||<就任>イギリス領ギニア総督「コーネリアス・ヘントリック・カートライト」(2回目~18811213)
- 1879年12月5日-09:00|日本|東京都|明治12年|<死去>千葉定吉(68歳)北辰一刀流の剣術家で桶町千葉道場の創設者
- 1879年12月6日-09:00|日本|北海道函館市|明治12年|<函館明治12年「堀江町大火」>20時半頃、堀江町から出火、各地に飛び火。地蔵町へ飛び火した炎は上大工町から下大工町をひとなめにし、内瀬町へ飛んだ炎はそこからまた4、5か所へ飛び火、八幡坂から会所町まで広がり、下通りにある旧官舎数戸を焼き払った後、警察署からイギリス領事館から領事の私宅まで燃え移りそのあたり一円を焦土とした。上通りに飛んだ炎は第一公立女学校から隣接する伝習所へと燃え広がり、元町の片側をすべて焼き尽くした。元町片側をなめた炎は、愛宕町の官立仮病院に燃え移り天神町まで延焼。また大通り大町の2、3か所にも飛び火して松陰学校と当時建築中だったクラフや同所の旧官舎など7棟を焼いた。また富岡町の東本願寺本堂に飛び火してきた炎は火勢がもっとも烈しく、花谷町、茶屋町周辺の2、3か所に飛び火し、すぐさま上通り天神町から上新町、下新町、台町まで炎の勢いを伸ばし山背町の大半を焼失して翌日午前4時すぎ鎮火/放火によるものと推定されているが、焦土と化したのは函館山のふ

1880迄 (3454件)

- もと一帯の街の主要部分で、特にイギリス領事館をはじめ官立病院、警察署など官庁、学校、郵便局、銀行や企業の建物などが全焼/被害は住家が33町の2326戸、土蔵66棟、板蔵431棟、レンガ造家屋1棟、石造家屋1棟
- 1879年12月6日-02:00|ブルガリア| |||<就任>ブルガリア首相(閣僚会議議長)「クリメント・ツルノフスキー-大主教」(~18800407)
- 1879年12月6日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ポートランド公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ=ペンティンク=スコット」
- 1879年12月6日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ポートランド公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ=ペンティンク」(~19430426死去)
- 1879年12月6日 04:00|ドミニカ共和国| |||<就任>ドミニカ共和国大統領(臨時政府議長)「グレゴリオ・ルベロン」(~18800901)
- 1879年12月7日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王領カリブ諸島市民知事「Ricardo Gutierrez de Salamanca y de la Camara」(1期目~18810205)
- 1879年12月8日-09:00|日本| ||明治12年|頭山満、箱田六輔ら、筑前共愛会を結成
- 1879年12月9日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国閣僚評議会議長Antonio Canovas del Castillo[保守党](~18810208)
- 1879年12月10日-09:00|日本| ||明治12年|印刷局、当用日記帳の刊行を始める
- 1879年12月11日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治12年|<設立>横浜正金銀行(18800228開業)
- 1879年12月11日-09:00|日本|横浜銀行|明治12年|<設立>横浜正金銀行(中村道太郎取)
- 1879年12月11日-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官「アーサー・エリハック・ハブ・ロック」(2度目~18801009)
- 1879年12月13日-09:00|日本| ||明治12年|小崎弘道牧師と11名の青年たちによって赤坂霊南坂町(東京都)に霊南坂教会創立
- 1879年12月13日-09:00|日本| ||明治12年|明治12年太政官布告第047号「大審院職制第一項へ但書追加」公布
- 1879年12月15日-09:00|日本| ||明治12年|大瀬崎灯台点灯(長崎県五島列島、一船の科学館に移築)
- 1879年12月16日-08:00|中国| ||清・光緒5年11月4日|広西西林の苗族の乱が平定される
- 1879年12月17日 05:00|ハマ/イギリス| |||<就任>ハマ植民地総督「ウィリアム・ロビンソン」(2回目~18800618)
- 1879年12月18日-09:00|日本| ||明治12年|<創刊>四通社「中外廣問新報」(堀江六郎)
- 1879年12月18日-09:00|日本| ||明治12年|「問答新聞」→「中外広問新報」創刊/四通社
- 1879年12月18日-09:00|日本|毎日新聞|明治12年|沼間守一が経営者となり横浜毎日新聞は「東京横浜毎日新聞」に改称
- 1879年12月19日-09:00|日本|中国銀行|明治12年|<設立>川越銀行(川越市;18800120開業)
- 1879年12月20日-09:00|日本| ||明治12年|霧深い津軽海峡の青森県尻屋崎灯台に日本初の霧笛が設置
- 1879年12月20日-04:30|アフリカ/オーストリア| |||<即位>アフリカ/オーストリア(カール)エミール「ムサ・ヤン・カーン」(~18800420退位)
- 1879年12月20日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Hyacinthe Laurent Theophile Aube」(~1881.6)
- 1879年12月21日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事「Marie Gabriel Couturier」(3期目~18801102)
- 1879年12月23日 05:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー共和国大統領「ルネ・ニコラス・バルザール=フェルナンデス=デ・ビエラ=イ=ビシエナ」(1回目~18810312)
- 1879年12月24日-09:00|日本|愛知県名古屋市|明治12年|後藤新平、わが国初の民間衛生団体“愛衆社”設立、民間の医療関係者による近代的医療・衛生の確立に根ざした健康な国民生活を目指す
- 1879年12月25日-05:30|インド| |||<死去>キヤンガール国マハラジャ「プリタウ・シン」
- 1879年12月25日-05:30|インド| |||<即位>キヤンガール国マハラジャ「サト・カル・シン」(~19000818没)
- 1879年12月26日 03:00|日本|神奈川県横浜市|明治12年|横浜青木町出火で約220戸焼失
- 1879年12月26日 03:00|日本|東京都|明治12年|<東京日本橋明治12年箔屋町の大火>正午頃、箔屋町の左官職福地岩次郎の留守宅から、消し壺(炭の残り火をしまう壺)の不始末により出火、箔屋町から樽正町、下横町へと延び、そこから東南へと飛び火し四方へ拡大した。京橋に入った炎は、中橋和泉町から南伝馬町一、二丁目の街裏伝いに松川町へと延焼、そこから東の方向に転じ、弾正橋から斜めに築地一帯を灰としたうえ、海を隔てた佃島まで飛び火。また、もう一方の炎の流れは北に進み、新右衛門町をひとなめにした後、東に折れて材木町二丁目河岸から八丁堀へと足を伸ばし、三代町二丁目へと延焼、そこから斜めに北へ越前堀まで一気に焦土として、これも佃島へ飛び火し、19時15分ごろ鎮火/被害は日本橋の中心街から京橋一帯に及ぶ65町、1万613戸が焼失/主な建物では、日本橋名物になっていた豪商たちの黒塗りの土蔵60余棟が全焼。坂元町の警視第一方面第四分署、築地河岸の水上警察署の建物が全焼、学校2校、神社2か所、橋梁2か所、築地河岸に繋留してあった公用船6隻が焼失。24人死亡
- 1879年12月28日-01:00|フランス| |||<就任>フランス第三共和政第34代首相シャルル・ド・フレネ[共和派林'チュニスト]第1次(~1880年9月23日)
- 1879年12月28日-01:00|デンマーク| |||コペンハーゲンの王立劇場で、イブセン(51)の劇「人形の家」が初演され、女性解放運動の象徴になるとして衝撃とセンセーションをまきおこす
- 1879年12月28日 00:00|イギリス| |||イギリス・スコットランド 東部のテイ川河口の鉄橋「テイ橋」が強風のために崩落し急行列車が転落し死者78名
- 1879年12月28日 04:00|ボリビア| |||<就任>ボリビア共和国大統領「ウラテ・イサオ・シルバ」(ラパス理事会委員長)」(~18800117)
- 1879年12月31日-03:00|マヨット/フランス| |||<就任>フランス保護領マヨット司令官「フランソワ・マリー=フェリエ」(1回目~1882年)
- 1879年12月31日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Marie Alfred-Armand Huart」(2期目~18801203)
- 1880年-08:00|インドネシア| |||<即位>スルタン・セプ・ハン君主「Sultan Sepuh11世Raja Atmaja」(~1885年)
- 1880年-07:00|タイ| |||<就任>ランナー=シャム高等弁務官「ラチャセナ」(~1883年)

1880迄 (3454件)

- 1880年-07:00|ラオス| |||<即位>シェンクアーン王「カムゴン」(~1899年、フランス保護領ラオス自治権終了)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>ウアラナ国統治者(ターケル)「マンシンジ」(~1887年没)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>カウリル国統治者(ラオ)「ガシヤタル・プ・ラサト」(~18871114没)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>トラヴァンコール藩王ラマ・ヴァルマ4世(~1885年)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>トリ・ファートル国統治者(ティン)「アルジュン・シン」(~1941年没)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>ハダル国統治者(ターケル・ラ・ナ)「アテ・シンジ 2世サタル・シンジ」(~1888年没)
- 1880年-05:30|インド| |||<就任>ラージガル国支配者(ラウト)「ハクタール・シン」(~1882年没)
- 1880年-05:30|インド/イギリス| |||ハルワニ国をイギリス領インドが統治(~1886年)
- 1880年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン対立大臣摂政(カンダハール)「シル・アリ・カーン・ハラクザイ」(~18810421)
- 1880年-03:30|イラン| |||<就任>ペルシャ大宰相「ミルザ・ユスフ・アシュティアニ」(18840624まで代行~18860407)
- 1880年-03:00|スーダン| |||<死去>ダフル・スルタン国スルタン「サイフ・アト・ティン・ムハンマド・ハルン・アル・ラシード」
- 1880年-03:00|エチオピア/エジプト| |||<就任>エジプトのハラル総督「ムハンマド・ナティ・ハシヤ」(~1882年12月)
- 1880年-03:00|カンタール| |||<就任>ブザヤ統治者(オムカマ)「ムザヤ・オティニ」(~1894年)
- 1880年-03:00|カンタール| |||<就任>ブシ統治者(オムカマ)「ナルトウ」(~1883年頃)
- 1880年-03:00|カンタール| |||<就任>ブソコラ統治者(オムカマ)「フレム2世キワマベレ」(~1886年)
- 1880年-03:00|イェメン| |||<即位>カスィーリー国スルタン「al-Mansur ibn Ghalib al-Kathir」(~1929.5)
- 1880年-03:00|ジブチ| |||<即位>タジュラ・スルタン国スルタン「フマト・ヒン・ムハンマド」(~19120824)
- 1880年-03:00|スーダン| |||<即位>ダフル・スルタン国スルタン「アブド・アッラー・トウット・ハニヤ」(反乱~1887年)
- 1880年-03:00|カンタール| |||トロ王国はブニョロキタラに組み込まれた(~18910814)
- 1880年-03:00|コモロ| |||ムブテはハンバ配下(~1892年)
- 1880年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>チッサ臨時総督「Aleksandr Romanovich Drentel'n」(~1881年)
- 1880年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>ヌウエ統治者(マンボ)「ムカ・ティ」(~1924年5月)
- 1880年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ハリコフ臨時総督「Knyaz' Aleksandr Mikhaylovich Dondukov-Korsakov」(~1881年)
- 1880年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||<即位>カタンカ 王国ムワミ「ンゲレウ・ムシリ・シタンビ・ムエンダ 1世」(~18911220)
- 1880年-01:00|ベナン| |||<死去>シユガのゲルマンシュ国統治者「ニョウ3世」
- 1880年-01:00|スペイン| |||<就任>アンブリアス伯「Luis Jesus Maria Fernandez de Cordoba y Salabert」(~1956年)
- 1880年-01:00|ガボン/フランス| |||<就任>ガボン・ギニア湾入植地司令官「ジュール・エミール・アネクレリ」(~1881年)
- 1880年-01:00|ベナン| |||<就任>サヘ統治者「オハ・アラム」(~1887年)
- 1880年-01:00|ベナン| |||<就任>シユガのゲルマンシュ国統治者「カヘ・トニ3世」(~18990728没)
- 1880年-01:00|ニジェール| |||<就任>ダマラム国統治者(サルキン・ダマラム)「キヤリ・タン・タニム」⇒「タニム・タン・セルマン・ハキ・ジヤトウ」(3回目~1884年)
- 1880年-01:00|ニジェール| |||<就任>テラ支配者(アスカ)「ガビリンガ・ハンマ」(~1885年)
- 1880年-01:00|ニジェール| |||<就任>マラティ国統治者(サルキン・カツイ)「マラム・タン・タン・カワ」(~1882年)
- 1880年-01:00|ベルギー| |||<就任>リニユ公「ルイ」(~1918年)
- 1880年 00:00|トゴ| |||<就任>アグバナンキン摂政「フォリボ・メウ・オテ」(~1890年)
- 1880年 00:00|トゴ| |||<就任>カブ 統治者(オウホテ)「カラク」(?)⇒「カコウ」(~1891年)
- 1880年 00:00|セネガル| |||<就任>サアリ統治者(ファンカマ)「マクサニ・サンハラ・シヤロ」(~1890年)
- 1880年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>ノゴワ首長「ニヤガア」(~1898年)
- 1880年 00:00|コートジボワール| |||<即位>サスのハウル王国国王「ナン・アヌ・ブル・ティ・イキ」(~1890年)
- 1880年 00:00|シエラレオネ| |||アク王国シエラレオネに編入
- 1880年 00:00|コートジボワール| |||カハラナがサマリ帝国に征服される
- 1880年 00:00|セネガル/フランス| |||サアリはフランス統治下
- 1880年 04:00|バルバドス/グレナダ/セントビンセント/セントルシア/トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス・ウインドワード 諸島総督代理「D. J. Gamble」(~同年)⇒総督「William Robinson」(~1885年)
- 1880年 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領フォークランド 諸島総督「Thomas Kerr」(~1886年)
- 1880年 06:00|グアテマラ| |||テグシガルパがホジュラスの首都に確定される
- 1880年 10:00|ボリネア/フランス| |||ライアテアとタハはフランス保護領となる
- 1880年1月-12:00|フィジー/イギリス| |||<就任>フィジー-総督兼西太平洋高等弁務官代行「ジョン・ベイツ・サートン」(1回目~18801220)
- 1880年1月-09:00|日本| ||明治13年|<大相撲>明治13年01月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(東関脇)阿武松,6勝2敗1分1休
- 1880年1月-08:00|中国/日本| ||明治13年|上海のM. C. Adams「Dragon」(1867年, E. M. De Bussche, London「Dragon」Henderson Coublorn & Co., Renfrew建造進水→1869年, J. Holmes&Co., に売却→1872年, China Coast S. N. Co . . . , Londonに移籍→1875年, M. C. Adams, Shanghaiに売却)郵便汽船三菱会社(東京)に売却、「松前丸」と改名
- 1880年1月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハゲダットのワリス「ムデリサ・デ・メフメト・タキ・イン・ハシヤ」(2回目~1882年12月)
- 1880年1月-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領スールラント 植民地居住者「メルモス・オズボーン卿」(~18821222)
- 1880年1月1日-09:00|日本| ||明治13年|官禄税を廃止
- 1880年1月1日-05:30|インド| |||インドのフネでテラクラが新英語学校を開設
- 1880年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連邦大統領「フリートリッヒ・エミール・ウェルティ」Lib(4期目~12.31)
- 1880年1月1日 05:00|パナマ| |||<就任>パナマ大統領代行「ダマヨ・A. セルベラ」(2回目~18830702)
- 1880年1月1日 08:00|ヒトケアン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヒトケアン諸島主任判事「Thursday October Christian

1880迄 (3454件)

II」(7期目~18801231)

- 1880年1月2日 03:00|ウルクアイ | |||<就任>ウルクアイ大統領代理「フランスコ・アントニノ・ビダル」コロト党(2期目⇒3.15大統領
~18820228)
- 1880年1月3日-05:30|インド | |||<創刊>タイムズ・オブ・インディア社「絵入りインド週刊誌」
- 1880年1月3日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル | |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Vicente Pinheiro Lobo Machado d
e Mello e Almada」(~18811230)
- 1880年1月4日-01:00|ドイツ | |||<死去>アンゼルム・フォエルハッハ、画家(生年1829年)
- 1880年1月4日-01:00|ドイツ | |||<初演>ヨハネス・ブラームス《8つの小品Op. 76》
- 1880年1月5日-09:00|日本 | ||明治13年|楽善会により筑地訓盲院の業務を開始(翌月開院)
- 1880年1月5日-09:00|日本|中国銀行|明治13年|<開業>津山銀行(岡山)
- 1880年1月6日-04:00|ロシア | |||<就任>全ロシア閣僚委員会委員長「ピョートル・アレクサンドロヴィチ・ガリアフ」(~18811016)
- 1880年1月10日-09:00|日本 | ||明治13年|陸軍に電信隊開設/軍用電信技手を置く
- 1880年1月11日-09:00|日本|山陰合同銀行|明治13年|<設立>三港社(鳥取;明治26年、三港合資会社に改組改称後、
三港株式会社に改組改称)
- 1880年1月12日-09:00|日本|明治安田生命保険|明治13年|共済五百名社設立(日本初の生命保険組織)
- 1880年1月14日-09:00|日本|東京薬科大学|明治13年|我が国最初の私立薬育機関、東京薬舗学校の創立
- 1880年1月16日-10:00|パプアニューギニア/フランス | |||レイ侯爵シャルル・マリー・ボナパルト・アンチール・デュプレイがニューアイルランドのポルト・フ
ルト島(現在の北エン付近)にラ・ヌーベル・フランスと呼ばれるユートピア的入植地を設立(~18820213、最終的に入植者によ
って放棄)
- 1880年1月16日-02:00|モザンビーク/ポルトガル | |||<就任>モザンビーク州総督代行「アウグストゥス・シーザー・ド・リゲス・サルメント」(~1
8810801)
- 1880年1月16日 04:00|智利/ペルー | |||ペルー海軍モーター「Atahualpa」(2100t) Callaoにて智利に拿捕されるのを防ぐため
沈没処分(後に引き揚げられる)
- 1880年1月17日-09:00|日本 | ||明治13年|明治13年太政官布告第001号「薬品取扱規則制定毒薬劇薬取扱規則廃
止」公布
- 1880年1月17日-01:00|フランス | |||<初演>セザール・オーキュスト・ジャンキヨム＝ユベール・フランク《ピアノ五重奏曲ハ短調》
- 1880年1月18日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス | |||<就任>サンピエール島・ミクロン島司令官「Edgard Charles」(~188604
26)
- 1880年1月19日-09:00|日本 | ||明治13年|兵部省(海軍部)所管「快風丸」運輸船と定める
- 1880年1月19日 04:00|ボリビア | |||<就任>ボリビア暫定大統領「セルサル・カンパロ・レイス」(1回目~5.31)
- 1880年1月20日-09:00|日本 | ||明治13年|日本海軍練習船「第二利根川丸」を繋泊練習船とする;日本海軍軍艦「
富士山丸」繋泊練習艦に類別(188512、運用術練習艦に変更);兵部省所管とし軍艦「乾行」機関を取り外し、係泊
練習艦として使用
- 1880年1月20日-01:00|ドイツ | |||<初演>ヨハネス・ブラームス《2つのラプソディ》
- 1880年1月21日-04:00|ロシア | |||<初演>ニコライ・アントン・レイウ「イリムスキー＝コルサフ」《歌劇「5月の夜」》
- 1880年1月22日-09:00|日本 | ||明治13年|日本海軍練習艦「肇敏」五等軍艦とする
- 1880年1月25日-09:00|日本 | ||明治13年|福澤諭吉を中心に慶應義塾出身者が集まり、親睦研究団体の交詢社を
組織し、発会式が行われる(社交クラブの始め)
- 1880年1月26日 12:00|日本|群馬県高崎市|明治12年|<高崎明治13年の大火>21時ごろ本町から出火、次々と延焼。
炎は、久蔵町から田町、連雀町を焼き払い、翌日の午前1時過ぎ、檜物町まで灰にしてようやく焼け止まった/250
0余戸焼失、土蔵50余棟が崩落
- 1880年1月27日 06:00|アメリカ | |||トマス・エジソンが白熱電球の米国特許を取得
- 1880年1月28日 00:00|イギリス | |||<死去>5代ヘスペラ伯「ジョン・ジョージ・ブラバゾン・ポンソンベール」
- 1880年1月28日 00:00|イギリス | |||<就任>6代ヘスペラ伯「フレデリック・ジョージ・ブラバゾン・ポンソンベール」(~18950311死去)
- 1880年1月31日-09:30|オーストラリア | |||<創刊>「フレティン」(シドニー)価格は4ペンス
- 1880年2月-09:00|日本 | ||明治13年|官営紋別製糖所設置(明治23.2民間へ払下)
- 1880年2月3日-08:00|フィリピン/スペイン | |||<就任>スペイン領スール総督「Rafael Gonzalez de Rivera」(~18811115)
- 1880年2月3日 14:30|日本|東京都|明治12年|<東京日本橋明治13年橋町大火>23時30分ごろ、橋町四丁目五番地
の塩せんべい屋、増田忠兵衛所有の物置付近から火が燃えだし、火元の橋町四丁目から三丁目、二丁目、一丁目
とつぎつぎと延焼。炎は、さらに若松町、村松町を経て浜町一丁目から三丁目までを灰にし、翌日午前5時鎮火/
焼失家屋1776戸/久松町にあった洋風三階建ての官舎をはじめ、警視庁第一方面第五分署、久松座、久松小学校
が類焼/焼失した住家及び物置などの内訳は、瓦ぶき平家住家全焼263戸、同半焼4戸、同二階建住家全焼60戸、同
半焼13戸、柿(板)ぶき平家住家全焼1127戸、同半焼24戸、同二階建住家全焼221戸、同半焼6戸。瓦ぶき二階建土蔵
3戸、同平家物置6戸、柿(板)ぶき平家物置48戸、不祥1戸。焼失家屋の合計は、瓦ぶき家屋349戸、柿(板)ぶき家屋1
426戸
- 1880年2月5日-09:00|日本 | ||明治13年|<創刊>交詢社「交詢雑誌」
- 1880年2月5日-09:00|日本 | ||明治13年|外国郵便為替の取り扱い開始
- 1880年2月5日-09:00|日本|愛知県|明治13年|<分割>愛知県で春日井郡を分割し東春日井郡発足、郡役所を勝川村
の太清寺に設置
- 1880年2月5日-09:00|日本|愛知県西春日井郡|明治13年|<分割>愛知県で春日井郡を分割し西春日井郡発足
- 1880年2月5日-05:30|インド | |||<即位>レク国マハラジャ「ヴェンカット・ラマン・シン」(~19181103没)、摂政「ジェームズ・キャヴァンハーク
ー」(~1881年)

1880迄 (3454件)

- 1880年2月6日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治13年|<設立>横浜正金銀行(神奈川県;2.28開業)国立銀行条例に準拠する外国為替・貿易金融専門銀行として
- 1880年2月6日 00:00|イギリス/オーストラリア| ||前年11月29日にシドニーを出発したストラリーベン号がロンドンに到着(冷凍船による冷凍肉輸送が初めて成功)
- 1880年2月6日 00:00|イギリス/オーストラリア| ||オーストラリアとイギリスの間で2週間間隔の定期郵便が設立
- 1880年2月8日-01:00|フランス/ベトナム| ||フランス大統領がコーチナ植民地評議会の設立令を発布
- 1880年2月12日-09:00|日本| ||明治13年|陸軍の下士官、学校生徒の演説講演会などの聴聞を禁止
- 1880年2月12日-09:00|日本|ふくおかフィナンシャル・グループ|明治13年|<設立>合抱会社(大分県南海部郡佐伯村;明治26年、合抱株式会社と改称)
- 1880年2月14日-09:00|日本| ||明治13年|奈良公園(奈良県)開園
- 1880年2月15日-01:00|フランス| ||自然主義作家エミール・ゾラの「ナ」が出版される
- 1880年2月16日 06:00|アメリカ| ||米国機械学会設立
- 1880年2月17日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>平尾魯仙(73歳)画家、国学者
- 1880年2月17日-04:00|ロシア| ||ロシア暦:1880/2/5|露アレクサンドル2世の暗殺をはかった冬宮爆破事件起きる
- 1880年2月18日-09:00|日本| ||明治13年|兵庫県朝来郡和田山町に隕石が落下する(竹内隕石)/重量は0.72キログラム
- 1880年2月18日-01:00|スペイン/キューバ| ||スペインがキューバ 奴隷制の廃止を布告
- 1880年2月19日 06:00|アメリカ| ||ベル、世界初の可視光無線通信実験成功
- 1880年2月21日-01:00|ケニア| ||<就任>ケニア・スワヒリア王国ハン・ラデ・イスラフ・ベジヤヒベツチ(~18830904)
- 1880年2月24日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年内務省甲布達第003号(大蔵卿連署)穀類葉煙草菜種共進会開設
- 1880年2月24日 10:00|ホリネア/フランス| ||<就任>フランス領地ニア司令官兼ソシエ諸島共和国弁務官「Henri Isidore Chesse」(~18810705)
- 1880年2月26日-09:00|日本|中国銀行|明治13年|<設立>明十銀行(岡山)
- 1880年2月27日 00:00|マリ/フランス| ||<就任>オーセネガール司令官「シャルル・エミール・ボワレーウ」(1回目~7.29)
- 1880年2月28日-09:00|日本| ||明治13年|内閣と各省を分離し、参議の省卿兼任を原則的に廃止
- 1880年2月28日-04:00|アゼルバイジャン| ||<就任>エリザヴェトホリネア総督「クニヤス・アレクサンドル・ダウイトウ・イッチ・ナカセ」(~18970601)
- 1880年2月29日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>近藤芳樹(80歳)国学者、歌人
- 1880年3月-09:00|日本|鹿島建設|明治13年|<創立>鹿島組(本店京橋木挽町九丁目、初代組長鹿島岩蔵)
- 1880年3月-09:00|日本|岐阜大学|明治13年|岐阜県公立病院附属医学校を岐阜県医学校に改称
- 1880年3月-04:30|アフガニスタン| ||<即位>アフガニスタン対立首長(ヘラト)「モハマト・アイユーブ・カーン」(~18811002)
- 1880年3月-03:00|サウジアラビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国ビジャース 総督「サウヴェト・ハシヤ」(1回目~1881年3月)
- 1880年3月1日-09:00|日本|愛媛県|明治13年|<竣工>「愛媛県会議事堂」及び「物産陳列場」[県庁構内]新築(1886年、物産陳列場廃止)
- 1880年3月2日-09:00|日本|徳島県|明治13年|<分離>高知県のうち旧阿波国のみで分立→(第2次)徳島県
- 1880年3月3日-09:00|日本/オーストラリア/シカゴ・ホール| ||明治13年|横浜・オーストラリア、横浜・シカゴ・ホール間郵便為替開始
- 1880年3月3日-09:00|日本| ||明治13年|参議、六部分任制
- 1880年3月5日-09:30|オーストラリア| ||<就任>ビクトリア植民地政府首相「ジェームズ・サーヴァイス」(~18800803)
- 1880年3月5日-09:00|日本| ||明治13年|大蔵省検査局を廃止し、会計検査院を設置し、太政官直屬に
- 1880年3月8日-09:00|日本| ||明治13年|開拓使、紋鼈村に官営甜菜糖製造工場を建設
- 1880年3月8日-09:00|日本| ||明治13年|東京の金元社が西洋型の掛け時計の製造を開始
- 1880年3月10日-09:00|日本| ||明治13年|「奈良博覧会」開催(~5月29日)[開催地]奈良県[会場]大仏殿内
- 1880年3月10日-09:00|日本|大阪大学|明治13年|大阪公立病院を府立大阪病院と改称し教授局を分離して府立大阪医学校と称す
- 1880年3月10日-09:00|日本|三井住友フィナンシャル・グループ|明治13年|<合併>第百四十三国立銀行(千葉県八街)⇒第三十国立銀行(東京)(国立銀行の合併はじまる)
- 1880年3月11日-09:00|日本| ||明治13年|日本地震学会設立
- 1880年3月11日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第007号「旧琉球藩負債償還並貸付金穀取立方」公布
- 1880年3月11日-09:00|日本|秋田銀行|明治13年|<設立>秋田改良社(秋田)
- 1880年3月11日-09:00|日本|三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治13年|<設立>東京貯蔵銀行(貯蓄専門銀行の始め;3月22日開業)
- 1880年3月15日-09:00|日本| ||明治13年|<開業>第百五十二国立銀行(沖縄)
- 1880年3月15日-09:00|日本| ||明治13年|「琴平山博覧会」開催(~6月15日)[開催地]愛媛県[会場]琴平宮神社[主催]愛媛県
- 1880年3月15日-09:00|日本| ||明治13年|「第9回京都博覧会」開催(~6月8日)[開催地]京都府[会場]仙洞御所、大宮御所[主催]京都博覧会社[入場者]117,248人
- 1880年3月15日 03:00|ウルク・アイ| ||<辞任>ウルク・アイ東方共和国大統領「ロレンツ・ラトレ」
- 1880年3月17日-09:00|日本| ||明治13年|愛国社などの組織を改称して大阪に国会期成同盟発足(請願運動開始)
- 1880年3月17日-09:00|日本| ||明治13年|日本海軍帆走練習艦「第一回漕丸」(543t)川崎造船所で竣工(→1883年

1880迄 (3454件)

6月:練習艦→1886年:七等軍艦、航海練習艦)

- 1880年3月18日-01:00|チェコ| |||<就任>モラフ・イア総督「フランツ・リッター・カーナ・フォン・ウルバノウ」(~7. 10)
- 1880年3月19日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年内務省甲布達第005号「衛生局虎列刺病予防消毒薬法改正増補」公布;明治13年大蔵省甲布達第036号「造幣局出張所地金受取方規則第四条中削除追加」公布
- 1880年3月19日-09:00|日本| |広島大学|明治13年|<移転>「広島県広島師範学校」[広島区下中町広島県中学校内へ]
- 1880年3月20日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>神戸長吉 (67歳、生年1814年) 俠客/荒神山の喧嘩の中心となった人物
- 1880年3月20日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「Rafael Rodriguez Arias」(~4. 15)
- 1880年3月20日 06:00|アメリカ| |||アメリカン・ベル会社設立
- 1880年3月22日-09:00|日本| ||明治13年|金沢商法会議所設立
- 1880年3月22日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年大蔵省甲布達第038号「甲第三十二号米穀限月並現場売買取引所設置方布達中削除」公布
- 1880年3月22日-09:00|日本| |山梨中央銀行|明治13年|<改組>貸付商会⇒(株)富士銀行 (5. 5開業)
- 1880年3月22日-02:00|ギリシャ| |||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「チリヤオス・スハイル・イト・ノストロコピス」(3回目~10. 25)
- 1880年3月23日-09:00|日本| ||明治13年|東京外国語学校に朝鮮語学科を設置し、外務省・陸軍・海軍からの官費生と一般生徒に朝鮮語を教授
- 1880年3月23日-09:00|日本| ||明治13年|内務省に駅逓官を設ける
- 1880年3月24日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年内務省甲布達第006号(大蔵卿連署):綿砂糖共進会規則第二条中削除
- 1880年3月24日-01:00|ドイツ/イギリス/サモア/アメリカ/米領サモア| ||清の光緒6年2月21日|イギリス、ドイツ、アメリカが、サモアの国王を承認し、代議制政府の建設を援助
- 1880年3月25日-09:00|日本| ||明治13年|日本海軍運送船兼測量船「高雄丸」長崎の佐野弥平に売却
- 1880年3月25日-09:00|日本| ||明治13年|文部省、編輯局をおき、小・中学校の教科書を編集
- 1880年3月25日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第008号「銃砲取締規則第二則中増加」公布
- 1880年3月25日-09:00|日本| |三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治13年|<設立>川崎銀行(東京;川崎組を改組)
- 1880年3月28日 03:00|ブラジル| |||<就任>ブラジル帝国閣僚評議会議長(首相)「ホセ・アントニオ・サライヴァ・テイト・オ・カウセラ」(1回目~18820121)
- 1880年3月29日-01:00|フランス| |||フランスで「修道会」の活動を制限する大統領令が出される
- 1880年3月30日-09:00|日本| ||明治13年|村田銃が発明され軍用銃に指定
- 1880年3月30日-09:00|日本| |丸善CHIホールディングス|明治13年| (有責)丸善商社設立(丸屋商店より改組)
- 1880年3月31日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第009号「電信万国公法細目規則議定改正」公布;明治13年太政官布告第010号「明治九年第八十二号第九十四号第百五十三号十年第五十五号十二年第九号第十九号布告中商船/文字ヲ西洋形船ト改正」公布;明治13年太政官布告第011号「諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ処セラルル者処分法」公布;明治13年海軍省甲布達第001号「兵器局定雇職工規則第十八条増加」公布
- 1880年3月31日-01:00|ポーランド| |||<死去>ハンリク・グイエニフスキ、ヴァイオリニスト・作曲家(生年1835年)
- 1880年3月31日-01:00|ドイツ/中国| ||清・光緒6年2月21日|北京で、清がドイツとの追加条約を締結
- 1880年4月-09:00|日本| ||明治13年|<開園>岩崎弥太郎「深川親睦園」(→清澄庭園)
- 1880年4月-09:00|日本| ||明治13年|木製汽船「浦安丸」(195G/T)三軒栄次郎(攝津・兵庫)が建造進水(→1881年、川口トモ(大阪)の所有→1882年、杉村正太郎(大阪)に売却)
- 1880年4月-09:00|日本| |明治学院大学|明治13年|ホーン塾は築地明石町に移転して築地大学校と改称
- 1880年4月-08:00|中国| |||上海で中国初の綿紡工場が操業開始
- 1880年4月 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督「ルイ・フェルディナント・ド・ランノー」(~18810804没)
- 1880年4月 03:00|アルゼンチン| |||ミレ元大統領ら旧ブエノスアイレス派、諸州コルトバ連盟に対し反乱
- 1880年4月 06:00|アメリカ| |||イリノイ州で農民同盟が結成
- 1880年4月 10:00|ポリアニア| |||<死去>マハ統制者「Maheono」
- 1880年4月 10:00|ポリアニア/フランス| |||マハはフランスに併合
- 1880年4月1日-09:00|日本| ||明治13年|上野公園内で内務省博物館開設の第1回観古美術会開催
- 1880年4月1日-09:00|日本| ||明治13年|「第2回愛知県博覧会」開催(~5月20日)[開催地]愛知県[会場]名古屋博物館[主催]愛知県;「長崎博覧会」開催(~5月20日)[開催地]長崎県[会場]長崎公園[主催]長崎県博覧会本部
- 1880年4月1日-09:00|日本| |三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治13年|<開業>三菱為替店(三菱銀行の前身)
- 1880年4月1日-09:00|日本| |三菱UFJフィナンシャル・グループ|明治13年|<設立>東京貯蔵銀行(6. 12開業、わが国最初の貯蓄専業銀行)
- 1880年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ルイ・ジ・ハ・スカリ」[「ジ・ユゼッペ・ジ・ヤコミニ」]
- 1880年4月2日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリア総督「Angel Navascues」(~同年)
- 1880年4月5日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第012号「集会条例」公布、政治集会や結社に警察の事前許可が必要となり、軍人・教員・学生の集会参加が禁止される
- 1880年4月6日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第013号「従前集会結社/者届出方」公布
- 1880年4月6日 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領フォークランド諸島総督代理「ロバート・クリスチアー・Packer」(~11. 24)
- 1880年4月8日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第014号「郡区町村編制法」第七条乃至第九条追加公布;明治13年太政官布告第015号「府県会規則改正」公布;明治13年太政官布告第016号「地方税規則改正」公布;明治13年太政官布告第017号「地方税中営業税雑種税/種類及制限改正」公布;明治13年太政官布告第018号「区町

1880迄 (3454件)

村会法」公布

- 1880年4月8日-09:00|日本| ||明治13年|明治用水竣工
1880年4月8日-09:00|日本|静岡銀行|明治13年|<設立>通信社(静岡県駿東郡沼津宿)
1880年4月8日-02:00|ブルガリア| ||<就任>ブルガリア首相(閣僚会議議長)「ド・ラゴン・K・イヤコフ・ツァンコフ」(1回目~12.10)
1880年4月8日-01:00|スロベニア/オーストリア| ||<就任>オーストリア領スロベニア大統領代行「アントン・シェップ・ル・リッター・フォン・ゾングアルデン」(2度目~5.4)
1880年4月8日 05:00|コロンビア/パナマ/ブラジル/ペルー| ||<就任>コロンビア合衆国大統領「ラファエル・ウァーツラフ・ヌニェス・モレト」(1回目~18820401)
1880年4月9日 00:00|イギリス| ||<ゴルフ>第20回全英オープン選手権優勝:ロバート・ファーガソン(スコットランド/162)
1880年4月10日-09:30|オーストラリア/イギリス| ||<再任>西オーストラリア植民地総督「ウィリアム・ロビンソン」(2回目~18830601)
1880年4月10日-09:00|日本| ||明治13年|「茨城博覧会」開催(~6月28日)[開催地]茨城県[会場]筑波神社境内
1880年4月10日-09:00|日本| ||明治13年|「大分博覧会」開催(~6月10日)[開催地]大分県[会場]大分郡大分町[主催]大分県
1880年4月11日-09:00|日本| ||明治13年|横浜競馬倶楽部解散で、競馬場が政府に返還
1880年4月13日-09:00|日本| ||明治13年|横浜商法会議所設立
1880年4月13日-08:00|中国| ||清・光緒6年3月5日|甘肅の西固州の古旦巴が、子を生き仏に立てて反乱を起こす
1880年4月15日-09:00|日本| ||明治13年|<開業>「白馬亭」(戸塚)
1880年4月15日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第019号「米商会所条例中改正加除」公布;明治13年太政官布告第020号「株式取引所条例中改正加除及十二年第八号布告但書ヲ廢シ金銀売買取引ノ証拠金遵依方」公布;明治13年太政官布告第021号「米商会所株式及横浜取引所外若クハ内列トモ窃ニ米穀並金銀貨幣及株式ノ限月現場売買其他類似ノ取引ヲ為シル者等処分方」公布
1880年4月15日-09:00|日本| ||明治13年|「秋田博覧会」開催(~6月13日)[開催地]秋田県[会場]八橋植物園[入場者]22,700人
1880年4月15日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|明治13年|<死去>木下俊愿(44歳)元豊後日出藩主・知藩事
1880年4月15日-09:00|日本|大阪府|明治13年|<発足>堺県で行政区画としての大鳥郡(湊村に「湊郡役所」設置)発足;南郡・日根郡(岸和田城に合同の「岸和田郡役所」設置)発足
1880年4月15日-09:00|日本|大阪府堺市|明治13年|<発足>堺県で行政区画として堺区発足
1880年4月15日-09:00|日本|大阪府泉北郡|明治13年|<発足>堺県で行政区画として和泉郡が発足・大鳥郡湊村に「湊郡役所」が設置され同郡とともに管轄
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県|明治13年|<発足>堺県[添上郡・添下郡・山辺郡]が行政区画として発足、[添上郡・添下郡・山辺郡・広瀬郡・平群郡]連合郡役所が奈良町に設置された;[十市郡・式上郡]が行政区画として発足、[十市郡・式上郡・式下郡・宇陀郡]連合郡役所が三輪町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県生駒郡|明治13年|<発足>堺県平群郡が行政区画として発足、[添上郡・添下郡・山辺郡・広瀬郡・平群郡]連合郡役所が奈良町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県宇陀郡|明治13年|<発足>堺県宇陀郡が行政区画として発足、[十市郡・式上郡・式下郡・宇陀郡]連合郡役所が三輪町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県葛城市|明治13年|<発足>堺県忍海郡が行政区画として発足、[高市郡・葛上郡・葛下郡・忍海郡]連合郡役所が御所町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県北葛城郡|明治13年|<発足>堺県広瀬郡が行政区画として発足、[添上郡・添下郡・山辺郡・広瀬郡・平群郡]連合郡役所が奈良町に設置された;葛下郡が行政区画として発足、[高市郡・葛上郡・葛下郡・忍海郡]連合郡役所が御所町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県五條市|明治13年|<発足>堺県宇智郡が行政区画として発足、[宇智郡・吉野郡]連合郡役所が五条町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県御所市|明治13年|<発足>堺県葛上郡が行政区画として発足、[高市郡・葛上郡・葛下郡・忍海郡]連合郡役所が御所町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県磯城郡|明治13年|<発足>堺県式下郡が行政区画として発足、[十市郡・式上郡・式下郡・宇陀郡]連合郡役所が三輪町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県高市郡|明治13年|<発足>堺県高市郡が行政区画として発足、[高市郡・葛上郡・葛下郡・忍海郡]連合郡役所が御所町に設置された
1880年4月15日-09:00|日本|奈良県吉野郡|明治13年|<発足>堺県吉野郡が行政区画として発足、[宇智郡・吉野郡]連合郡役所が五条町に設置された
1880年4月15日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督「フェルナント・プリモ・デ・リベラ」(1期目~18830310)
1880年4月15日 00:00|イギリス| ||イギリス総選挙で保守党が敗北
1880年4月15日 06:00|アメリカ| ||ミルトン・ジョージ、アリゾナ州で全国農民同盟を組織
1880年4月17日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>浮世絵師、歌川芳宗/64歳
1880年4月17日-09:00|日本| ||明治13年|<創建>日比谷大神宮(有楽町の大隈重信邸跡)
1880年4月17日-09:00|韓国/日本| ||明治13年|漢城(ソウル)に日本公使館が設置された
1880年4月17日-09:00|日本| ||明治13年|筑紫新報を福岡日日新聞と改め発刊
1880年4月17日-09:00|日本|長野銀行|明治13年|<開業>長野銀行(県内私立銀行の嚆矢)
1880年4月18日 00:00|イギリス| ||<総辞職>イギリス連合王国第2次デヴィス・レーリ内閣(保守党)~18850609
1880年4月19日-09:00|日本| ||明治13年|新約聖書の日本語訳が完成
1880年4月19日-01:00|スウェーデン| ||<就任>第2代スウェーデン首相アルヴァ・イト・ホッテ(~18830613)

1880迄 (3454件)

- 1880年4月19日-01:00|チェコ| || |ホヘミア、モラヴィアに関するターフェ言語令
- 1880年4月20日-04:30|アファニスタン| || |<退位>アファニスタン(カブール)エミール「ムサ・ヤン・カン」
- 1880年4月20日-02:00|南アフリカ/イギリス| || |<就任>イギリス領ナール特別委員代行「ウィリアム・ヘリアーズ」(~5.5)
- 1880年4月22日-09:00|日本| || |明治12年|<創立>日本薬学会
- 1880年4月23日 00:00|イギリス| || |<就任>イングランド 連邦首相「ウィリアム・ユート・グラッドストーン」自由党(2期目~18850623)
- 1880年4月24日-09:00|日本| || |明治13年|皇室紋章の乱用禁止
- 1880年4月24日 00:00|イギリス| || |英国アマチュア陸上競技協会設立
- 1880年4月25日-09:00|日本| || |明治13年|<死去>神奈川・三宝寺住職・歌人弁玉(63)
- 1880年4月25日-09:00|日本| | | |<設立>塩尻銀行(長野)
- 1880年4月25日-05:30|インド| || |<就任>カンパイ国支配者(ナワブ)「ナヅブ・アド・トーン・ムタース・アル・モルク・ジャファル・アリ・カン」(~19150121没)
- 1880年4月26日-09:00|日本| || |明治13年|日本地震学会設立
- 1880年4月28日-09:00|日本| || |明治13年|<刊行>「新約聖書」日本語訳
- 1880年4月28日-09:00|日本| | | |NIPPON EXPRESSホーテル「インクス」明治13年|内国通運、東京-寒川間に汽船航路を開設
- 1880年4月28日 00:00|イギリス| || |<就任>初代リットン伯「ロバート・ブルワー=リットン」(~18911124死去)
- 1880年4月29日-09:00|日本| | | |愛知県岡崎市|明治13年|<死去>本多忠直(37歳)元三河岡崎藩主・知藩事
- 1880年4月30日-09:00|日本| | | |伊予銀行|明治13年|<設立>楽終社(銀行類似会社、愛媛県北宇和郡吉田町)
- 1880年5月-09:00|日本| || |明治13年|<再興>豊国神社(方広寺大仏殿跡地)
- 1880年5月-09:00|日本| || |明治13年|<大相撲>明治13年05月場所[東京本所回向院](~10日間)幕内優勝:(西大関)梅ヶ谷,9勝0敗1休/51連勝
- 1880年5月-09:00|日本| || |明治13年|横浜ジョッキ倶楽部が日本レースクラブ(NRC)と改称,横浜根岸競馬場に設立
- 1880年5月-09:00|日本| || |明治13年|山口吉兵衛が結婚紹介所、大阪に開業
- 1880年5月-09:00|日本| || |明治13年|木製汽船「淡路丸」(354G/T)大住宗七(攝津・兵庫)が建造進水
- 1880年5月-09:00|日本| | | |島根県|明治13年|<開館>島根県勸業展覽場(松江市)
- 1880年5月-09:00|日本| | | |中国銀行|明治13年|<設立>甕江銀行(岡山;10.2開業)
- 1880年5月-03:00|イタリヤ/トルコ| || |<就任>ハスラのワリス「マザール・ハシャムタリフ」(~1882年)
- 1880年5月-01:00|リビア/トルコ| || |<就任>オスマン帝国トリポリリアニアワリス(総督)「メフメト・ナヅフ・ハシャ」(~1881年10月)
- 1880年5月 00:00|イギリス| || |<竣工>英国P&O社の英国=濠洲航路用貨客船ROSETTA(3502t)
- 1880年5月 04:00|バルバドス/イギリス| || |<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官代理「Dominic Jacotin Gamblie」(~8月)
- 1880年5月1日-09:00|韓国/朝鮮| || |朝鮮・光緒6年3月23日|朝鮮の元山が開港
- 1880年5月4日-09:00|日本| | | |神奈川県横浜市|明治13年|伊勢佐木町1丁目出火(姿見町延焼104戸焼失)
- 1880年5月4日-01:00|スロベニア/オーストリア| || |<就任>オーストリア領スロベニア大統領「アントン・フォン・グインクラー」(~18921026)
- 1880年5月4日 00:00|シエラレオネ/イギリス| || |<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督代行「ウィリアム・ウォレン・ストリーテン」(~1881年5月)
- 1880年5月5日-09:00|日本| || |明治13年|明治13年太政官布告第022号「郡区編制法=依り郡区設置」公布
- 1880年5月5日-02:00|南アフリカ/イギリス| || |<就任>イギリス領ナール特別委員代行「ヘンリー・ヒュー・クリフォード」(~7.2)
- 1880年5月5日 00:00|アイルランド/イギリス| || |<就任>アイルランド 副卿「カバール伯爵フランシス・トマス・ド・グレイ」(~18820506)
- 1880年5月6日-08:00|マレーシア/シンガポール/イギリス| || |<就任>イギリス王領海峡植民地総督「フレデリック・アロイス・ウェルト卿」(1回目~18840328)
- 1880年5月7日-09:00|日本| || |明治13年|東京府書籍館(東京湯島)を文部省所管に復す
- 1880年5月8日-09:00|日本| || |明治13年|青年牧師有志により東京YMCAが発足
- 1880年5月8日-09:00|日本| || |明治13年|大蔵省銀行課を廃止し、銀行局を設置する
- 1880年5月8日-01:00|フランス| || |<死去>フランス「写実主義」の作家ギュスターヴ・フロベール(1821-、58歳)/作品に「ボヴァリー夫人」・「感情教育」など
- 1880年5月10日-09:00|日本| || |明治13年|口之津灯台(長崎県口之津町)点灯
- 1880年5月10日-09:00|日本| | | |愛知県愛西市|明治13年|<移転>三重県桑名郡福原新田を、愛知県海西郡へ移管
- 1880年5月10日-09:00|日本| | | |愛知県弥富市|明治13年|<移転>三重県桑名郡[小島新田・五明村・川原欠新田・加稲新田・加稲九郎治新田・加稲附新田・三好新田・富島新田・富島附新田・加稲山新田・稲荷崎新田・稲荷崎附新田・富崎新田・境新田]を、愛知県海西郡へ移管
- 1880年5月10日-09:00|日本| | | |青森県弘前市|明治13年|<弘前明治13年の大火>元寺町の柁木座より出火し親方町、一番町、鉄砲町、上鞆師町、下鞆師町、百石町などに延焼。また、東長町の百石町角から橋際までも焼け、土手町は橋際まで、そして鍛冶町、新鍛冶町、桶屋町、北川端町、本町五丁目、同四丁目、元長町から元大工町の中程までも延焼/弘前病院、弘前郵便局、敬業小学校、盈進小学校、警鐘楼など町の代表的な建物など1064戸が灰じんとなった
- 1880年5月13日-09:00|日本| || |明治13年|明治13年司法省甲布達第001号「代言人規則改正」公布;明治13年司法省甲布達第002号「代言人規則改正=付詞訟代人心得方」公布
- 1880年5月13日-09:00|日本| | | |常陽銀行|明治13年|<設立>産業会社(茨城;後、産業銀行に改組改称)
- 1880年5月14日-01:00|フランス| || |<初演>ポール・マリ・テオール・ヴァンサン・ダンテ「劇的交響曲『ワルツェタイン』」
- 1880年5月15日-09:00|日本| || |明治13年|明治13年太政官布告第023号「石炭酸其他劇薬ハ伝染病流行ノ際消毒薬ニ調製ノ分ニ限り販売差許」公布
- 1880年5月16日-05:30|インド| || |<就任>マロウ 国統治者(ターケル)「ラガナート・チャンド」(~19020916没)

1880迄 (3454件)

- 1880年5月16日-01:00|ハンガリー| ||ハンガリーで全労働者党が結成される
- 1880年5月17日-09:00|日本| ||明治13年|陸奥弘前の大火(約1000戸焼失)
- 1880年5月18日-02:00|ロシア| ||<就任>ロシア及び北西部の地方総督「グラーフ・エドゥアルト・ワルビッチ・トトレベン」(~18840619)
- 1880年5月19日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第024号「東京大阪株式取引所並横浜取引所金銀貨幣定期売買禁止」公布
- 1880年5月20日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第025号「地租改正当初定メル地価十八年迄据置収税特別及地価修正方」公布
- 1880年5月20日 04:00|BES諸島| ||<死去>サハ島副知事「Jan Jacob Beaujon Quast」
- 1880年5月20日 04:00|BES諸島| ||<就任>サハ島副知事代理「John William Hassell」(1期目~同年)⇒副知事「Johan Hendrik Waters Gravenhorst」(~1881.11)
- 1880年5月21日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治13年|<転入>第百三十一国立銀行(堺県茨田郡から加納に;6月10日開業)
- 1880年5月21日 04:05|日本|新潟県三条市|明治13年|<新潟県三条明治13年の大火「糸屋万平火事」>13時5分、上町の糸屋万平宅の付近から出火。炎は近くの酒造業の家の3階に燃え移り、その勢いで近くの7、8軒が一挙に燃え上がり四方に飛び火し、東本願寺別院のお堂から境内の米北教校へ燃え移り、門前町一帯が火の海となった。別の炎は西本願寺別院を焼いた勢いで八幡宮から警察署、南蒲原郡役所、戸長役場など行政の中心を廃墟とした。火の勢いは三条に止まらず、一の木戸村、東および西裏館村を焼き、荒町村、新光村や石上村にも飛び火するなど、郊外の村々にも火の手が延びていった/当時の被災地の戸数3230戸のうち焼失家屋2743戸、実に85%が僅か5時間で焼け、特に三条町は2010戸のうち49戸しか残らず町の98%が焦土と化した。34人が死亡
- 1880年5月24日-02:00|ブルガリア| ||ブルガリアで、ドラガン・ツァンコフの民主党政権が成立
- 1880年5月24日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・光緒6年4月16日|平安道・龜城で民乱
- 1880年5月26日 04:00|ホリビア/リベール| ||タタの闘い。カペロ將軍の指揮するホリビア軍は5千が戦死し惨敗
- 1880年5月27日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第026号「地方税規則第十条追加」公布;明治13年太政官布告第027号「東京府地方税取扱方」公布
- 1880年5月29日-09:00|日本| ||明治13年|元老院に民法編纂局設置
- 1880年5月30日-05:30|インド| ||<即位>ティルガッタムコウ国マハラジャ「ラーマ・ヴァルマ5世」(~18850804没)
- 1880年5月31日-04:30|アフリカ/エジプト| ||<即位>アフガニスタン・エミール「アブドゥル・ラーマン・カーン」(~19011001没)
- 1880年5月31日-04:30|アフリカ/エジプト| ||<退位>アフガニスタン・エミール「アイユーブ・カーン」
- 1880年6月-09:00|日本| ||明治13年|木製汽船「安寧丸」(451G/T)進水(→1881年、住友吉左衛門(大阪)の所有)
- 1880年6月-09:00|日本| ||明治13年|借楽園(北海道)内に貴賓の接待所として清華亭を建築
- 1880年6月-09:00|日本|鹿児島大学|明治13年|薩摩藩医学学校を元に鹿児島県立鹿児島医学設立
- 1880年6月-06:00|ブータン| ||<就任>ブータン摂政「ジグメ・ナムギェル」(3回目~1881年7月)
- 1880年6月-04:00|UAE/イギリス| ||<就任>イギリスのシャルジャ在住土着代理人「Haji Abdul Qasim」(~1890.8)
- 1880年6月-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥル・ムタリブ・ブン・ガリフ」(3度目~18810831)
- 1880年6月1日-09:00|日本| ||明治13年|元老院民法編纂局を設置
- 1880年6月1日-09:00|日本| ||明治13年|内務省警視局の下、消防本部を創設。消防職員にあたる掛官員を採用し職制も決定、現在につながる公設(常備)消防組織が誕生/明治の組織は軍隊式の制度で、小隊に消防ポンプ2両、小隊司令以下消火卒まで合計43名、3小隊で1中隊とし予備隊1小隊40名を附属。その上に2中隊からなる大隊を設け、合計ポンプ12両、342名で消防隊を編成
- 1880年6月1日 03:00|アルゼンチン| ||アルゼンチンのブエノスアイレス州で反政府反乱が起こる/連邦軍は反乱を鎮圧した後、ブエノスアイレス市を州と分離し連邦国家の直属とする
- 1880年6月1日 04:00|ホリビア| ||<就任>ホリビア共和国大統領代行「アヒト・アルヒ・イルス・デ・メト・サ」(1回目~19日)
- 1880年6月1日-08:00|中国| ||清・光緒6年4月24日|甘肅西固州の古旦巴が捕らえられ、反乱が平定される
- 1880年6月2日 00:00|イギリス/日本| ||明治13年|<竣工>英国P&O社の英国=濠州航路用貨客船ROHILLA(3081t⇒1900年東洋汽船が購入「ろひら丸」)
- 1880年6月3日-09:00|日本|足利ホールディングス|明治13年|<設立>佐野銀行(栃木)
- 1880年6月5日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第028号「海軍非職准士官以上官民/依頼ニ応シ西洋形船舶/乗組員トナル者ハ九年第八十二号布告/限ニテス」公布
- 1880年6月6日-09:00|日本| ||明治13年|陸軍中將・谷干城らの設立による斯文会、発会式
- 1880年6月7日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第030号「新旧公債証書発行条例中追加改正」公布
- 1880年6月7日 04:00|リベール| ||ペル海軍モニター「Manco Capac」(2100t)Aricalにてリに拿捕されるのを防ぐため沈没処分
- 1880年6月7日 04:00|ホリビア/リベール| ||ペル軍守備隊1800人は半日にわたる抵抗の後敗走。リ軍は474人、ペル軍はホグ・シナ佐自身のほか、アルフォンソ・カステル大佐、マリア・ブスタマンテ大佐らを含め約千名の死者を出す
- 1880年6月8日-05:30|インド/イギリス| ||<就任>イギリス領インド帝国副王・総督「リボン侯爵ジョージ・フレデリック・サミュエル・ロビンソン」(~18841213)
- 1880年6月9日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国総理大臣「カトリパシャ」(~9.12)
- 1880年6月10日-09:00|日本|十六銀行|明治13年|<設立>濃厚会社(岐阜);濃明会社(岐阜)
- 1880年6月10日-01:00|スペイン/キューバ| ||オリエンテ軍投降/スペイン軍は洋上で76人の将官を捕らえ、アフリカの監獄に送還
- 1880年6月10日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「E. C. A. ゴートン」(1期目~9.14)

1880迄 (3454件)

- 1880年6月12日 06:00|アメリカ| |||ジョン・リー・リッチモンドがメジャーリーグで初の完全試合
- 1880年6月15日-09:00|日本| ||明治13年|<布告>太政官布告第31号「備荒儲蓄法」災害により生活手段を失った被災者や地租(税金)納入が不能になった人びとを援助
- 1880年6月17日-09:00|日本|伊予銀行|明治13年|<設立>銀行類似会社「南しゅん社」(愛媛:明治26年南しゅん株式会社に)
- 1880年6月18日-09:00|日本|伊予銀行|明治13年|<設立>宇和島銀行(愛媛)
- 1880年6月18日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「エドワード・バーネット・アンダーソン」(2回目~18810201)
- 1880年6月19日 04:00|ボリビア| |||<就任>ボリビア共和国大統領「ホセ・カルソ・カンパ・ロレイス」(2回目~18840904)
- 1880年6月21日-09:00|日本| ||明治13年|<移転>明治13年太政官布告第032号「沖縄県庁ヲ那覇ニ改定」公布
- 1880年6月26日-09:00|日本| ||明治13年|海軍避病院を久良岐郡吉田新田・田浦湾郷戸に設立
- 1880年6月28日-09:00|日本| ||明治13年|逢坂山トンネルが開通/日本人だけの手による初めての削岩機を使用した掘削により貫通したもの
- 1880年6月29日-09:00|日本| ||明治13年|東京代言人組合創立、会長は星亨(東京弁護士会の前身)
- 1880年6月29日 10:00|ボリビア/フランス| |||死と従属領地は国王ホセ5世によりフランスに譲渡
- 1880年7月-09:00|日本| ||明治13年|木製汽船「新八幡丸」(202G/T)進水(→1881年、菊池行造(愛媛)の所有)
- 1880年7月-09:00|日本|石川県|明治13年|<移管改称>金沢勸業博物館→石川県勸業博物館
- 1880年7月 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||カブルのラマーンがイギリスと保護条約を締結し保護国となる
- 1880年7月1日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第029号「書画革及種々ノ製作品無税輸出差許」<書画および諸製造物の巧芸美術にかかるものは無税輸出を許可>施行(0605布告)
- 1880年7月1日-09:00|日本|京都市立芸術大学|明治13年|京都府画学校が京都御所内旧后里御殿に仮校舎で開校
- 1880年7月1日-09:00|日本|国立国会図書館|明治13年|東京府書籍館を文部省東京図書館と改める
- 1880年7月1日-09:00|日本|広島県|明治13年|降雨にて(6.25~),可愛・原・西城・東城・神ノ瀬の5川および芦田川・太田川が増水し大被害,人家流失34軒・破壊263軒,死亡4人
- 1880年7月1日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|明治13年|<設立>荘島貸金会社(福岡)
- 1880年7月2日-06:30|ミャンマー/イギリス| |||<就任>英領下ビルマ首席弁務官「チャールズ・エドワード・バーナート」(~18820302~18820404まで代行)
- 1880年7月2日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナール総督「ジョージ・ホメイ・コリー卿」(~18810227)
- 1880年7月3日 00:00|モロッコ/フランス/スペイン/イギリス/アメリカ| |||イギリス、スペイン、フランス、アメリカがモロッコの門戸解放に関するマドリッド条約を締結
- 1880年7月3日 06:00|アメリカ| |||<創刊>学術雑誌「サイエンス」(→現在アメリカ科学振興協会が発行)
- 1880年7月5日-09:00|日本| ||明治13年|大日本帝国海軍の軍艦「磐城」横須賀造船所にて竣工し、四等艦と定められる(→1898年3月21日:二等砲艦)
- 1880年7月5日-03:00|エトリア/イタリヤ| |||<就任>アッサブ 司令官「ジョヴァンニ・ガレアツォ・フリジエリ」(~1884年)
- 1880年7月6日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第033号「北海道諸産物出港税則並各港船改所規則中改正追加」公布;古寺社保存内規制定
- 1880年7月7日-01:00|フランス| |||フランスが、7月14日をフランス革命の記念日として国の祭日とする
- 1880年7月8日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・エウゼビウス・ダ・シウヴァ」(~18820607没)
- 1880年7月9日-09:00|日本| ||明治13年|<布告>明治13年太政官布告第034号「虎列刺病予防仮規則廢止伝染病予防規則制定」わが国初の総合的予防法規/医師の届出義務を始めとした予防措置と違反したときの罰則を規定、対象病名にコレラ、腸チフス、赤痢、ジフテリア、発疹チフス、痘瘡(天然痘)をあげ、コレラが発生した場合の処置のうち同一の内容をこれらの病にも適用するとした
- 1880年7月10日-05:30|インド| |||<即位>チャルカリ国マハラジャ(マハラジャティラージ・シハダル・ウル・ムルク)「マルハン・シン」(~19080706没)
- 1880年7月10日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント副総督「オーガスタス・フレデリック・ゴア」(2度目~1885年)
- 1880年7月15日-09:00|日本|国鉄大津線|明治13年|官設鉄道[(大谷-)馬場-石場-大津]間開業
- 1880年7月15日-09:00|日本|JR西日本東海道本線|明治13年|官設鉄道[(大津-)馬場-大谷]間5.11km延伸→[大津-神戸]全通
- 1880年7月15日 00:00|イギリス| |||<テニス>第4回ウィンブルドン選手権男子シングルス優勝:ジョン・ハートリー
- 1880年7月16日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第035号「海上衝突予防規則改正」公布
- 1880年7月17日-02:00|エジプト| |||エジプトが清算法を施行
- 1880年7月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>シュヴァルツブルク=ゾンダースハウゼン侯「ギョスター・フリードリヒ・カール2世」
- 1880年7月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク=ゾンダースハウゼン侯「カール・ギョスター」(~19090328死去)
- 1880年7月18日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>「中外水産雑誌」水産社(~15号/明治14.9)
- 1880年7月19日-09:00|日本| ||明治13年|旧久保田城が焼失
- 1880年7月20日-09:00|日本| ||明治13年|<開業>「ホリガートンズ・ホテル・アンド・レストラン」(横浜山手68番)
- 1880年7月20日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>浮世絵師、四代目歌川豊国(二代目国貞)58歳
- 1880年7月20日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第038号「硫酸無税輸出差許」公布
- 1880年7月20日 00:00|イギリス| |||<死去>12代ダルフウジ-伯「ジョージ・ラムゼイ」
- 1880年7月20日 00:00|イギリス| |||<就任>13代ダルフウジ-伯「ジョン・ウィリアム・ラムゼイ」(~18871125死去)
- 1880年7月22日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン、ハールカザイ朝第8代首長アブドゥッラフマン・ハーン(~19011001)

1880迄 (3454件)

- 1880年7月27日-09:00|日本|中国銀行|明治13年|<設立>永禄社(岡山)
- 1880年7月27日 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||アブドゥラヒ率いるアフガニスタン軍がマイワットの戦いでイギリス軍を撃破
- 1880年7月27日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事代行「ウィリアム・ローランド・ハイン」(~8.27)
- 1880年7月28日-09:00|日本|福井大学|明治12年|石川県第三小学師範学校を福井小学師範学校とする
- 1880年7月31日-09:00|日本|福井大学|明治13年|福井病院内に福井医学所を創設
- 1880年8月-09:00|日本|岡山県倉敷市|明治13年|倉敷沙美海岸に本邦初、海水浴場お目見え。海水浴はレジャーではなく医療、体質改善
- 1880年8月-09:00|日本|リソナホールディングス|明治13年|<設立>明辰貯金銀行
- 1880年8月-04:00|セイシェル/イギリス| |||<就任>イギリス領セイシェル長官代行「アンリ・ウヰエヌ・デ・スマレ」(1度目~10.9)
- 1880年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス「Ahmed Hamdi Pasha」(2期目~1885.9)
- 1880年8月-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「チュリュクスル・オスマン・ジヤ・ハッシャ」(~1882年4月)
- 1880年8月-01:00|コソボ/アルバニア| |||<就任>コソボのワリス(総督)「オスマン・ヌリ・ハッシャ・ホテクリ」(~1881年6月)
- 1880年8月-01:00|北マケドニア/トルコ| |||<就任>マステイル・ワリス(総督)「アフメト・エイユブ・ハッシャ」(1回目~1884年10月)
- 1880年8月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督兼最高司令官「ウィリアム・Robinson」(1期目~18810928)
- 1880年8月1日 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||イギリスとアフガニスタンの戦争が、イギリスのかがハールの包囲を解くことで終結
- 1880年8月3日-09:30|オーストラリア| |||<就任>ビクトリア植民地政府首相「クラム・ベリー」(~18810709)
- 1880年8月3日-01:00|スペイン/キューバ| |||カリスト、スペインに降服/カリストはふたたびスペインの監獄に送られる
- 1880年8月5日-09:00|日本| |||明治13年|<設立>日本海員救済会/前島密ほか明治政府の要人や海運界首脳約50名が発起人
- 1880年8月7日-09:00|日本|東京大学|明治13年|東京大学の法・理・文の3学部に学士研究科を設置。大学院の前身
- 1880年8月7日-08:00|日本|新潟県新潟市|明治13年|<新潟明治13年の大火>午前1時、上大川通六番町の板蔵(米などの保管庫)から出火した火は16時間ほど燃え続け、新潟町の大半を焼く/当時の総戸数の6割、72町6175戸を焼失。新潟県庁をはじめ警察署、県会議事堂、郵便局など官公署、銀行、米会所、新聞社、学校など町の中心的建物を焼き尽くした
- 1880年8月8日-11:00|ニューカドニア/フランス| |||<就任>ニューカドニア知事「Amedee Anatole Prosper Courbet」(~18820929)
- 1880年8月8日 11:00|日本|新潟県柏崎市|明治13年|<柏崎明治13年の大火「酢屋火事」>20時ごろ、柏崎扇町の貸座敷(遊女屋)酢屋で娼妓が誤ってランプを落としましたたたく間に火、火は町の東側へと延焼、町の中心部を焼き尽くし翌日午前10時鎮火/当時の柏崎の戸数1860余戸の約半数が罹災し、848戸を焼失
- 1880年8月9日-09:00|日本| |||明治13年|<死去>狩野雅信(58歳)画家
- 1880年8月10日-09:00|日本| |||明治13年|「宮城県博覧会」(~10月8日)[開催地]宮城県[会場]仙台西公園[主催]宮城県
- 1880年8月13日-09:00|日本|長野県須坂市|明治13年|<死去>堀直格(75歳)元信濃須坂藩主
- 1880年8月14日-01:00|ドイツ| |||<完成>ケルン大聖堂(着工1248年)高さ157m
- 1880年8月15日-10:00|ガラム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Francisco Brochero y Parreno」(~18840318)
- 1880年8月15日-09:00|日本|日本郵船|明治13年|東京風帆船会社創立
- 1880年8月15日-05:30|インド| |||<就任>バルコニア国統治者(ラ)「インドラジット・シン」(~18941214没)、摂政「バルコニアのラジマタ」(~1886年1月)
- 1880年8月17日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ナタール総督代行「ヘンリー・アレクサンダー」(~9.14)
- 1880年8月17日-01:00|ルウェー| |||<死去>オレ・ブルグ・ヴァイオリニスト・作曲家(生年1810年)
- 1880年8月20日-09:00|日本| |||明治13年|<創刊>「魁新聞」
- 1880年8月21日-09:00|日本| |||明治13年|<創刊>「東海経済新報」(~76号/明治15.10.15)
- 1880年8月22日-08:00|中国| |||清・光緒6年7月17日|清、北洋水師学堂開設
- 1880年8月23日-09:00|日本| |||明治13年|<死去>5代富本豊前太夫(20歳)浄瑠璃太夫
- 1880年8月25日-09:00|日本|長野県佐久市|明治13年|<死去>内藤正誠(36歳)元信濃岩村田藩主・知藩事
- 1880年8月26日 06:00|アメリカ| |||<就役>アメリカ海軍スワラ級スloop「ガレ」(1900t,ゴスポート造船所)
- 1880年8月27日-09:00|日本|新潟県|明治13年|新潟県庁、西堀通りの旧新潟奉行所から東中通の新庁舎に移転
- 1880年8月27日-09:00|日本|丸善CHIホールディングス|明治13年|<移転>丸家銀行(日本橋区大伝馬町1丁目27番地へ)
- 1880年8月27日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事代行「ウィリアム・アレクサンダー・ジョージ・ヤング」(~11.2)
- 1880年8月28日-09:00|日本| |||明治13年|国産初のバイオリンが完成/深川の楽器職人・松永定次郎氏によって
- 1880年8月29日-01:00|フランス/ポルシェ| |||ルイ国王ボナパルト5世が、フランスへの主権譲渡を宣言、フランスが併合
- 1880年8月31日-09:00|日本| |||明治13年|大阪砲兵工場で爆発事故/死者39人
- 1880年8月31日 06:00|アメリカ| |||エジソンの白熱電燈に特許権が与えられる
- 1880年9月-09:00|日本| |||明治13年|<設立>官営愛知紡績所(1881年12月操業開始)
- 1880年9月-09:00|日本| |||明治13年|岩科学校完成(静岡県松崎町)
- 1880年9月-09:00|日本| |||明治13年|建勲神社が東京より遷座(船岡山)<織田信長を祀る>
- 1880年9月-09:00|日本|岡山大学|明治13年|医学教場を岡山県医学校に改組・改称
- 1880年9月-09:00|日本|岐阜大学|明治13年|岐阜県師範学校を岐阜県華陽学校に改称
- 1880年9月-01:00|ドイツ| |||<初演>マックス・クリスティアン・フリードリヒ・ブルッフ《ヴァイオリンとハープと管弦楽のためのスコットランド 幻

1880迄 (3454件)

想曲》

- 1880年9月-01:00|スペイン/キューバ| ||ラビ・リヤスの青年将校エミリオ・ヌエス、敵軍の包囲を受け、革命委員会の許可を条件に降服に応じる/ブランク総督は戦争終結を宣言
- 1880年9月1日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>「信濃毎日新報」
- 1880年9月1日-09:00|日本| ||明治13年|折善会改組し、東京銀行集会所設立
- 1880年9月1日-09:00|日本| ||明治13年|内田老鶴圃創業(内田芳兵衛、1898. 9. 16歿)。はじめ書籍仲買業(明治18年1月、出版業を始め、ついで中等教科書のほか学術書を出版。昭和36年株式会社に改組)
- 1880年9月1日-09:00|日本|広島大学|明治13年|広島県師範学校を広島県広島師範学校と改称
- 1880年9月1日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「アウグスト・セザール・カルト・ロ・テ・カルク・ア・リヨ」(~18811230)
- 1880年9月1日 04:00|ドミニカ共和国| ||<就任>ドミニカ共和国大統領「フェルナンド・アルトゥーロ・デ・メリノ・イ・ラミス」(~18820901)
- 1880年9月1日 06:00|カナダ/イギリス| ||カナダが北極諸島を併合/ニューファントランド島を除く北米に残されたすべてのイギリスの領土と所有物がカナダに割譲される
- 1880年9月2日-09:00|日本| ||明治13年|<死去>6代式守伊之助(67歳)大相撲立行司
- 1880年9月3日-09:00|日本| ||明治13年|東京銀行集会所設立に伴い、拓善会は解散
- 1880年9月3日-01:00|赤道ギニア/スペイン| ||<就任>フェルナンド・ホー総督「ルモンテス・デ・カ・イ・アセニョ」(2回目~18830124)
- 1880年9月4日 04:00|パラグアイ| ||<就任>パラグアイ共和国大統領「ペルナルデ・イ・ノ・カバシエロ・デ・アニヤスコムカレホ」(18821125まで暫定~18861125)
- 1880年9月5日-08:00|中国/ブラジル| ||清・光緒6年8月1日|清が、ブラジルとの通商条約に調印
- 1880年9月6日-09:00|日本|足利ホールディングス|明治13年|<設立>峰岡貸金会社(新潟;明治26年峰岡銀行に改組改称)
- 1880年9月6日-09:00|日本|JR|明治13年|神戸~三宮に電話機設置
- 1880年9月6日-01:00|ニジェール/セネガル/フランス| ||ニジェールはフランス領西アフリカ内フランス領上セネガル(オセネガル)の一部(~18900818)
- 1880年9月6日 00:00|マリ/フランス| ||<就任>フランス領オセネガル上級指揮官「ギユスターヴ・ホルニス・デ・ホルト」(~18830903)
- 1880年9月6日 00:00|マリ/フランス| ||<創設>フランス領オセネガル(フランス領西アフリカに従属)
- 1880年9月9日-12:00|ニュージールランド/イギリス| ||<就任>ニュージールランド総督代行「ジェームズ・フレミング・カスト」(2回目~11.29)
- 1880年9月9日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|明治13年|<死去>生駒親敬(32歳)元出羽矢島藩主・知藩事
- 1880年9月10日-09:00|日本| ||明治13年|織姫神社(栃木県足利市西宮町)火災焼失
- 1880年9月10日-01:00|コンゴ共和国/フランス| ||コンゴでフランス人探検家ピエール・サヴォルニヤント・ブザガバ・テ・マコと条約を締結/ブザガバを設立
- 1880年9月10日-01:00|スペイン/コロンビア| ||スペインはコロンビアの独立を承認
- 1880年9月11日-09:00|日本| ||明治13年|紀州高野山、一度は女人登山禁止を宣したが、山が賑わわず、再び女人禁制を解く
- 1880年9月12日-09:00|日本|法政大学|明治13年|神田にフランス法中心の法学教育を行う東京法学社が開校(18790201薩た正邦らが設立、明治14年4月東京法学校と改称、22年5月東京仏学校(辻新次ら設立)を合併して和仏法律学校と改称、36年8月法政大学となる)
- 1880年9月12日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国総理大臣「メフメト・サイト・パシャ」(2期目~18820502)
- 1880年9月13日-09:00|日本| ||明治13年|<改称>横浜取引所⇒横浜株式取引所
- 1880年9月14日-01:00|スペイン| ||<就任>アストゥリアス公(スペイン国王の推定相続人)「マリア・テ・ラス・メルセデス」イサベルの姪。アルフォンソ12世の長女(~19041017死去)
- 1880年9月14日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ロバート・マイケル・ラファン卿」(2期目~18810801)
- 1880年9月15日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年内務省甲布達第011号「種痘医規則第二号表及第六条第七条中改正」公布
- 1880年9月15日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ケープ植民地総督代行「ヘンリー・ヒュー・クリフォード」(~27日)
- 1880年9月16日-09:00|日本|専修大学|明治13年|東京・木挽町に専修学校が開校
- 1880年9月17日-09:00|日本|静岡銀行|明治13年|<設立>西遠商会(静岡県敷知郡浜松旅籠町)
- 1880年9月17日-01:00|チエコ| ||<就任>モラヴィア総督「カール・フライヘル・コルブ・フォン・ヴァイテンハイム」(~18811107)
- 1880年9月18日-08:00|中国| ||李鴻章、天津電報総局を設置
- 1880年9月19日-05:30|インド| ||<即位>ジャイプール国マハラジャ「サイ・マト・シン2世」(~19220907没)
- 1880年9月20日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>養健舎、健康雑誌「養生雑誌」
- 1880年9月20日-09:00|日本|長野県飯田市|明治13年|<死去>堀親義(67歳)元信濃飯田藩主
- 1880年9月20日 03:00|アルゼンチン| ||ブエノスアイレス市をアルゼンチン連邦の首都と制定
- 1880年9月21日-04:00|ロシア/日本| ||明治13年;ロシア暦:1880/9/9|崇厚が、イリ事件に関してロシアとロシアアテ・イ条約を結ぶ(批准せず)
- 1880年9月23日-01:00|フランス| ||<就任>フランス第三共和政第35代首相ジュール・フェリ[共和左派]第1次(~1881年11月14日)
- 1880年9月25日-09:00|日本|静岡銀行|明治13年|<設立>大場銀行(静岡県君沢郡大場村);掛川銀行(佐野郡掛川町)
- 1880年9月27日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第039号「西洋形船水先免状規則第十九条中改正」公布;明治13年太政官布告第040号「酒造税則制定酒類税則廃止」公布;明治13年太政官布告第041号「シウ麴営業

1880迄 (3454件)

税則」公布

- 1880年9月27日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|明治13年|<死去>大岡忠恕(59歳)元武蔵岩槻藩主
- 1880年9月27日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ケープ植民地総督代行「ジョージ・カミン・ストラハン卿」(~18810122)
- 1880年9月30日 06:00|アメリカ| ||<成功>ヘンリー・ドレイパーがオゾン大星雲の撮影に成功
- 1880年10月-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>「嚶鳴雑誌」求友社
- 1880年10月-09:00|日本| ||明治13年|木製汽船「百貫丸」(178G/T) 攝津・兵庫で建造進水
- 1880年10月-09:00|日本| ||明治13年|木製汽船「末廣丸」(122G/T) 阿波・福島で建造進水
- 1880年10月-09:00|日本| ||明治13年|「中外広聞新報」, 第95号終刊
- 1880年10月-09:00|日本|聖和大学|明治13年|ジュリア・E・ダッドレーとマサ・J・ハロース、神戸女子伝道学校を設立
- 1880年10月-01:00|北マケドニア| ||マケドニアでブルジャクの反乱おこる
- 1880年10月1日-09:30|オーストラリア| ||メルボルン国際博覧会が開幕(~1881/04/30)/閉幕するまで148万5千人以上もの人が訪れた
- 1880年10月1日-09:00|日本| ||明治13年|<復刊>「東京曙新聞」再興
- 1880年10月1日-09:00|日本|北海道教育大学|明治13年|小学教科伝習所を官立函館師範学校に改称
- 1880年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「セプチミウス・ベルツィ」 「ハースター・レブシニャーニ」
- 1880年10月1日-01:00|オーストリア| ||<初演>ヨハン・シュトラウス2世《ワルツ「南国のぼら」》 《喜歌劇「女王のレースのハンカチーフ」》
- 1880年10月1日-01:00|コンゴ 共和国/フランス| ||<制定>フランス植民地「ラザール」
- 1880年10月2日-09:00|日本| ||明治13年|戸部町6丁目から出火、120戸焼失
- 1880年10月4日-09:00|日本| ||明治13年|<明治13年10月台風>(~4日) 東海から関東にかけて台風が上陸横断し、横浜と東京の被害が大きく横浜で2人死亡、家屋130戸以上が倒壊、東京では120人死亡、家屋全壊638戸、半壊83戸、同床上浸水多数
- 1880年10月4日-09:00|日本| ||明治13年|郵便汽船三菱、香港航路を開設
- 1880年10月4日-01:00|フランス| ||ジャック・オフエンバック死去/61歳(誕生:18190620)。「天国と地獄」を作曲したフランスの作曲家
- 1880年10月5日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第043号「地所名称区別中民有地第二種ニ追加」公布
- 1880年10月5日 00:00|イギリス| ||<死去>ウィリアム・ラッセル、天文学者(生年:1799年)
- 1880年10月7日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||ロシアを意識したビスマルクの画策で、ウィーンで、オーストリア・ドイツ2国同盟が結ばれる
- 1880年10月8日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>滑稽社「轉愚叢談」10月8日号
- 1880年10月8日-09:00|日本| ||明治13年|拷問に関する全法規を廃止
- 1880年10月8日-09:00|日本|東京都小笠原村|明治13年|<移転>内務省より小笠原諸島を編入→東京府
- 1880年10月8日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領メキシコ総督「Evaristo Garcia y Reyna」(~1881年)
- 1880年10月9日-04:00|セイシエル/イギリス| ||<就任>イギリス領セイシエル長官「フランス・テオフィロス・プラント」(~18810224)
- 1880年10月10日 04:00|アルバ/シント・マルテン/キュラソー/BES諸島| ||<就任>オランダ領アンティル総督「Johannes Herbert August Willem」(~18821018)
- 1880年10月11日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>東京青年会雑誌局、キリスト教青年会機関誌(キリスト教主義の総合雑誌)「六合雑誌」
- 1880年10月11日-01:00|ノルウェー| ||<就任>ノルウェー首相「クリスチャン・オガスト・セルマー」(~18840311)
- 1880年10月12日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第045号「明治九年第九十八号新聞紙雑誌禁止停止布告改正」公布
- 1880年10月12日 03:00|アルゼンチン| ||<就任>アルゼンチン共和国大統領「アルホ・フリオ・アルハンティエーノ・ロカ・パス」(1回目~18861012)
- 1880年10月15日-09:00|日本| ||明治13年|群馬県の農民約3万名、入会地取上げに反対して紛擾(~翌年3月15日)
- 1880年10月15日-09:00|日本| ||明治13年|大蔵省達により、自転車税を設ける
- 1880年10月16日-02:00|南アフリカ/イギリス| ||<編入>ケープ植民地をイギリス領ケープ植民地に編入
- 1880年10月17日-09:00|日本|岐阜県|明治13年|<開園>養老公園(岐阜県養老郡養老町)/養老説教場創建
- 1880年10月18日-09:00|日本| ||明治13年|東京銀行集会所内に為替取組所設立(主として遠隔地向け手形の相殺を行なう)
- 1880年10月20日-01:00|オランダ| ||アムステルダム自由大学創立
- 1880年10月20日-01:00|フランス| ||フランスで、パナマ運河会社が設立される
- 1880年10月21日-09:00|日本| ||明治13年|<開院>「広島県病院分局」[三次郡上里村]
- 1880年10月21日-09:00|日本| ||明治13年|福岡県民、螟虫駆除命令に服さず、3000余名が騒擾(翌日、鎮圧)
- 1880年10月22日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第046号「徴兵令中改正」公布
- 1880年10月25日-09:00|日本| ||明治13年|宮内省雅楽課で君ヶ代が作曲され、エツルトが編曲する
- 1880年10月25日-09:00|日本|静岡銀行|明治13年|<設立>中泉銀行(静岡県豊田郡中泉町)
- 1880年10月25日-02:00|ギリシャ| ||<就任>ギリシャ閣僚評議会議長「アレクサンドロス・スピリトノス・コウメントゥロス」(10回目~18820315)
- 1880年10月26日-09:00|日本| ||明治13年|<建立>日本武尊像(兼六園内)【日本最古の銅像】
- 1880年10月27日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第047号「金札引換公債証書発行条例改定」公布

1880迄 (3454件)

- 1880年10月27日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治13年|<設立>成業社(山梨:のち甲斐株式成業会社)
1880年10月27日 04:00|ポルトガル| ||<就任>クレウ島知事「Gayetano Escudero Sanz」(~18810802)
1880年10月27日 04:00|ポルトガル| ||クレウ島はポルトガルに併合
1880年10月28日 04:00|ポルトガル| ||カンパロ、ポルトガル新憲法を公布
1880年10月29日-09:00|日本| ||明治13年|<創建>柳澤神社(奈良県大和郡山市城内町本丸跡;柳澤吉保を祀る)
1880年11月-09:00|日本| ||明治13年|高松砂糖会社設立
1880年11月-09:00|日本| ||明治13年|三重紡績所設立(18820618開業)
1880年11月-09:00|日本| ||明治13年|三遊亭円遊、浅草の並木亭で「すててこ踊り」を始め流行/またこの頃三遊亭万橋「へらへら節」
1880年11月-09:00|日本|大阪公立大学|明治13年|私立大阪商業講習所を設立
1880年11月-09:00|日本|鹿児島大学|明治13年|鹿児島師範学校に鹿児島女子師範学校を統合
1880年11月 07:00|メキシコ| ||鉄道法制定
1880年11月1日-09:00|日本|みずほファイナンシャルグループ|明治13年|<合併>第百十八国立銀行⇒第百三十六国立銀行
1880年11月1日-05:30|インド| ||<退任>ベンガル太守「マンスール・アリー・ハーン」
1880年11月2日-01:00|セルビア| ||<就任>セルビア公国閣僚評議会議長「ミラノ・ピロ・チ・アツク」(~18831013)
1880年11月2日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ知事「Jean Joseph Marie Leonce Laugier」(1期目~12.28)
1880年11月2日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| ||<就任>トリニダード知事「サンフォード・フリーリング卿」(1期目~18820628)
1880年11月2日 06:00|アメリカ| ||共和党のジェームズ・ガーフィールド(49)が、アメリカ第20代大統領に選出される
1880年11月3日-09:00|日本| ||明治13年|天長節祝賀の宮中で林広守作曲の「君が代」がはじめて演奏される
1880年11月5日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第048号「歳計節約紙幣銷却/元資増加ニ付地方税規則中改正増加」公布(地租上限の増額と官営事業の私下規則を制定);明治13年太政官布告第049号「府県会規則第五章追加」公布
1880年11月5日-09:00|日本|第四銀行|明治13年|<設立>巻社(新潟;11.15開業⇒明治26年巻銀行に改組改称)
1880年11月6日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>「東京輿論新誌」(輿論社→嘆鳴社)(~419号/22.10.30)
1880年11月6日-01:00|スイス| ||スイス労働総同盟が創設
1880年11月6日-01:00|フランス| ||フランスの病理学者シャルル・ルイ・アルフォンス・ラウランがマリア患者の血液からマリア原虫発見
1880年11月8日-13:00|サエ7/米領サエ7| ||<即位>サエ7王「マリエ7・ラウハ」(3度目、18810712まで摂政~18870825)
1880年11月10日-09:00|日本| ||明治13年|国会期成同盟<大日本国会期成有志大会>と改称
1880年11月11日-09:00|日本| ||明治13年|大日本帝国/艦船・兵器開発を管轄するため、海軍省に「主船局」を設置
1880年11月11日-09:00|日本|山梨中央銀行|明治13年|<設立>釜右社(山梨;18810105開業)
1880年11月12日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第050号「備荒儲蓄金急納/者処分方」公布;明治13年太政官布告第051号「北海道諸産物出港税則並各港船改所規則中加除」公布
1880年11月14日-01:00|フランス| ||フランス労働党が結成される
1880年11月15日-09:00|日本| ||明治13年|<創刊>「中外広問新報」→「江湖新報」
1880年11月16日-09:00|日本|愛媛県松山市|明治13年|松山市街魚町で大火、103軒焼失(死傷6名)
1880年11月17日-01:00|フランス| ||フランス海軍の通報艦「アミラル・ペルスガール」就役(1879年6月7日、ロシュフォル造船所で進水)
1880年11月17日-08:00|中国/アメリカ| ||清・光緒6年10月15日|北京で、中国とアメリカの間の移民制限条約、通商条約が締結される
1880年11月24日 04:00|フォーランド/イギリス| ||<就任>イギリス領フォーランド諸島総督「トマス・Kerr」(1期目~18860303)
1880年11月27日-09:00|日本|八十二銀行|明治13年|<設立>長野貯蔵銀行(長野)
1880年11月28日-09:00|日本|JR北海道函館本線|明治13年|官営幌内鉄道[(手宮-)開運町-朝里-銭函-軽川-琴似-札幌]仮開業
1880年11月29日-12:00|ニュージーランド/イギリス| ||<就任>ニュージーランド総督「アーサー・ハミルトン・ゴードン卿」(~18820624)
1880年11月29日-09:00|日本| ||明治13年|政府は、特に危険が多く競争の激しかった、瀬戸内海を通航する小型旅客船を主な対象にした初の船舶検査制度「小形旅客汽船取締心得書」を制定、各関係府県で検査を行わせるようにした/その小型の旅客用汽船が航海に耐え得る能力があるかどうかを検査する制度で、船体や所属品及び汽機(蒸気機関)の整備、中でも出入り口の位置や密閉扉の設置、舷側の欄干や窓に堅固な扉の設置、羅針盤、救命用小舟や浮子の用意、消防器具など安全用設備等を整備させ、乗員の定員も決め、合格した船舶に検査証書を交付する
1880年11月30日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第052号「土地売買譲渡規則」公布;明治13年工部省布達第022号「電気通信技術方取扱規則改定」公布
1880年12月1日-01:00|フランス| ||<初演>クレマン・フィリップ・レオ・トリブ《バレエ音楽「シルビア」》
1880年12月1日 00:00|カナダ/イギリス| ||<就任>イギリス領西アフリカ植民地ゴルト・コースト総督・最高司令官代行「ウィリアム・ランドフォード・グリフィス」(1回目~18810304)
1880年12月1日 07:00|メキシコ| ||<就任>メキシコ合衆国大統領「マニエル・デル・レピオ・ゴンザレス・フローレス」(~18841130)
1880年12月2日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年陸軍省布達第003号「徴兵事務条例中追加改正」公布
1880年12月3日-09:00|日本| ||明治13年|ホテル豊平館完成(北海道札幌市)
1880年12月3日 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<就任>ギニア総督代理「Paul Adolphe Treve」(1期目~14日)
1880年12月4日-09:00|日本| ||明治13年|須藤善一郎らが民権結社「親友会」設立

1880迄 (3454件)

- 1880年12月6日-09:00|日本|横浜銀行|明治13年|<設立>金叶貯蓄銀行(資本金3万円,本町)
- 1880年12月6日-04:00|ロシア| |||<初演>ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー《イタリ綺想曲》
- 1880年12月6日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《大学祝典序曲》
- 1880年12月8日-09:00|日本|明治大学|明治13年|明治法律学校創立
- 1880年12月9日-04:00|モリシヤス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モリシヤス総督・最高司令官代行「フレデリック・ネビーア・ブルム」(2回目~18830505)
- 1880年12月10日-09:00|日本|神奈川県横浜市|明治13年|横浜弁天通4丁目から出火(本町延焼180戸焼失)
- 1880年12月10日-02:00|ブルガリア| |||<就任>ブルガリア首相(閣僚会議議長)「ペトコ・ストイチェフ・カラウエロフ」(1回目~18810509)
- 1880年12月13日 00:00|イギリス| |||<死去>25代クワート・伯・8代ハルレス伯「アレクザンダー・リンズー」
- 1880年12月13日 00:00|イギリス| |||<就任>26代クワート・伯「ジェームズ・ルトヴァック・リンズー」9代ハルレス伯(~19130131死去)
- 1880年12月14日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第054号「伝染病予防規則中改正加除」公布
- 1880年12月14日 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア総督「Charles Alexandre Lacouture」(2回目~18810603)
- 1880年12月15日-09:00|日本| ||明治13年|<制定>警視庁達甲第49号「馬車取締規則」(1. 営業開始時の車体検査、2. 馭者の経験年数、3. 馭者、馬丁の鑑札(免許証)、4. 街角、橋の上、市場など人の多い場所での徐行及び乗合馬車の警笛、5. 夜中での灯火掲揚、6. 乗車定員、7. 警視官による臨時車体検査、8. 危険と見られる馬車の運転停止等を新たに規定し、安全条項が増え現在の交通規則類に近くなっている)
- 1880年12月15日-09:00|日本| ||明治13年|生糸直輸出商社同伸会社開業
- 1880年12月15日-09:00|日本|日本製鉄|明治13年|釜石製鉄所、木炭欠乏に伴い運営を停止
- 1880年12月16日-09:00|日本|京都大学|明治13年|大阪専門学校を廃止し、官立大阪中学校を新設
- 1880年12月16日-02:00|南アフリカ| |||<就任>南アフリカ共和国国家大統領「三頭政治(ステファニス・ヨハネス・ハールス・クルガー/マルティヌス・ヴェッセル・プレトリアス/ヘトリス・ヤコブス・ジューバル)」(~18810808、対抗~18830509)
- 1880年12月16日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<復元>南アフリカ共和国、イギリスからの独立を宣言し、第1次ボア戦争が始まる
- 1880年12月16日-01:00|パチン| |||<就任>パチン枢機卿國務長官「ルトヴァイク・ジャコビニ」(~18870228)
- 1880年12月17日-09:00|日本| ||明治13年|福岡県の臼井六郎、父母の敵(かたき)を東京・京橋で殺害し自首/最後の仇討ち
- 1880年12月20日-12:00|フィジー/イギリス| |||<就任>フィジー総督兼西太平洋高等弁務官「ジョージ・ウィリアム・デーガー」(~18850121)
- 1880年12月20日-09:00|日本|兵庫県|明治13年|菟原郡役所、武庫郡役所と合併し武庫菟原郡役所として西宮に設置
- 1880年12月20日 06:00|アメリカ| |||チャールズ・ヒラッシュの考案によるアーク灯用の直列式定電流型配電システムがニューヨークのブロードウェイの街路灯に採用されて、アーク灯がともされる
- 1880年12月21日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第055号「明治十四年郵便規則及罰則」公布
- 1880年12月21日-01:00|フランス| |||フランスで女性が中等教育を受けやすくするための法律「カミユゼ法」が制定される
- 1880年12月22日-03:00|バーレーン/イギリス| |||<制定>イギリス保護国バーレーン(~19710815)
- 1880年12月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ジョージ・エリオット、女流作家(生年1819年)
- 1880年12月23日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第056号「集会条例第六条へ追加」(警視長官・地方長官に政治結社の解散権等を賦与)公布;明治13年太政官布告第057号「株式取引条例中改正追加」公布
- 1880年12月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|明治13年|<大阪明治13年南の大火「島之内出火」>大阪市南区笠屋町から出火し玉屋町、千年町、長堀橋通、南綿屋町、鍛冶屋町、竹屋町、問屋町など各町に延焼、合計類焼3388戸、破壊消防による引き崩し5戸、寺院5か所、学校3か所、警察署などが焼失、消防方の殉職8人
- 1880年12月26日-09:00|日本| ||明治13年|製紙所連合会設立
- 1880年12月26日-01:00|ドイツ| |||<初演>ヨハネス・ブラームス《悲劇的序曲》
- 1880年12月28日-09:00|日本| ||明治13年|明治13年太政官布告第058号「西洋形船船長運転手及機関手試験免状規則中削除」公布;明治13年太政官布告第059号「教育令改正」公布(国家統制が強化される)
- 1880年12月28日-09:00|日本|第四銀行|明治13年|<設立>商資用達会社(新潟;明治26年商資株式会社と改称)
- 1880年12月28日-09:00|日本|都電|明治13年|東京馬車鉄道会社設立/仮の本社事務所を東京市京橋区三十間掘三丁目6番地に置く
- 1880年12月28日 04:00|グアドルフ/フランス| |||<就任>グアドルフ知事代理「Hippolyte Pierre Maze」(2回目~18810709)
- 1880年12月30日-03:30|日本|東京都千代田区|明治12年|<東京神田明治13年鍛冶町の大火>5時半頃、民家が正月を迎える準備で早朝からすす払いをしてゴミを焼き捨てていたところ、折からの北風にあおられ火の粉が舞い上がり屋根に着火、火元の家と周囲数軒を焼き払った後、全町に延焼。火は鍛冶町から四方に拡大、神田、日本橋一帯の町家2188戸を焼失、白壁橋、中の橋、土橋も焼け落ち13時半鎮火